

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配置図		
縮尺	1/150	設計年月日	令和4年3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-1

塩浜第3ポンプ場耐震補強工事特記仕様書						○振動、騒音、ほこりのでる作業やその他について、事前に施設管理者及び近隣施設等と調整を行うこと。既設機器に粉塵が付着しない養生を行うこと。 ○音の発生する工事は昼間の作業とし、早期、夕方以降は作業を行わないこと。また、低騒音の建設機械を使用し周辺への影響に配慮すること。 ○間一敷地内での別途工事について、協議に応じること。 ○雨水の排水を優先する場合は応じること。ポンプ場の機能を停止することなく施工すること。 ○既設設備停止、ポンプ場機能停止は、原則11月から2月において4時間以内とする。 ○高さ5mを超える箇所での作業を有する場合の墜落防止用器具はフルハネス型を使用すること。 ・引渡しを要するもの（ [1. 3. 12] ○特別管理産業廃棄物 ※無 ○有（アスベスト含有材） 処理方法（管理型最終処分場） ○特定建設資材の搬出 再資源化等を行う（再資源化が困難な場合には縮減） ○特定建設資材以外の搬出 ・構外搬出適正処理 ※廃棄物管理票（マニフェスト）確認表を作成し、監督職員にA票及びD票もしくはE票の確認を受けるものとする。ただし、電子情報処理組織に登録（電子マニフェスト）により確認を行う場合は、この限りではない。 ※建設発生土を搬出する場合は、事前に書面に処分地の報告（位置図等）を行い、処分地での処理状況が分かる写真を提出すること。また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。 交通安全管理 ※配置する 名以上（大型車の出入は必ず） ・配置しない [1. 3. 9] ※本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又は同等のものとする。 ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 ・品質及び性能を試験により証明を求める材料は以下の物とする。 [1. 4. 5] （ 本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の1）から5）を満たすものとする。 1）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、パーティクルボード、MDF、その他木質建材、ユリア樹脂板及び仕上り塗料は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。 2）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。 3）接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難燃発性の可塑性剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエンキシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。 4）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。 5）1)及び4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 規制対象外 ①J I S及びJ A SのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJ A S規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤利用使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種 ①J I S及びJ A SのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧J I SのE0規格品 ④旧J A SのF00規格品 改修標仕、標仕に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。 ⑩特別な材料の工法 ⑪技能士 ⑫化学物質の濃度測定			⑬完成図 ⑭記録 ⑮設備工事との取合い ⑯設計G L ⑰完成引渡し後の点検 ⑱随時検査 ⑲施工体制台帳の提出 ⑳資源有効利用促進 ㉑設計図 ㉒足場その他 ㉓養生その他 ㉔仮設間仕切り ㉕監督職員事務所 ㉖工事用水 ㉗工事用電力 ㉘既存下地の補修及び処置 ㉙アスファルト防水			○提出する 種類 ※改修標仕 表1.8.1による ・提出しない ※本設計図を修正し完成時の現場と一致させたもの。 ○設計図 一式 ・施工計画書 ※A 4製本縮小版（黒地金文字） ※3部 ※C A Dデータの提出 ※提出する ・提出しない （オリジナル、. dxf、. jww、PDF形式） ○保全に関する資料 提出部数 ※1部 ・ 工事記録については以下による。（A4版） ※工事着手前写真 1部 ※工程写真 各工程毎 1部 ※竣工写真 ※内部、外部 1部 ※工事の各記録写真については、デジタル画像にて整備編集を行うよう努めること。 ※工事日報・納品伝票等の写しは、監督職員が提出を求めた場合は提出すること。 施工範囲 ※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強 ※建築電気設計図の内容 ※図示した壁・天井の仕上材・下地材の切込み及び補強 ※プラント電気特記の内容 ※図示のベンチマーク（B・M）+4.327 mm（現状地盤はB・M +0.930 mm） かし期間は、別に定めた特約（責任施工による保証期間など）を除き、四日市市工事請負契約書に準拠する。 ○工事完成引渡し後、必要に応じて一年又は二年を超えない範囲の適当な時期に、双方立ち会いで工事目的物のかし点検を実施する。 予定価格（税込）3000万円以上の工事は、四日市市検査規程第8条第6項の規定により、発注者が随時検査を求めた場合、監督職員の指示に従い受検すること 公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めにより、施工体制台帳の写しを提出すること。なお、営繕事業者についても記載すべき下請負の範囲に含むものとする。 ※本工事が資源の有効な利用の促進に関する法律（平成三年法律第四十八号）の規定により再生資源利用促進計画の作成を要する工事である場合（下記内容該当工事は）、受注者は、工事の施工前に発注者に再生資源利用促進計画を提出し、その内容を説明しなければならず、工事の完成後に発注者から請求があったときは、その実施状況を発注者に報告しなければならない。 ・建設副産物を搬出する際の計画 1. 土砂500m3以上 2. コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材の合計が200t以上 ・再生資材を利用する際の計画 1. 土砂500m3以上 3. 加熱アスファルト200t以上 2. 砕石500t以上 ※A 4製本縮小版を契約後速やかに2部提出すること。 内部足場 種類 ※きやつた・足場板等 外部足場 種類 ※くさび緊結式（手すり先行工法） 防護シートによる養生 ・行わない ○行う 騒音・粉じん等の対策 ・行わない ○行う（・防音パネル ・防音シート） 材料、撤去材等の運搬 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種 既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 固定家具等の移動 ※行わない ・行う（図示） （a）設置箇所 ※図示 種類 下 地 仕上材（厚さ mm） 充てん材 塗 装 ・A種 ※軽量鉄骨 ・合板（※9.0 ・ ） ※無し ・B種 ・木下地 ※せつこうボード（※9.5 ・ ） 厚さ mm ・片面 ・C種 単管下地 防炎シート 仮設扉 ※木製扉 ・合板張り程度 ※無し ・鋼製扉 ・片面フラッシュ程度 ・有り ・設ける 規格等は以下による ・既存施設の一部を使用する ※設けない （ ・規模 m程度 ・仕上げ：床 ・壁 ・天井 程度） 構内既存の施設 ※利用できる（ ・有償 ※無償） ・利用できない 構内既存の施設 ※利用できる（ ・有償 ※無償） ・利用できない ※図示による 既存露出防水層表面の仕上塗装の除去 ・する ・しない [3. 3. 2~3][表3.1.1][表3.3.3~10] 防水改修工法の種類 施 工 箇 所 新規防水層の種別 アスファルトの種類 ※3種 押え金物 ※アルミニウム製（L-30x15x2.0程度） 脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量（ ）箇所 改修用ドレン ※設ける（ ）箇所 ※鋼製 ・鉛製 ・設けない [3. 2. 5] 屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材 材質 ※得出法ポリスチレンフォーム断熱材3種BA（スキャン付き） 厚さ（mm） ※35 屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材 材質 ※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 ・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 厚さ（mm） ※35		
1 章 一般共通事項			※産業廃棄物税 本工事は産業廃棄物税相当分が計上されていないため、請負者が本工事により生じた産業廃棄物が、課税対象となった場合には、翌年度に産業廃棄物税納税証明書等を添付して、本工事により生じた産業廃棄物税相当分を請求することができる。			株式会社 日新技術コンサルタント 一級建築士 登録 第166688号 宮本 哲也 東京都中央区日本橋堀留町1-5-7								
塩浜第3ポンプ場耐震補強工事			工事名			塩浜第3ポンプ場耐震補強工事								
日付			図面名			縮尺			図面番号					
令和 5 年 1 2 月			特記仕様書（改修1）			—			A-2 /					
									令和5年版					

3章 防水改修工事	3 改質アスファルトシート防水	乾式保護材 製造所の仕様による・ 防水保護のれんがの種類 ※市販品のレンガ又は市販品のレンガ形コンクリートブロック 保護コンクリート仕上り平たんき種別 ・a種 ・b種 ・c種 [3.3.5][8.1.4][表8.1.5] 仕上塗装 (P2A,M3D,P0D,P0D1,M3D1,M4D1,工法) ※種類および使用量は製造所の仕様による 施工標準 ※設ける ・設けない	3 ひび割れ部改修工法	・樹脂注入工法 (・モルタル面 ・躯体コンクリート面) [4.1.4][4.2.5] 注入工法の種類 ひび割れ幅(mm) 注入口間隔(mm) 注入量(cc/m) 備考 ※自動式低圧エポキシ樹脂 0.2以上～1.0未満 ※200～300 ※ ・ 樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・手動式エポキシ樹脂 0.2以上～0.3未満 ※50～100 ※40 ・ 注入工法 0.3以上～0.5未満 ※100～200 ※70 ・ ・機械式エポキシ樹脂 0.5以上～1.0未満 ※150～250 ※130 ・ 注入工法 ・ ・ ・ 注入材料 [4.2.4] ※建築補修用注入エポキシ樹脂(JIS A 6024低粘度形又は中粘度形) 検査 (コア抜き) ・行わない ※行う (抜き取り部の補修方法: ) ・ウカットシール材充填工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.6] 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系シーリング材 ・可とう性エポキシ樹脂 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・シール工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.7] シール材料 ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂 ※充填工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.8] 充填材料 ・ポリマーセメントモルタル (・モルタル面 ・コンクリート面 ・C面) ・エポキシ樹脂モルタル ( ) ・モルタル塗替え工法 (改修標仕表4.3.5(5)による)	8 設計数量	外壁部位 種類 工法 数量 備考 ・コンクリート打放し面 ・ひび割れ ※ウカットシール材充填工法 m ・欠損部 ※エポキシ樹脂モルタル充填工法 箇所 ○モルタル塗り仕上げ面 ○ひび割れ ※ウカットシール材充填工法 13.40 m ・自動式低圧「杉」樹脂注入工法 m ・欠損部 ※充填工法 m ○浮き部 ※アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 1.20 m <sup>2</sup> ※上記数量については、現場調査を行い報告書を作成し、提出する。 尚、数量の10%を超える増減が生じた場合は協議の上、契約変更を行う事ができる。				
		[表3.1.1][3.4.2～3][表3.4.1～3] 防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種別(厚さmm) 仕上げ塗料等 仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による ・ 脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量 ( )箇所 屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材 ・製造所の指定する製品 ※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 ・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 施工標準 ※設ける ・設けない		改修工法の種類 アンカーピンの本数(本/m <sup>2</sup> ) 注入口の箇所数(箇所/m <sup>2</sup> ) 充てん量(モルタルを撤去しない場合) 一般部 指定部 一般部 指定部 注入量 ○アンカーピンニング部分 ※16 ※25 一般部 指定部 ※25ml エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・アンカーピンニング全面 ※13 ※20 ※12 ※20 ※25ml エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・ ・アンカーピンニング全面 ※13 ※20 ※12 ※20 ・25ml ※「マ」セメントスラリー注入工法 ・ ・ ・ ・ ※50ml ・注入口付アンカーピンニング部分 ※9 ※16 ※25ml エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・注入口付アンカーピンニング全面 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25ml エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・ ※「マ」セメントスラリー注入工法 ・ ・ ・ ・ ※50ml ※狭幅部におけるアンカーピン本数は、幅中央に5本/mとする アンカーピン [4.2.4] 材質 ※ステンレス SUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン [4.2.4] 材質 ※ステンレス SUS304、呼び径外径6mm		①改修工法 [5.1.3] 2 見本の製作等 [5.1.5] ③アルミニウム製建具 [5.2.2][表5.2.1] 外部に面する建具(フロントサッシは除く) [5.2.2][表5.2.1] 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所 ○A種 S-4 A-3 W-4 70 図示 ・B種 S-5 100 ・C種 S-6 A-4 W-5 70 100 表面処理 ※BB-1種 ・BB-2種(※「ブ」の「マ」系 ・「マ」系 ・「マ」系) [5.2.4][表5.2.2] 内部建具 [5.2.4][表5.2.2] 表面処理 ※AC-1又はBB-1種 ・AC-2又はBB-2種(※「ブ」の「マ」系 ・「マ」系 ・「マ」系)				
		[表3.1.1][3.5.2～3][表3.5.1～2] 防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種別(厚さmm) 仕上げ塗料等 仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による ・ 絶縁用シートの材質 ※発泡ポリエチレンシート [3.5.2] 可塑性移行防止用シートの材質 ※発泡ポリエチレンシート ・ [3.5.2] 脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量 ( )箇所 機械固定工法に用いる断熱材 ※次のいずれかによる ・ ※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 ・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材の1種b、2種b又は3種b 接着工法に用いる断熱材 ※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 ・ポリエチレンフォーム断熱材 改修用ドレン ※設ける ( 箇所) ・設けない ※製造所の指定する製品 ・銅製 ・鉛製 施工標準 ※設ける ・設けない		改修工法の種類 アンカーピンの本数(本/m <sup>2</sup> ) 注入口の箇所数(箇所/m <sup>2</sup> ) 充てん量(モルタルを撤去しない場合) 一般部 指定部 一般部 指定部 注入量 ○アンカーピンニング部分 ※16 ※25 一般部 指定部 ※25ml エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・アンカーピンニング全面 ※13 ※20 ※12 ※20 ※25ml エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・ ・アンカーピンニング全面 ※13 ※20 ※12 ※20 ・25ml ※「マ」セメントスラリー注入工法 ・ ・ ・ ・ ※50ml ・注入口付アンカーピンニング部分 ※9 ※16 ※25ml エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・注入口付アンカーピンニング全面 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25ml エポキシ樹脂注入工法 ・ ・ ・ ・ ※「マ」セメントスラリー注入工法 ・ ・ ・ ・ ※50ml ※狭幅部におけるアンカーピン本数は、幅中央に5本/mとする アンカーピン [4.2.4] 材質 ※ステンレス SUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの 注入口付アンカーピン [4.2.4] 材質 ※ステンレス SUS304、呼び径外径6mm		4 網戸 [5.2.3] 防虫網 網の種類 ※ステンレス(SUS316)製 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 形式 ※可動式 ・固定式				
		[表3.1.1][3.6.2～3][表3.6.1] 防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種別 仕上げ塗料等 仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による ・ 既存塗膜防水層表面の仕上げ塗料の除去(L4X工法) ・除去する [3.2.6] 脱気装置 ・設けない ・設ける 施工標準 ※設ける ・設けない		5 樹脂製建具 [5.3.2][表5.3.1] 外部に面する建具(70mmサッシは製造所の仕様による) [5.3.2][表5.3.1] 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所 ・A種 S-4 A-4 W-4 70 図示 ・B種 S-5 W-5 100 ・C種 S-6 A-4 W-5 70 100 ・防音ドアセット及び防音サッシの適用 種別 ・T-A種 ・T-B種 [5.3.2][表5.3.2] ・断熱ドアセット及び断熱サッシの適用 種別 ・H-A種 ・H-B種 ・H-C種 [5.3.2][表5.3.3]						
		防水の保証期間は原則、表面仕上材塗替など10年とする。ただし、既存の劣化等の状況により保証ができない場合は、保証できない理由を明確にし、監督職員と協議を行うこと。 ○シーリング充填工法 ・シーリング再充填工法 [3.1.4][表3.1.2] ・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法 シーリング材の種類、施工箇所 [3.7.2][表3.7.1] ※下表以外は、改修標仕表 3.7.1を標準とする		6 既存塗膜劣化部の除去及び下地処理 [4.5.4][表4.5.4～7] 工法 処理範囲 下地面の補修 ・サンダー工法 ※既存仕上面全体 ・ ・ひび割れ部改修工法 ○高圧水洗工法 ※既存仕上面全体 ・ ・浮き部改修工法 ・塗膜はく離剤工法 ※既存仕上面全体 ・ ・欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上面全体 下地調整材 [4.2.4][4.6.3] ※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材を使用 種類、仕上げの形状、工法 [4.5.1][4.5.2][表4.5.1～2] 種類 呼び名 仕上げの形状 ○薄付け仕上塗材 ・外装塗塗材 E ・砂壁状 ・着色骨材砂壁状 ・可とう形外装塗塗材 E ・砂壁状 ・ゆず肌状 ・ ○防水形外装塗塗材 E ○ゆず肌状 ・凹凸状 ・複層仕上塗材 ・複層塗塗材 C E ・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状 上塗材 ・水系アクリル ・水系アクリルシリコン ・複層塗塗材 E ・水系アクリルシリコン ・複層塗塗材 R E 外観 ※つやあり ・つやなし ・防水形複層塗塗材 C E ・メタリック ・防水形複層塗塗材 E 防水形の増塗材 ・行う ・可とう形改修用仕上塗材 ※可とう形改修塗材 E ・平たん状 ・さざ波状 ※ゆず肌状 上塗材 ・アクリル ・ウレタン ・シリコン ・ふっ素 外観 ・吹付 ※ローラー 仕上 ※薄付け ・厚付け		⑥網製建具 [5.4.2] ⑦網製軽量建具 [5.5.2][表5.5.4] 簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない 品質規格 ※改修標仕表5.5.1による ・製造所標準仕様による 簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない 表面仕上げ ※H L仕上げ ・鏡面仕上げ 曲面加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ 簡易気密型ドア ○使用する ※使用しない 材料の含水率 [5.7.2]表[5.7.1] 種別 加工及び組み立て時の含水率 ※A種 1 5 %以下 ・B種 1 8 %以下				
		シーリングの試験 ※行わない ・行う (※簡易接着性試験 ・引張接着性試験) 材質 ・配管用銅管 ・硬質「マ」塩化ビニル管 (VP) ○SUS製 [3.8.2(1)] とい受け金物 ※SUS製 ・亜鉛メッキ製 ルーフドレン ※JCW301 (日本鉄鉄ふた・排水器具工業会規格) ・図示による [3.8.2(1)] 表面処理 ・AB-1種 ※BB-1種 [3.9.2]		6 既存塗膜劣化部の除去及び下地処理 [4.5.4][表4.5.4～7] 工法 処理範囲 下地面の補修 ・サンダー工法 ※既存仕上面全体 ・ ・ひび割れ部改修工法 ○高圧水洗工法 ※既存仕上面全体 ・ ・浮き部改修工法 ・塗膜はく離剤工法 ※既存仕上面全体 ・ ・欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上面全体 下地調整材 [4.2.4][4.6.3] ※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材を使用 種類、仕上げの形状、工法 [4.5.1][4.5.2][表4.5.1～2] 種類 呼び名 仕上げの形状 ○薄付け仕上塗材 ・外装塗塗材 E ・砂壁状 ・着色骨材砂壁状 ・可とう形外装塗塗材 E ・砂壁状 ・ゆず肌状 ・ ○防水形外装塗塗材 E ○ゆず肌状 ・凹凸状 ・複層仕上塗材 ・複層塗塗材 C E ・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状 上塗材 ・水系アクリル ・水系アクリルシリコン ・複層塗塗材 E ・水系アクリルシリコン ・複層塗塗材 R E 外観 ※つやあり ・つやなし ・防水形複層塗塗材 C E ・メタリック ・防水形複層塗塗材 E 防水形の増塗材 ・行う ・可とう形改修用仕上塗材 ※可とう形改修塗材 E ・平たん状 ・さざ波状 ※ゆず肌状 上塗材 ・アクリル ・ウレタン ・シリコン ・ふっ素 外観 ・吹付 ※ローラー 仕上 ※薄付け ・厚付け		9 木製建具 [5.7.2]表[5.7.1] マスターキー ・製作する ・製作しない (既存マスターキーに合わせる) [5.8.4] モノロック ゴール ( ) 美和ロック ( ) シンダー箱錠 ゴール ( ) 美和ロック ( ) シンダー本締り錠 ゴール ( ) 美和ロック ( ) ドアクロージャー ダイハツディーゼル機器 (大島機工、ニッカナ) 日本ドアチェック製造、美和ロック、リョービ 大島機工 (ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造、リョービ シンジクローザー 大島機工 (ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造 リョービ、デンセイオートテック 押板、取手 樹建工業、ユニオン				
		⑧と い		⑧ステンレス製建具 [5.6.2][表5.6.4] 表面仕上げ ※H L仕上げ ・鏡面仕上げ 曲面加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ 簡易気密型ドア ○使用する ※使用しない 材料の含水率 [5.7.2]表[5.7.1] 種別 加工及び組み立て時の含水率 ※A種 1 5 %以下 ・B種 1 8 %以下		10 建具用金物 マスターキー ・製作する ・製作しない (既存マスターキーに合わせる) [5.8.4] モノロック ゴール ( ) 美和ロック ( ) シンダー箱錠 ゴール ( ) 美和ロック ( ) シンダー本締り錠 ゴール ( ) 美和ロック ( ) ドアクロージャー ダイハツディーゼル機器 (大島機工、ニッカナ) 日本ドアチェック製造、美和ロック、リョービ 大島機工 (ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造、リョービ シンジクローザー 大島機工 (ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造 リョービ、デンセイオートテック 押板、取手 樹建工業、ユニオン				
		9 アルミニウム製窓木		⑨自動ドア開閉装置 [5.9.2～3][表5.9.1～6] 開閉方法 ※引き戸 ・多機能トイレ用引き戸 センサーの種類 ・光線センサー ・熱線センサー 品質規格 ※改修標仕表5.10.3による ・製造所標準仕様による		12 自動ドア開閉装置 開閉方法 ※引き戸 ・多機能トイレ用引き戸 センサーの種類 ・光線センサー ・熱線センサー 品質規格 ※改修標仕表5.10.3による ・製造所標準仕様による				
		4章 外壁改修工事		2 改修工法の種類		調査範囲 ○既存モルタル面 ・躯体コンクリート面 ・図示の範囲 [1.5.2] 調査内容 ひび割れ (0.2mm以上) の長さを表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、 漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタルの浮き部分を表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を調査する。 調査報告書の部数 ※1部	⑩仕上塗材仕上げ	外壁の種類 種類 改修工法 ・コンクリート ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 打放し仕上げ ・欠損部 ・充填工法 ・ ○モルタル塗り仕上げ ○ひび割れ部 ○樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・シール工法 ○欠損部 ○充填工法 ・モルタル塗替え工法 ○浮き部 ○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ ・タイル張り仕上げ ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・欠損部 ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 ・浮き部 ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・目地 ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 ・塗り仕上げ ・薄付け仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り ・厚付け仕上塗材塗り ・各種塗料塗り ・複層仕上塗材塗り ・マスチック塗材塗り	5 塗膜劣化部の除去及び下地処理 既存塗膜劣化部の除去及び下地処理の工法 [4.5.4][表4.5.4～7] 工法 処理範囲 下地面の補修 ・サンダー工法 ※既存仕上面全体 ・ ・ひび割れ部改修工法 ○高圧水洗工法 ※既存仕上面全体 ・ ・浮き部改修工法 ・塗膜はく離剤工法 ※既存仕上面全体 ・ ・欠損部改修工法 ・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上面全体 下地調整材 [4.2.4][4.6.3] ※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材主材を使用 種類、仕上げの形状、工法 [4.5.1][4.5.2][表4.5.1～2] 種類 呼び名 仕上げの形状 ○薄付け仕上塗材 ・外装塗塗材 E ・砂壁状 ・着色骨材砂壁状 ・可とう形外装塗塗材 E ・砂壁状 ・ゆず肌状 ・ ○防水形外装塗塗材 E ○ゆず肌状 ・凹凸状 ・複層仕上塗材 ・複層塗塗材 C E ・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状 上塗材 ・水系アクリル ・水系アクリルシリコン ・複層塗塗材 E ・水系アクリルシリコン ・複層塗塗材 R E 外観 ※つやあり ・つやなし ・防水形複層塗塗材 C E ・メタリック ・防水形複層塗塗材 E 防水形の増塗材 ・行う ・可とう形改修用仕上塗材 ※可とう形改修塗材 E ・平たん状 ・さざ波状 ※ゆず肌状 上塗材 ・アクリル ・ウレタン ・シリコン ・ふっ素 外観 ・吹付 ※ローラー 仕上 ※薄付け ・厚付け	6 設計数量 外壁部位 種類 工法 数量 備考 ・コンクリート打放し面 ・ひび割れ ※ウカットシール材充填工法 m ・欠損部 ※エポキシ樹脂モルタル充填工法 箇所 ○モルタル塗り仕上げ面 ○ひび割れ ※ウカットシール材充填工法 13.40 m ・自動式低圧「杉」樹脂注入工法 m ・欠損部 ※充填工法 m ○浮き部 ※アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 1.20 m <sup>2</sup> ※上記数量については、現場調査を行い報告書を作成し、提出する。 尚、数量の10%を超える増減が生じた場合は協議の上、契約変更を行う事ができる。
						調査範囲 ○既存モルタル面 ・躯体コンクリート面 ・図示の範囲 [1.5.2] 調査内容 ひび割れ (0.2mm以上) の長さを表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、 漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタルの浮き部分を表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を調査する。 調査報告書の部数 ※1部		外壁の種類 種類 改修工法 ・コンクリート ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 打放し仕上げ ・欠損部 ・充填工法 ・ ○モルタル塗り仕上げ ○ひび割れ部 ○樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・シール工法 ○欠損部 ○充填工法 ・モルタル塗替え工法 ○浮き部 ○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ ・タイル張り仕上げ ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・欠損部 ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 ・浮き部 ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・目地 ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 ・塗り仕上げ ・薄付け仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り ・厚付け仕上塗材塗り ・各種塗料塗り ・複層仕上塗材塗り ・マスチック塗材塗り		
調査範囲 ○既存モルタル面 ・躯体コンクリート面 ・図示の範囲 [1.5.2] 調査内容 ひび割れ (0.2mm以上) の長さを表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、 漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタルの浮き部分を表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を調査する。 調査報告書の部数 ※1部	外壁の種類 種類 改修工法 ・コンクリート ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 打放し仕上げ ・欠損部 ・充填工法 ・ ○モルタル塗り仕上げ ○ひび割れ部 ○樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・シール工法 ○欠損部 ○充填工法 ・モルタル塗替え工法 ○浮き部 ○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ ・タイル張り仕上げ ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・欠損部 ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 ・浮き部 ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・目地 ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 ・塗り仕上げ ・薄付け仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り ・厚付け仕上塗材塗り ・各種塗料塗り ・複層仕上塗材塗り ・マスチック塗材塗り		6 設計数量 外壁部位 種類 工法 数量 備考 ・コンクリート打放し面 ・ひび割れ ※ウカットシール材充填工法 m ・欠損部 ※エポキシ樹脂モルタル充填工法 箇所 ○モルタル塗り仕上げ面 ○ひび割れ ※ウカットシール材充填工法 13.40 m ・自動式低圧「杉」樹脂注入工法 m ・欠損部 ※充填工法 m ○浮き部 ※アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 1.20 m <sup>2</sup> ※上記数量については、現場調査を行い報告書を作成し、提出する。 尚、数量の10%を超える増減が生じた場合は協議の上、契約変更を行う事ができる。							
調査範囲 ○既存モルタル面 ・躯体コンクリート面 ・図示の範囲 [1.5.2] 調査内容 ひび割れ (0.2mm以上) の長さを表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、 漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタルの浮き部分を表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を調査する。 調査報告書の部数 ※1部	外壁の種類 種類 改修工法 ・コンクリート ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 打放し仕上げ ・欠損部 ・充填工法 ・ ○モルタル塗り仕上げ ○ひび割れ部 ○樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・シール工法 ○欠損部 ○充填工法 ・モルタル塗替え工法 ○浮き部 ○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ ・タイル張り仕上げ ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・欠損部 ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 ・浮き部 ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・目地 ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 ・塗り仕上げ ・薄付け仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り ・厚付け仕上塗材塗り ・各種塗料塗り ・複層仕上塗材塗り ・マスチック塗材塗り		6 設計数量 外壁部位 種類 工法 数量 備考 ・コンクリート打放し面 ・ひび割れ ※ウカットシール材充填工法 m ・欠損部 ※エポキシ樹脂モルタル充填工法 箇所 ○モルタル塗り仕上げ面 ○ひび割れ ※ウカットシール材充填工法 13.40 m ・自動式低圧「杉」樹脂注入工法 m ・欠損部 ※充填工法 m ○浮き部 ※アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 1.20 m <sup>2</sup> ※上記数量については、現場調査を行い報告書を作成し、提出する。 尚、数量の10%を超える増減が生じた場合は協議の上、契約変更を行う事ができる。							
調査範囲 ○既存モルタル面 ・躯体コンクリート面 ・図示の範囲 [1.5.2] 調査内容 ひび割れ (0.2mm以上) の長さを表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、 漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタルの浮き部分を表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を調査する。 調査報告書の部数 ※1部	外壁の種類 種類 改修工法 ・コンクリート ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 打放し仕上げ ・欠損部 ・充填工法 ・ ○モルタル塗り仕上げ ○ひび割れ部 ○樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・シール工法 ○欠損部 ○充填工法 ・モルタル塗替え工法 ○浮き部 ○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ ・タイル張り仕上げ ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・欠損部 ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 ・浮き部 ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・目地 ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 ・塗り仕上げ ・薄付け仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り ・厚付け仕上塗材塗り ・各種塗料塗り ・複層仕上塗材塗り ・マスチック塗材塗り		6 設計数量 外壁部位 種類 工法 数量 備考 ・コンクリート打放し面 ・ひび割れ ※ウカットシール材充填工法 m ・欠損部 ※エポキシ樹脂モルタル充填工法 箇所 ○モルタル塗り仕上げ面 ○ひび割れ ※ウカットシール材充填工法 13.40 m ・自動式低圧「杉」樹脂注入工法 m ・欠損部 ※充填工法 m ○浮き部 ※アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 1.20 m <sup>2</sup> ※上記数量については、現場調査を行い報告書を作成し、提出する。 尚、数量の10%を超える増減が生じた場合は協議の上、契約変更を行う事ができる。							
調査範囲 ○既存モルタル面 ・躯体コンクリート面 ・図示の範囲 [1.5.2] 調査内容 ひび割れ (0.2mm以上) の長さを表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、 漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタルの浮き部分を表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を調査する。 調査報告書の部数 ※1部	外壁の種類 種類 改修工法 ・コンクリート ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 打放し仕上げ ・欠損部 ・充填工法 ・ ○モルタル塗り仕上げ ○ひび割れ部 ○樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・シール工法 ○欠損部 ○充填工法 ・モルタル塗替え工法 ○浮き部 ○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ ・タイル張り仕上げ ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・欠損部 ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 ・浮き部 ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・目地 ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 ・塗り仕上げ ・薄付け仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り ・厚付け仕上塗材塗り ・各種塗料塗り ・複層仕上塗材塗り ・マスチック塗材塗り		6 設計数量 外壁部位 種類 工法 数量 備考 ・コンクリート打放し面 ・ひび割れ ※ウカットシール材充填工法 m ・欠損部 ※エポキシ樹脂モルタル充填工法 箇所 ○モルタル塗り仕上げ面 ○ひび割れ ※ウカットシール材充填工法 13.40 m ・自動式低圧「杉」樹脂注入工法 m ・欠損部 ※充填工法 m ○浮き部 ※アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 1.20 m <sup>2</sup> ※上記数量については、現場調査を行い報告書を作成し、提出する。 尚、数量の10%を超える増減が生じた場合は協議の上、契約変更を行う事ができる。							
調査範囲 ○既存モルタル面 ・躯体コンクリート面 ・図示の範囲 [1.5.2] 調査内容 ひび割れ (0.2mm以上) の長さを表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、 漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 モルタルの浮き部分を表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を調査する。 調査報告書の部数 ※1部	外壁の種類 種類 改修工法 ・コンクリート ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 打放し仕上げ ・欠損部 ・充填工法 ・ ○モルタル塗り仕上げ ○ひび割れ部 ○樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・シール工法 ○欠損部 ○充填工法 ・モルタル塗替え工法 ○浮き部 ○アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・ ・タイル張り仕上げ ・ひび割れ部 ・樹脂注入工法 ・ウカットシール材充填工法 ・欠損部 ・タイル部分張替え工法 ・タイル張替え工法 ・浮き部 ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ・目地 ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮調整目地改修工法 ・塗り仕上げ ・薄付け仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り ・厚付け仕上塗材塗り ・各種塗料塗り ・複層仕上塗材塗り ・マスチック塗材塗り		6 設計数量 外壁部位 種類 工法 数量 備考 ・コン							



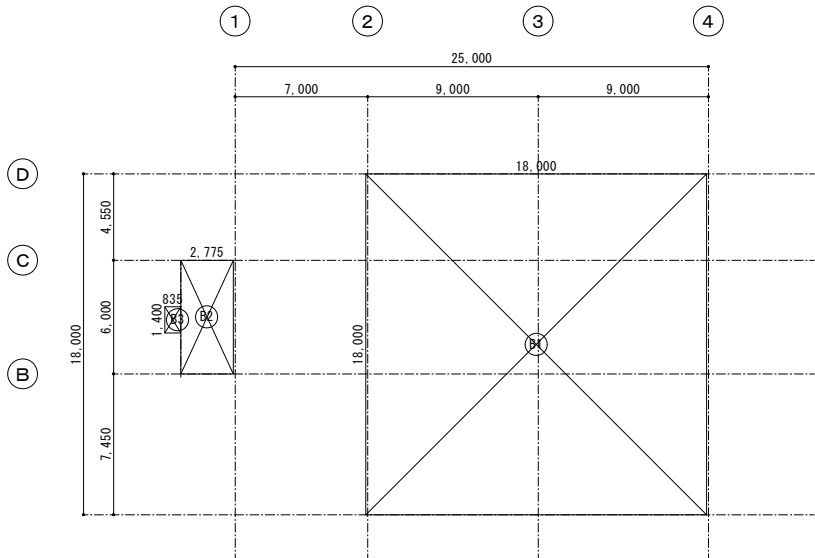




8章 耐震改修工事	⑫ 調合管理強度	構造体強度補正值（S） <div>[8.2.5][表8.2.4]</div> <div>（普通ポルトランドセメント）</div> <table><tr><td>打設期間</td><td>補正值(N/mm<sup>2</sup>)</td><td>備考</td></tr><tr><td>2/25～7/ 7 9/ 7～11/22</td><td>3.0</td><td></td></tr><tr><td>11/23～2/24</td><td>6.0</td><td></td></tr><tr><td>7/ 8～9/ 6</td><td>6.0</td><td>暑中コンクリート</td></tr></table>	打設期間	補正值(N/mm <sup>2</sup> )	備考	2/25～7/ 7 9/ 7～11/22	3.0		11/23～2/24	6.0		7/ 8～9/ 6	6.0	暑中コンクリート	⑯ あと施工アンカーの材料 <div>・金属拡張アンカー<div>[8.2.4]</div>※接着系アンカー 接着剤の材質及びカプセルの種類（ガラス管タイプ） 日本デコラックス（株） ケミカルアンカーR、RSタイプ 旭化成ジオテック（株） ARケミカルセッターSUPER L L A P 日本ヒルティ(株) H V U-G / E A もしくは同等品以上 接合筋の種類 ※鉄筋コンクリート用棒鋼（D 1 6以上SD 3 4 5） ・全ねじボルト</div>			表9.1.2 アスベスト粉じん濃度測定方法 <table><tr><td></td><td>測定 3</td><td>測定1, 2, 4, 6, 7, 8</td><td>測定 5</td></tr><tr><td>計数機器</td><td colspan="3">位相差顕微鏡</td></tr><tr><td>メンブレンフィルタの直径</td><td colspan="2">25mm</td><td>47mm</td></tr><tr><td>試料の吸引流量</td><td>1l/min</td><td>5l/min</td><td>10l/min</td></tr><tr><td>試料の吸引時間</td><td>5 min</td><td>120 min</td><td>210 min</td></tr><tr><td>試料の透明化</td><td colspan="3">アセトントリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法</td></tr><tr><td>計数条件</td><td>総アスベスト繊維数</td><td colspan="2">200本又は視野数50視野</td></tr><tr><td>計数アスベスト</td><td colspan="3">直径3μm未満、長さ5μm以上、長さと直径比3：1以上</td></tr><tr><td>定量限界</td><td>50 f/l</td><td>0.5 f/l</td><td>0.3 f/l</td></tr></table> 作業場の負圧隔離養生 ※行う 除去工法 ※除去工法については、工法に関する資料を監督職員に提出し、承諾を得ること。		測定 3	測定1, 2, 4, 6, 7, 8	測定 5	計数機器	位相差顕微鏡			メンブレンフィルタの直径	25mm		47mm	試料の吸引流量	1l/min	5l/min	10l/min	試料の吸引時間	5 min	120 min	210 min	試料の透明化	アセトントリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法			計数条件	総アスベスト繊維数	200本又は視野数50視野		計数アスベスト	直径3μm未満、長さ5μm以上、長さと直径比3：1以上			定量限界	50 f/l	0.5 f/l	0.3 f/l
	打設期間	補正值(N/mm <sup>2</sup> )	備考																																																			
	2/25～7/ 7 9/ 7～11/22	3.0																																																				
	11/23～2/24	6.0																																																				
	7/ 8～9/ 6	6.0	暑中コンクリート																																																			
		測定 3	測定1, 2, 4, 6, 7, 8	測定 5																																																		
	計数機器	位相差顕微鏡																																																				
	メンブレンフィルタの直径	25mm		47mm																																																		
	試料の吸引流量	1l/min	5l/min	10l/min																																																		
	試料の吸引時間	5 min	120 min	210 min																																																		
試料の透明化	アセトントリアセチン法又は、シュウ酸ジエチル法																																																					
計数条件	総アスベスト繊維数	200本又は視野数50視野																																																				
計数アスベスト	直径3μm未満、長さ5μm以上、長さと直径比3：1以上																																																					
定量限界	50 f/l	0.5 f/l	0.3 f/l																																																			
⑬ コンクリートの試験	※コンクリートの強度試験の試験回数は、下記による。 <div>[8.8.2～3]</div> <div>20m<sup>3</sup>以下の場合の試験については、監督職員の指示による。 20～50m<sup>3</sup>の場合は任意の一車より試料を採取し、各3個供試体を作成する。 50m<sup>3</sup>以上は 改修標仕8.8.3による。</div>	⑰ あと施工アンカーの施工	施工管理技術者 ※置く ・置かない <div>[8.12.2]</div>			処分方法 ○埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。 ・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う。																																																
⑭ 型枠	打ち放し仕上げの種別 <div>[8.1.4]</div> <table><tr><td>種別</td><td>施工箇所</td><td></td></tr><tr><td>・A種</td><td></td><td></td></tr><tr><td>※B種</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・C種</td><td></td><td></td></tr></table> 外部に面するコンクリート打ち放し仕上げの打増し ・20 ※図示 <div>[8.7.8]</div>	種別	施工箇所		・A種			※B種			・C種			⑲ あと施工アンカーの確認試験	施工確認試験 <div>[8.12.5][8.12.7]</div> ※全数打音試験を行う。 ・引張試験は増設壁又は鉄骨プレス1箇所あたり1本とし、引張荷重は設計強度の2/3以上とする。場所については監督職員の指示による。			⑮アスベスト含有仕上塗材の除去  アスベスト含有仕上塗材の除去(除去工法、養生、粉じん飛散防止措置、呼吸用保護具・保護衣等)については、「建築物の改修、解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」による。 アスベスト含有仕上塗材の有無 ○有 ・無 除去仕上塗材（アクリルリシン吹付）含有場所（外壁 耐震補強工事部分）  撤去の範囲 ・全面撤去 ○図示による 除去工法（原則湿潤化し、下記工法とする） ・水洗い工法 ・手工具ケレン工法 ○集じん装置付高圧水洗工法 ・集じん装置付超高压水洗工法 ・超音波ケレン工法 ・剥離材併用高圧水洗工法 ・剥離材併用超高压水洗工法 ・剥離材併用手工具ケレン工法 ・剥離材併用超音波ケレン工法 ・集塵装置付ディスクグラインダーケレン工法 上記工法によらない場合は監督職員と協議の上、承諾を得ること。 除去工法の試験施工 ・行う ※行わない 作業場の隔離及び養生 「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」による。 ・隔離養生不要 ・隔離養生必要(負担不要) ・その他（ ） 処分方法 ・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する。 ・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた溶融施設において溶融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う																																				
種別	施工箇所																																																					
・A種																																																						
※B種																																																						
・C種																																																						
15 鉄骨製作工場	・監督職員の承諾する工場 <div>[8.1.5]</div> ・(社)全国鉄構工業協会、(株)日本鉄骨評価センター認定工場（下記認定グレード以上） （S ・H ・M ・R ・J）	⑳ 既存構造体との取り合い	グラウト材の品質管理 <div>[8.21.9][8.22.7]</div> ※圧縮強度試験を行う（3日、28日、封かん養生） ※コンシステンシー試験を行う。																																																			
16 鉄骨工作図	施工管理技術者 ・配置する ・配置しない <div>[8.1.6]</div> ※高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等は、 国土交通省大臣官庁営繕部「建築鉄骨設計基準」による。 <div>[8.13.2]</div>	① 一般事項	労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針（建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にはく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する記述上の指針）を遵守すること。 ○アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。																																																			
17 溶接管理技術者	・配置する ・配置しない <div>[8.15.2]</div>	② アスベスト含有建材の処理工事	労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針（建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にはく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する記述上の指針）を遵守すること。 ○アスベスト除去に伴う作業計画の作成を行うこと。 ○アスベスト除去完了に伴う発注者への報告を書面にて行うこと。																																																			
18 鋼材	鋼材の材質、規格は下表による。 <div>[8.2.8]</div> <table><tr><td>材 質</td><td>品名又は使用箇所</td><td>規 格</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※JISの規格品</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※JISの規格品</td></tr><tr><td></td><td></td><td>※JISの規格品</td></tr></table>	材 質	品名又は使用箇所	規 格			※JISの規格品			※JISの規格品			※JISの規格品	3 アスベストの含有調査	分析による確認 ・行う（下表による） ・行わない <table><tr><td>材 料 名</td><td>調査方法</td><td>1材料あたりの試料数</td></tr><tr><td></td><td>※定性分析(3 ・ )</td><td>※定量分析(※3 ・ )</td></tr><tr><td></td><td>※定性分析(3 ・ )</td><td>※定量分析(※3 ・ )</td></tr><tr><td></td><td>※定性分析(3 ・ )</td><td>※定量分析(※3 ・ )</td></tr></table>	材 料 名	調査方法	1材料あたりの試料数		※定性分析(3 ・ )	※定量分析(※3 ・ )		※定性分析(3 ・ )	※定量分析(※3 ・ )		※定性分析(3 ・ )	※定量分析(※3 ・ )																											
材 質	品名又は使用箇所	規 格																																																				
		※JISの規格品																																																				
		※JISの規格品																																																				
		※JISの規格品																																																				
材 料 名	調査方法	1材料あたりの試料数																																																				
	※定性分析(3 ・ )	※定量分析(※3 ・ )																																																				
	※定性分析(3 ・ )	※定量分析(※3 ・ )																																																				
	※定性分析(3 ・ )	※定量分析(※3 ・ )																																																				
19 高力ボルト	※トルシア形高力ボルト ・JIS形高力ボルト ・溶融亜鉛めっき高力ボルト 径（ ） すべり係数試験 ・実施する ※実施しない <div>[8.14.2]</div> 試験方法（ ）、試験片の摩擦面の状態（ ）	4 アスベスト含有吹付け材の除去	アスベスト含有吹付け材の有無 ・有 ・無 <div>[9.1.3]</div> 除去吹付け材（ ）含有場所（ ） 吹付けアスベストの施工数量調査 ※行う アスベスト粉じん濃度測定 ※行う 表9.1.1 アスベスト粉じん濃度測定 <table><tr><td>測定時期</td><td>測定名称</td><td>測定 場 所</td><td>測定 点（各施工箇所ごと）</td><td>備考</td></tr><tr><td rowspan="2">処理作業前</td><td>測定 1</td><td>処理作業室内</td><td>各2点又は3点</td><td>(注) 1</td></tr><tr><td>測定 2</td><td>施行区画周辺又は、敷地境界</td><td>計2点</td><td>大気</td></tr><tr><td rowspan="3">処理作業中</td><td>測定 3</td><td>処理作業室内</td><td>各2点又は3点</td><td>(注) 1</td></tr><tr><td>測定 4</td><td>排気装置の排出口</td><td>1点</td><td>空気の流れを確認</td></tr><tr><td>測定 5</td><td>集じん・排気装置の排出口（処理作業室外の場合）</td><td>1点</td><td>(注) 2</td></tr><tr><td rowspan="2">処理作業後（隔離ゾーン撤去前）</td><td>測定 7</td><td>処理作業室内</td><td>各2点又は3点</td><td>(注) 1</td></tr><tr><td>測定 8</td><td>施行区画周辺又は、敷地境界</td><td>4方向各1点</td><td>大気</td></tr></table> (注) 1. 各施工箇所ごとの室内面積が50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点とする。 300㎡を超えるものは、監督職員と協議する。 (注) 2. 集じん・排気装置の性能確認	測定時期	測定名称	測定 場 所	測定 点（各施工箇所ごと）	備考	処理作業前	測定 1	処理作業室内	各2点又は3点	(注) 1	測定 2	施行区画周辺又は、敷地境界	計2点	大気	処理作業中	測定 3	処理作業室内	各2点又は3点	(注) 1	測定 4	排気装置の排出口	1点	空気の流れを確認	測定 5	集じん・排気装置の排出口（処理作業室外の場合）	1点	(注) 2	処理作業後（隔離ゾーン撤去前）	測定 7	処理作業室内	各2点又は3点	(注) 1	測定 8	施行区画周辺又は、敷地境界	4方向各1点	大気															
測定時期	測定名称	測定 場 所	測定 点（各施工箇所ごと）	備考																																																		
処理作業前	測定 1	処理作業室内	各2点又は3点	(注) 1																																																		
	測定 2	施行区画周辺又は、敷地境界	計2点	大気																																																		
処理作業中	測定 3	処理作業室内	各2点又は3点	(注) 1																																																		
	測定 4	排気装置の排出口	1点	空気の流れを確認																																																		
	測定 5	集じん・排気装置の排出口（処理作業室外の場合）	1点	(注) 2																																																		
処理作業後（隔離ゾーン撤去前）	測定 7	処理作業室内	各2点又は3点	(注) 1																																																		
	測定 8	施行区画周辺又は、敷地境界	4方向各1点	大気																																																		
20 鋼材の材料試験	※JIS規格品については種類の異なるごとに1 t未満の場合は規格証明書の提出を省略することができる。 <div>[8.2.13]</div>																																																					
21 溶接施工	エンドタブの種類 ※鋼製タブ <div>[8.15.7]</div> 代替タブを使用する場合は、セラミックスタブとし、以下の書類を提出し、監督職員の承諾を得ること。 ・セラミックスタブの使用実績 ・AW検定協議会の代替エンドタブ技量認定資格者または日本エンドタブ協会によるエンドタブ施工講習（溶接技能者・固形タブ・A級）修了者の資格証 ・鉄骨製作工場における施工実績  エンドタブの切断 ・行う（ ） ・行わない スカラップ ※改良型スカラップ																																																					
22 溶接部の試験	完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ※行う(9mm以上) ・行わない <div>[8.15.12]</div> 試験箇所数 耐震ブレース ※改修標仕8.15.12による ・ その他 ※標仕7.6.12(イ)による ・																																																					
23 錆止め塗料	・鉄骨造の鉄部錆止め塗料の種類は、下記とする。 <div>[8.17.3]</div> ・JIS K 5625 ・JIS K 5674 ・DP塗装の場合 JIS K 5552 + JIS K 5551(2回) 耐火被覆材の接着する面の塗装 ・行う ※行わない																																																					
24 耐火被覆材	耐火被覆材の接着する面の塗装 ・行う ※行わない <div>[8.18.2～7]</div> <table><tr><td>種 別</td><td>所要性能及び適用構造部位</td></tr><tr><td>・耐火材</td><td>・乾式吹付けロックウール</td></tr><tr><td>吹付け</td><td>・半乾式吹付けロックウール</td></tr><tr><td></td><td>・湿式ロックウール</td></tr><tr><td>・耐火板張り</td><td></td></tr><tr><td>・ラス張りモルタル塗り</td><td></td></tr><tr><td>・耐火塗料</td><td></td></tr></table>	種 別	所要性能及び適用構造部位	・耐火材	・乾式吹付けロックウール	吹付け	・半乾式吹付けロックウール		・湿式ロックウール	・耐火板張り		・ラス張りモルタル塗り		・耐火塗料																																								
種 別	所要性能及び適用構造部位																																																					
・耐火材	・乾式吹付けロックウール																																																					
吹付け	・半乾式吹付けロックウール																																																					
	・湿式ロックウール																																																					
・耐火板張り																																																						
・ラス張りモルタル塗り																																																						
・耐火塗料																																																						
⑳ 既存コンクリート面の目荒し	適用範囲 <div>[8.21.3][8.22.3]</div> ※既存コンクリートとの打継ぎ面 ※既存コンクリートとモルタル又はグラウト材充填部の接合面 ・ 目荒らしの範囲 ※柱、梁面 打継ぎ面又は接合面全体の3/4以上 ※壁面 打継ぎ面又は接合面全面の1/3程度 ・ 目荒らしの程度 ※平均深さ5～10mmで最大深さ15mm程度の凹部を施す																																																					

株式会社 日新技術コンサルタント  一級建築士 登録 第166668号 宮本 哲也 東京都中央区日本橋堀留町1-5-7	工事名	
	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事	
	日付	図面名
	令和 5 年 1 2 月	特記仕様書（改修5）
令和5年版		縮尺
		図面番号
		A-6
		/





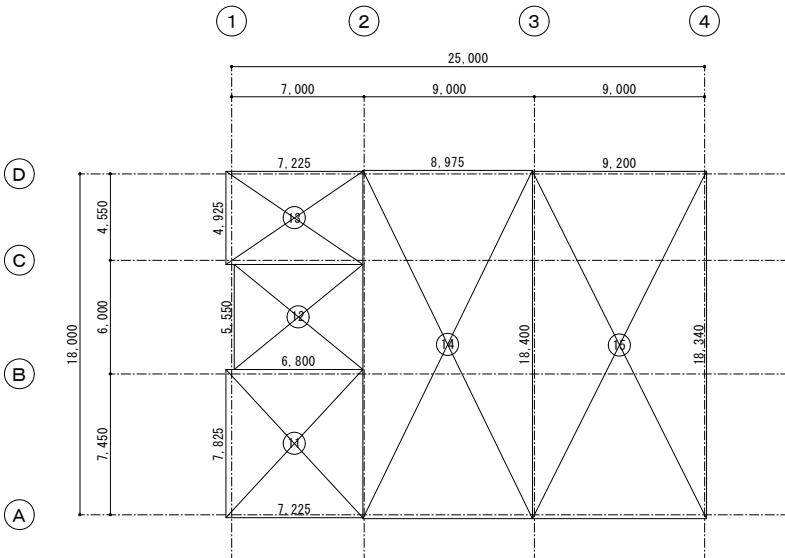
地下1階 求積図 1/200

地下1階 床面積					
Ⓑ1	18.000	×	18.000	=	324.000000
Ⓑ2	2.775	×	6.000	=	16.650000
Ⓑ3	0.835	×	1.400	=	1.169000

計 341.819000  
改め 341.81

面積表

敷地面積	2,239.88 m2
建築面積	476.503 m2
延べ面積	645.845 m2
1階	466.851 m2
2階	178.994 m2



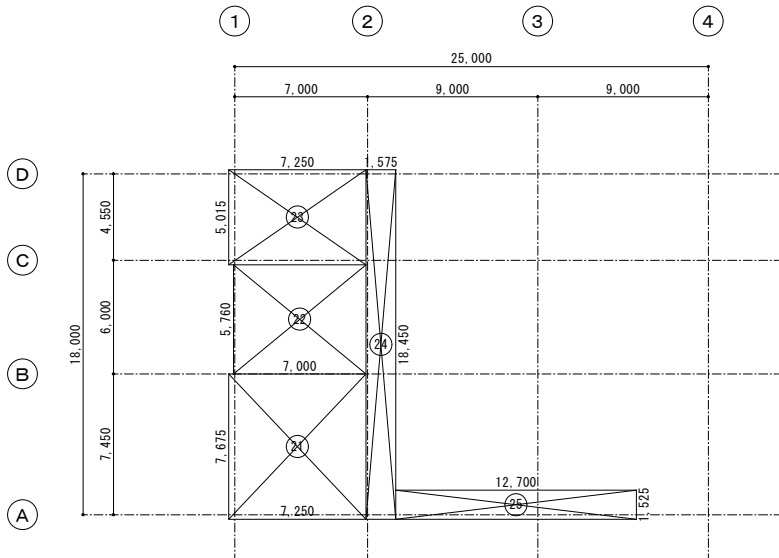
1階 求積図 1/200

1階 床面積					
⑪	7.225	×	7.825	=	56.535625
⑫	6.800	×	5.550	=	37.740000
⑬	7.225	×	4.925	=	35.583125
⑭	8.975	×	18.400	=	165.140000
⑮	9.200	×	18.340	=	168.728000

計 463.726750  
改め 463.72

有窓・無窓・判定表 (消防法施行規則 5の2の1、5の2の2)

階	有効開口部計算式	有効開口部面積合計㎡	必要開口(N/30)	階床面積(N㎡) <sup>2</sup>	判定 無 有
1	AD-101 2.00×2.00×1	4.00	14.458	463.72	無 有
2	AW-101 1.00×1.50×2	3.56	6.027	180.74	無 有
					無 有
					無 有
					無 有



2階 求積図 1/200

2階 床面積					
⑰	7.250	×	7.675	=	55.643750
⑱	7.000	×	5.760	=	40.320000
⑲	7.250	×	5.015	=	36.358750
⑳	1.575	×	18.450	=	29.058750
㉑	12.700	×	1.525	=	19.367500

計 180.748750  
改め 180.74

有効開口部建具表

階	建具記号	開口部の位置	床からの高さm	幅 × 高さm	開口部面積㎡	開口部種別引き違い等	ガラス等の厚みmm及び種別
1	AD-101	東面	0.0	2.00 × 2.00 × 1	4.00	両開き	P-5
2	AW-101	東面	1.0	2.00 × 1.50 × 2	3.00	引違い	P-5
	AW-102	南面	1.05	1.145 × 0.99 × 1	0.56	引違い	P-5

換気面積・排煙面積・採光面積 (法令116条の2-1-1) 計算表 (㎡)

階	室名	天井高	床面積	換気面積計算				排煙面積計算				採光面積計算 (非常用照明装置の有・無)			
				必要換気面積(A/20)	換気用有効開口面積	判定	備考 建具番号等	必要排煙面積(A/50)	排煙用有効開口面積	判定	備考 建具番号等	必要採光面積(A/20)	採光用有効開口面積 法令116条の2-1-1による採光	判定	備考 建具番号等
地下1F	ポンプ室	直天	324.00	—	—	—	—	6.48	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	補機室	直天	16.65	—	—	—	—	0.34	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	プロパン庫	直天	1.16	—	—	—	—	0.03	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
1F	事務室	2.600	20.69	1.04	機械換気による	○	—	0.42	国土交通省告示1436-4-ニ-4	○	—	—	—	—	—
	倉庫	直天	7.24	—	—	—	—	0.15	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	玄関ホール	2.600	33.55	—	—	—	—	0.68	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	便所	2.400	6.10	—	—	—	—	0.06	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	湯沸室	2.300	4.51	—	—	—	—	0.10	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	PS	直天	1.23	—	—	—	—	0.03	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	予備室	2.600	13.60	—	—	—	—	0.28	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	倉庫	直天	12.95	—	—	—	—	0.26	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	発電機室	直天	29.98	—	—	—	—	0.60	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	ポンプ室	直天	333.87	—	—	—	—	6.68	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
2F	中央監視室	3.500	87.17	4.36	機械換気による	○	—	1.75	国土交通省告示1436-4-ニ-4	○	—	—	—	—	—
	宿直室	2.400	14.02	0.71	機械換気による	○	—	0.29	国土交通省告示1436-4-ニ-4	○	—	—	—	—	—
	浴室	2.500	2.61	—	—	—	—	0.06	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	脱衣室	2.300	1.29	—	—	—	—	0.03	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	湯沸室	2.300	3.27	—	—	—	—	0.66	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	階段室	2.500	22.73	—	—	—	—	0.46	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	PS	直天	1.23	—	—	—	—	0.03	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—
	ギャラリー	直天	48.43	—	—	—	—	0.97	国土交通省告示1436-4-ニ-2	○	—	—	—	—	—

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	法規チェックリスト		
縮尺	1/200	設計年月日	令和4年3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-8



内部仕上表（2）																																	
階	室名		床				幅木					腰壁					壁							天井							備考		
			下地	仕上	詳細番号	改修内容	下地	仕上	高さ	詳細番号	改修内容	下地	仕上	高さ	詳細番号	改修内容	下地	仕上	詳細番号	改修内容	柱型仕上	詳細番号	改修内容	下地	仕上	詳細番号	改修内容	梁型仕上	天井高	改修内容			
地下2階	水槽（3）	改修前	C	コンクリートこて仕上		F											C	コンクリート打放し		F					C	コンクリート打放し		F		直天			
		改修後		既設のまま		f												既設のまま		f					既設のまま		f		直天				
	水槽（4）	改修前	C	コンクリートこて仕上		F											C	コンクリート打放し		F					C	コンクリート打放し		F		直天			
		改修後		既設のまま		f												既設のまま		f					既設のまま		f		直天				
	水槽（5）	改修前	C	コンクリートこて仕上		F											C	コンクリート打放し		F					C	コンクリート打放し		F		直天			
		改修後		既設のまま		f												既設のまま		f					既設のまま		f		直天				
		改修前																															
		改修後																															
		改修前																															
		改修後																															
地下1階	ポンプ室	改修前	シンダー-コンクリート t 370	防水モルタル t 30 床用塗料		F											C	防水モルタル t 25		F					C	防水モルタル t 20		F		直天	側溝	F	
		改修後		既設のまま		f												既設のまま		f					既設のまま		f		直天	側溝	f		
	吐出水槽	改修前	C	コンクリートこて仕上		F											C	コンクリート打放し		F					C	コンクリート打放し		F		直天			
		改修後		既設のまま		f												既設のまま		f					既設のまま		f		直天				
	水槽（3）	改修前	C	コンクリートこて仕上		F											C	コンクリート打放し		F					C	コンクリート打放し		F		直天			
		改修後		既設のまま		f												既設のまま		f					既設のまま		f		直天				
	水槽（4）	改修前	C	コンクリートこて仕上		F											C	コンクリート打放し		F					C	コンクリート打放し		F		直天			
		改修後		既設のまま		f												既設のまま		f					既設のまま		f		直天				
	補機室	改修前	C	コンクリートこて仕上		F											C	コンクリート打放し		F					C	コンクリート打放し		F		直天			
		改修後		既設のまま		f												既設のまま		f					既設のまま		f		直天				
	プロパン庫	改修前	C	コンクリートこて仕上		F											C	コンクリート打放し		F					C	コンクリート打放し		F		直天			
		改修後		既設のまま		f												既設のまま		f					既設のまま		f		直天				
		改修前																															
		改修後																															
		改修前																															
		改修後																															
		改修前																															
		改修後																															

特記なき限り

改仕修 上 後 材 の 厚 さ	材 料 名	種別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	材 料 名	種別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	工 事 区 分 路 号	< > <b>C</b>	: 土木工事	改 修 内 容 凡 例	改修前		改修後	
	GB-R	仕上	1 2 . 5	1 2 . 5	NM-8 6 1 9	けい酸カルシウム板（タイプ2）		1 2	1 0	NM-8 5 7 8		< > <b>AM</b>	: 建築機械設備工事		A : 仕上撤去	a : 仕上新設		
		下地	1 2 . 5			押出法ポリスチレンフォーム保温材		2 5	2 5	< > <b>AE</b>		: 建築電気設備工事	B : 図示の仕上撤去		b : 図示の仕上新設			
	GB (N)	下地		9 . 5	NM-8 6 1 3 又は同等							< > <b>PM</b>	: プラント機械設備工事		C : 下地共撤去	c : 下地共新設		
	GB (NT)			9 . 5						< > <b>PE</b>		: プラント電気設備工事	D : 図示の下地共撤去		d : 図示の下地共新設			
	GB (W)			1 2 . 5	不燃（個別認定）										E : 図示の塗装塗り替え	e : 図示の塗装塗り替え		
	DR			1 2	NM-8 5 9 9										F : 既存のまま	f : 既存のまま		

事 業 名			
工 事 名			
工事場所		四日市市 塩浜町 地内	
名 称		仕上表（2）	
縮 尺	—	設計年月日	令和 4年 3月
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-1 0

内部仕上表（３）																																		
階	室 名		床						幅 木						腰 壁						壁						天 井						備 考	
			下地	仕 上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	高さ	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	高さ	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	詳細番号	改修内容	柱型仕上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	詳細番号	改修内容	梁型仕上	天井高	改修内容				
1 階	ポンプ室	改修前	珪藻土 t370 M	モルタル 床用差料		D	M	モルタル 床用差料	100		D						Q	ロックウール t25打放 ポリエチレンフィルム敷 有孔アスベスト板張（石綿含有）		D				ALC	A L C 版 素地		F		直天		内壁、防水部 R C 階段	D D		
		改修後	珪藻土 t370 M	モルタル 床用差料		a	C	コンクリート打放（B）	100		a						Q	コンクリート打放（B）		a					既設のまま		f		直天					
	玄関ホール	改修前	珪藻土 t360 M	ウリンカータイル □150		D	C	テラゾブロック	100		D						M	モルタル ゾラコート吹付		D				S	岩綿吸音板 t9（石綿含有） 下張GB（N） t9.5		F		2,600					
		改修後	珪藻土 t360 M	ウリンカータイル □150		a	C	コンクリート打放（B）	100		a						Q	コンクリート打放（B）		a					既設のまま		f		2,600					
	事務室	改修前	珪藻土 t360 M t 20	ビニル床シート貼 （石綿含有）		D	M	ビニル巾木	100		D						M	モルタル EP		D				S	岩綿吸音板 t9（石綿含有） 下張GB（N） t9.5		D		2,600					
		改修後		ビニル床シート貼		a	C	ビニル巾木	100		a						Q	コンクリート打放（B）		a				S	岩綿吸音板 t9（石綿含有） 下張GB（N） t9.5		a		2,600					
	便 所	改修前	珪藻土 t320 M	24角モザイクタイル貼り		F						M	100角半磁器タイル貼り	2,050		F	M	モルタル EP		F				S	岩綿吸音板 t9（石綿含有） 下張GB（N） t9.5		F		2,400					
		改修後		既設のまま		f							既設のまま			f		既設のまま		f					既設のまま		f		2,400					
	湯沸室	改修前	珪藻土 t360 M t 20	磁器質タイル □100		F	C	テラゾブロック	100		F						M	モルタル EP		F				S	岩綿吸音板 t9（石綿含有） 下張GB（N） t9.5		F		2,300					
		改修後		既設のまま		f		既設のまま			f							既設のまま		f					既設のまま		f		2,300					
	予備室	改修前	M	ビニル床シート貼 （石綿含有）		F	M	ビニル巾木	100		F						M	モルタル EP		D				S	岩綿吸音板 t9（石綿含有） 下張GB（N） t9.5		D		2,600					
		改修後		既設のまま		f		既設のまま			f						Q	コンクリート打放（B）		a				S	岩綿吸音板 t9（石綿含有） 下張GB（N） t9.5		a		2,600					
倉 庫	改修前	M	モルタル		D	M	モルタル	100		F						M	モルタル		D				C	コンクリート打放		F		直天						
	改修後		モルタル		a		既設のまま			f						Q	コンクリート打放（B）		a					既設のまま		f		直天						
発電機室	改修前	M	モルタル 床用差料		D	M	モルタル 床用差料	100		D						M	モルタル EP		D				C	コンクリート打放		F		直天						
	改修後	M	モルタル 床用差料		a	C	コンクリート打放（B）	100		a						Q	コンクリート打放（B）		a					既設のまま		f		直天						
事務室倉庫	改修前	珪藻土 t370 M	モルタル		D	M	モルタル	100		D						M	モルタル		D				C	モルタル t20		F		直天						
	改修後		モルタル		a	C	コンクリート打放（B）			a						Q	コンクリート打放（B）		a				C	モルタル		f		直天						
	改修前																																	
	改修後																																	
	改修前																																	
	改修後																																	
2 階	宿直室	改修前	W	たたみ（工事中断去・保管） 一部、珪甲板張												M	モルタル ゾラコート吹付		D				S	杉壁フキンラン		D		2,400						
		改修後		たたみ（再設置） 既設のまま												Q	コンクリート打放（B） ジュラククロス貼		a				S	化粧石膏ボード t9		a		2,400						
	押入	改修前	W	合板 t 6		F										W	合板 t 6		F				W	合板 t 3		F		2,400						
		改修後		既設のまま		f											既設のまま		f					既設のまま		f		2,400						
	湯沸室	改修前	M	クッションフロアー （石綿含有）		F	M	ビニル巾木	100		F						M	モルタル EP		F				S	岩綿吸音板 t9（石綿含有） 下張GB（N） t9.5		F		2,300					
		改修後		既設のまま		f		既設のまま			f						既設のまま		f					既設のまま		f		2,300						

特記なき限り																									事 業 名				令和5年度 公共下水道事業				
																									工 事 名				塩浜第3ポンプ場耐震補強工事				
																									工事場所				四日市市 塩浜町 地内				
																									名 称				仕上表（3）				
改 仕 修 上 後 の 材 料 の 厚 さ	材 料 名		種別	壁（m/m）	天井（m/m）	備 考		材 料 名		種別	壁（m/m）	天井（m/m）	備 考		工 事 区 分 路 号	< > C	： 土木工事		改 修 内 容 凡 例	改修前		改修後											
	GB－R	仕上	12. 5	12. 5	NM－8619	けい酸カルシウム板（タイプ2）			12	10	NM－8578		< > AM	： 建築機械設備工事		A： 仕上撤去		a： 仕上新設															
		下地	12. 5			押出法ポリスチレンフォーム保温材			25	25		< > AE	： 建築電気設備工事			B： 図示の仕上撤去		b： 図示の仕上新設															
	GB（N）	下地		9. 5	NM－8613								< > PM	： プラント機械設備工事		C： 下地共撤去		c： 下地共新設															
	GB（NT）			9. 5	又は同等								< > PE	： プラント電気設備工事		D： 図示の下地共撤去		d： 図示の下地共新設															
	GB（W）			12. 5	不燃（個別認定）											E： 図示の下地調整		e： 図示の塗装塗り替え															
	DR			12	NM－8599											F： 既存のまま		f： 既存のまま															
																									事業主体				四日市市 上下水道局	図面番号		A－11	

内部仕上表（４）																																		
階	室 名		床				幅 木					腰 壁					壁							天 井							備 考			
			下地	仕 上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	高さ	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	高さ	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	詳細番号	改修内容	柱型仕上	詳細番号	改修内容	下地	仕 上	詳細番号	改修内容	梁型仕上	天井高	改修内容				
2 階	脱衣室	改修前	シンダーコンクリート t 110 M	クッションフロアー  (石綿含有)		F	M	ビニル巾木	100		F						M	モルタル A E P		F				S	岩綿吸音板 t 9 (石綿含有) 下張 G B ( N ) t 9. 5		F		2, 300					
		改修後		既設のまま		f		既設のまま			f							既設のまま		f					既設のまま		f		2, 300					
	浴 室	改修前		玉石モザイクタイル貼り		F											M	100角半磁器タイル貼り		F				W	バスリブ		F		2, 500					
		改修後		既設のまま		f												既設のまま		f					既設のまま		f		2, 500					
	階段室	改修前	M	ビニル床シート貼  (石綿含有)		D	M	ビニル巾木	100		D						M	モルタル A E P		D				S	岩綿吸音板 t 9 (石綿含有) 下張 G B ( N ) t 9. 5		F		2, 600					
		改修後	M	ビニル床シート貼		d	M	ビニル巾木	100		d						C	コンクリート打放し ( B ) E P		d					既設のまま		f		2, 600					
	中央監視室	改修前	シンダーコンクリート t 270 M	フリーアセス707： 帯電防止ビニル床タイル ホーダー部：モルタル 帯電防止ビニル床タイル		F	C	ビニル巾木	100		F						M	モルタル A E P		D				S	岩綿吸音板 t 9 (石綿含有) 下張 G B ( N ) t 9. 5		F		3, 500					
		改修後		既設のまま		f		既設のまま			f						C	コンクリート打放し ( B ) E P		d					既設のまま		f		3, 500					
	ギャラリー	改修前	M	モルタル		F	M	モルタル	100		F																							
		改修後		既設のまま		f		既設のまま			f																							
		改修前																																
		改修後																																
		改修前																																
		改修後																																
		改修前																																
		改修後																																
共通	A 階段	改修前	M	ビニル床シート貼  (石綿含有)		F	M	ビニル巾木	100		F																							
		改修後		既設のまま		f		既設のまま			f																							
	B 階段	改修前	M	モルタル		F																												
		改修後		既設のまま		f																												
	C 階段	改修前	M	モルタル		F																												
		改修後		既設のまま		f																												
	P S	改修前	C	コンクリートこて仕上		F											C	コンクリート打放し		F				C	コンクリート打放し		F		直天					
		改修後		既設のまま		f												既設のまま		f					既設のまま		f		直天					
		改修前																																
		改修後																																
		改修前																																
		改修後																																

特記なき限り

改 仕 修 上 後 材 の 料 の 厚 さ	材 料 名	種別	壁 (㎡/㎡)	天井 (㎡/㎡)	備 考	材 料 名	種別	壁 (㎡/㎡)	天井 (㎡/㎡)	備 考	
	G B－R	仕上	1 2 . 5	1 2 . 5	NM－8 6 1 9	けい酸カルシウム板 (タイプ2)		1 2	1 0	NM－8 5 7 8	
		下地	1 2 . 5	押出法ポリスチレンフォーム保温材			2 5	2 5			
	G B ( N )	下地		9 . 5	NM－8 6 1 3 又は同等						
	G B ( N T )			9 . 5							
	G B ( W )			1 2 . 5	不燃 (個別認定)						
	D R			1 2	NM－8 5 9 9						

工 事 区 分 路 号

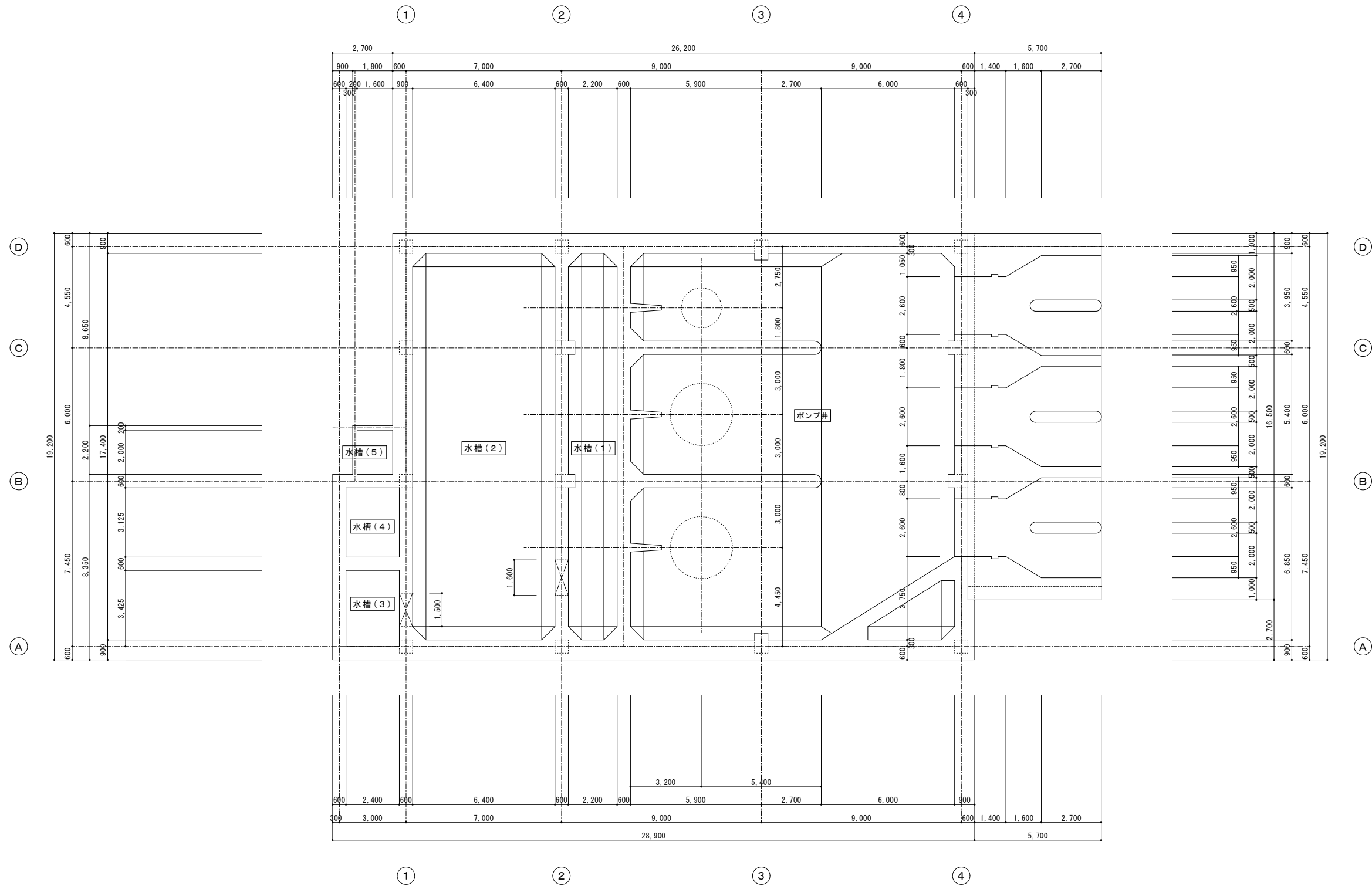
< > ( C ) : 土木工事  
< > ( A M ) : 建築機械設備工事  
< > ( A E ) : 建築電気設備工事  
< > ( P M ) : プラント機械設備工事  
< > ( P E ) : プラント電気設備工事

改 修 内 容 凡 例

改修前	改修後
A : 仕上撤去	a : 仕上新設
B : 図示の仕上撤去	b : 図示の仕上新設
C : 下地共撤去	c : 下地共新設
D : 図示の下地共撤去	d : 図示の下地共新設
E : 図示の下地調整	e : 図示の塗装塗り替え
F : 既存のまま	f : 既存のまま

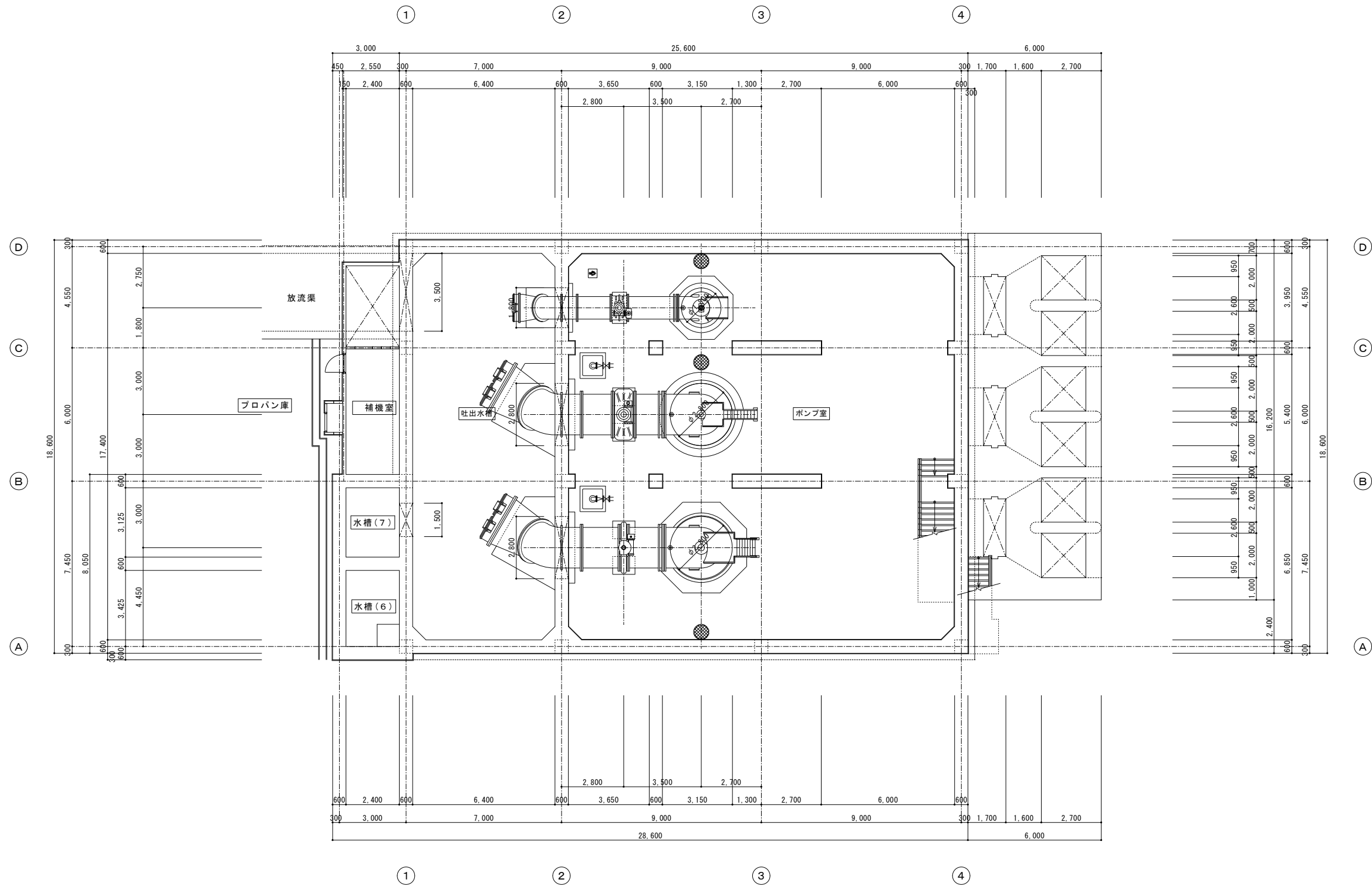
事 業 名			
工 事 名		塩浜第3ポンプ場耐震補強工事	
工事場所		四日市市 塩浜町 地内	
名 称		仕上表（４）	
縮 尺	—	設計年月日	令和 4 年 3 月
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－1 2





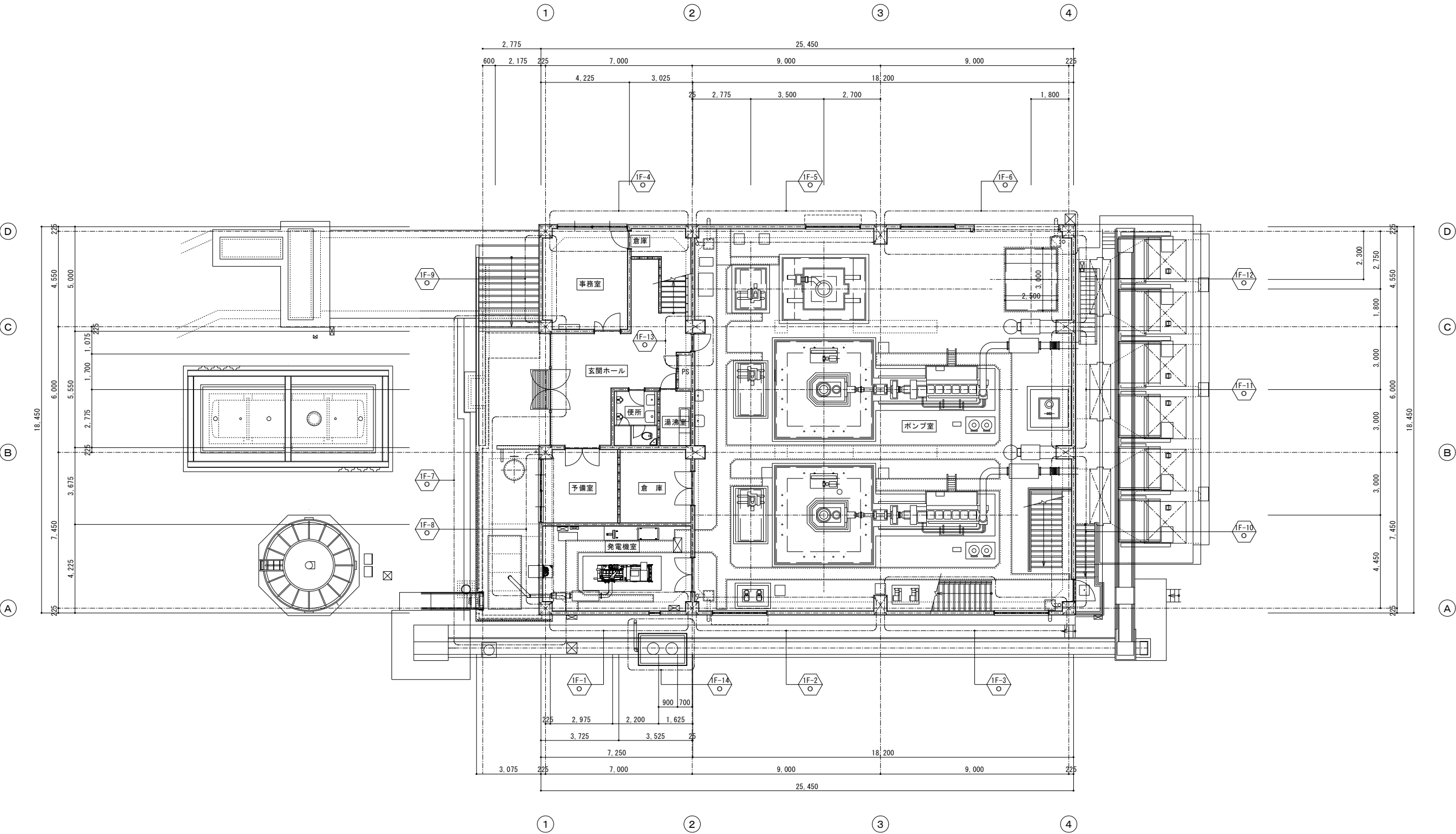
地下2階平面図 1/100

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	平面図(1) (改修無)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和4年3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-13



地下1階平面図 1/100

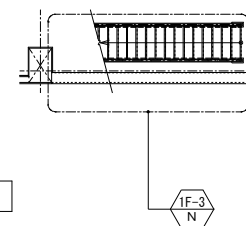
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	平面図(2) (改修無)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-14




1 階 平面図 1/100


- 凡例
- は工事部分を示す。
  - は部位番号を示す。
  - は O : 改修前 N : 改修後

事業名	令和 5 年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第 3 ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	平面図 ( 3 ) ( 改修前 )		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A - 1 5

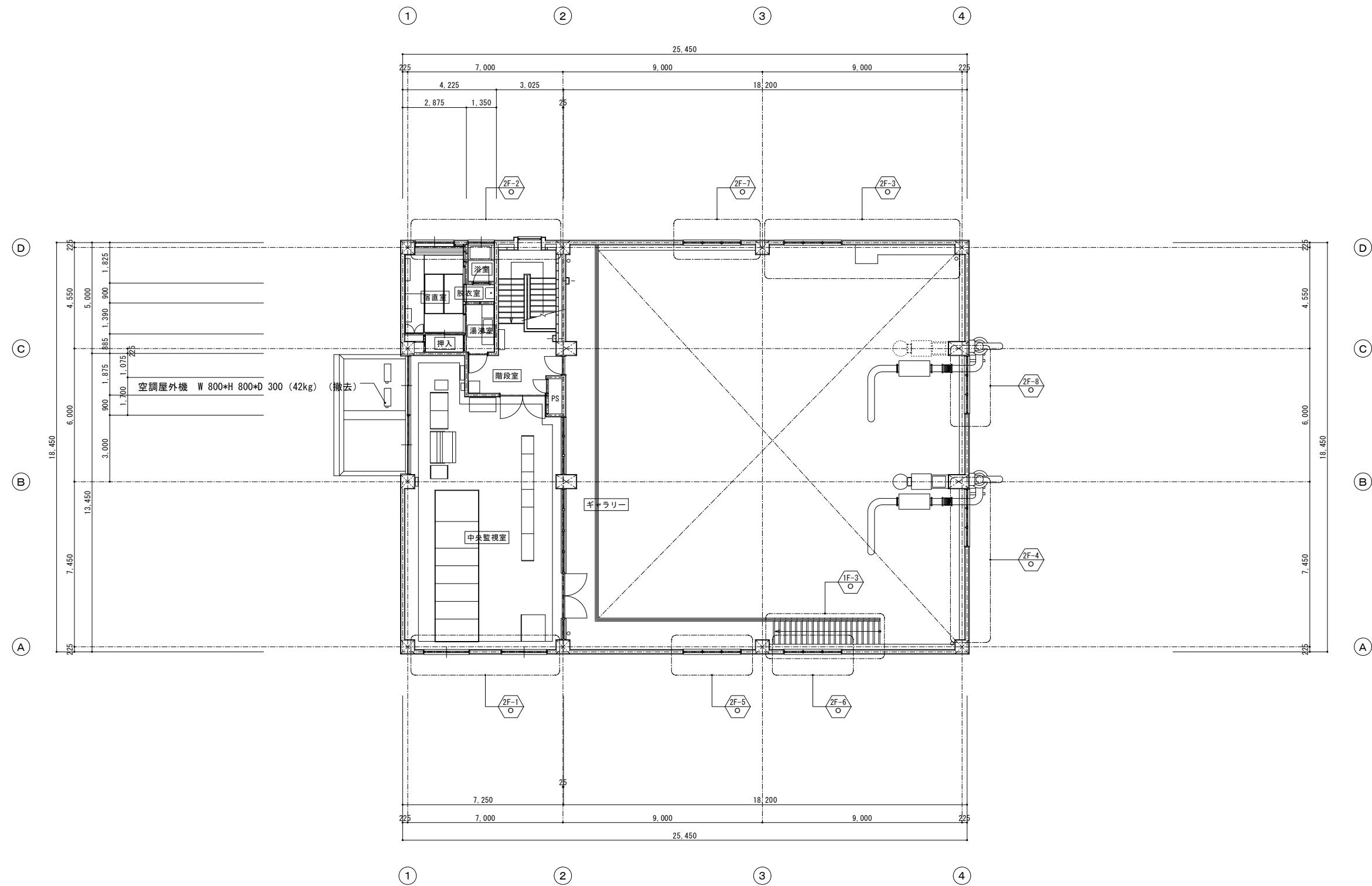


凡例

 は工事部分を示す。

 一一一は部位番号を示す。  
一一一は○：改修前 N：改修後

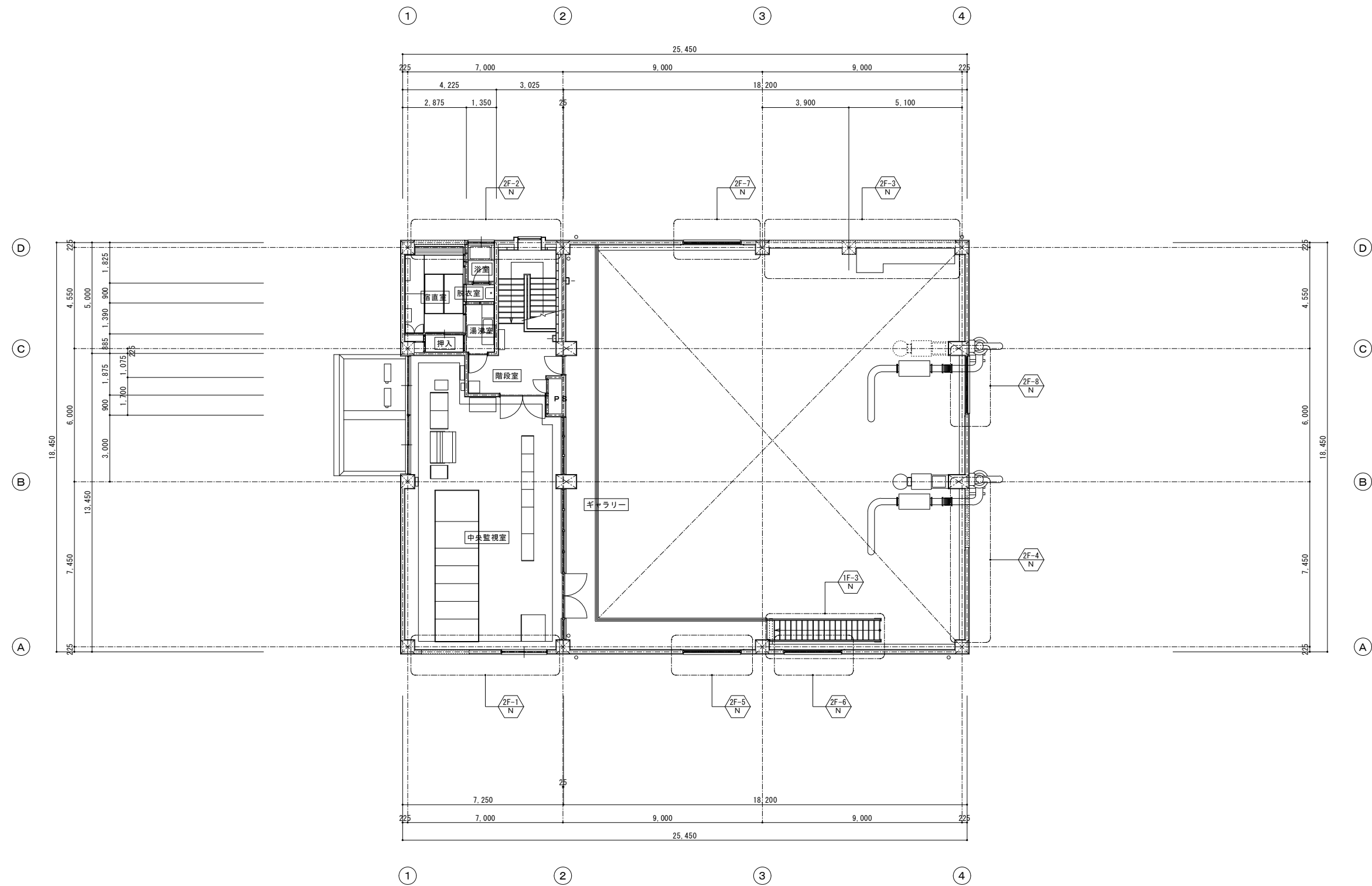
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	平面図（３）（改修後）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-16



2 階 平面図 1/100

- 凡例
- は工事部分を示す。
  - は部位番号を示す。
  - は○：改修前 N：改修後

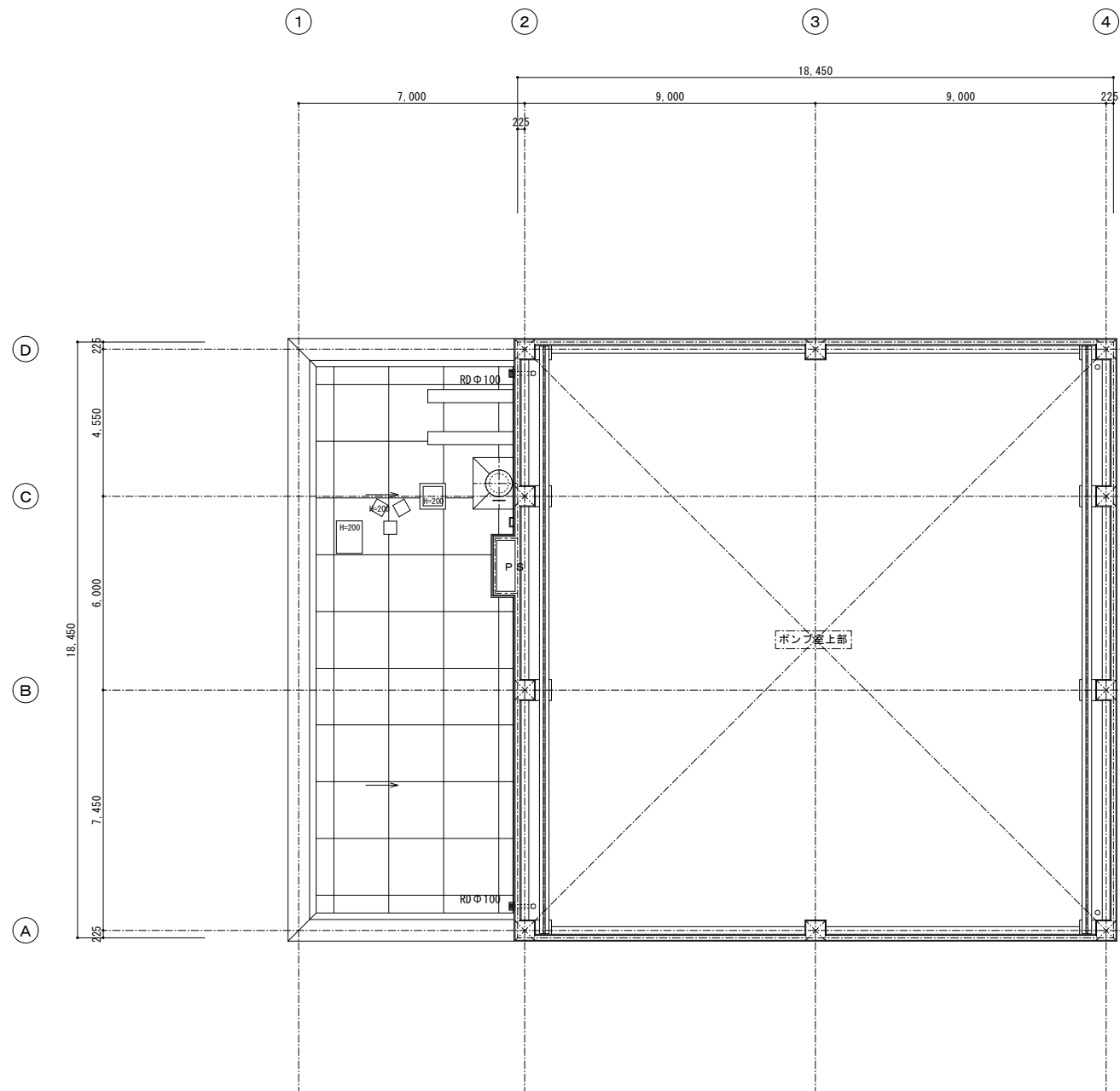
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	平面図（４）（改修前）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-17



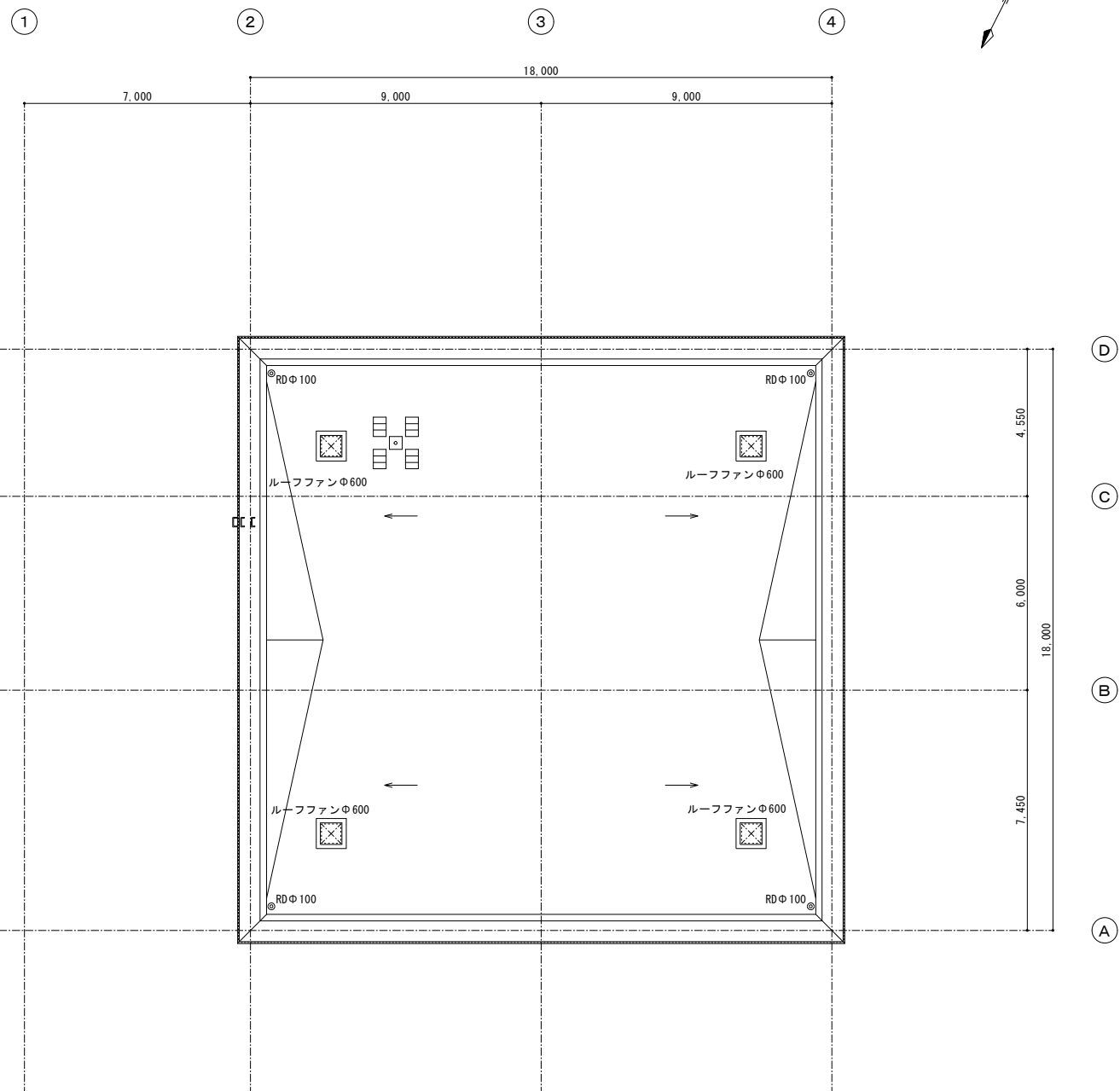
2 階 平面図 1/100

- 凡例
- は工事部分を示す。
  - は部位番号を示す。
  - は○：改修前 N：改修後

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	平面図（４）（改修後）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－18

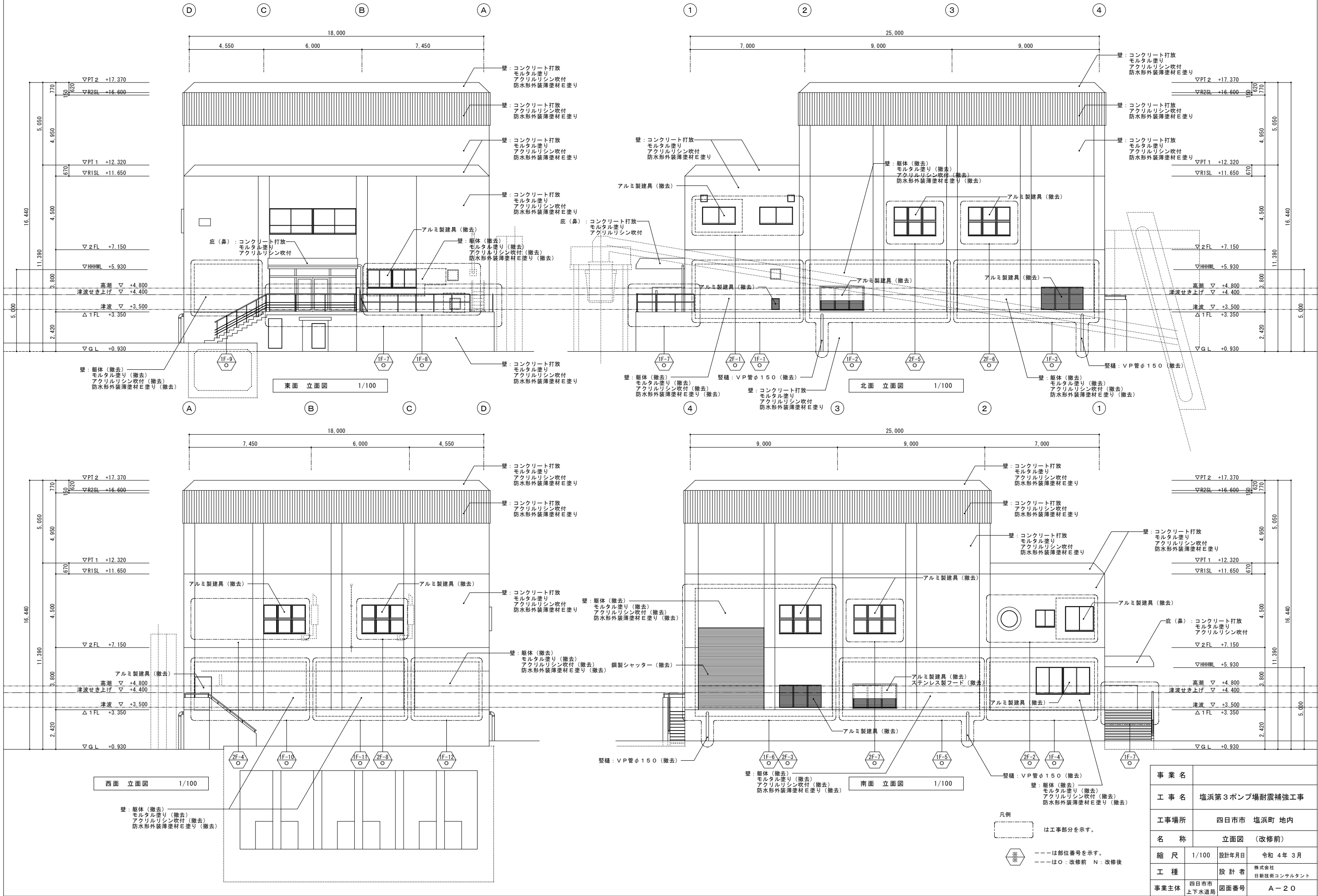


R 1階 平面図 1/100

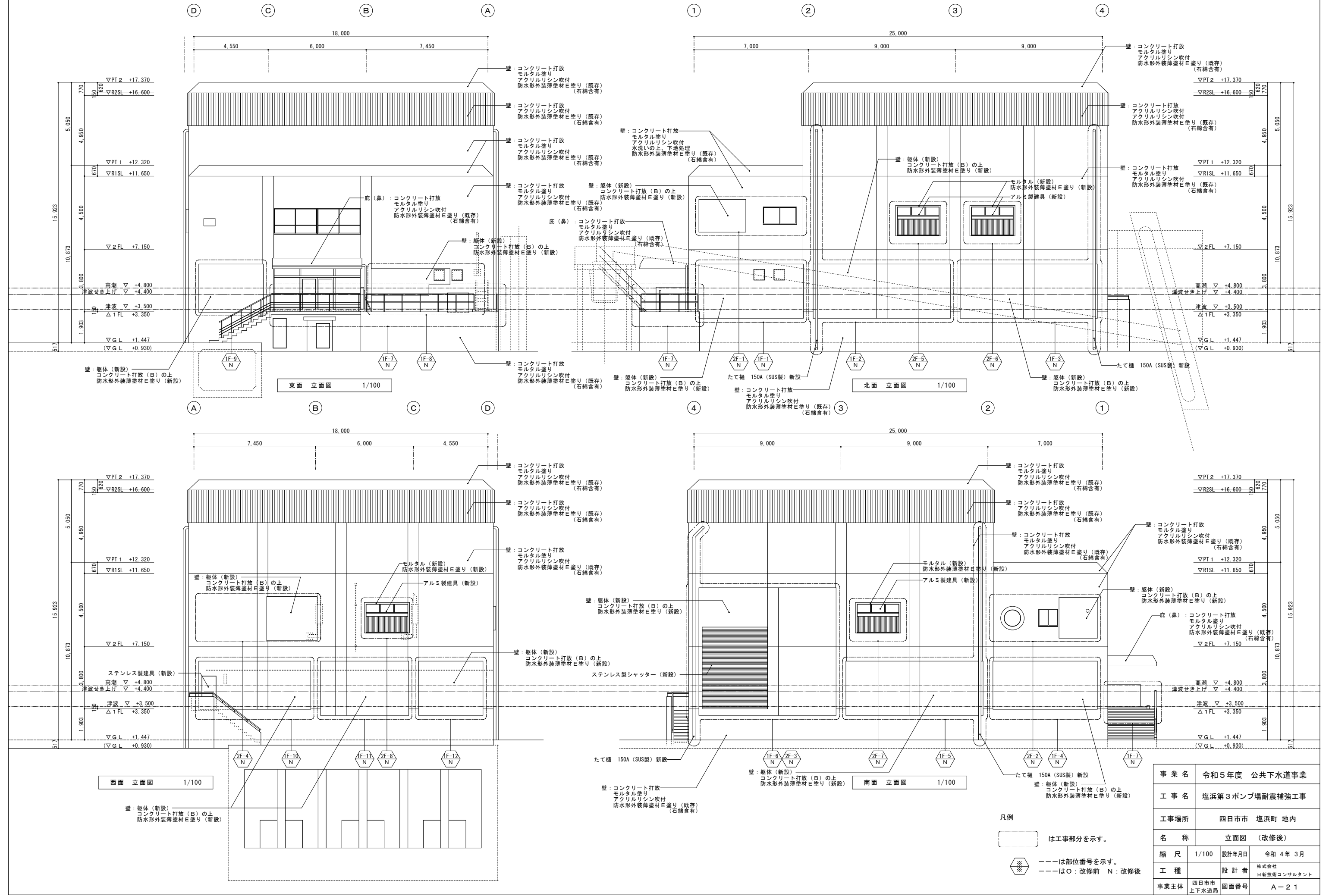


R 2階 平面図 1/100

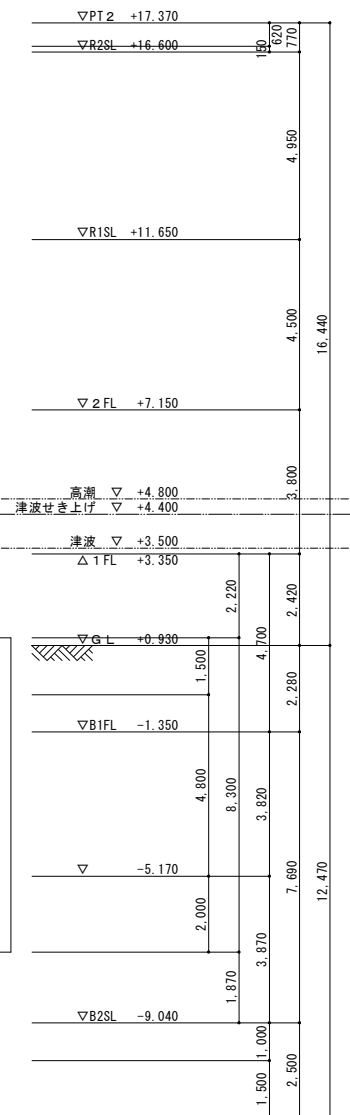
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	平面図 (5) (改修無)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-19



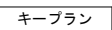




事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	立面図 (改修後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-21



—は部位番号を示す。  
—はO：改修前 N：改修後



事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	断面図(1) (改修前)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-22

① ② ③ ④

25,450

7,000 9,000 9,000 225

7,250 18,200

25

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

225

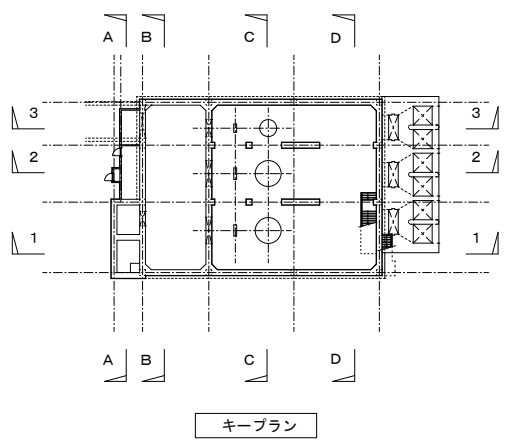
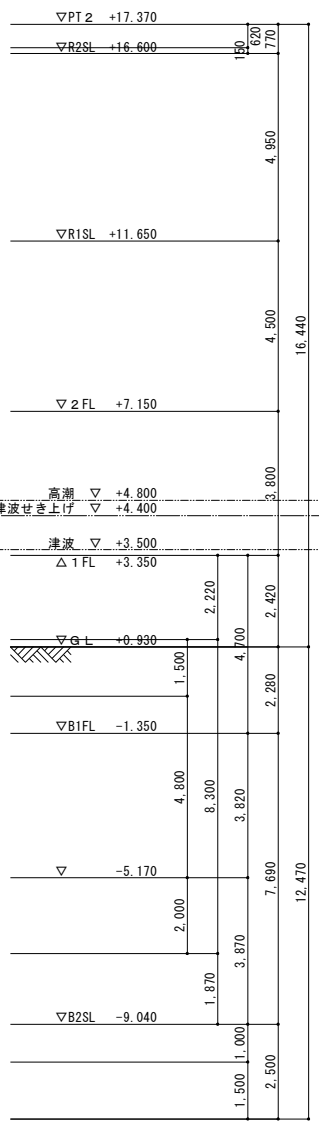
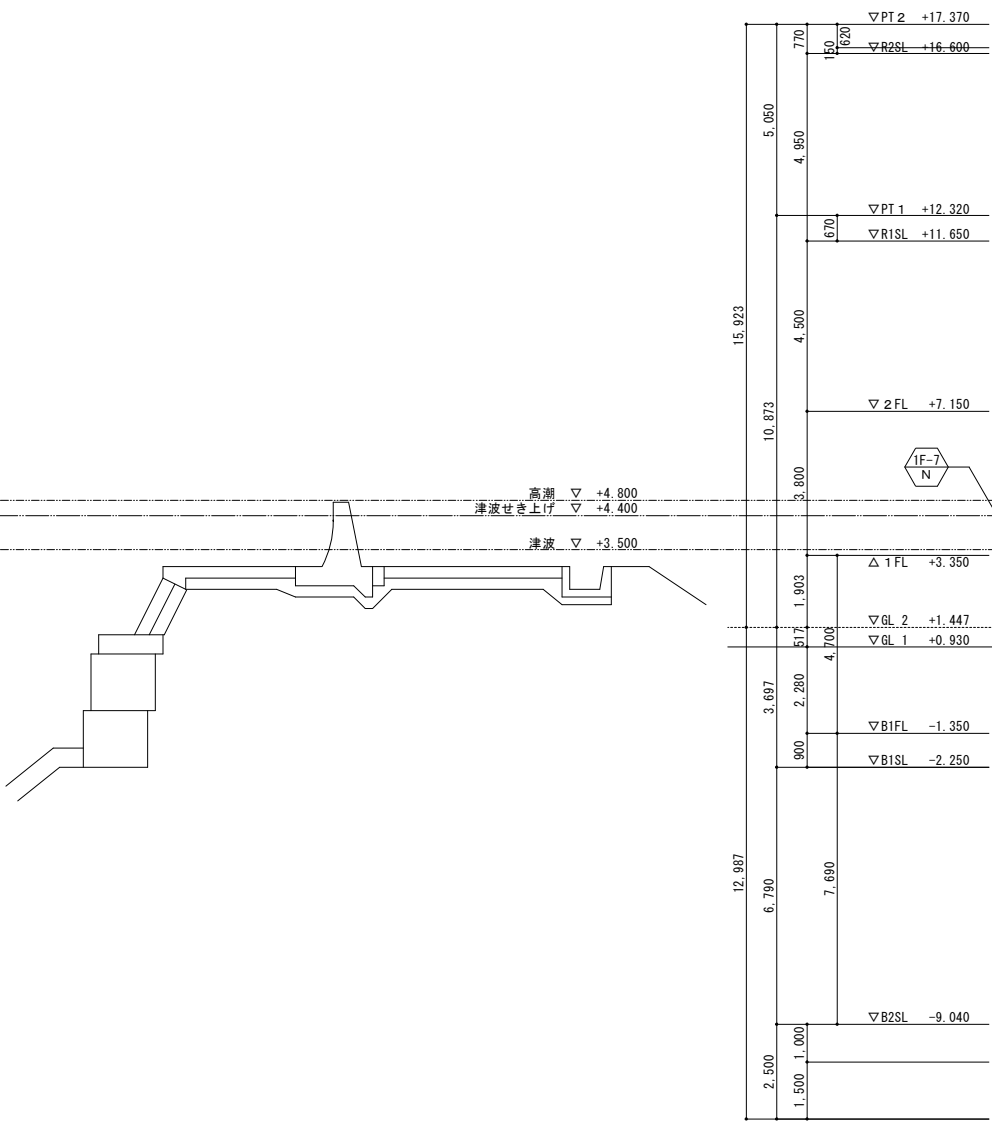
225

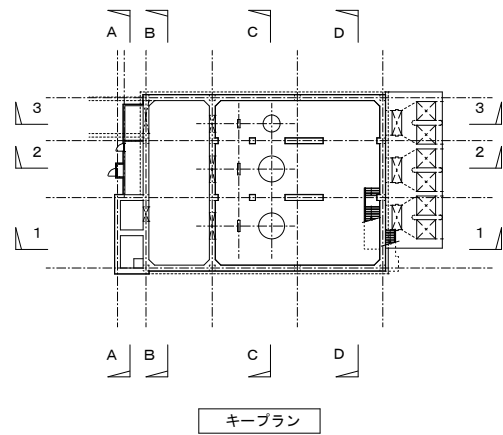
① ② ③ ④

1-1 断面図 1/100


凡例  
[ ] は工事部分を示す。  
※※ ---は部位番号を示す。  
---は○：改修前 N：改修後


事業名	令和 3 年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第 3 ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	断面図 ( 1 ) (改修後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-23





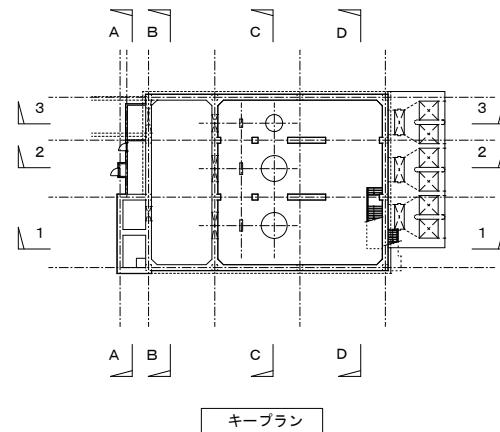
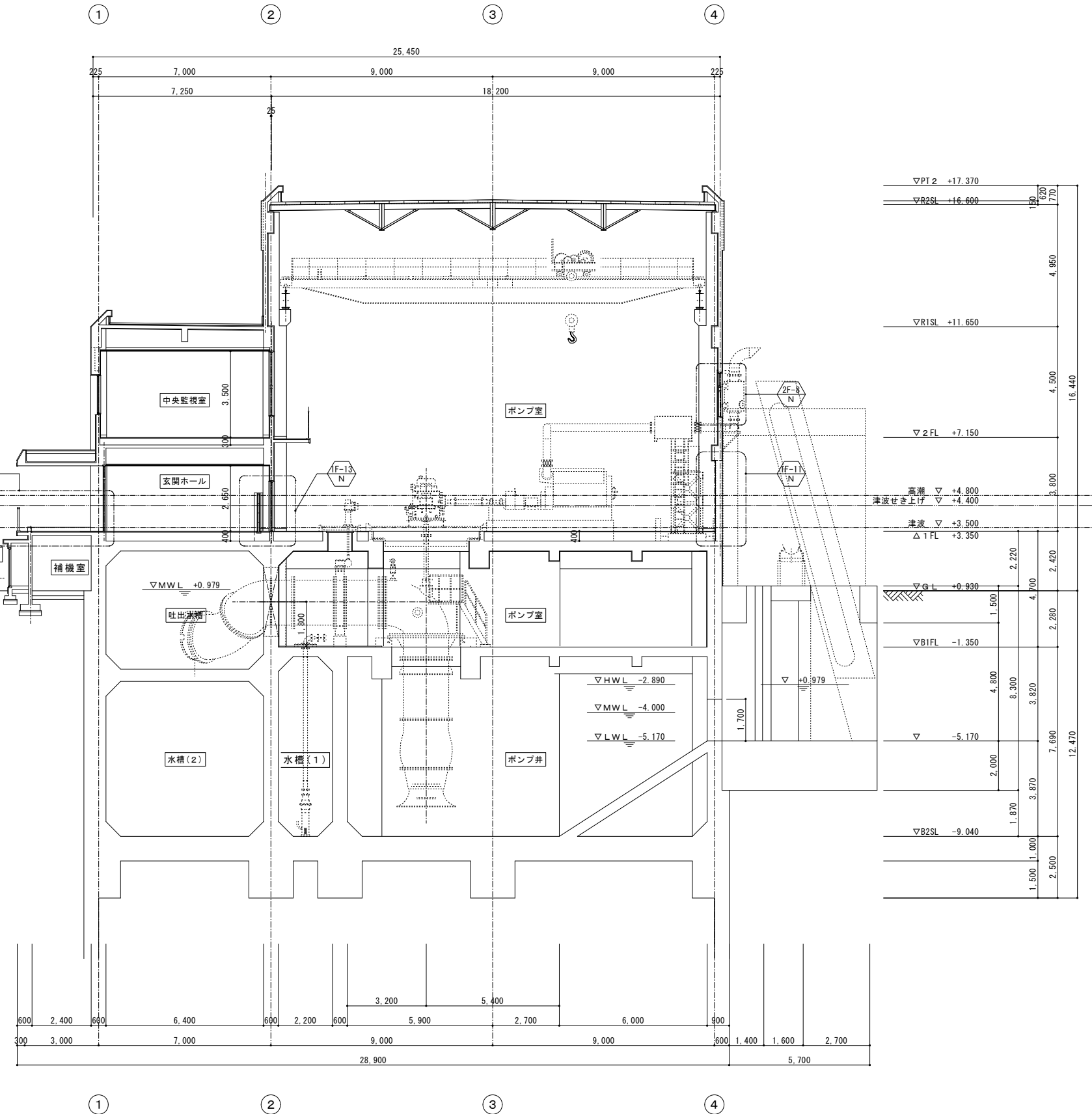
凡例

 は工事部分を示す。

 〃〃は部位番号を示す。  
〃〃は○：改修前 N：改修後


事業名	令和５年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第３ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	断面図（２）（改修前）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和４年３月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－２４

改 修 後

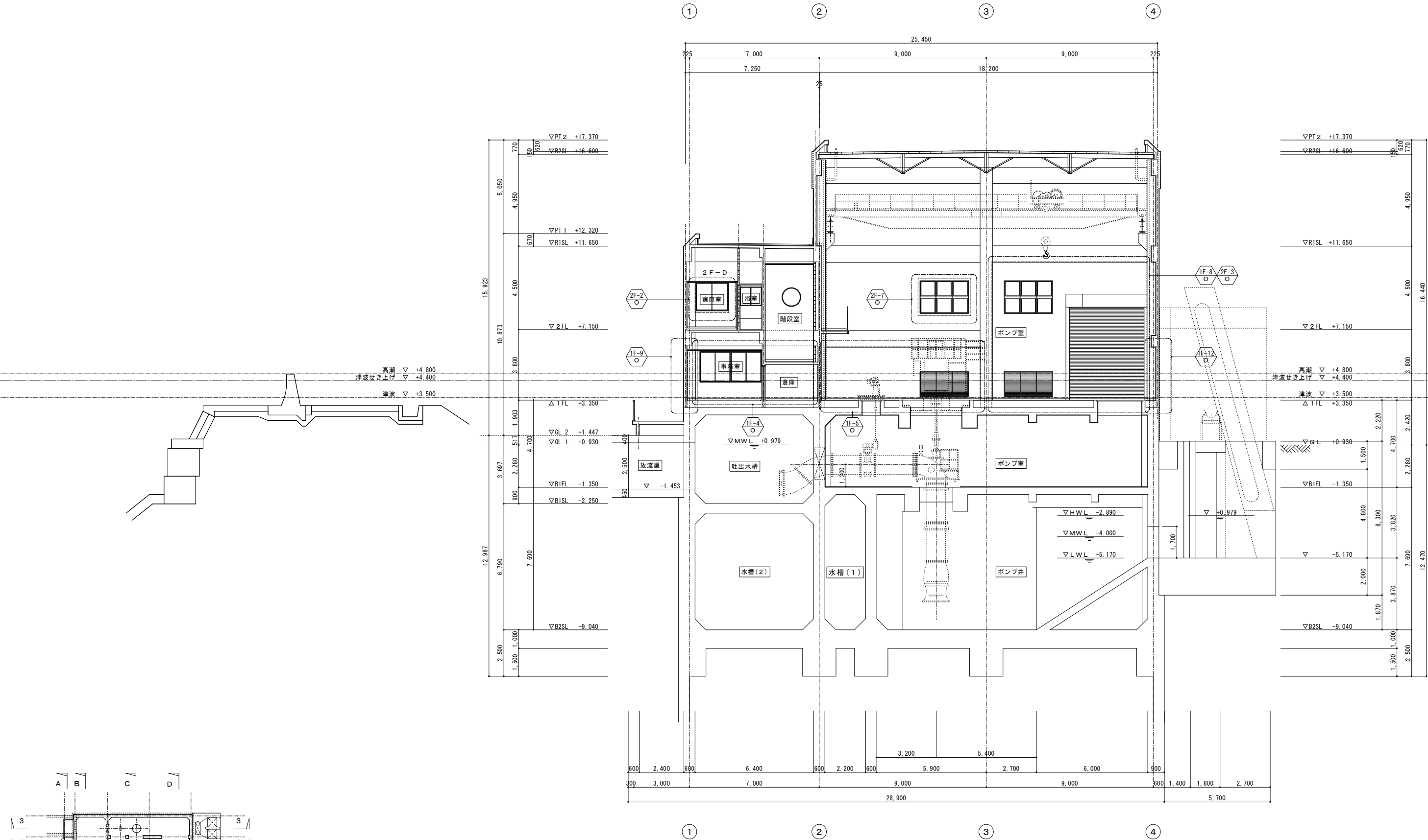


## 凡例

は工事部分を示す。


 ---は部位番号を示す。  
 ---はO : 改修前 N : 改修後

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	断面図(2) (改修後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-25

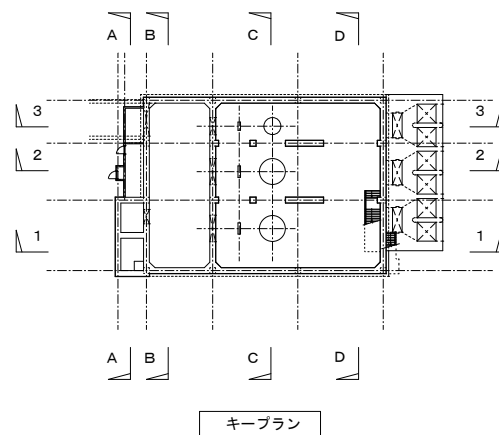
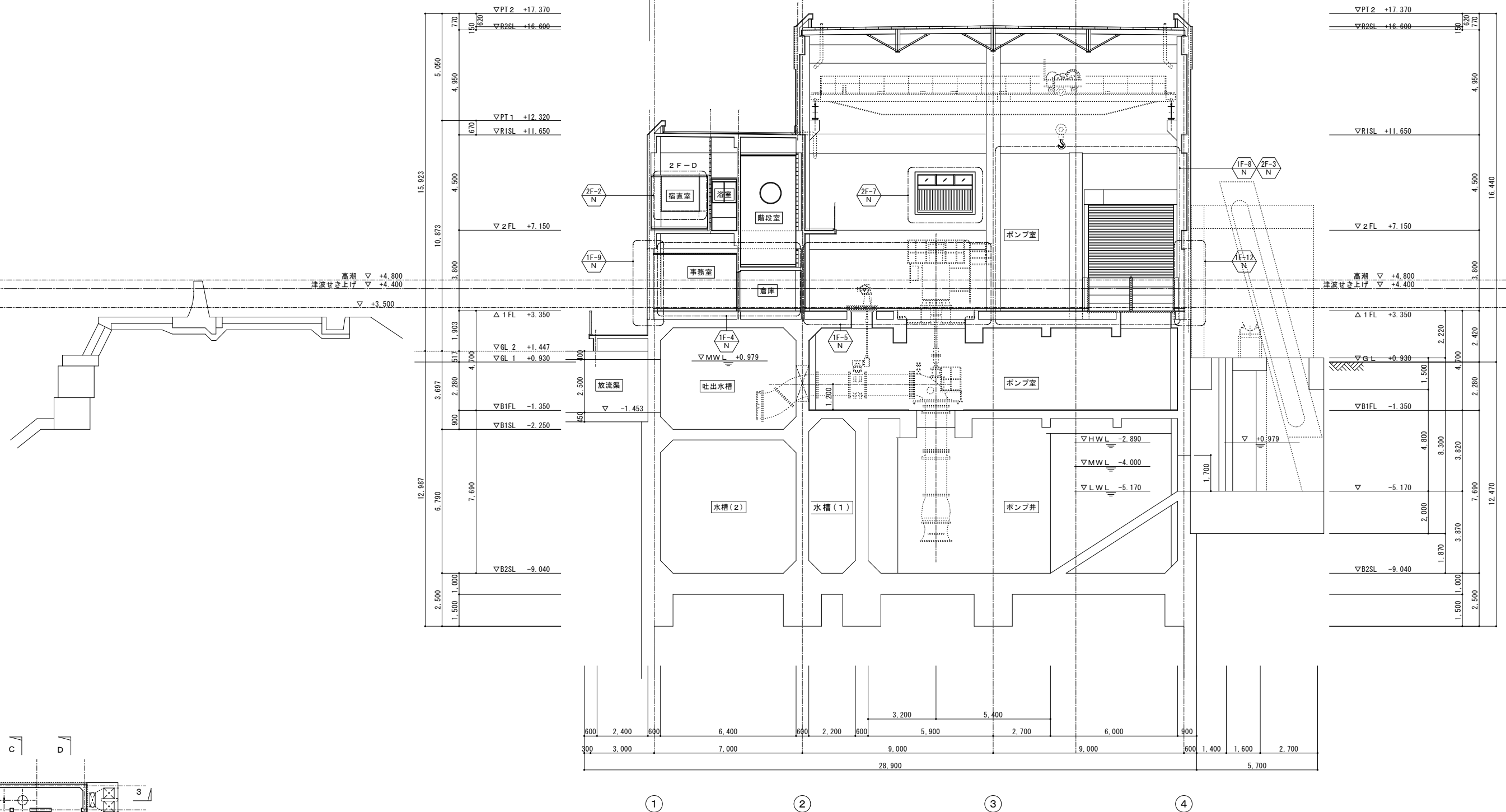


凡例

は工事部分を示す。

※ ---は部位番号を示す。  
※ ---はO：改修前 N：改修後

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	断面図（3）（改修前）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-26

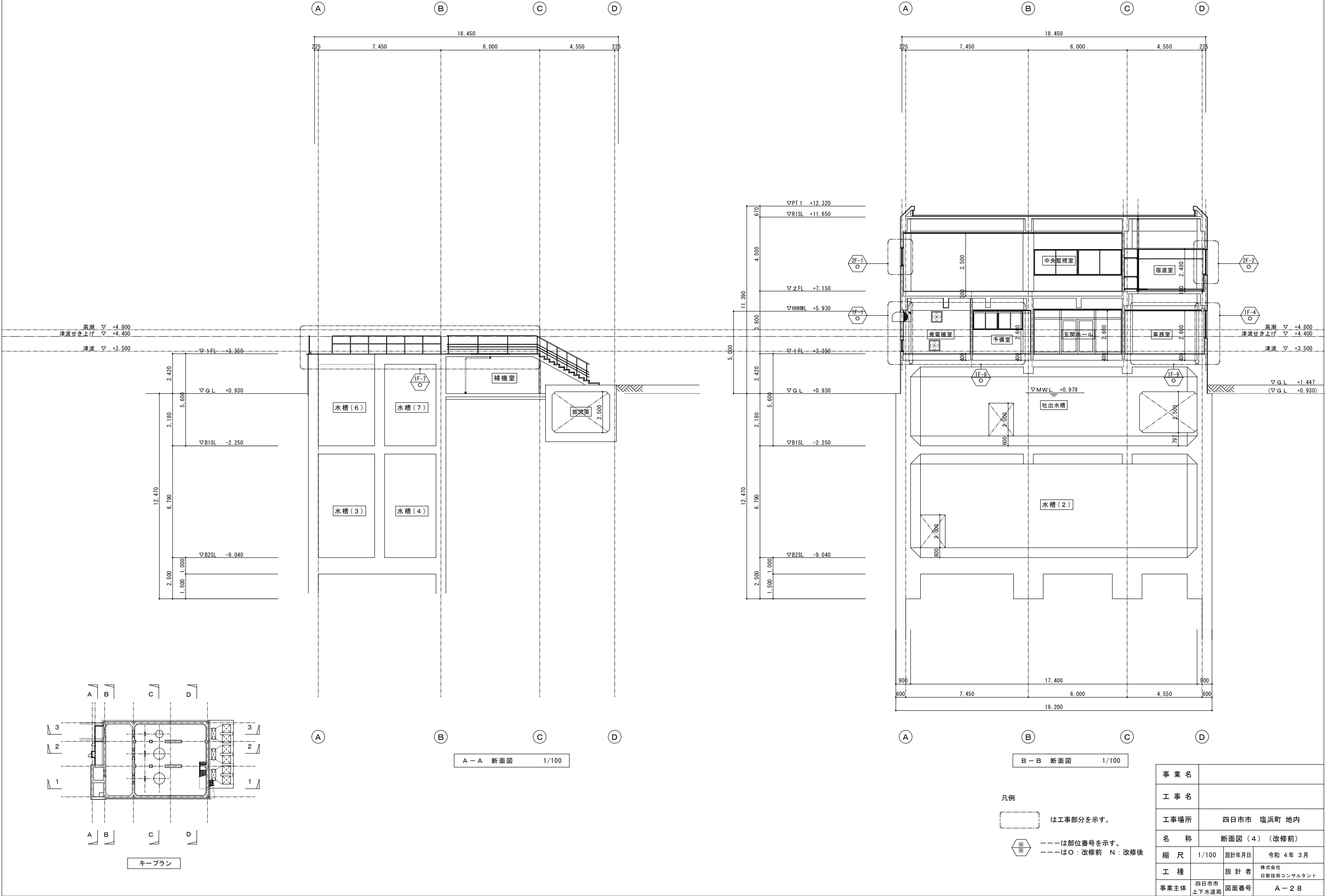


1-1 断面图 1/100

は工事部分を示す。

—は部位番号を示す。  
—はO：改修前 N：改修後

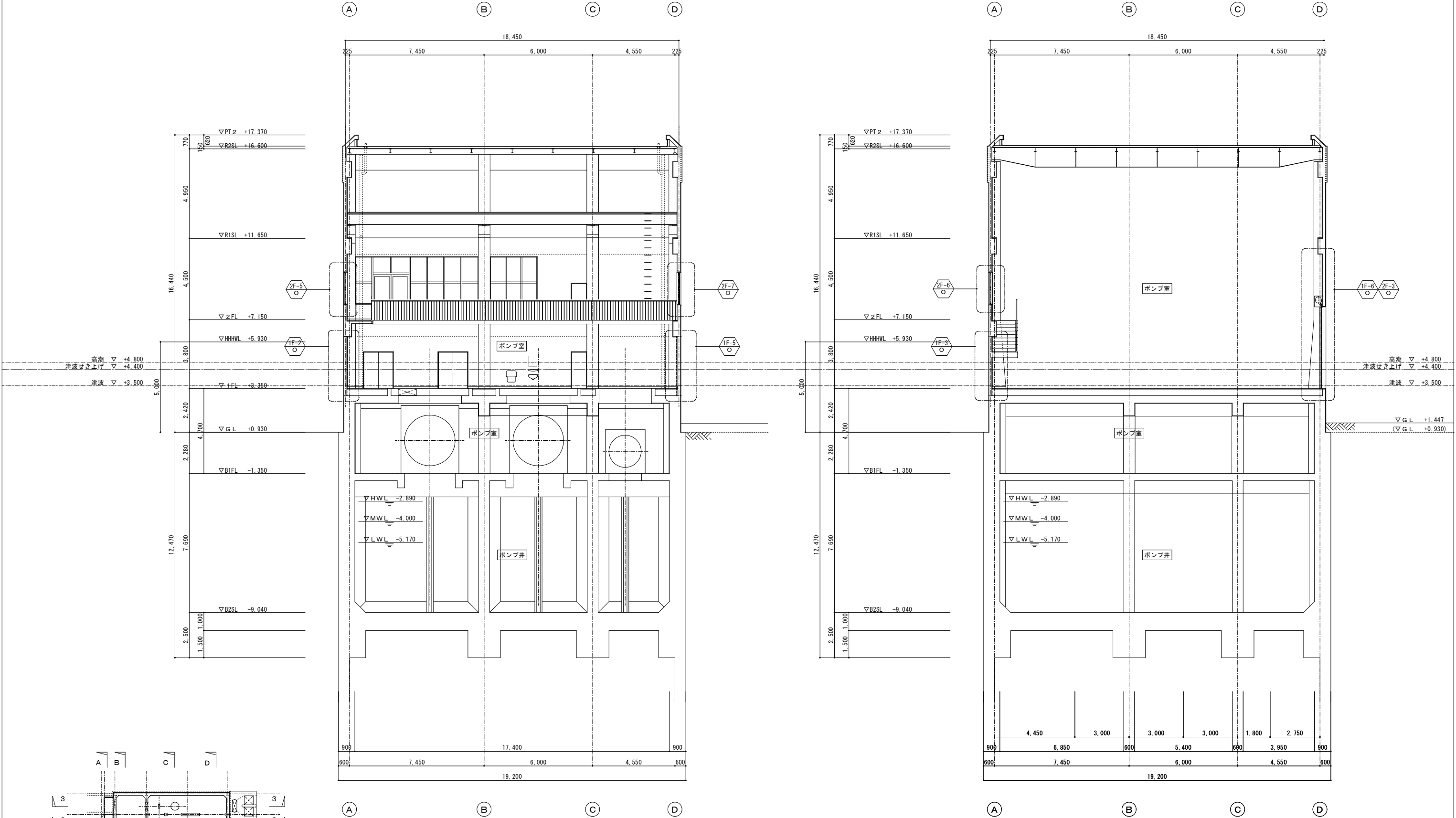
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	断面図（３）（改修後）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルティング
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-27



事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	断面図 (4) (改修前)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-28





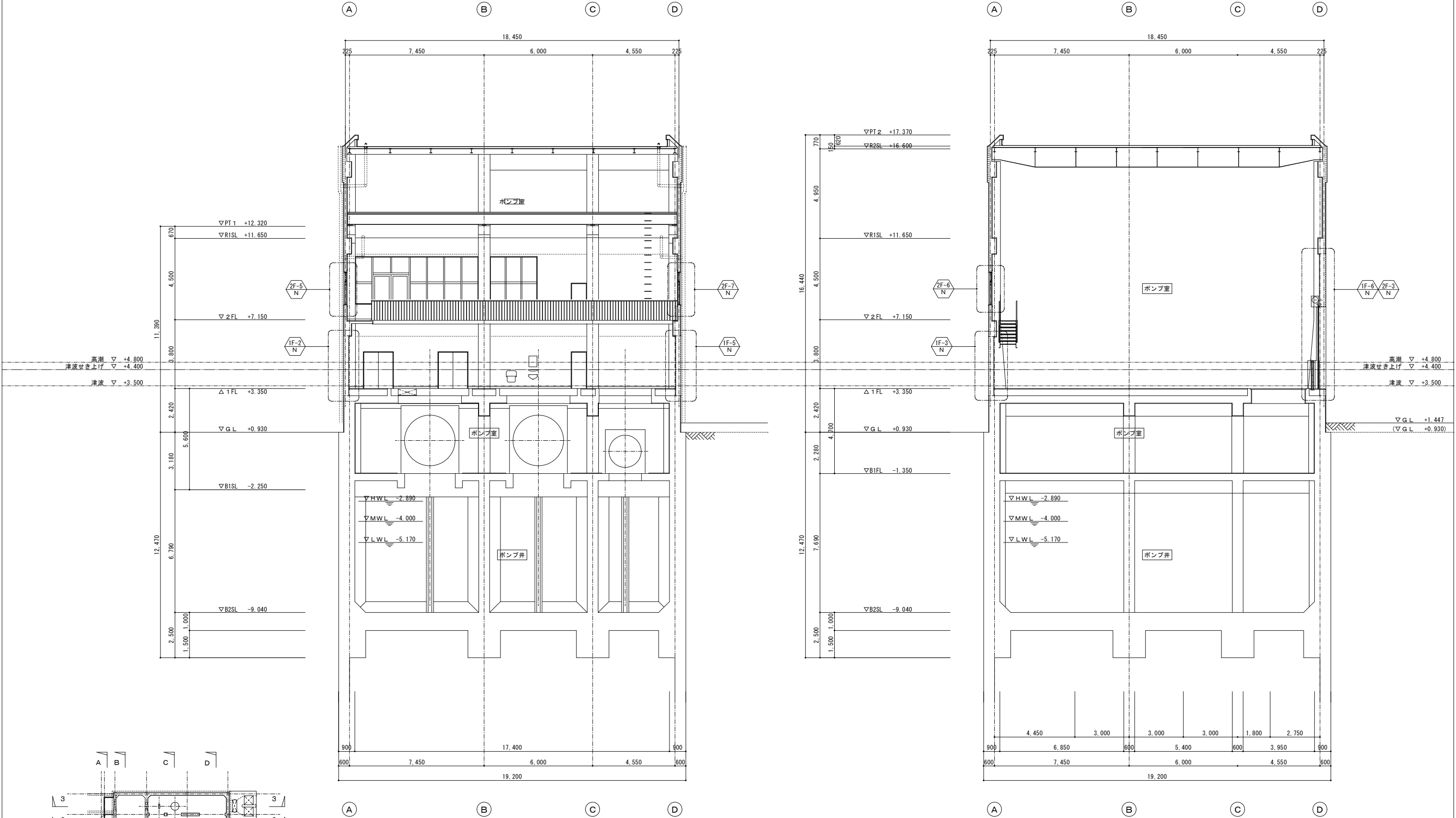


C - C 断面図 1/100

D - D 断面図 1/100

凡例  
は工事部分を示す。  
※※は部位番号を示す。  
---はO：改修前 N：改修後

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	断面図（５）（改修前）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A - 3 0



C-C 断面図 1/100

D-D 断面図 1/100

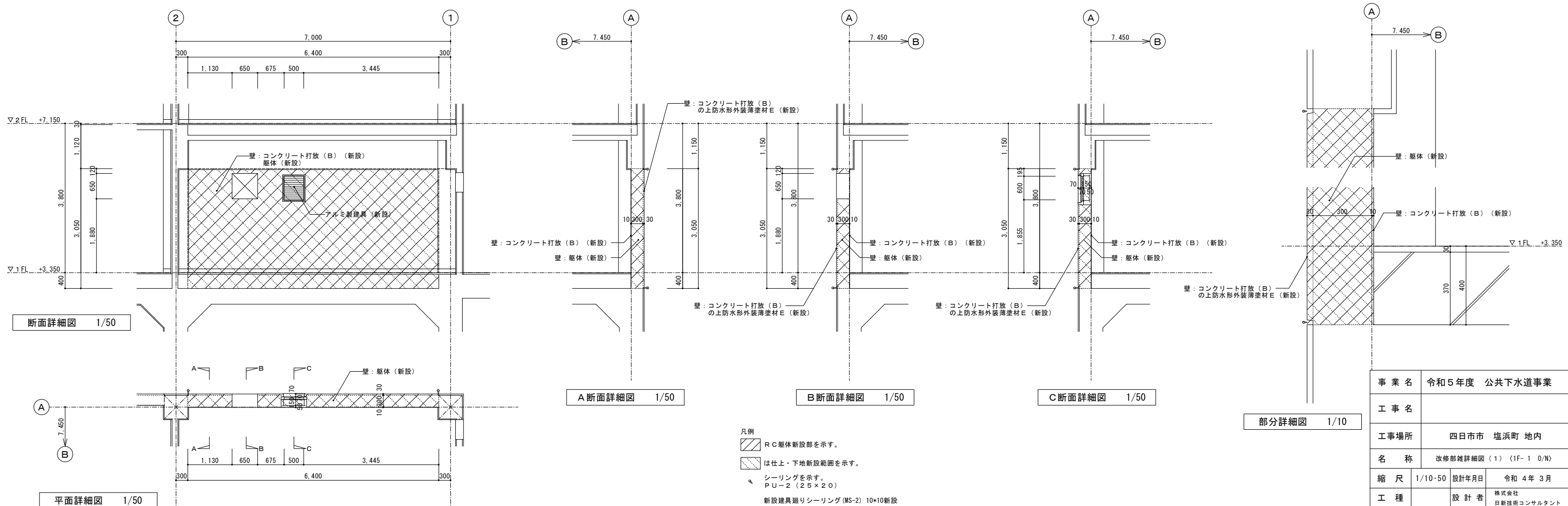
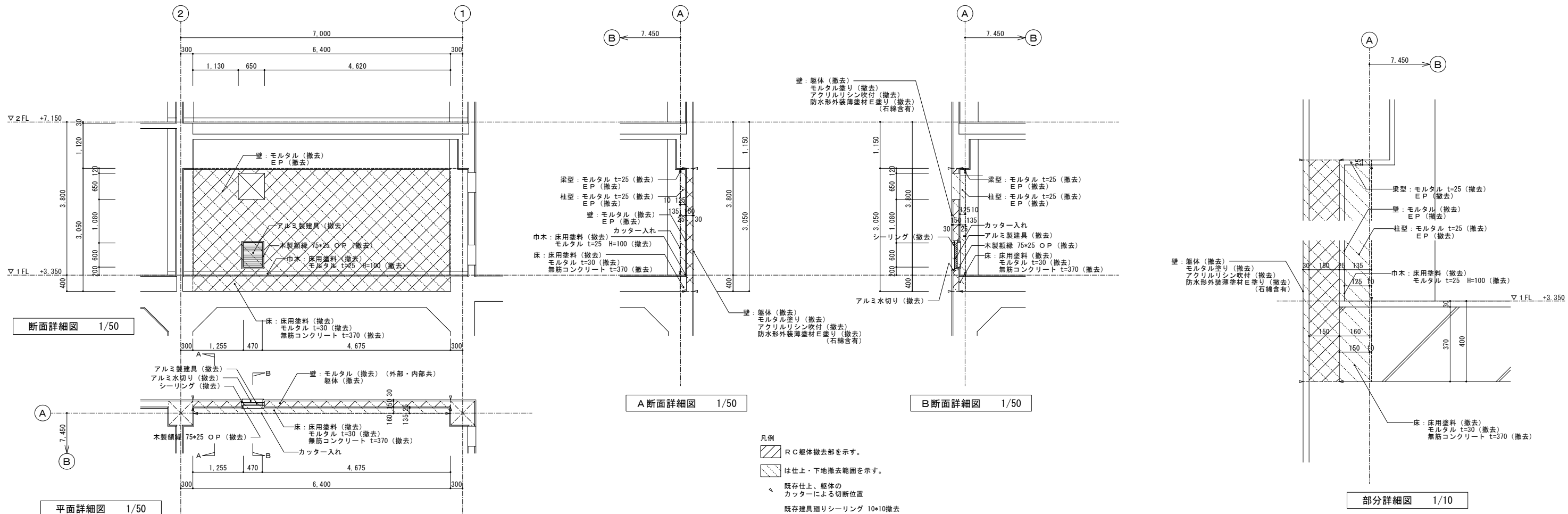
凡例

---は工事部分を示す。

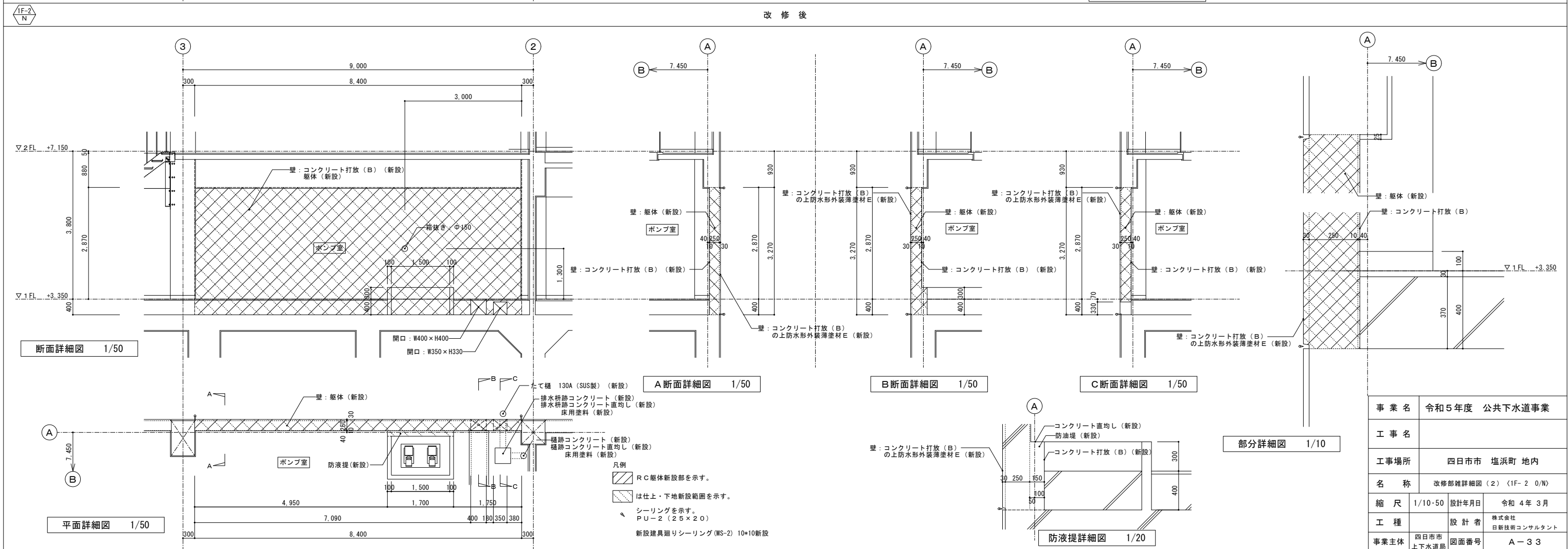
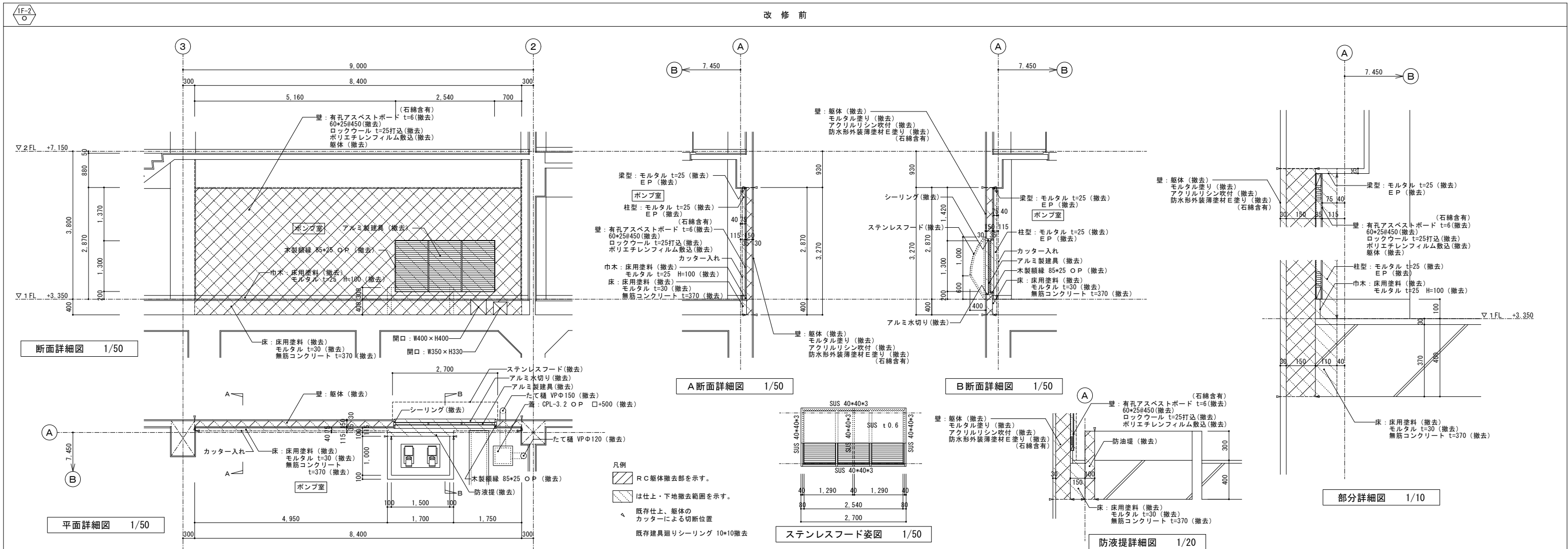
※ ---は部位番号を示す。

---はO：改修前 N：改修後

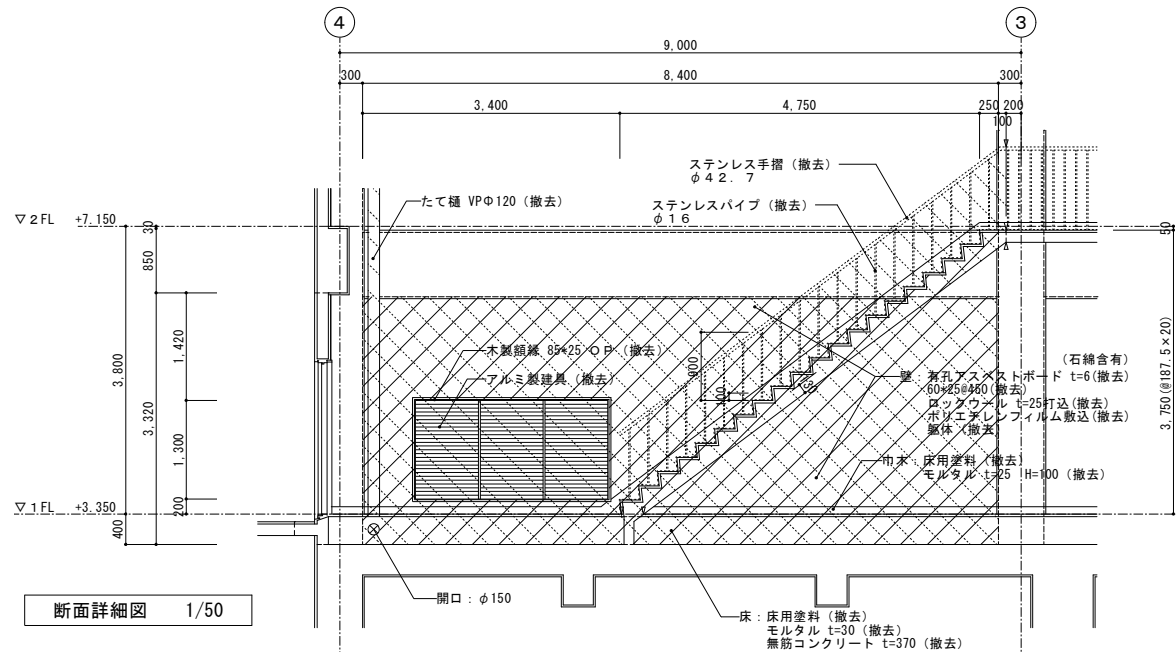
事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	断面図(5) (改修後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和4年3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-31



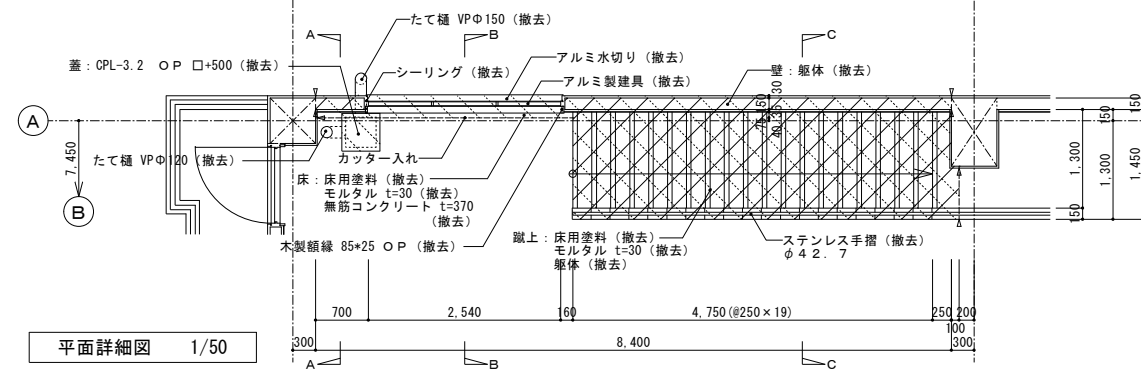
事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図(1)〈1F-1 0/N〉		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和4年3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-32



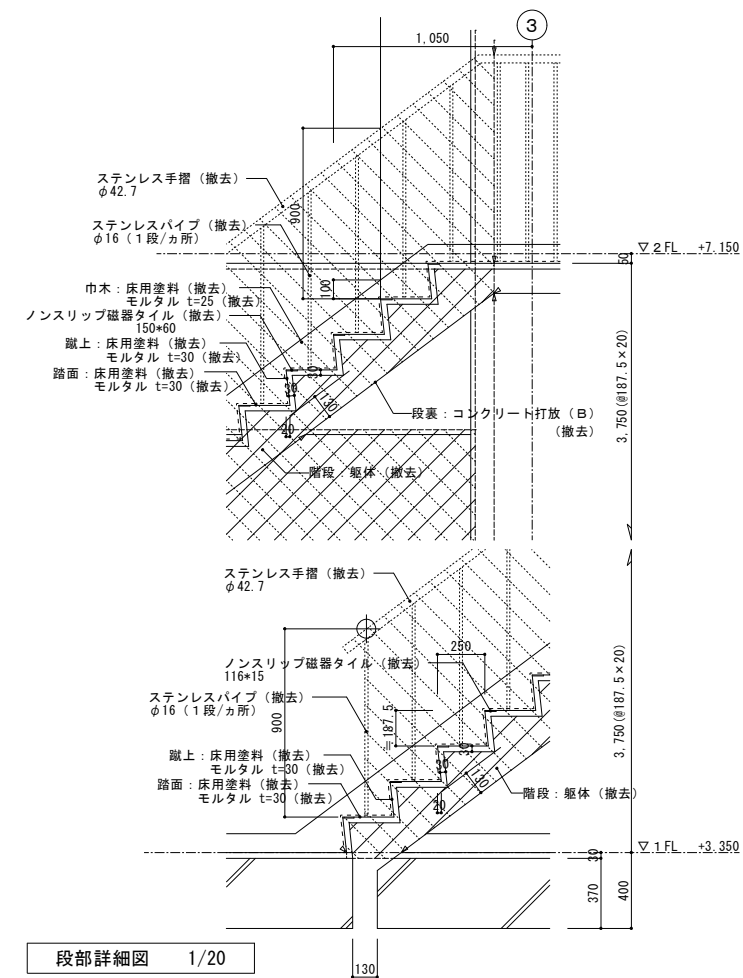
事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図(2) (1F-2 O/N)		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和4年3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-33



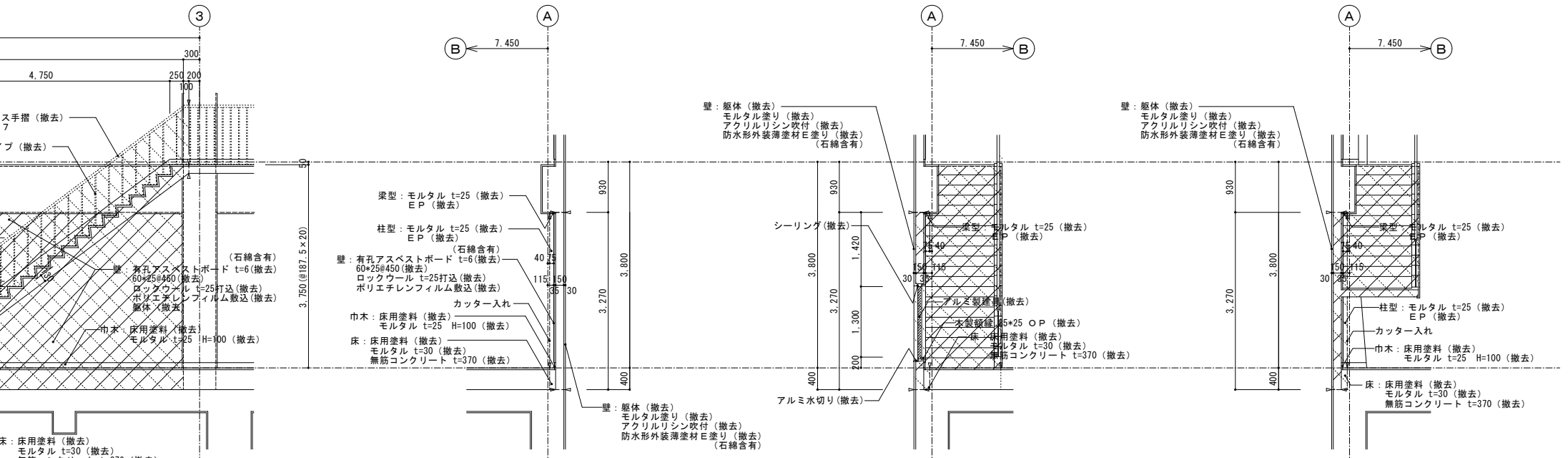
断面詳細図 1/50



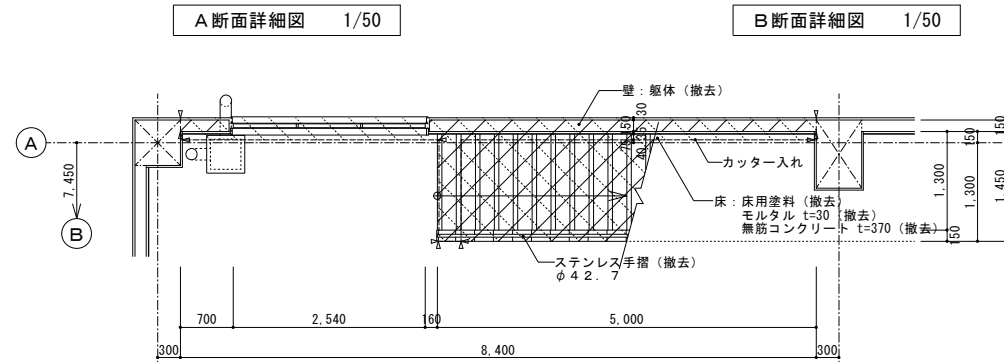
平面詳細図 1/50



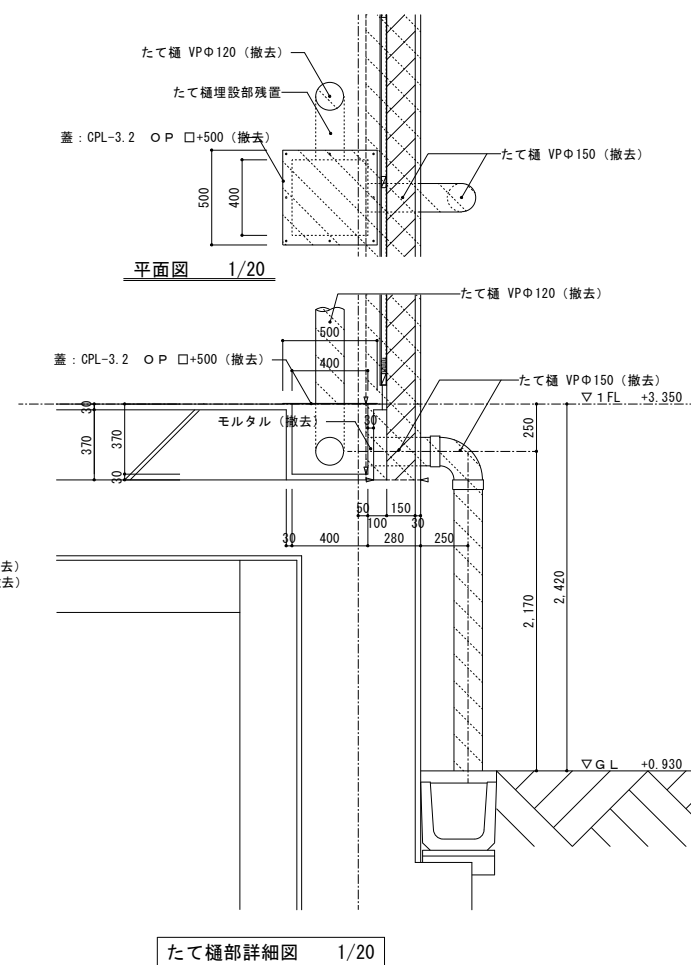
段部詳細図 1/20



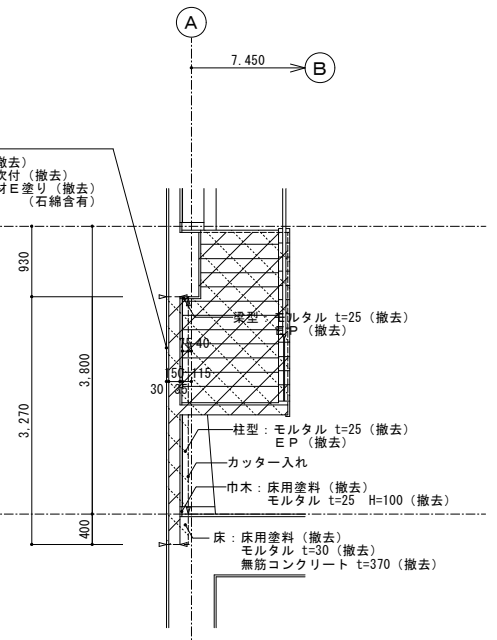
A 断面詳細図 1/50



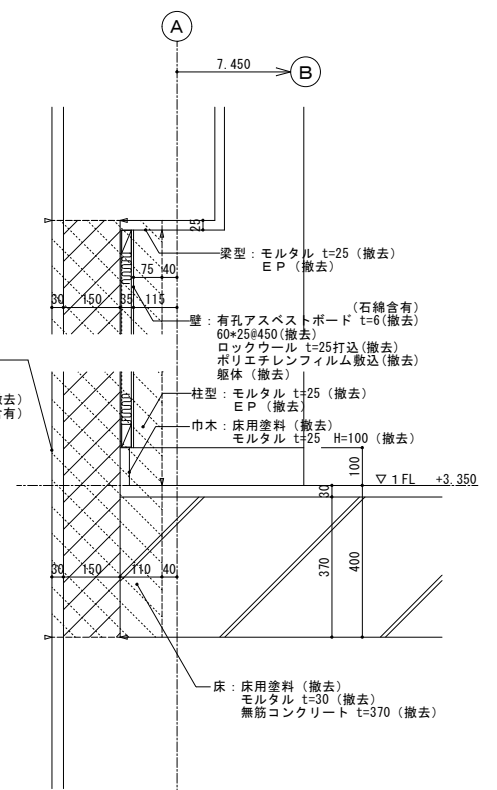
平面(階段下部)詳細図 1/50



たて樋部詳細図	1/20
---------	------

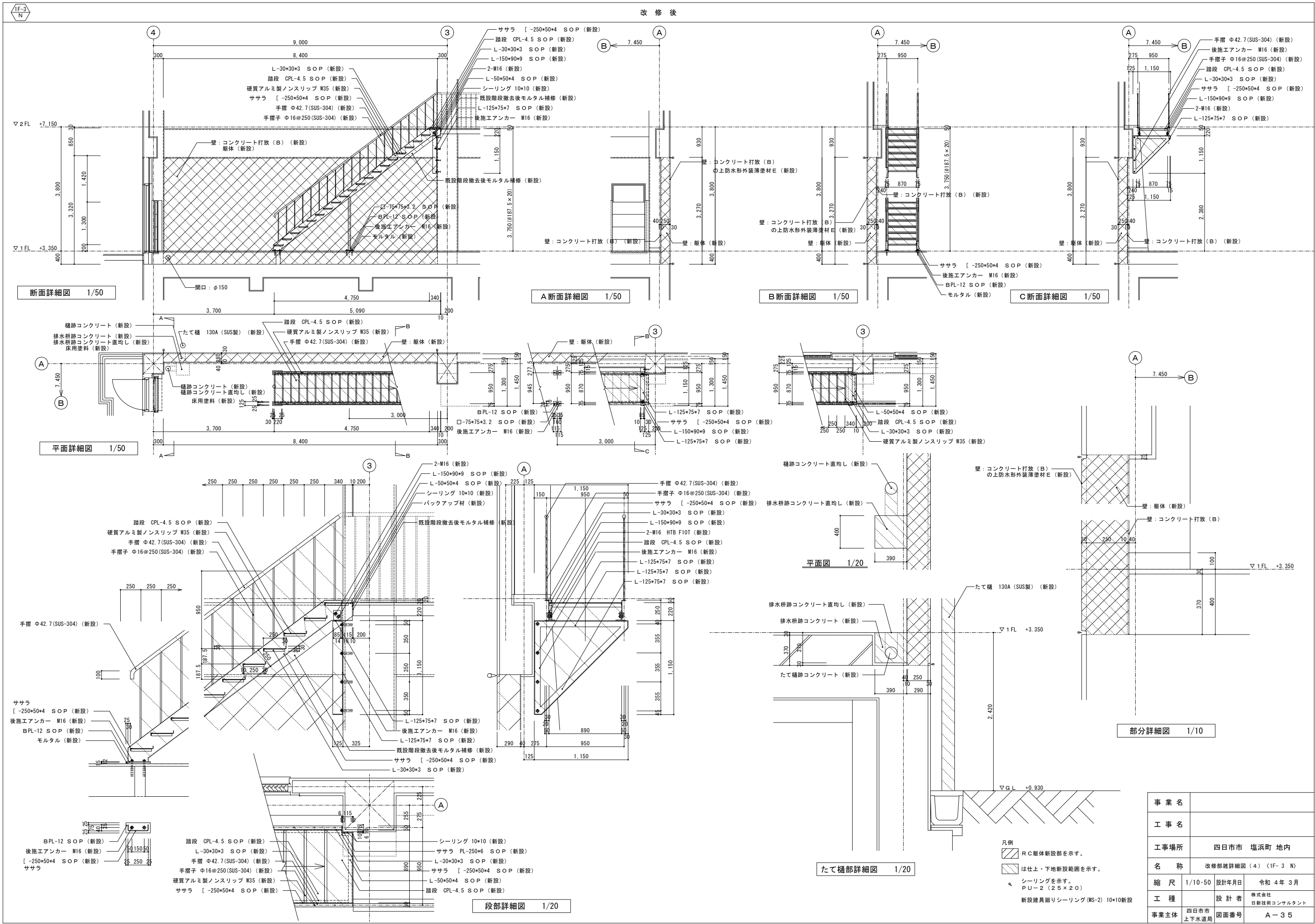


C断面詳細図 1/50

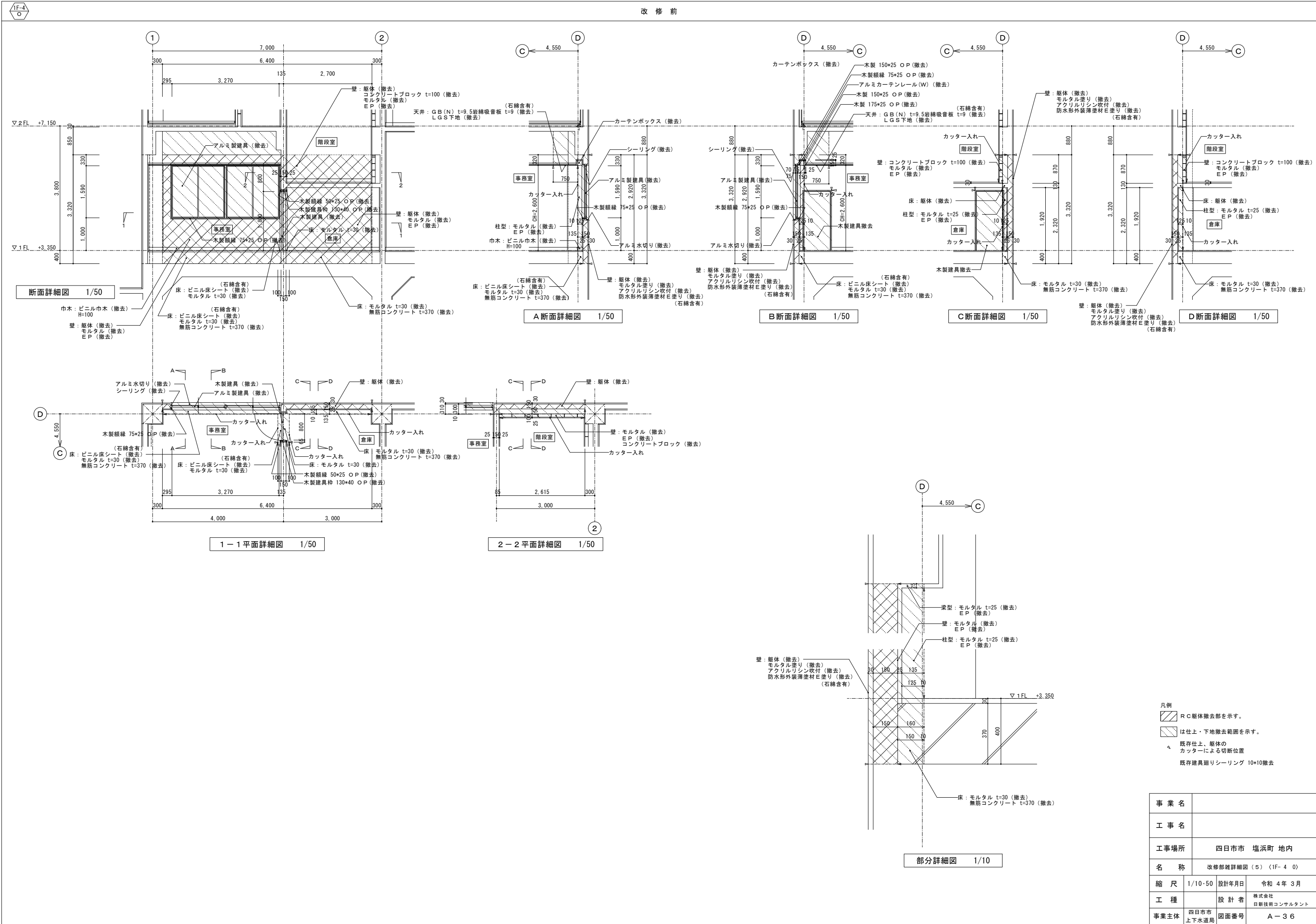


部分詳細図 1/10

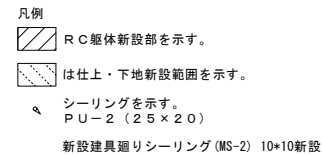
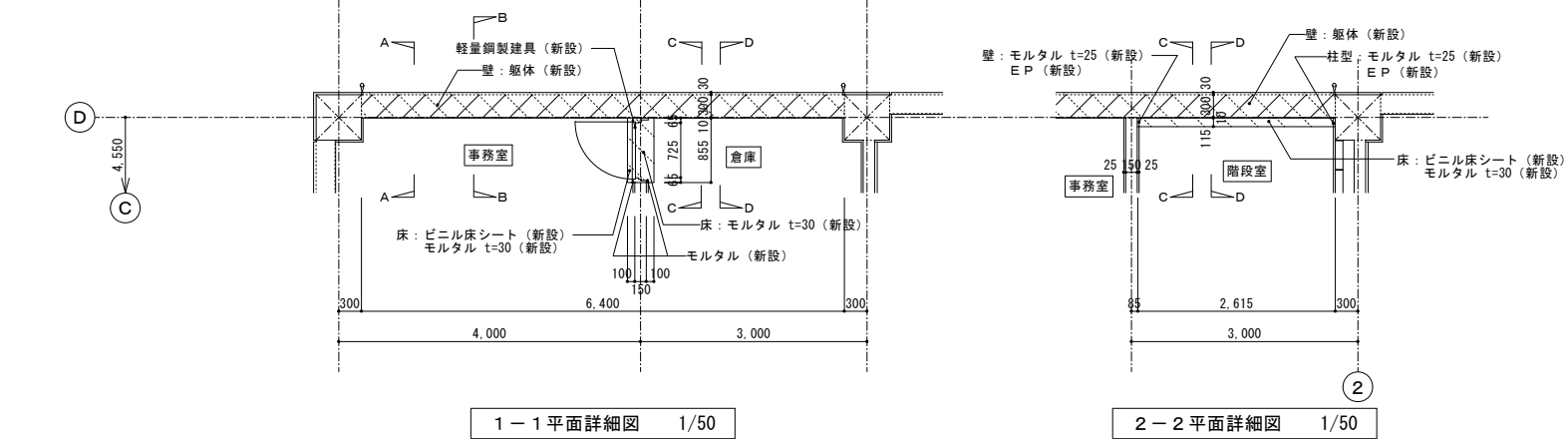
事業名	令和５年度 公共下水道事業		
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図（３）（１Ｆ～３０）		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和４年３月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタンツ
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-34



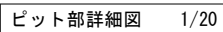
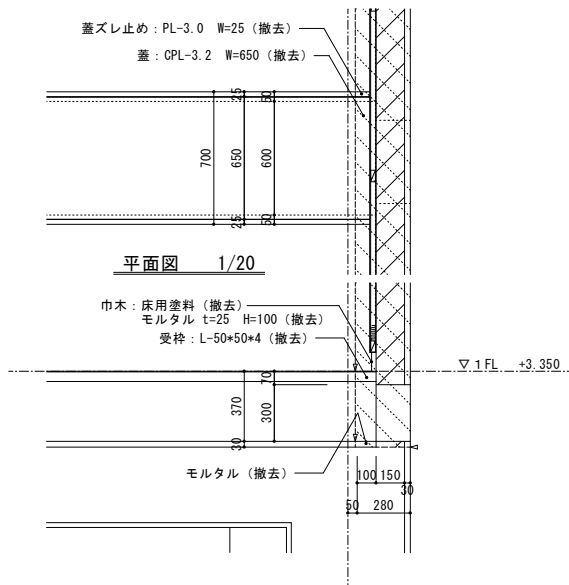
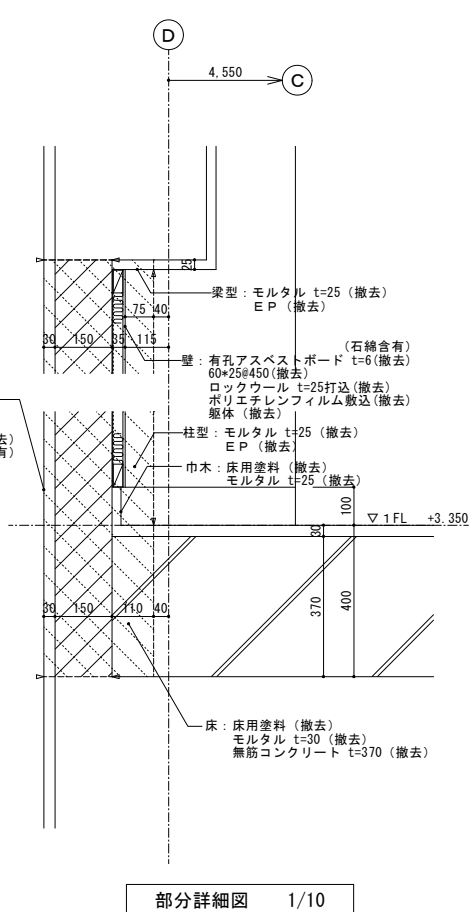
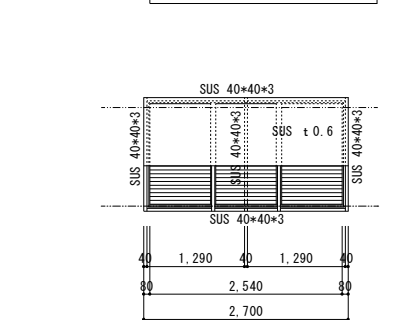
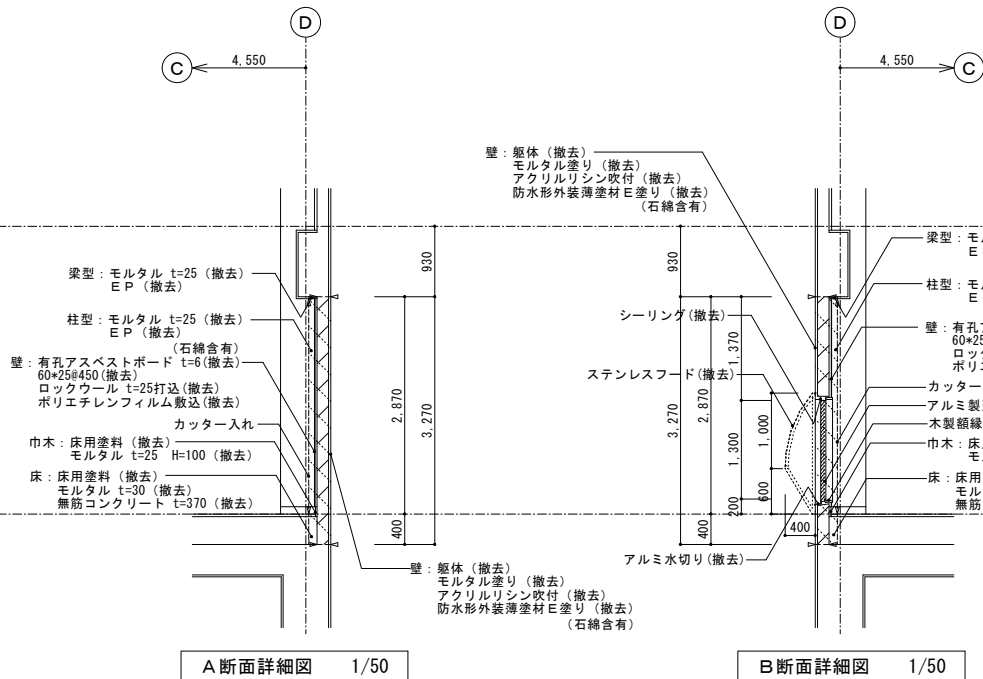
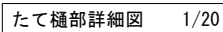
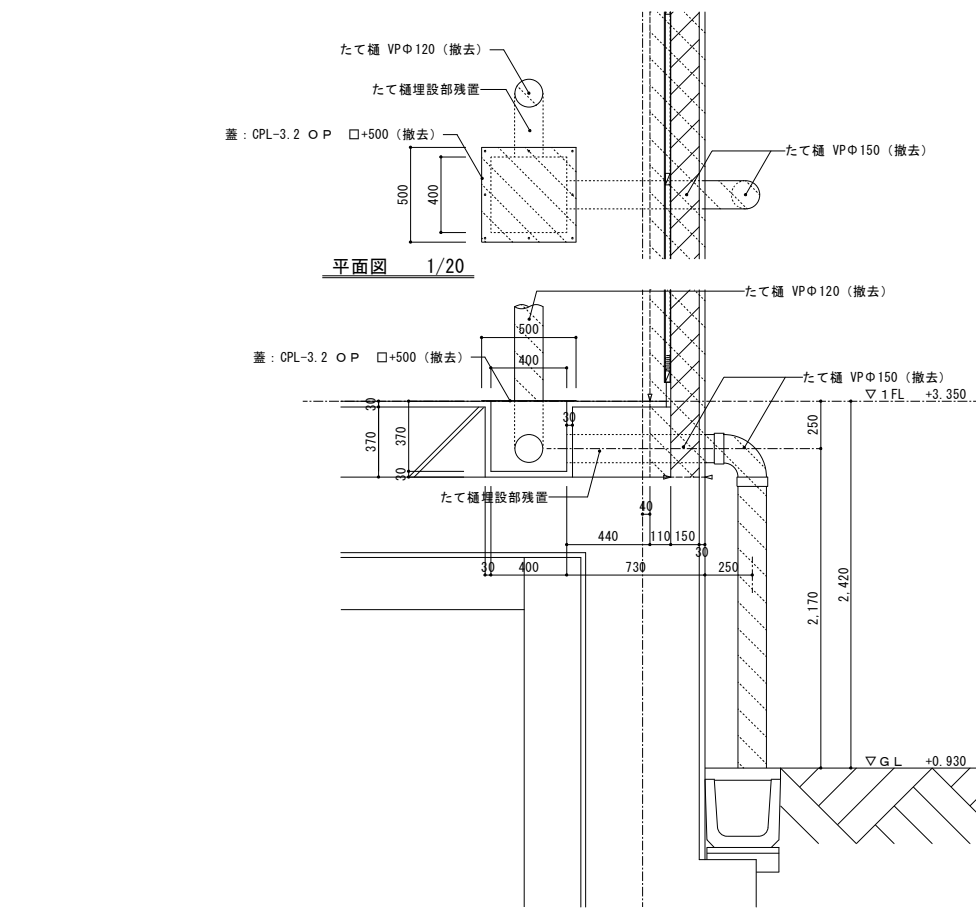
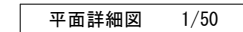
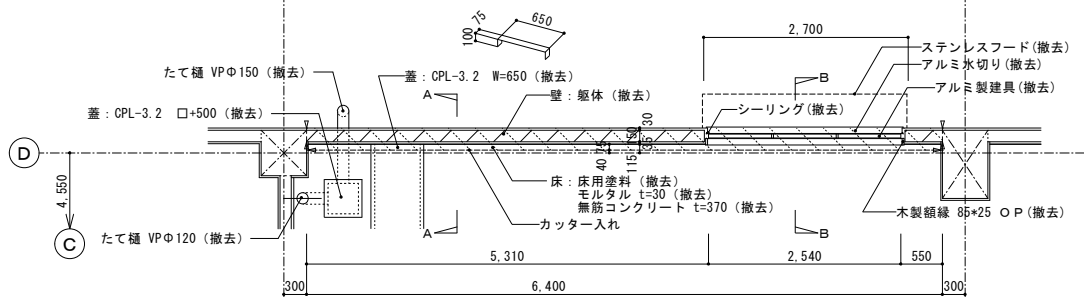
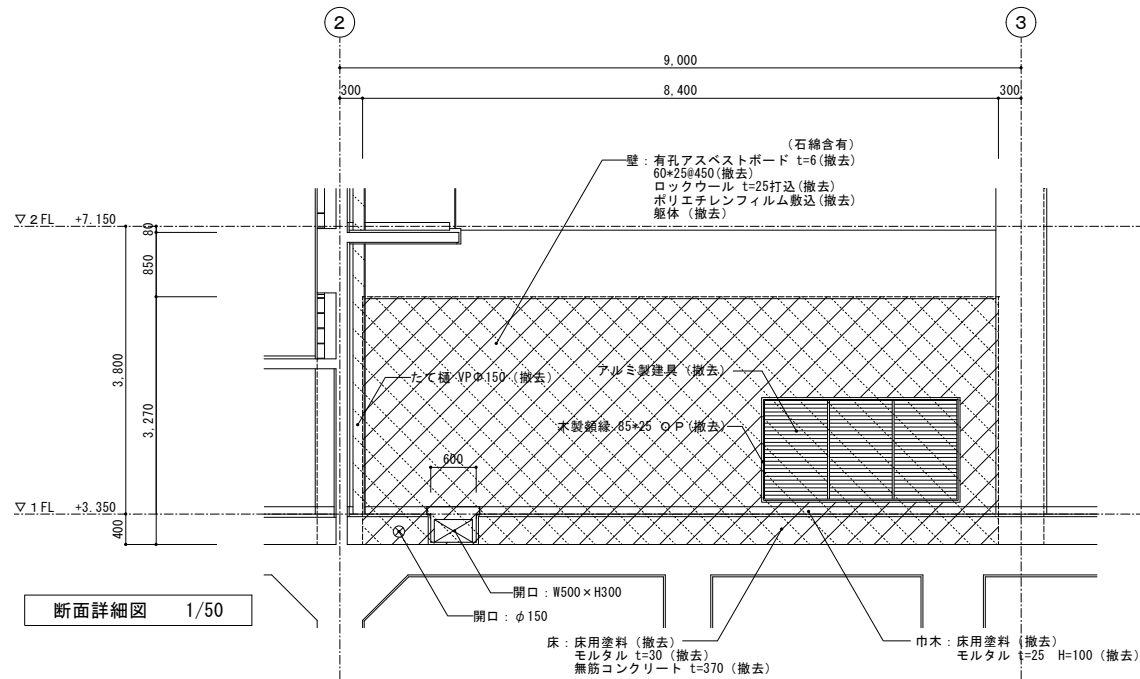
事業名	
工事名	
工事場所	四日市市 塩浜町 地内
名称	改修部雑詳細図 (4) (1F-3 N)
縮尺	1/10・50
設計年月	令和 4 年 3 月
工種	設計者
事業主体	四日市市 上下水道局
図面番号	A-35







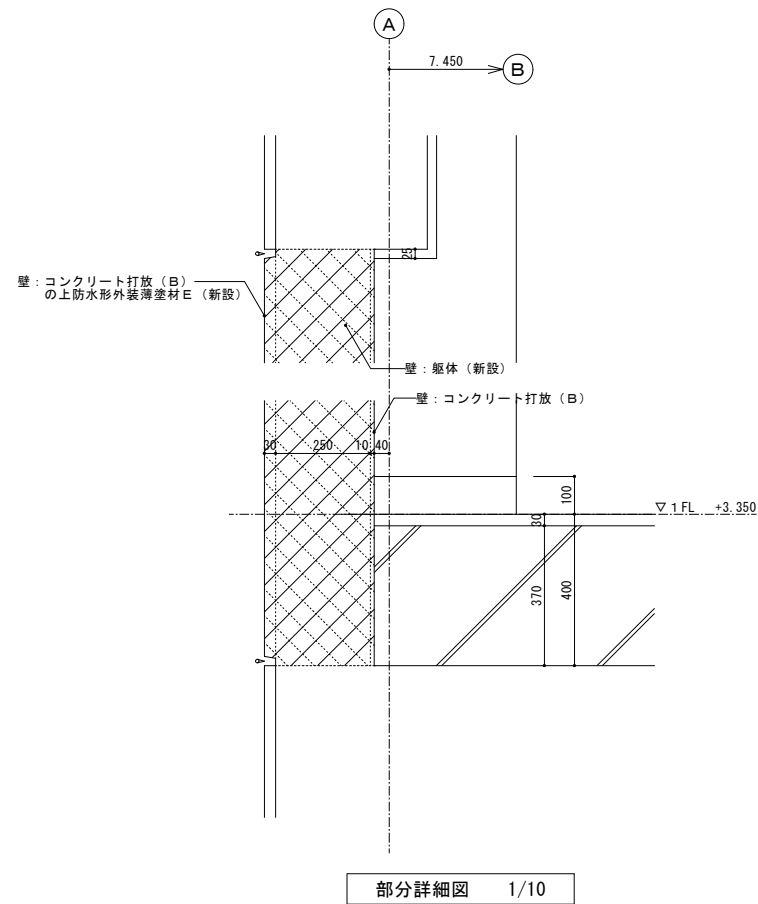
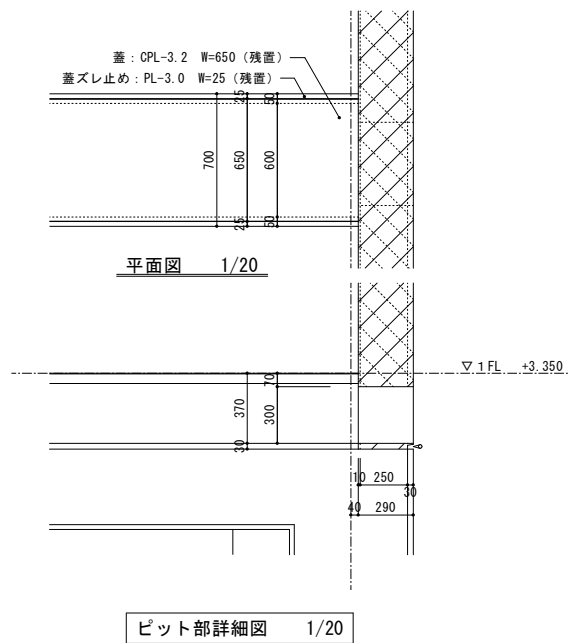
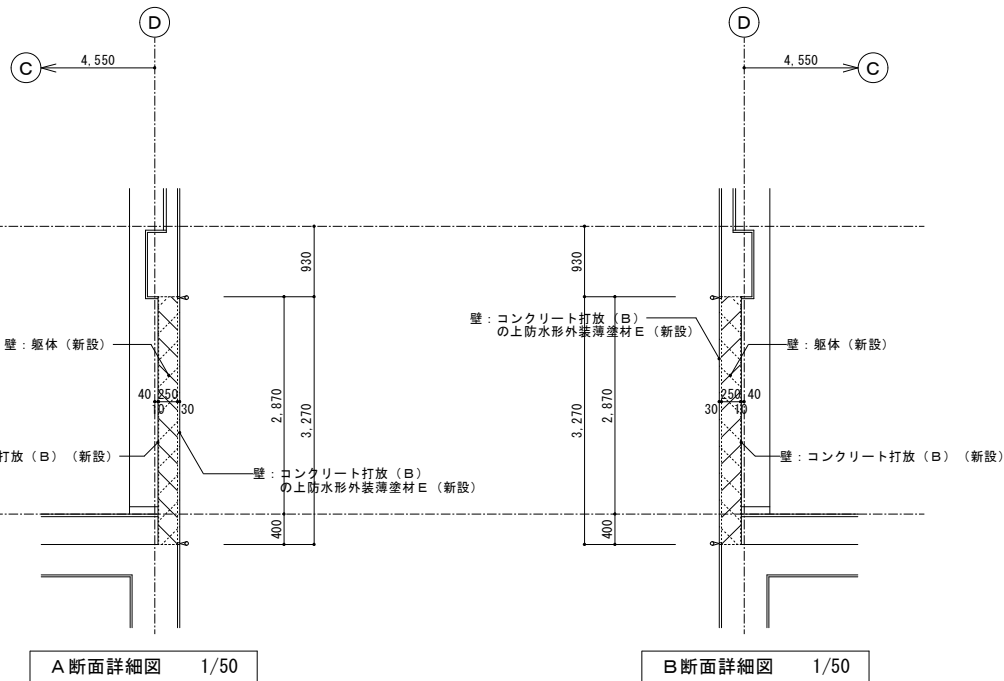





事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部補詳細図（６）（1F- 4 N）		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルティング
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A- 3 7



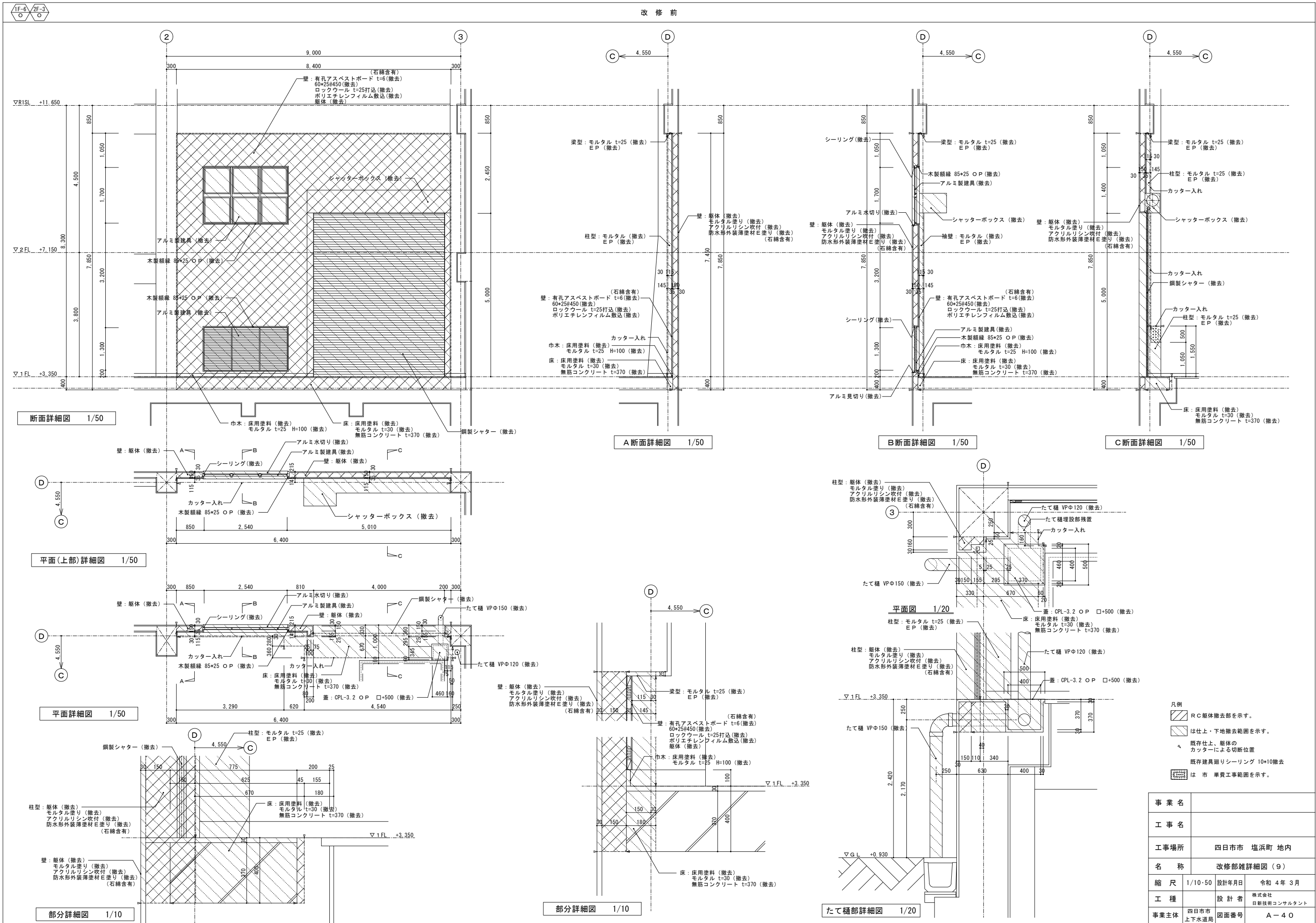
- 凡例
-  R C躯体撤去部を示す。
-  は仕上・下地撤去範囲を示す。
- △ 既存仕上・躯体の  
カッターによる切断位置
- 既存建具廻りシーリング 10\*10撤去

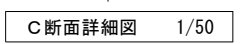
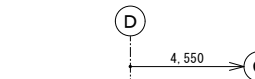
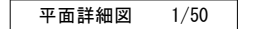
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部詳細図（７）〈1F-5 0〉		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-38



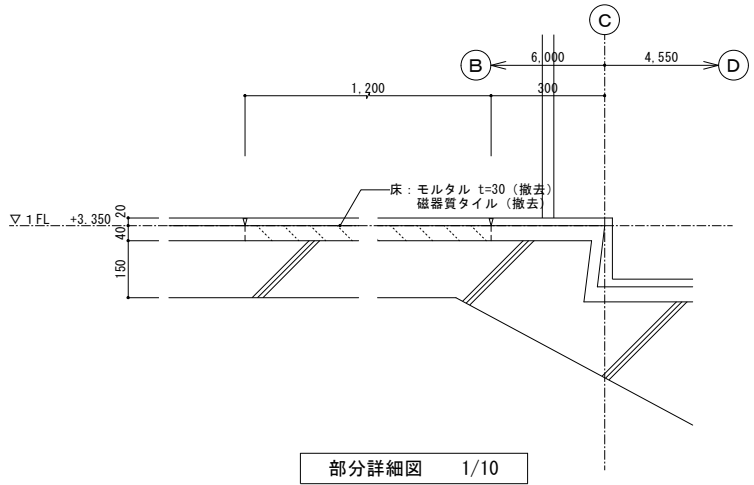
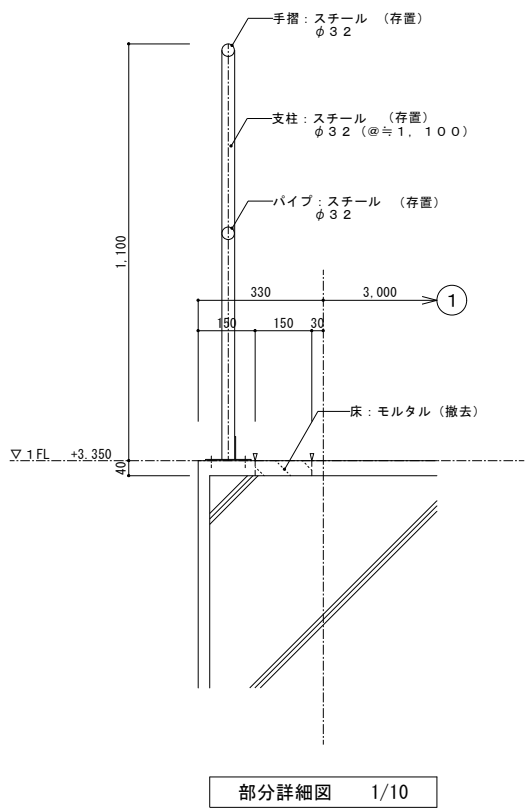
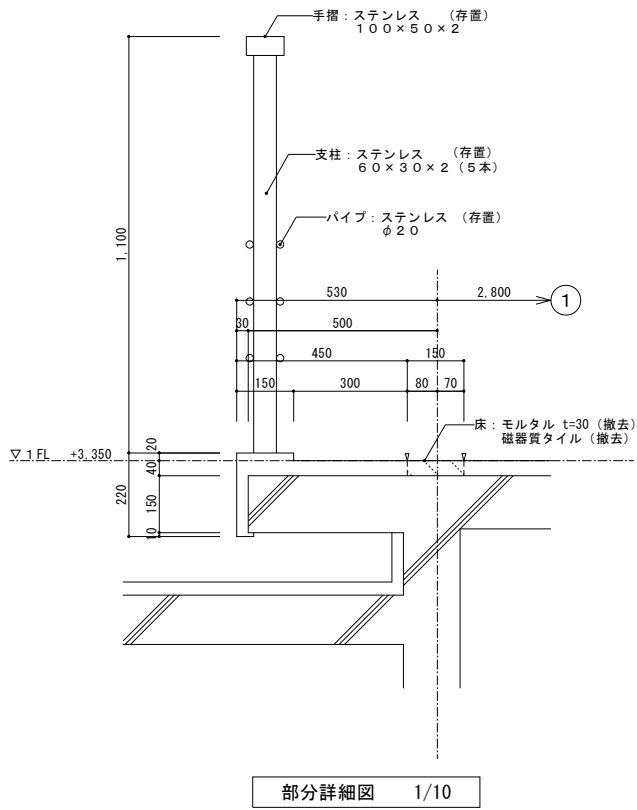
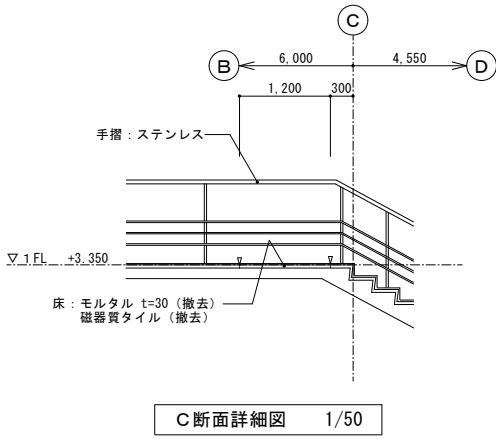
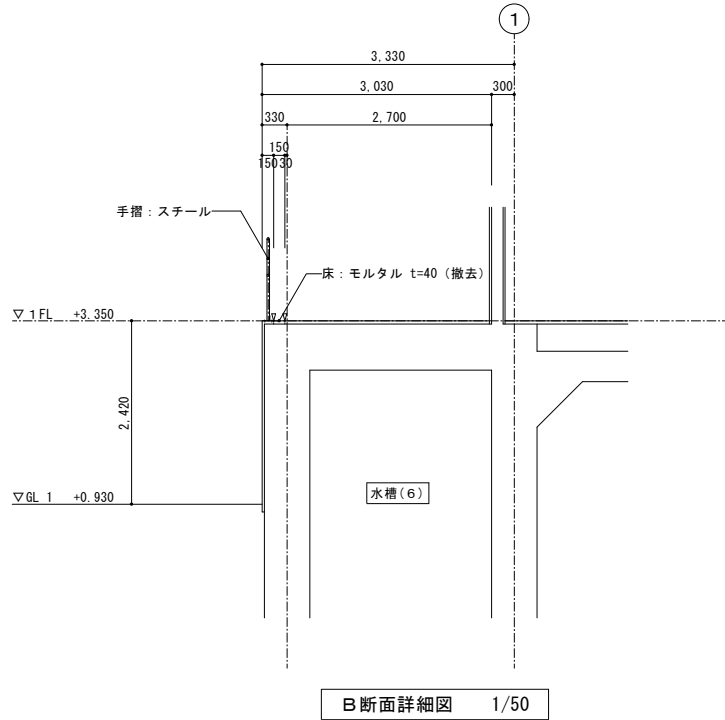
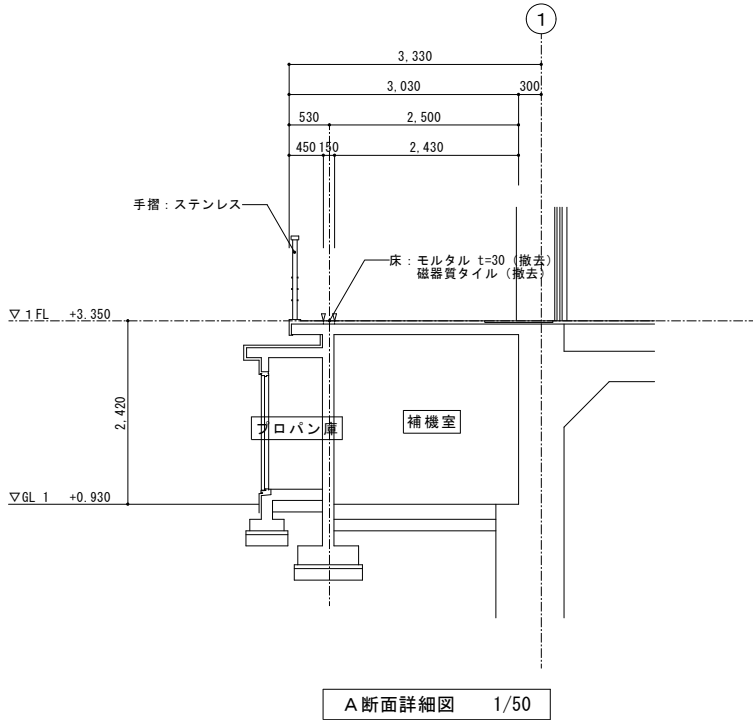
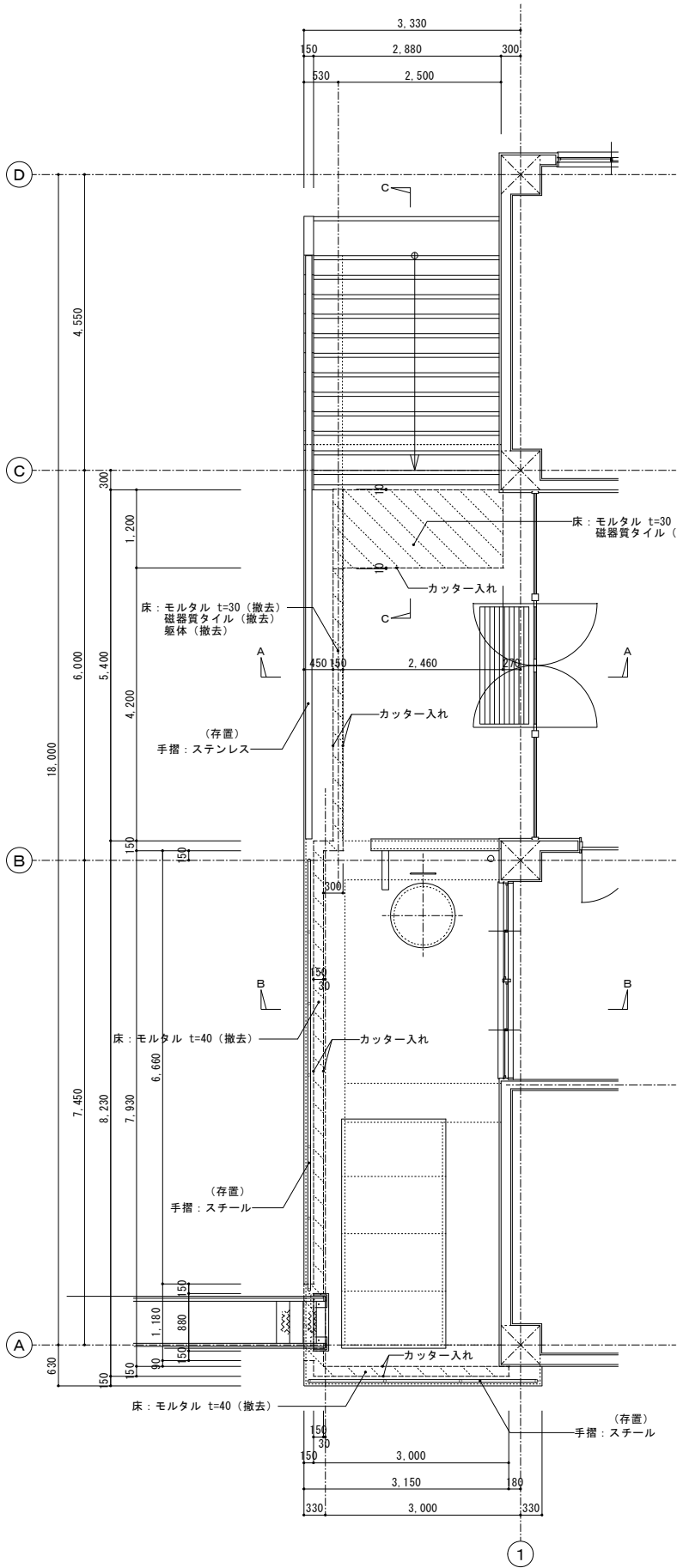
- 凡例
-  RC躯体新設部を示す。
-  は仕上・下地新設範囲を示す。
-  シーリングを示す。  
PU-2 (25×20)
- 新設建具廻りシーリング(MS-2) 10×10新設

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図 ( 8 ) ( 1 F - 5 N )		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A - 3 9



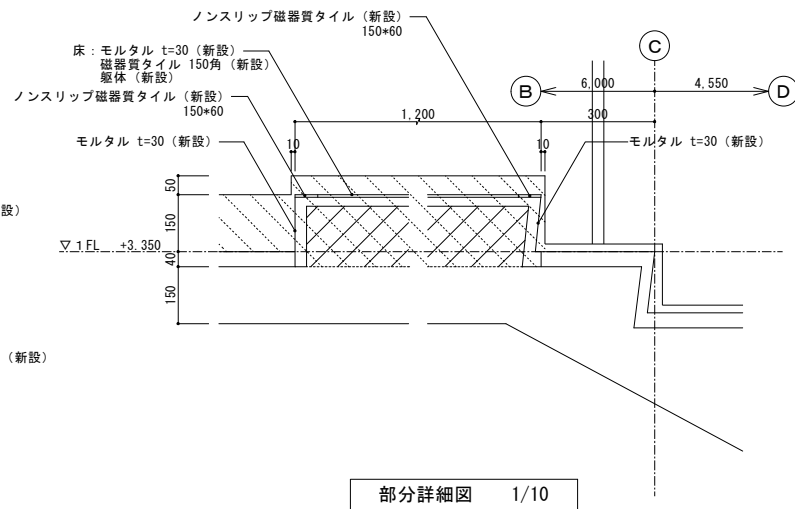
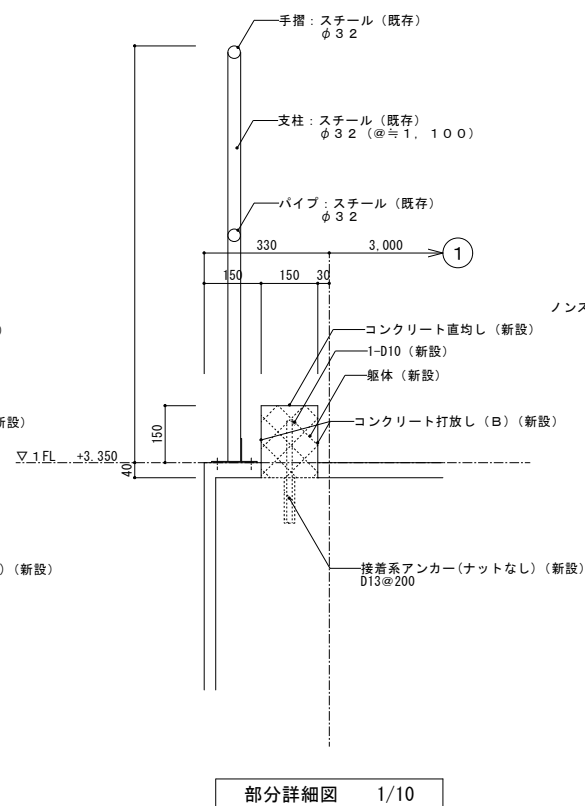
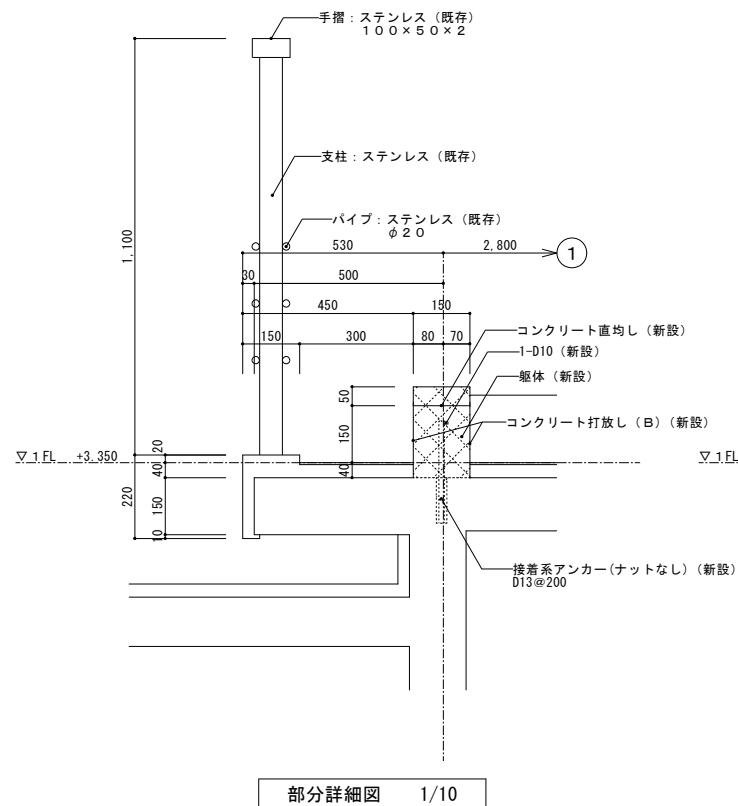
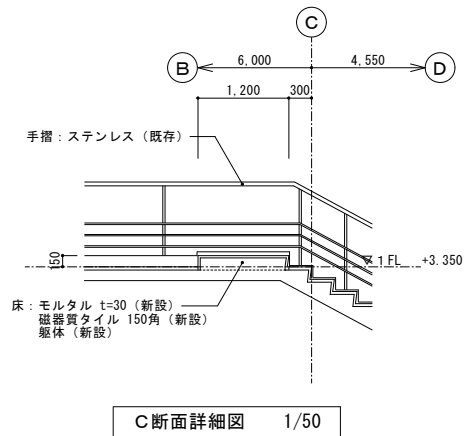
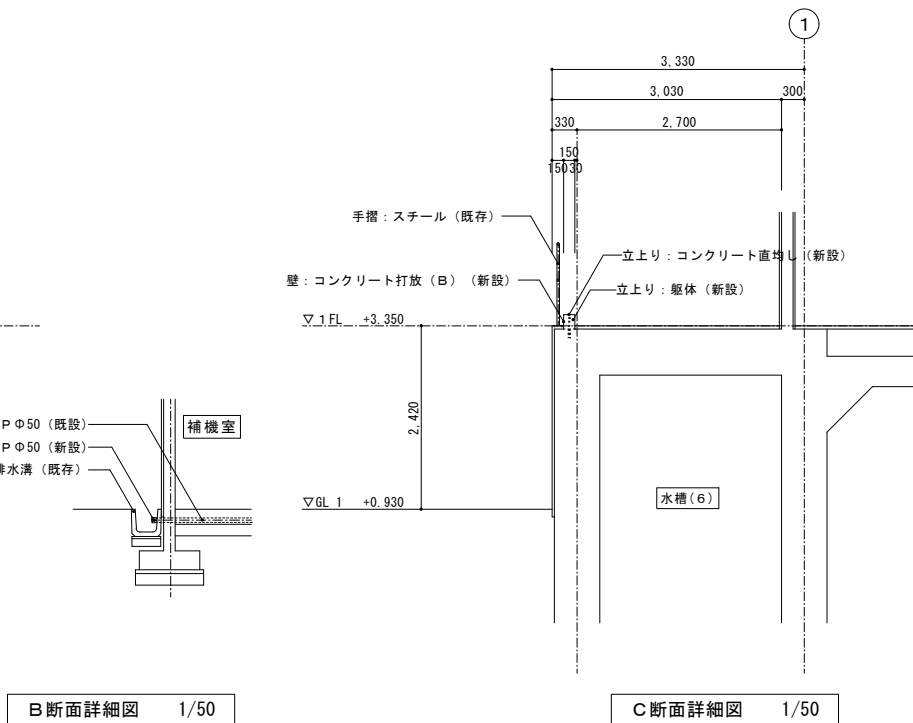
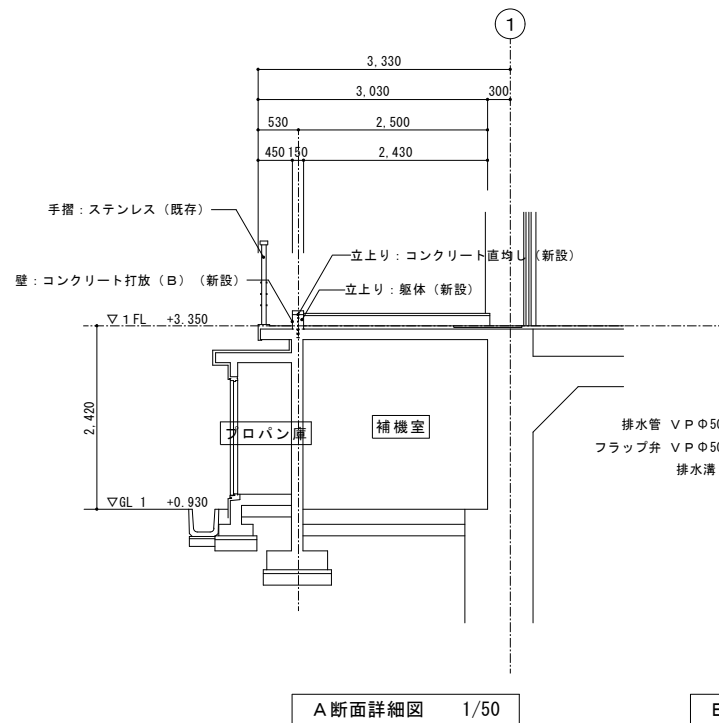
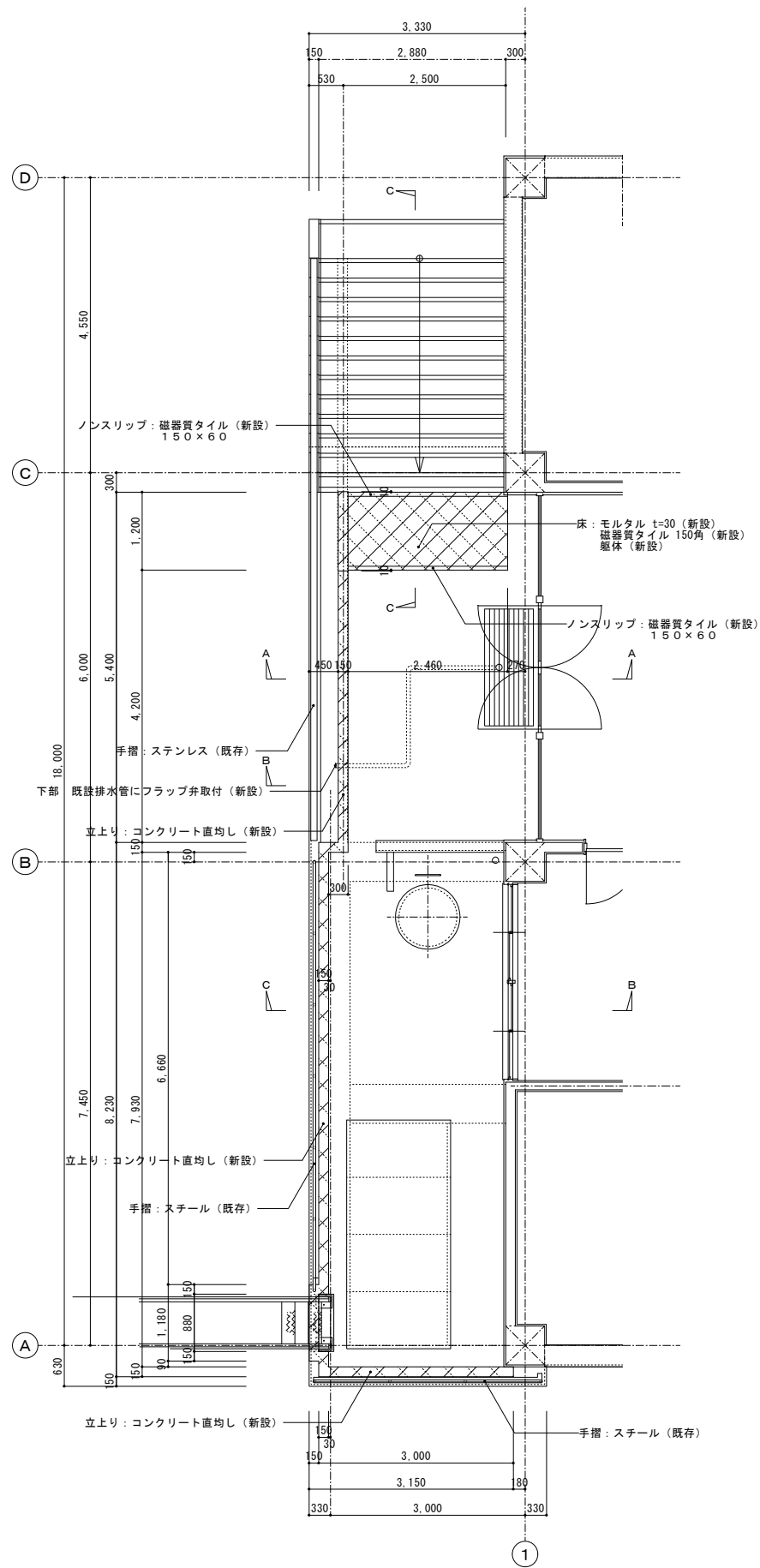





事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図（１０）		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルティング
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-41



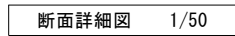
- 凡例
- R C躯体撤去部を示す。
  - は仕上・下地撤去範囲を示す。
  - △ 既存仕上、躯体のカッターによる切断位置
  - 既存建具廻りシーリング 10×10撤去

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図 (11) (1F- 7 0)		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-42



- 凡例
-  RC躯体新設部を示す。
-  は仕上・下地新設範囲を示す。
-  シーリングを示す。  
PU-2 (25×20)
- 新設建具廻りシーリング(MS-2) 10\*10新設

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雄詳細図(12) (1F-7 N)		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-43



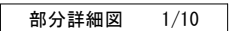
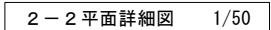
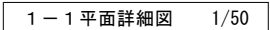
A 断面詳細図 1/50

B 断面詳細図

C断面詳細図 1/50

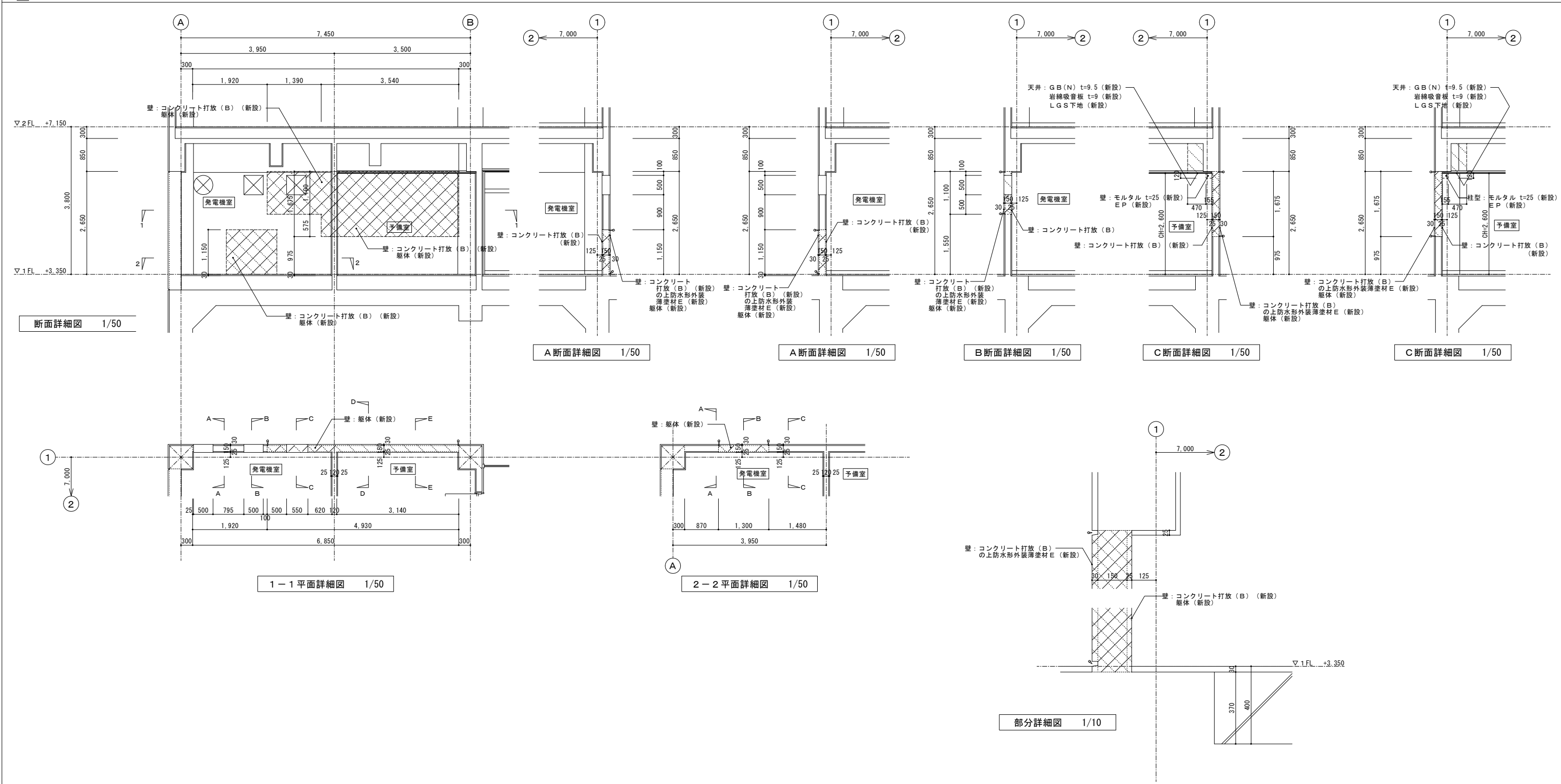
D 断面詳細図 1/50

E 断面詳細図



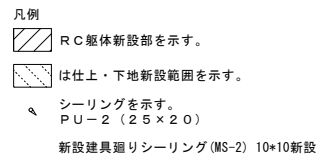
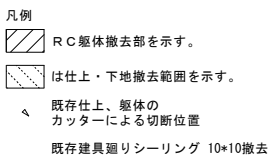
- |      |                      |       |                     |
|------|----------------------|-------|---------------------|
| 事業名  |                      |       |                     |
| 工事名  |                      |       |                     |
| 工事場所 | 四日市市 塩浜町 地内          |       |                     |
| 名称   | 改修部雑詳細図（１３）（1F- 8 0） |       |                     |
| 縮尺   | 1/10・50              | 設計年月日 | 令和 4 年 3 月          |
| 工種   |                      | 設計者   | 株式会社<br>日新技術コンサルタント |
| 事業主体 | 四日市市<br>上下水道局        | 図面番号  | A- 4 4              |



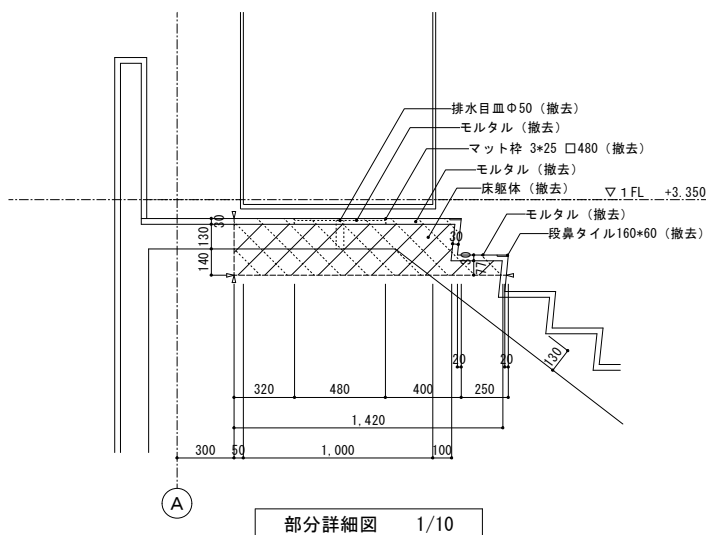
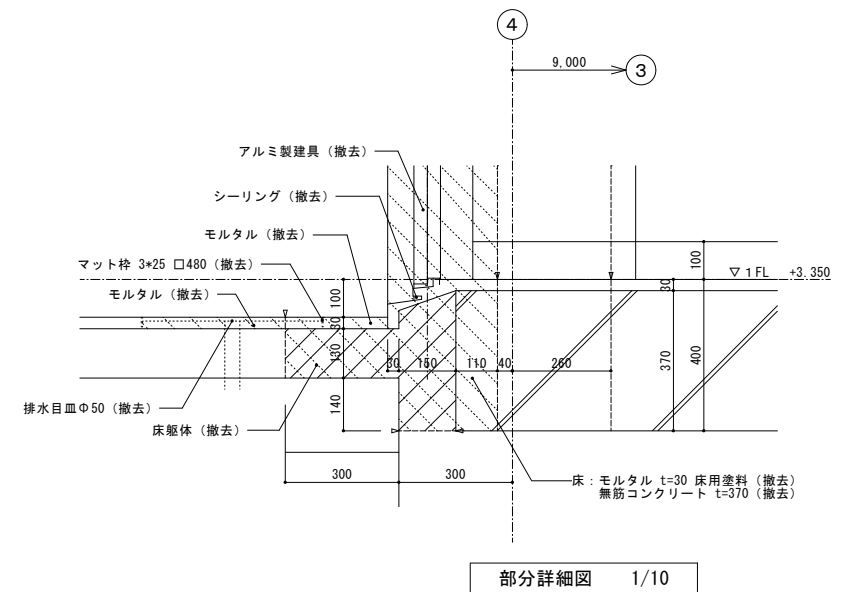
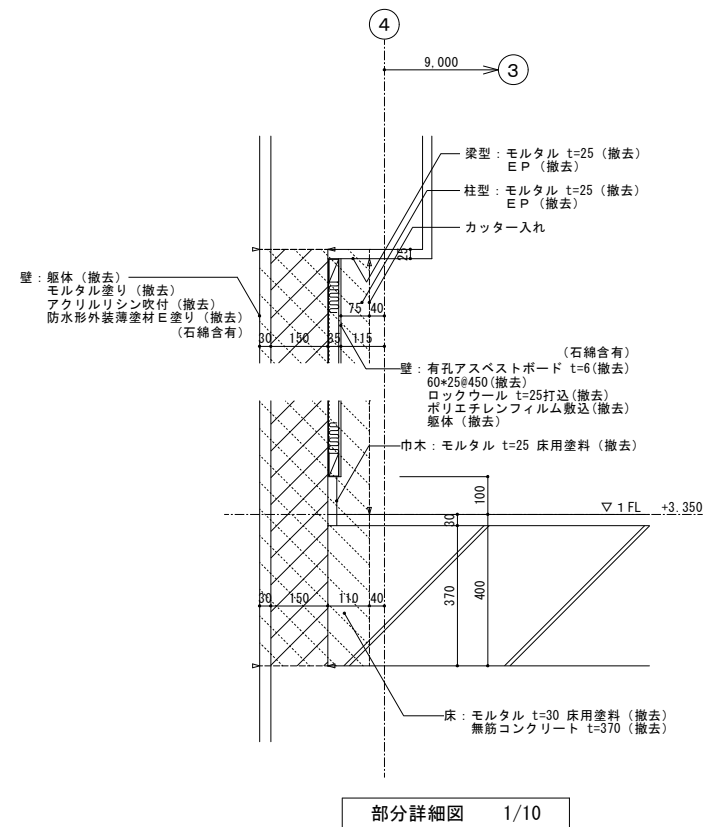
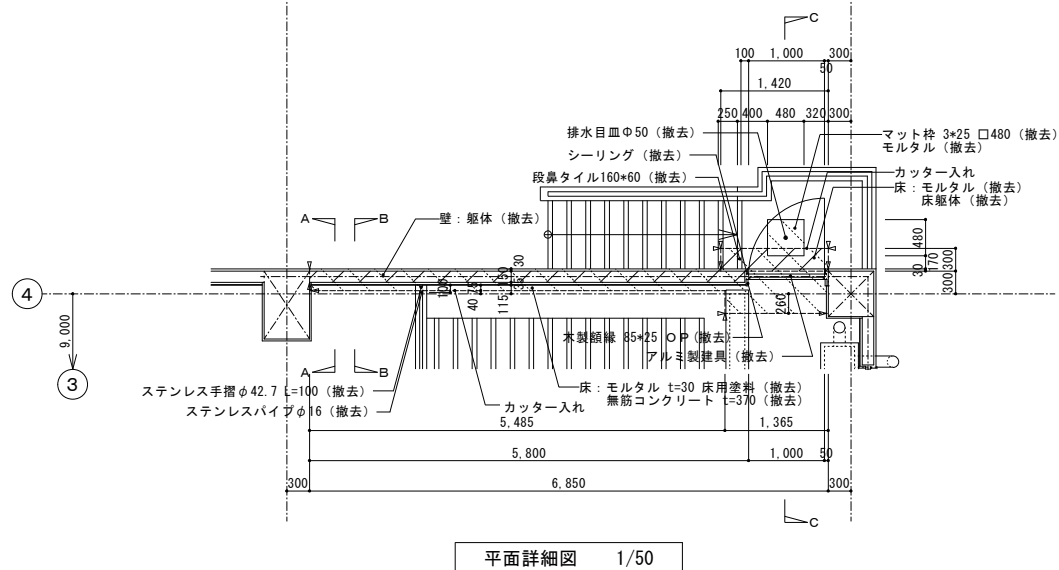
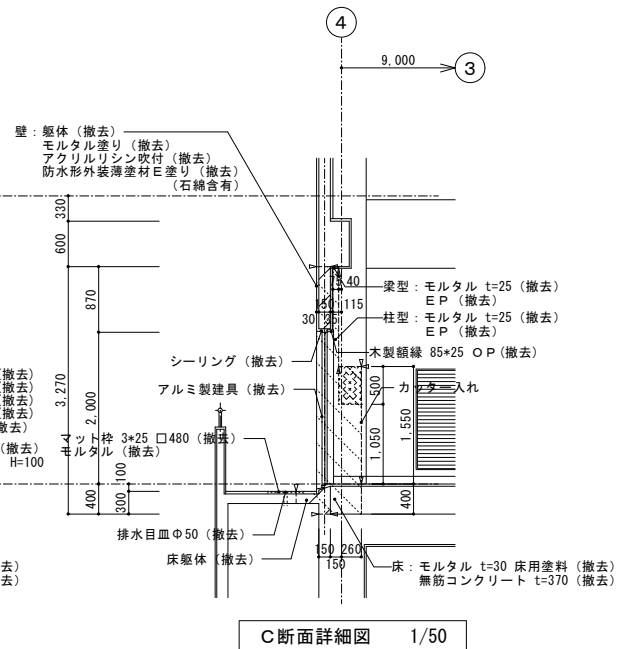
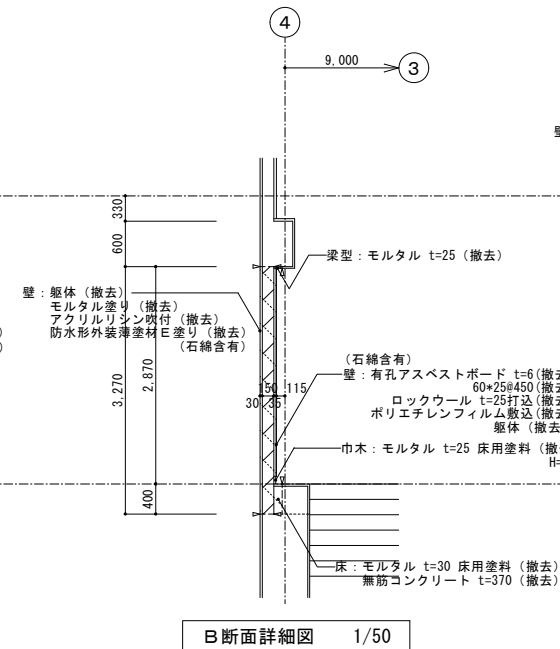
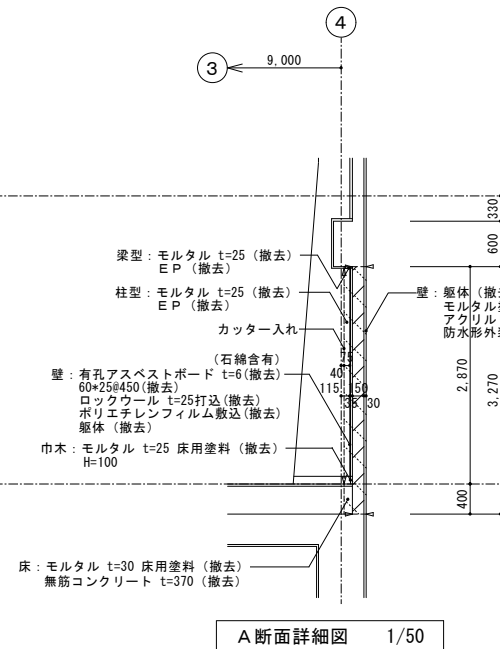
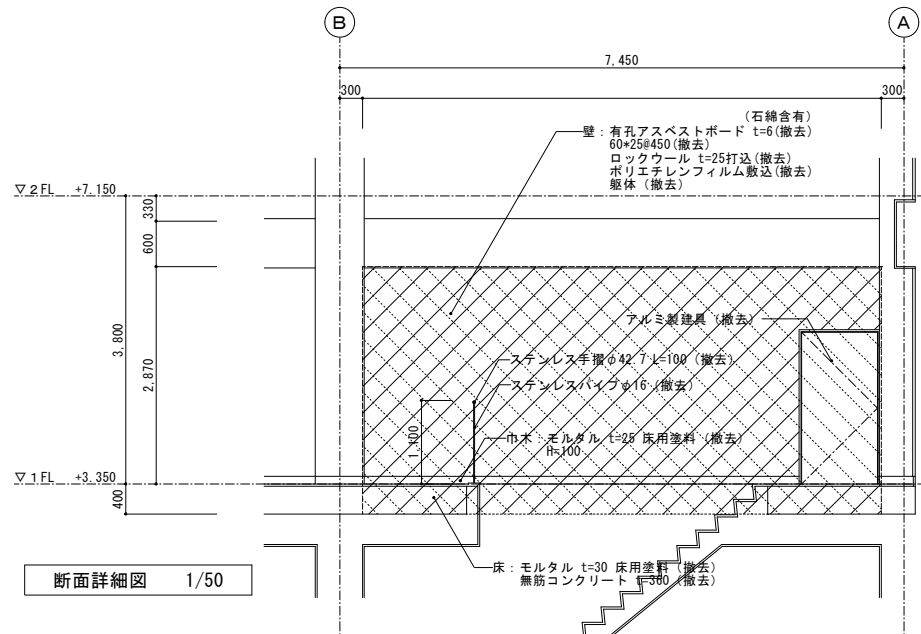





- 凡例
- R C躯体新設部を示す。
  - は仕上・下地新設範囲を示す。
  - シーリングを示す。  
PU-2 (25×20)
  - 新設建具廻りシーリング (MS-2) 10×10新設

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図 (14) (1F- 8 N)		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A- 4 5

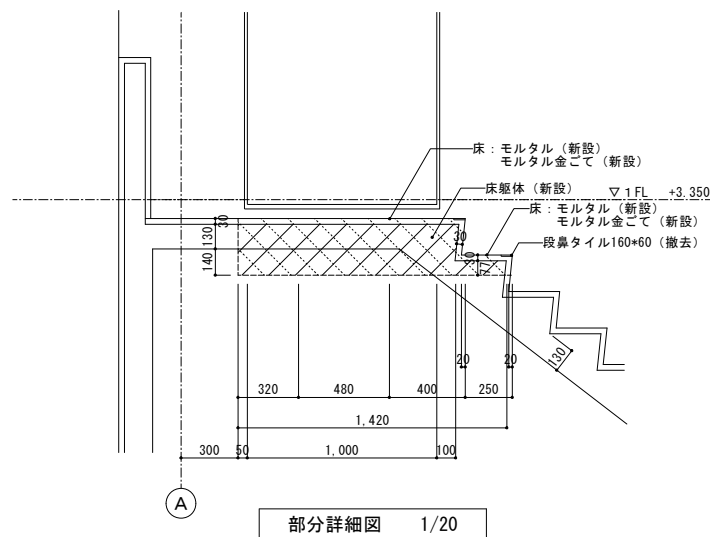
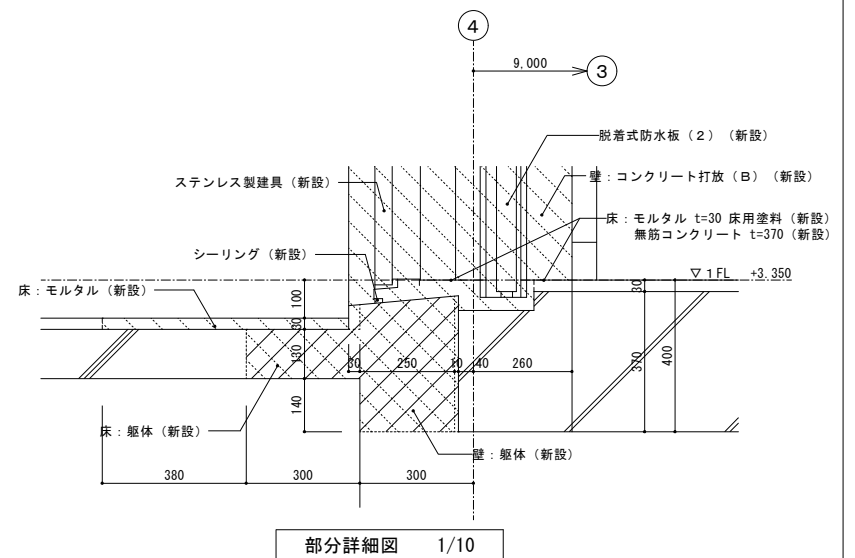
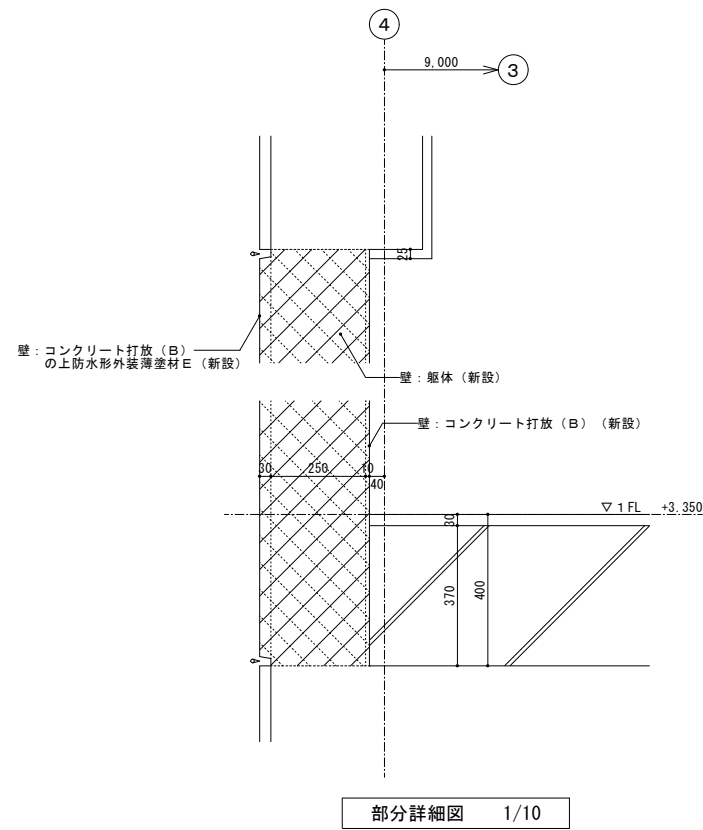
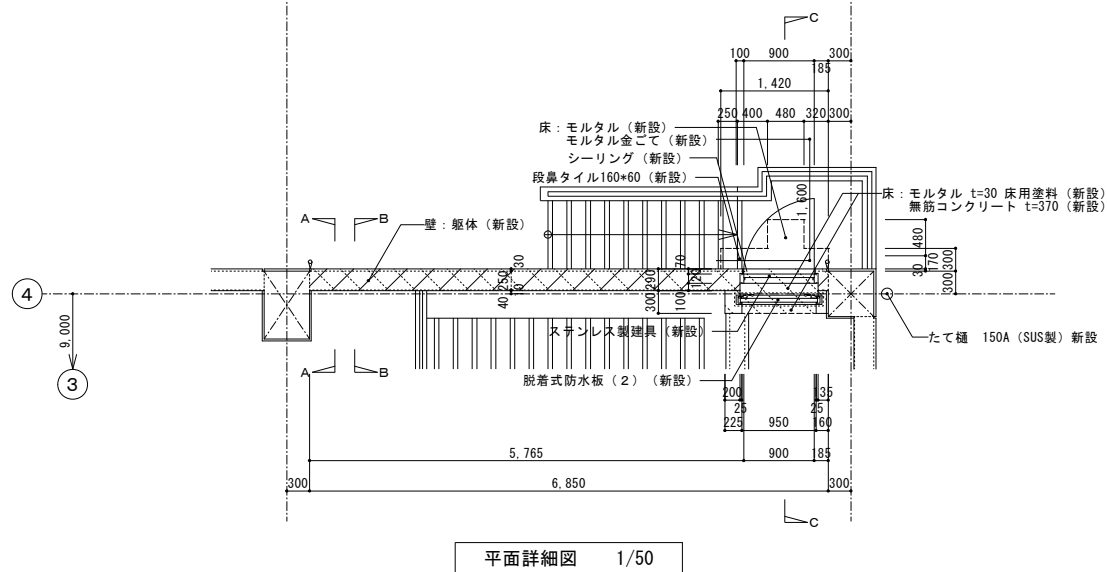
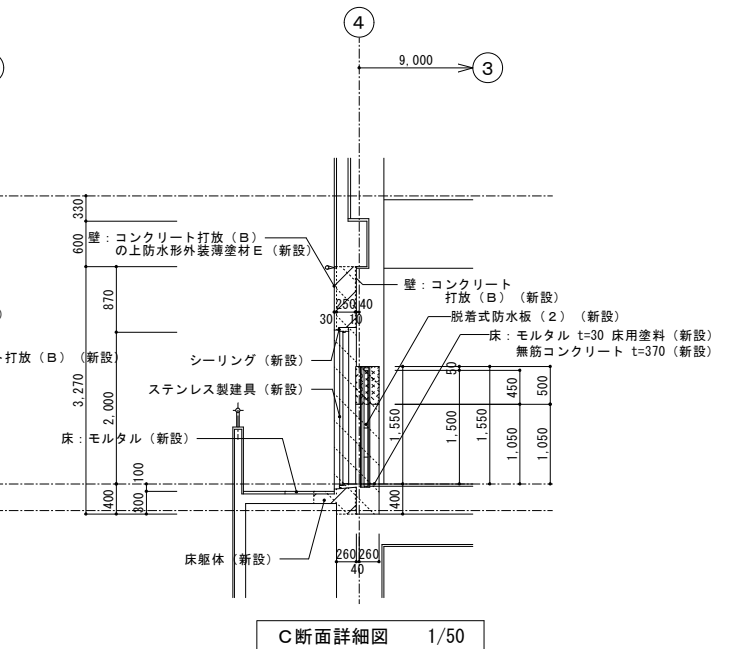
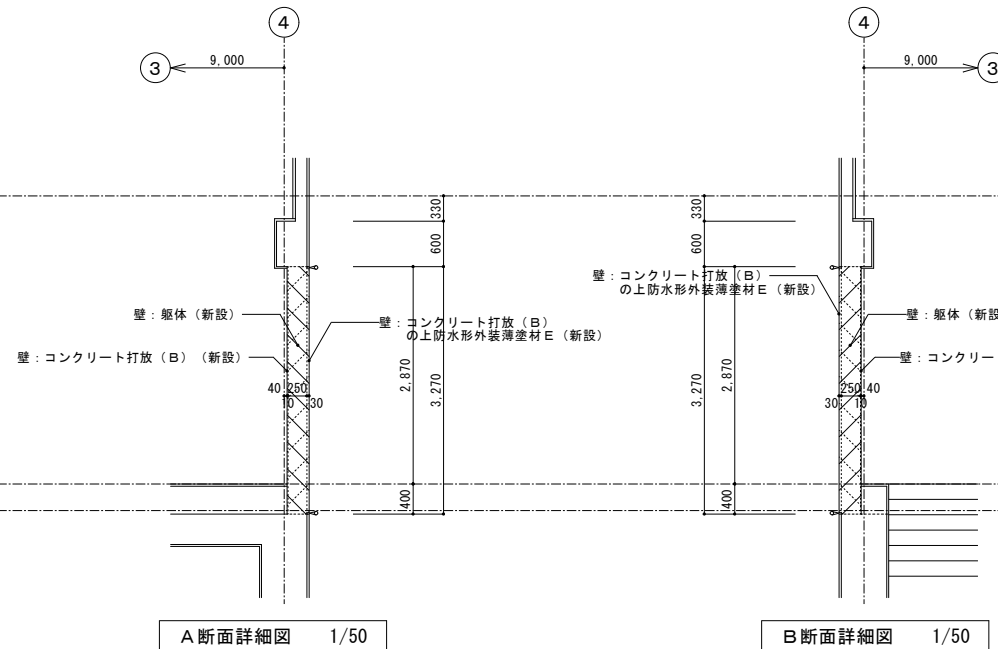
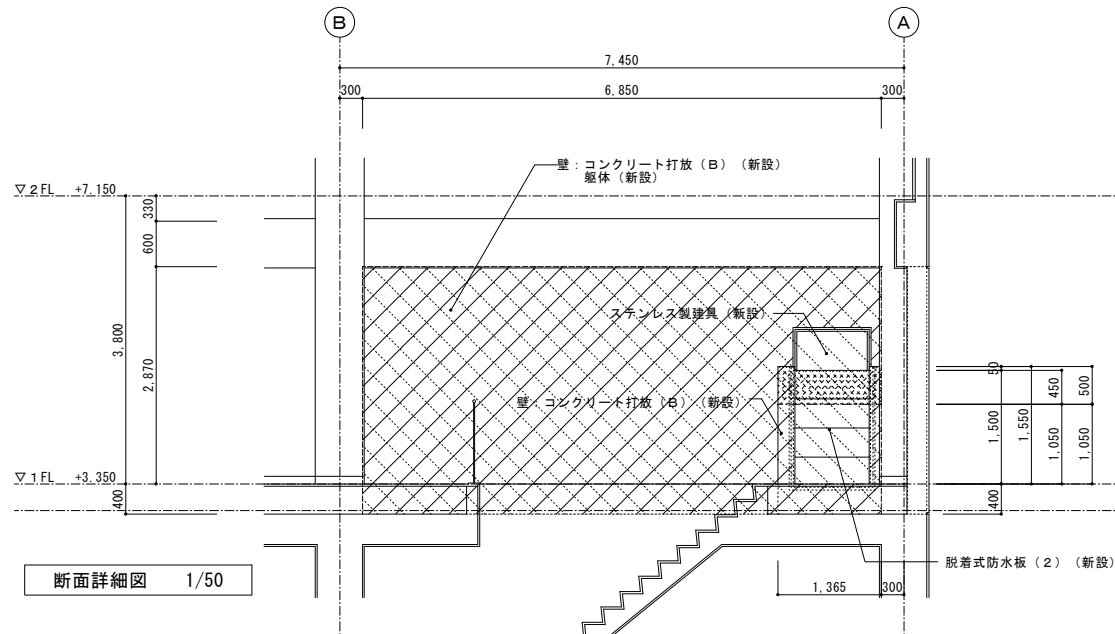





事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部様詳細図（15）（1F-9 0/N）		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-46



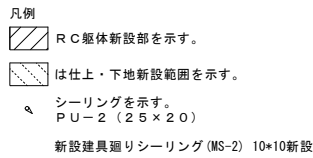
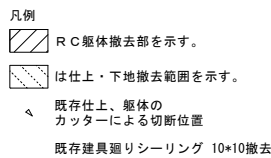
- 凡例
-  R C躯体撤去部を示す。
-  は仕上・下地撤去範囲を示す。
- △ 既存仕上・躯体の  
カッターによる切断位置
- 既存建具廻りシーリング 10\*10撤去
-  は 市 単費工事範囲を示す。

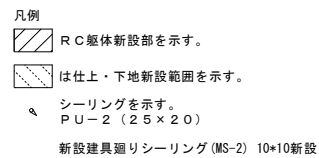
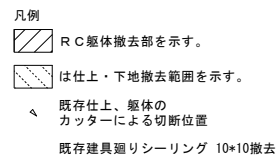
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図 ( 1 6 )		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A - 4 7



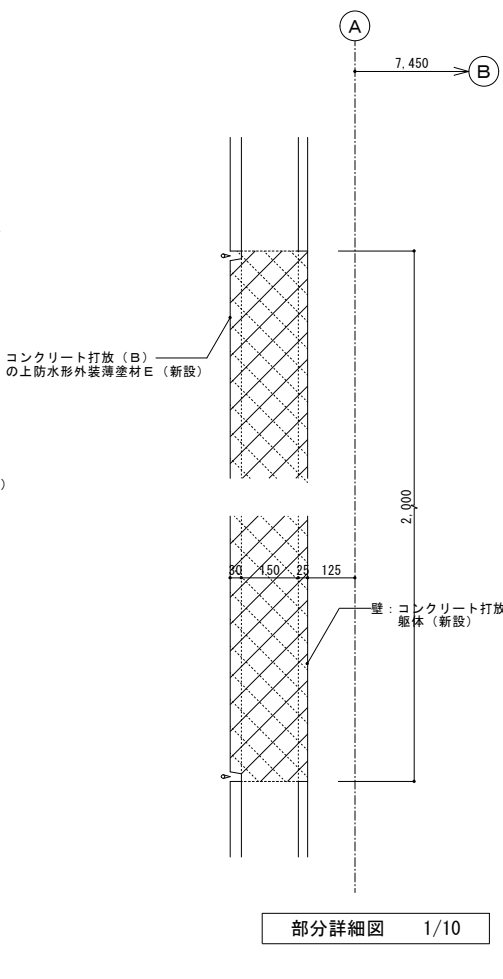
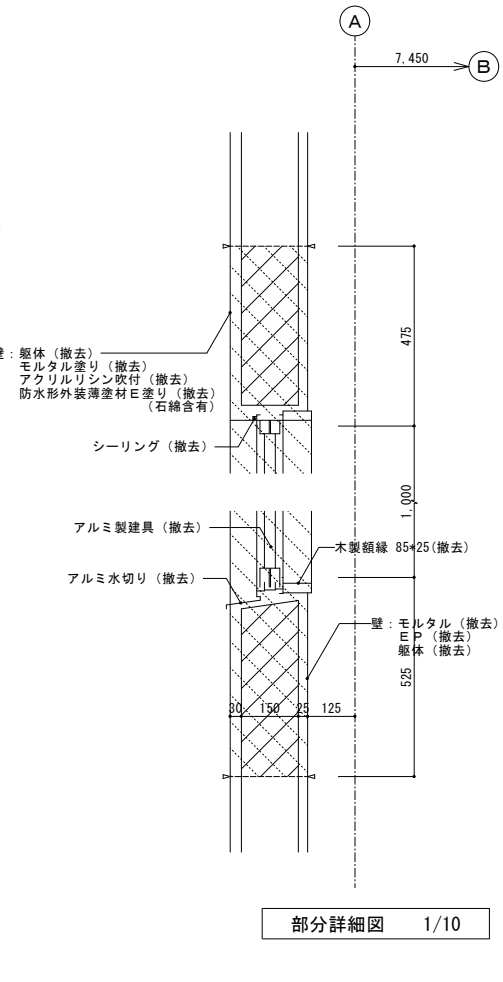
- 凡例
-  R C躯体新設部を示す。
-  は仕上・下地新設範囲を示す。
- シーリングを示す。  
PU-2 (25×20)
- 新設建具廻りシーリング(MS-2) 10×10新設
-  は市単費工事範囲を示す。

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図（１７）		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-48

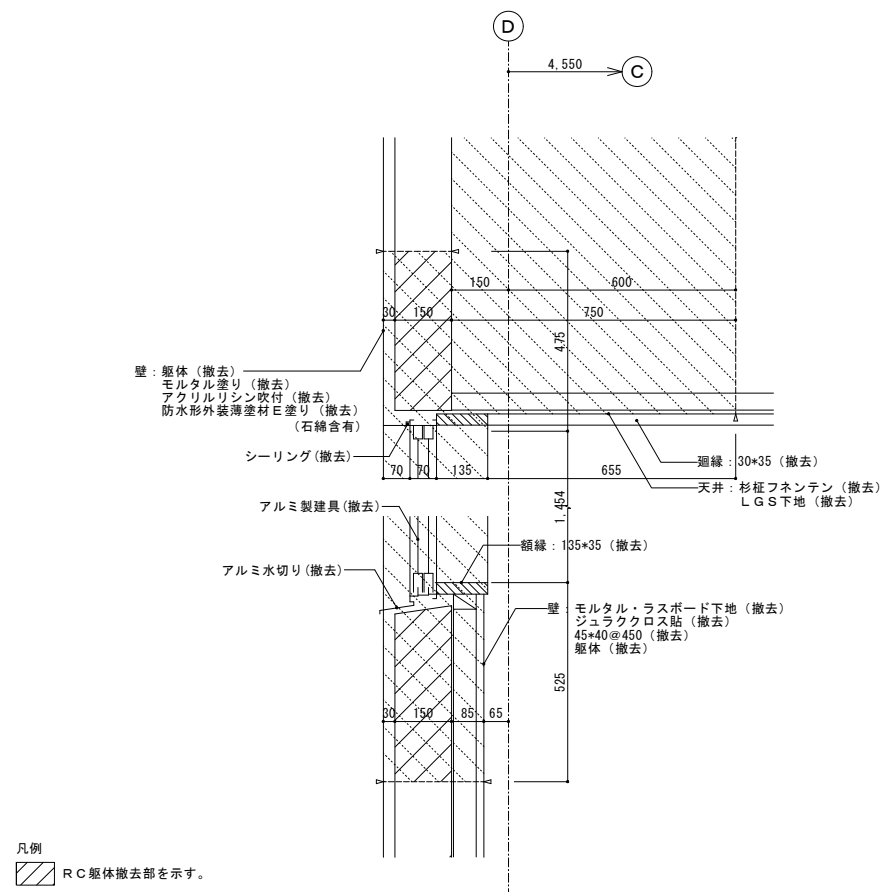
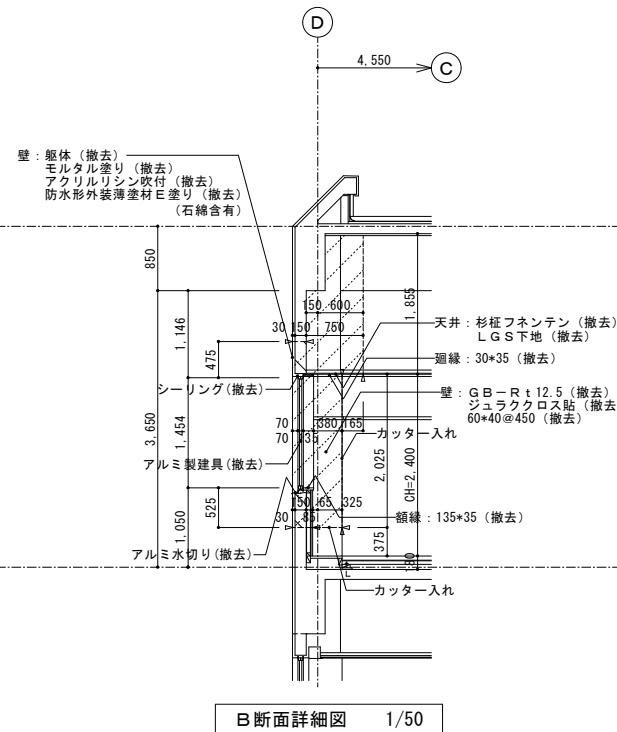




事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部詳細図（19）（1F-12 0/N）		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルティング
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-50



事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図(20)〈2F-1 0/N〉		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルティング
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-51

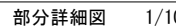
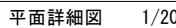
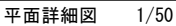
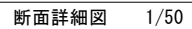





既存建具廻りシーリング 10\*10撤去

部分詳細図 1/10

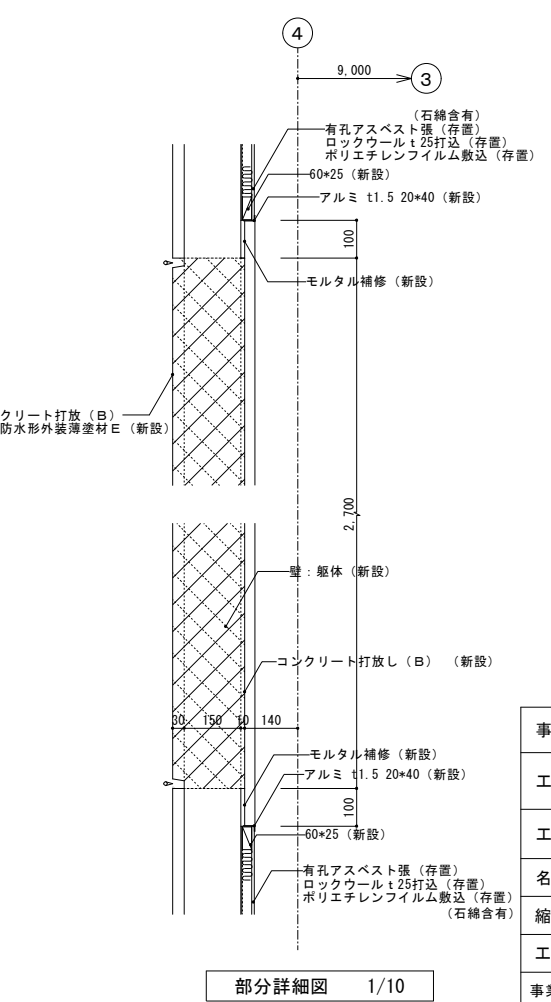
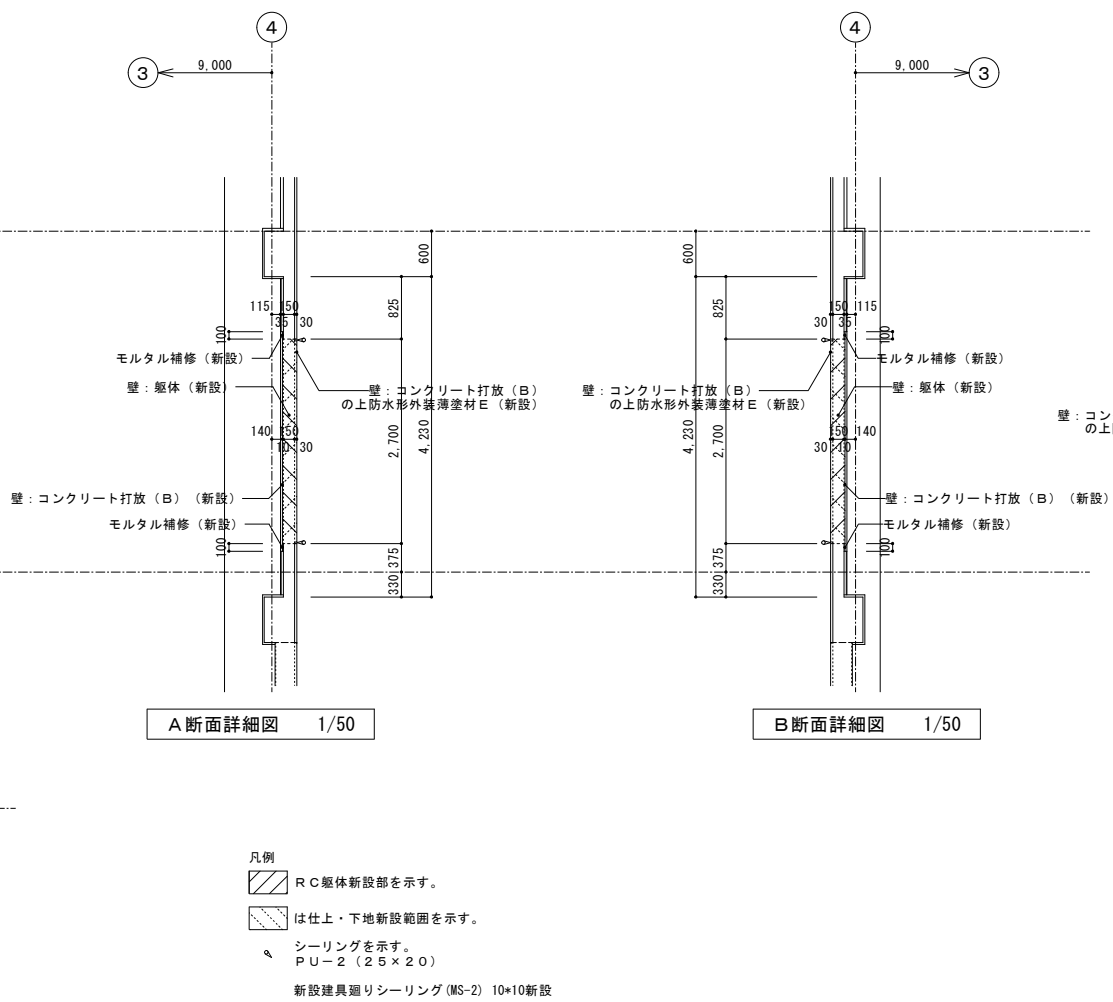
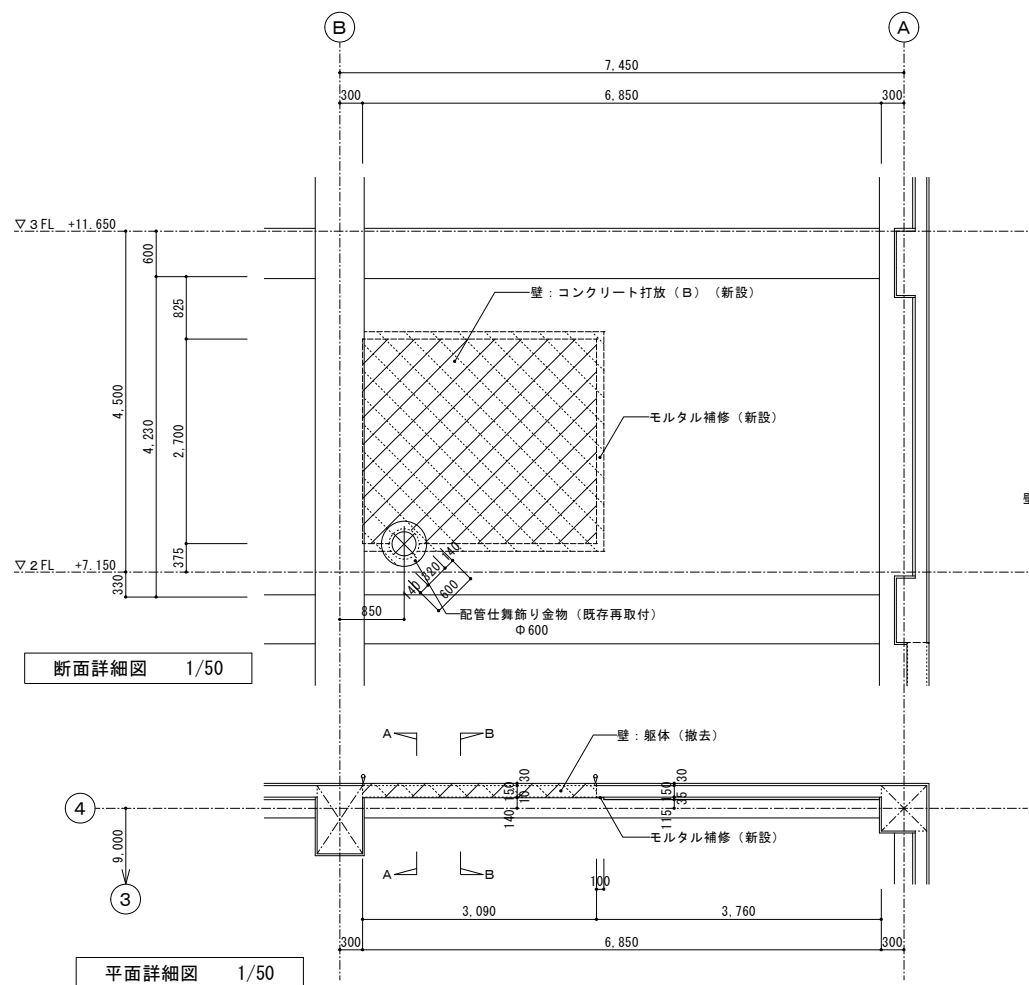
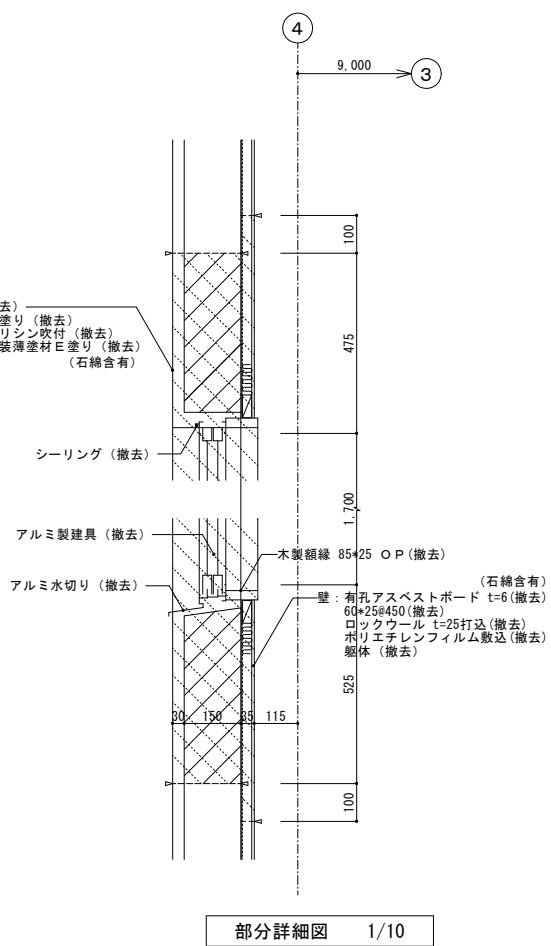
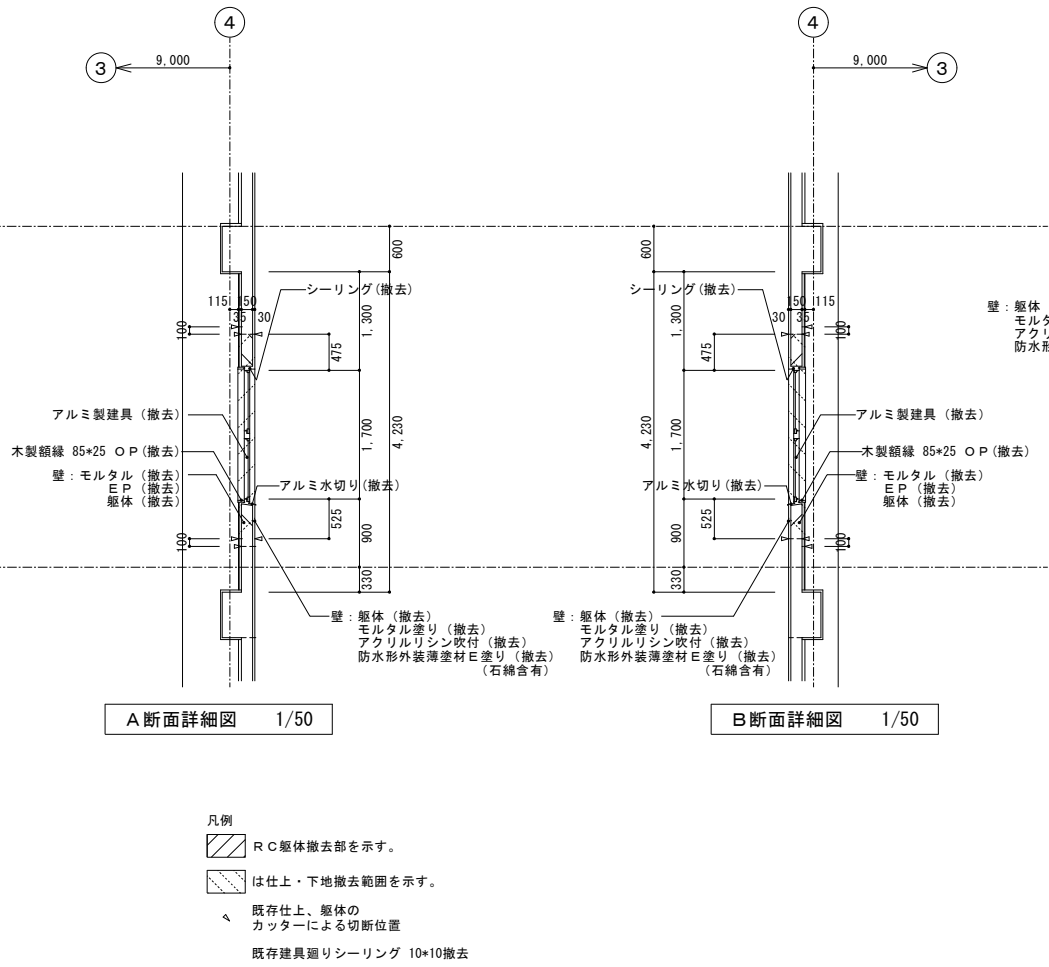
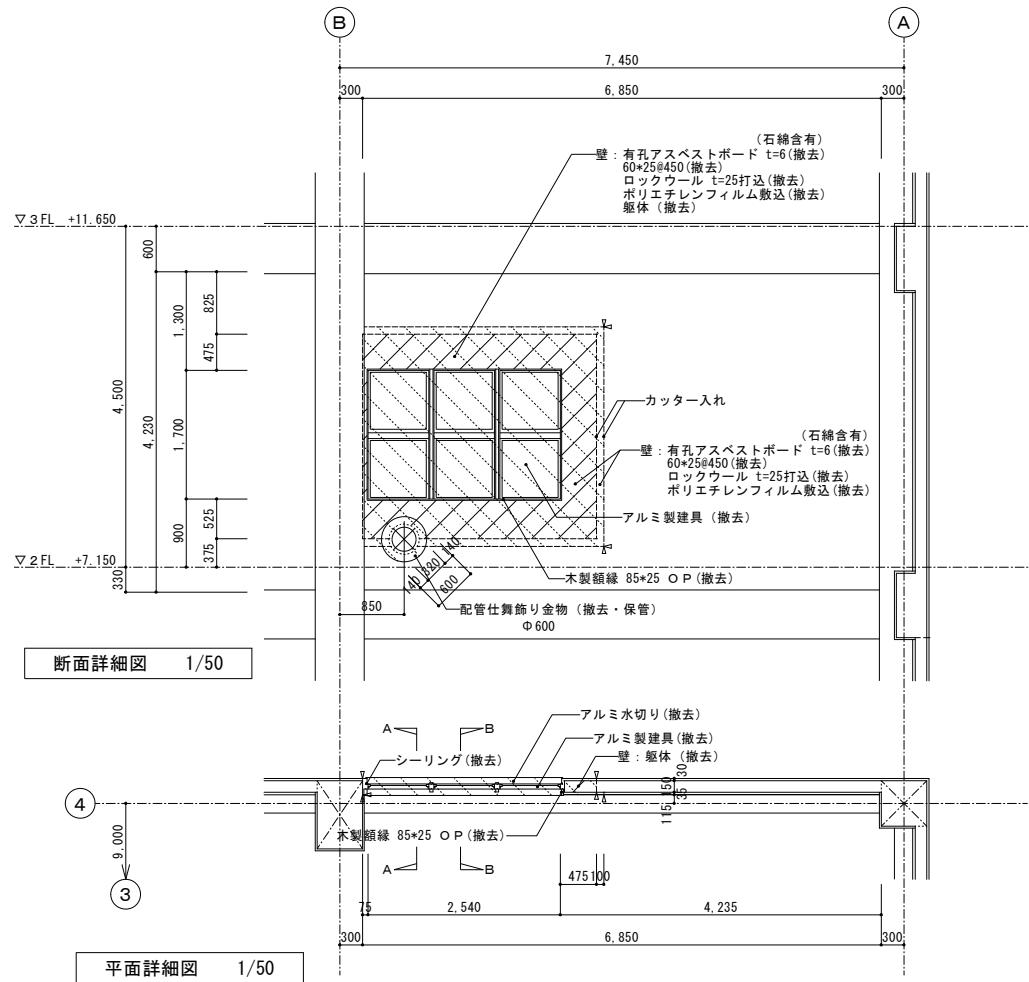
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図（2 1）（2F- 2 0）		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A－5 2



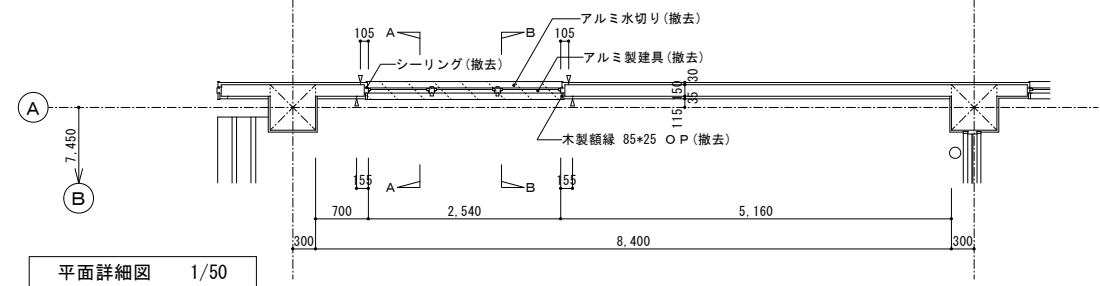
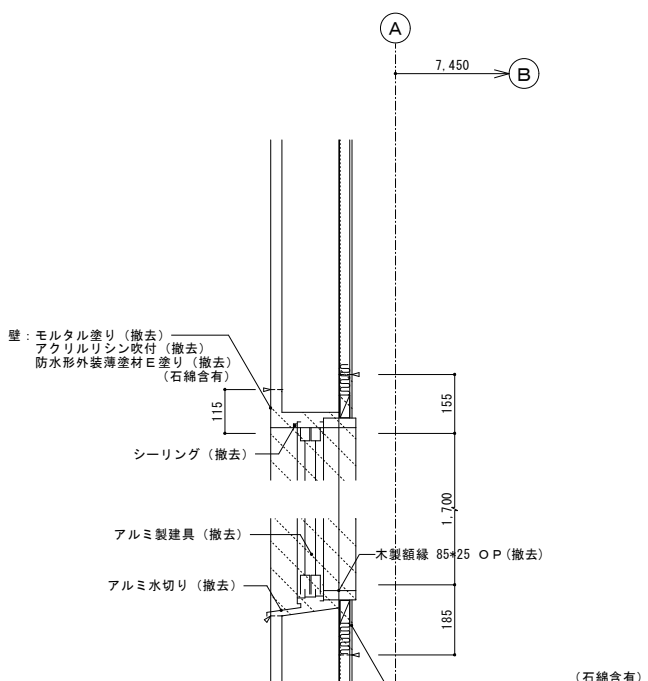
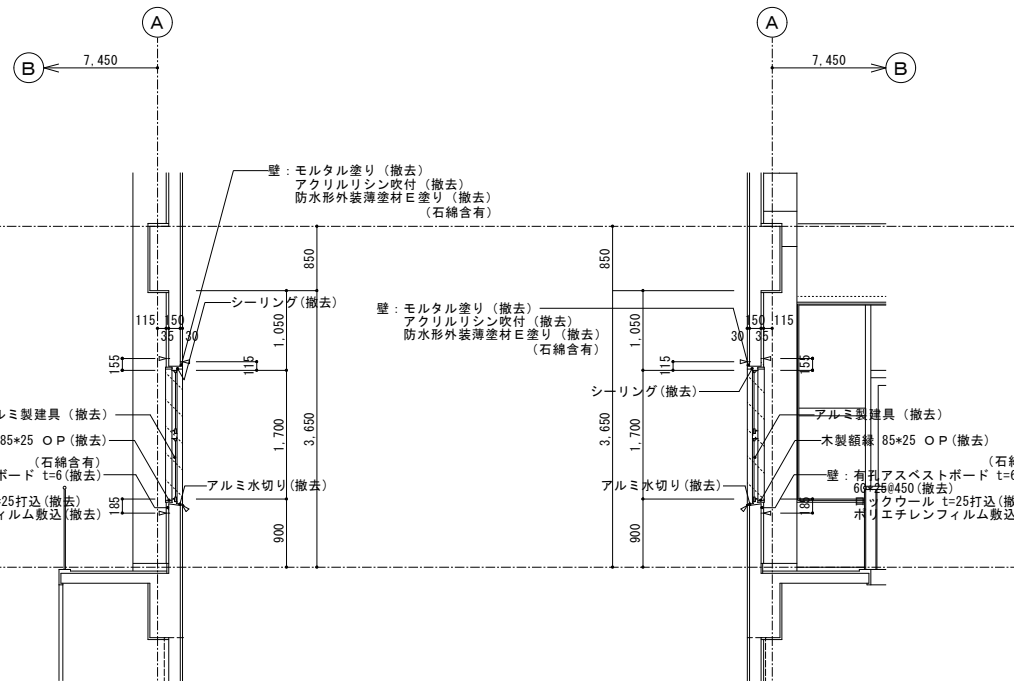
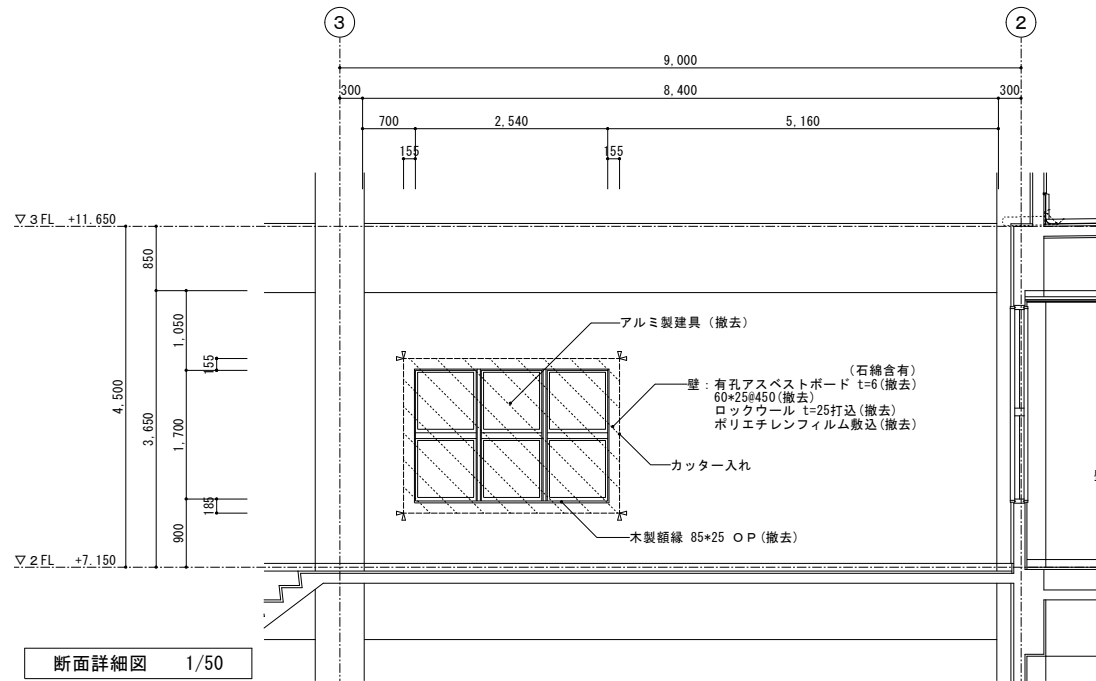


- 凡例
-  RC躯体新設部を示す。
-  は仕上・下地新設範囲を示す。
-  シーリングを示す。  
PU-2 (25×20)
- 新設建具廻りシーリング(MS-2) 10×10新設

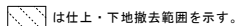
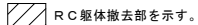
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部詳細図（22）（2F-2 N）		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-53



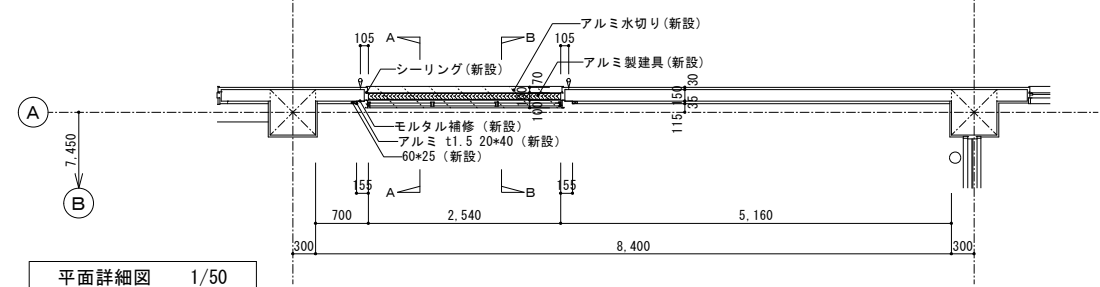
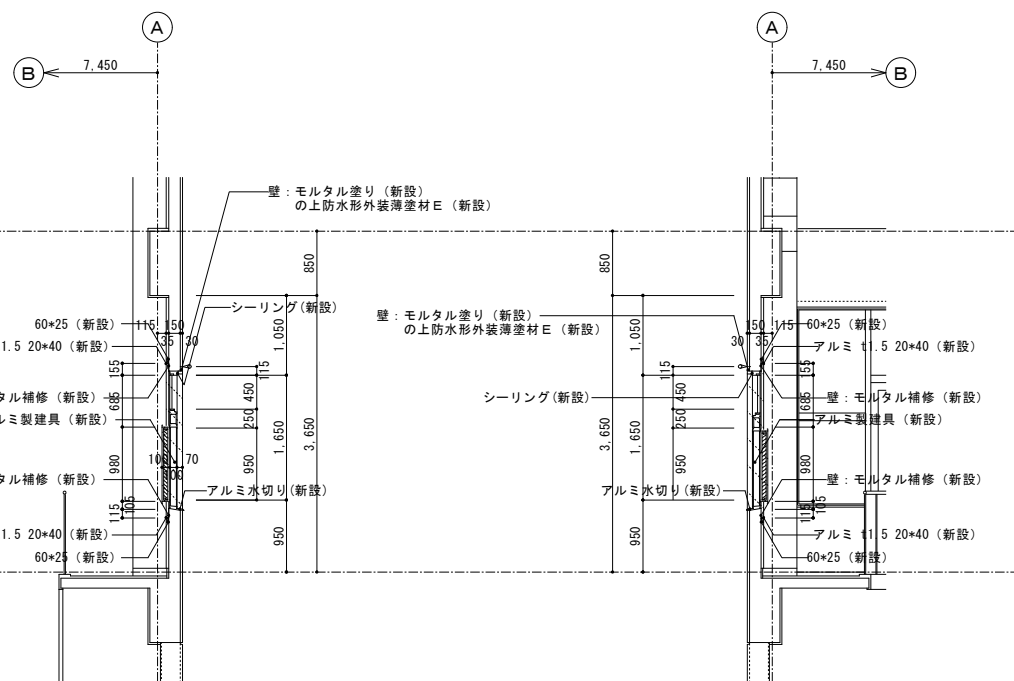
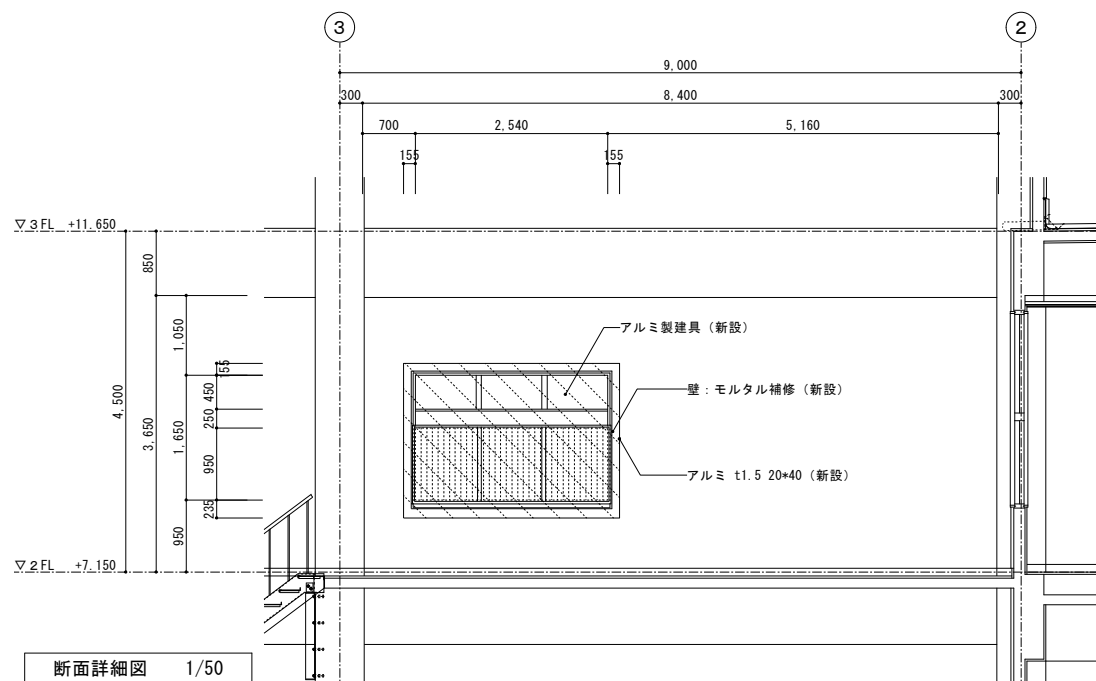
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図 (23) (2F- 4 0/N)		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-54



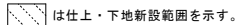
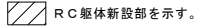
## 凡例



- 既存仕上、躯体の  
カッターによる切断位置
- 既存建具廻りシーリング 10\*10撤去

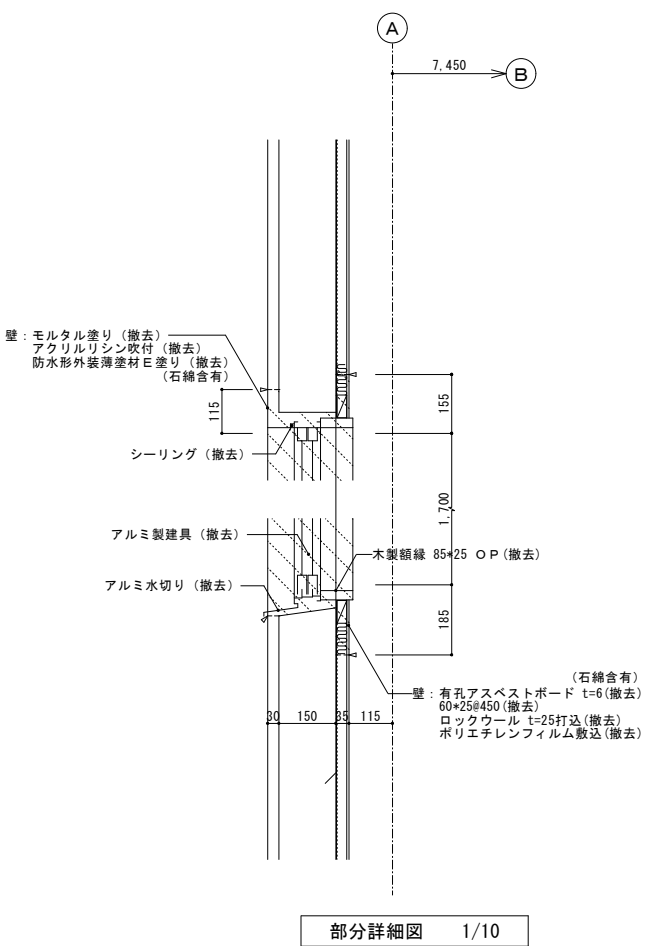


## 凡例




- シーリングを示す。  
PU-2 (10×10)  
新設建具廻りシーリング(MS-2) 10\*10新設


事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図（2 4）〈2F- 5 0/N〉		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-55



部分詳細図 1/10

凡例

 R C 躯体撤去部を示す。

 は仕上・下地撤去範囲を示す。


既存仕上、躯体の  
カッターによる切断位置


既存建具廻りシーリング 10\*10撤去




B断面詳細図 1/50

凡例

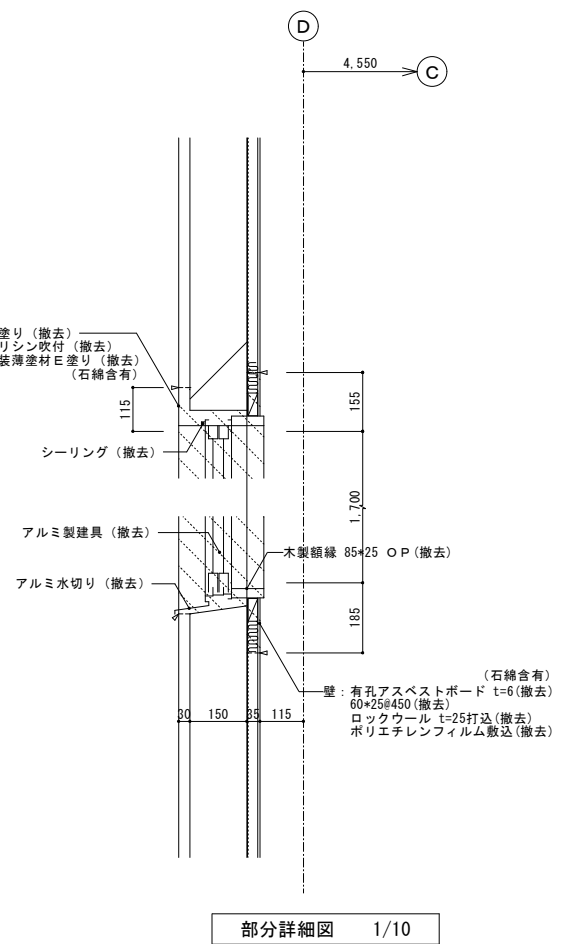
 R C躯体新設部を示す。

 は仕上・下地新設範囲を示す。

 シーリングを示す。  
PU-2 (10×10)

新設建具廻りシーリング(MS-2) 10\*10新設

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図(25)〈2F-6 0/N〉		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和4年3月28日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルティング
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-56




A 断面詳細図 1/50

B 断面詳細図 1/50

部分詳細図 1/10

## 凡例

 RC 躯体撤去部を示す。

 は仕上・下地撤去範囲を示す。

△ 既存仕上、躯体の  
カッターによる切断位置

既存建具廻りシーリング 10\*10撤去




A断面詳細図 1/50

B 断面詳細図 1/50

凡例

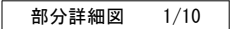
 R C躯体新設部を示す。

 は仕上・下地新設範囲を示す。

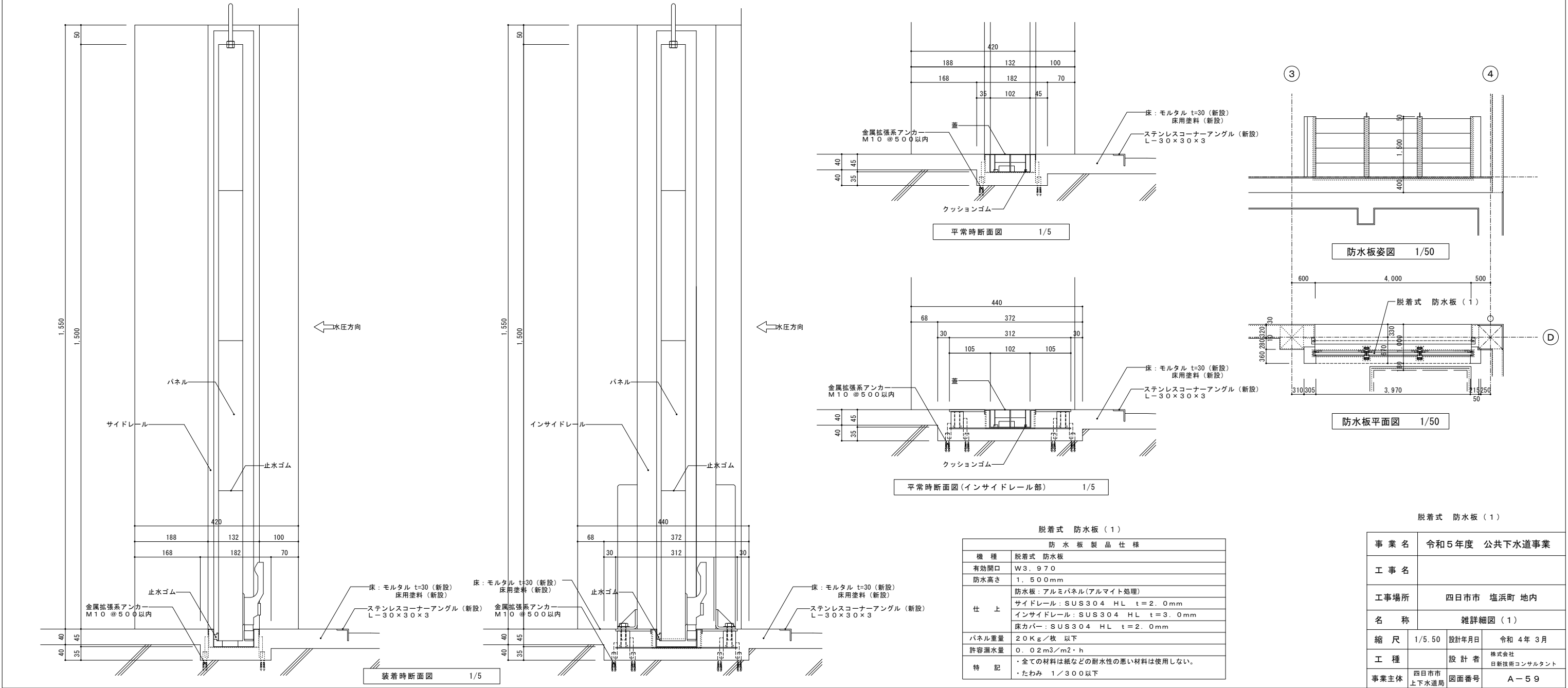
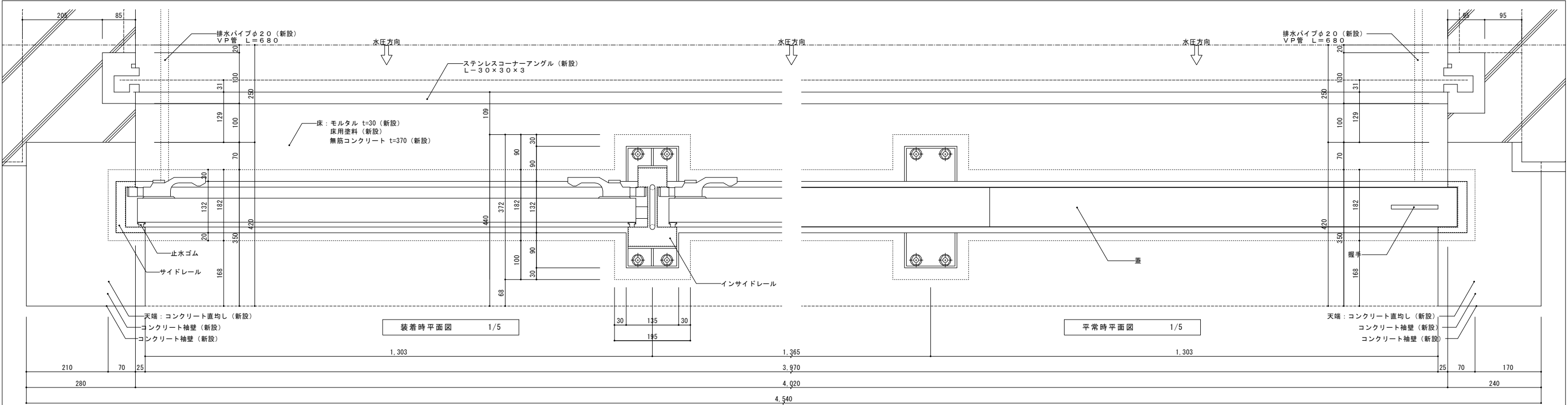
シーリングを示す。  
PU-2 (10×10)

新設建具廻りシーリング (MS-2) 10\*10新設

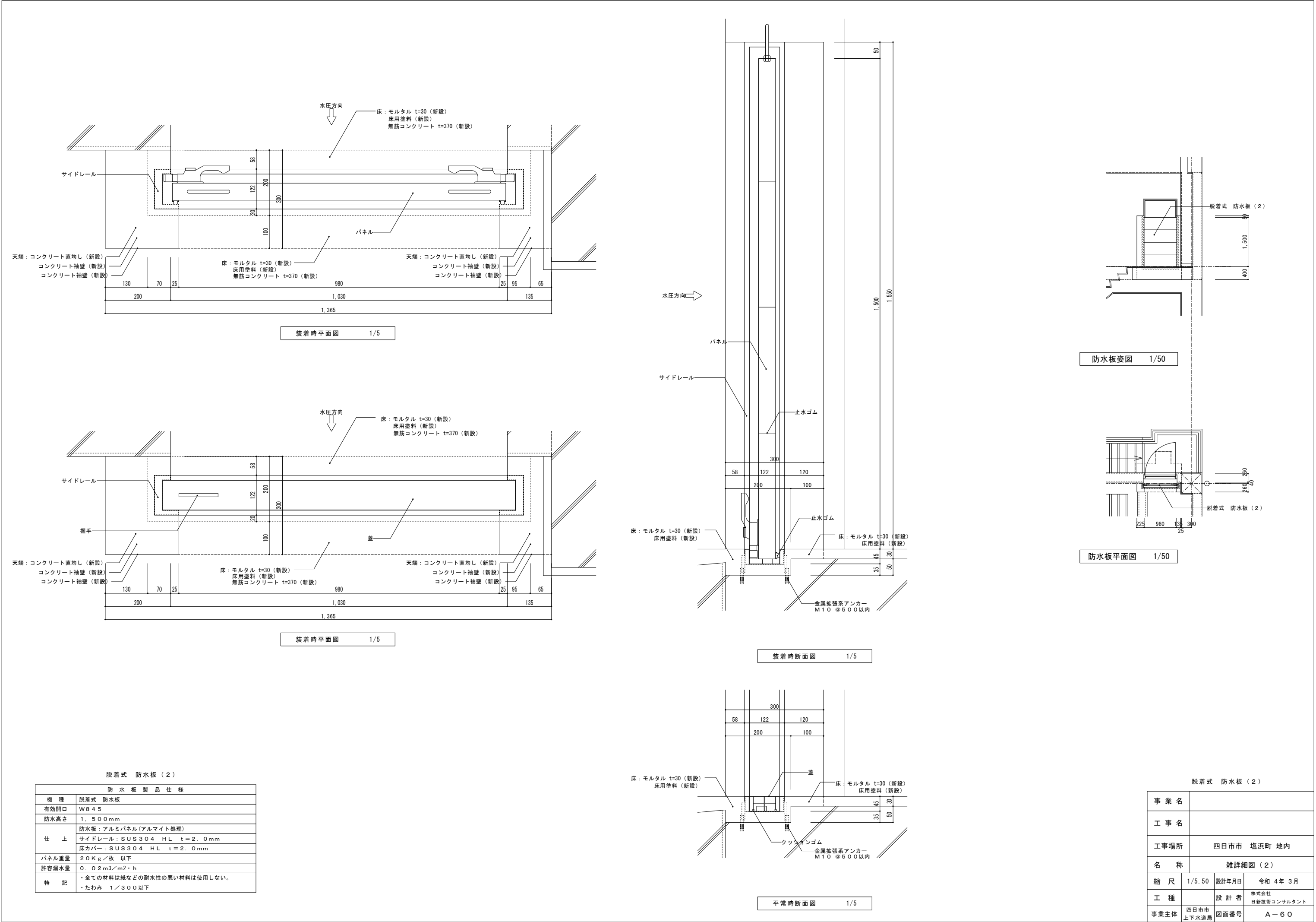
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図(26) 〈2F- 7 0/N〉		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルティング
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-57



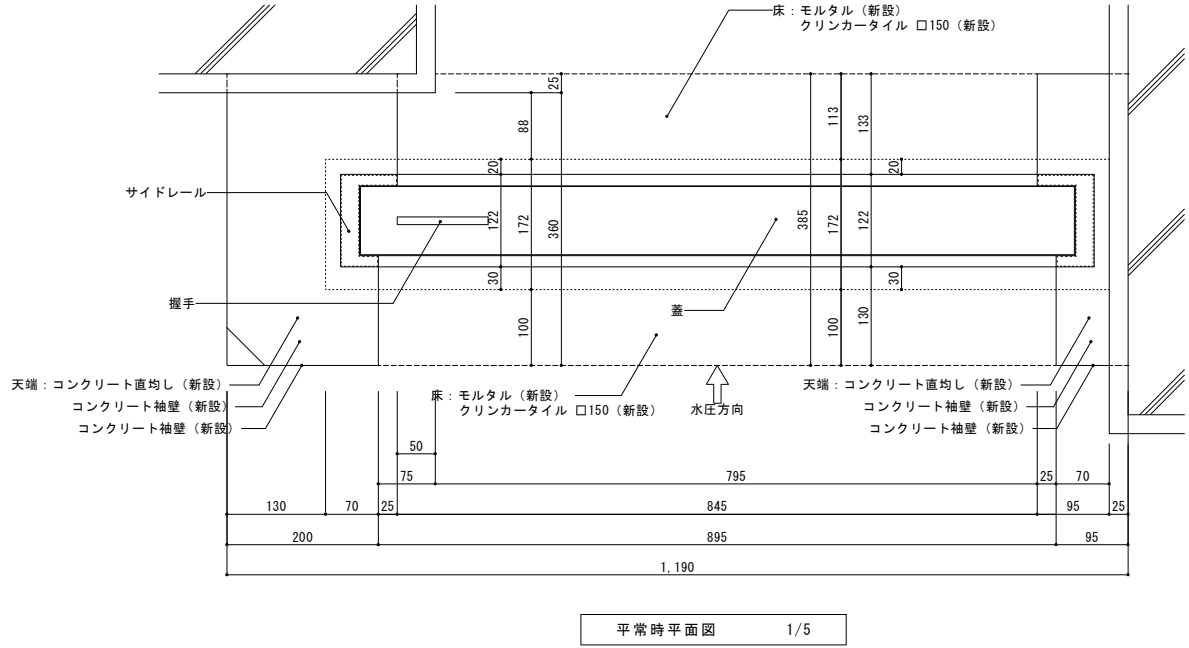
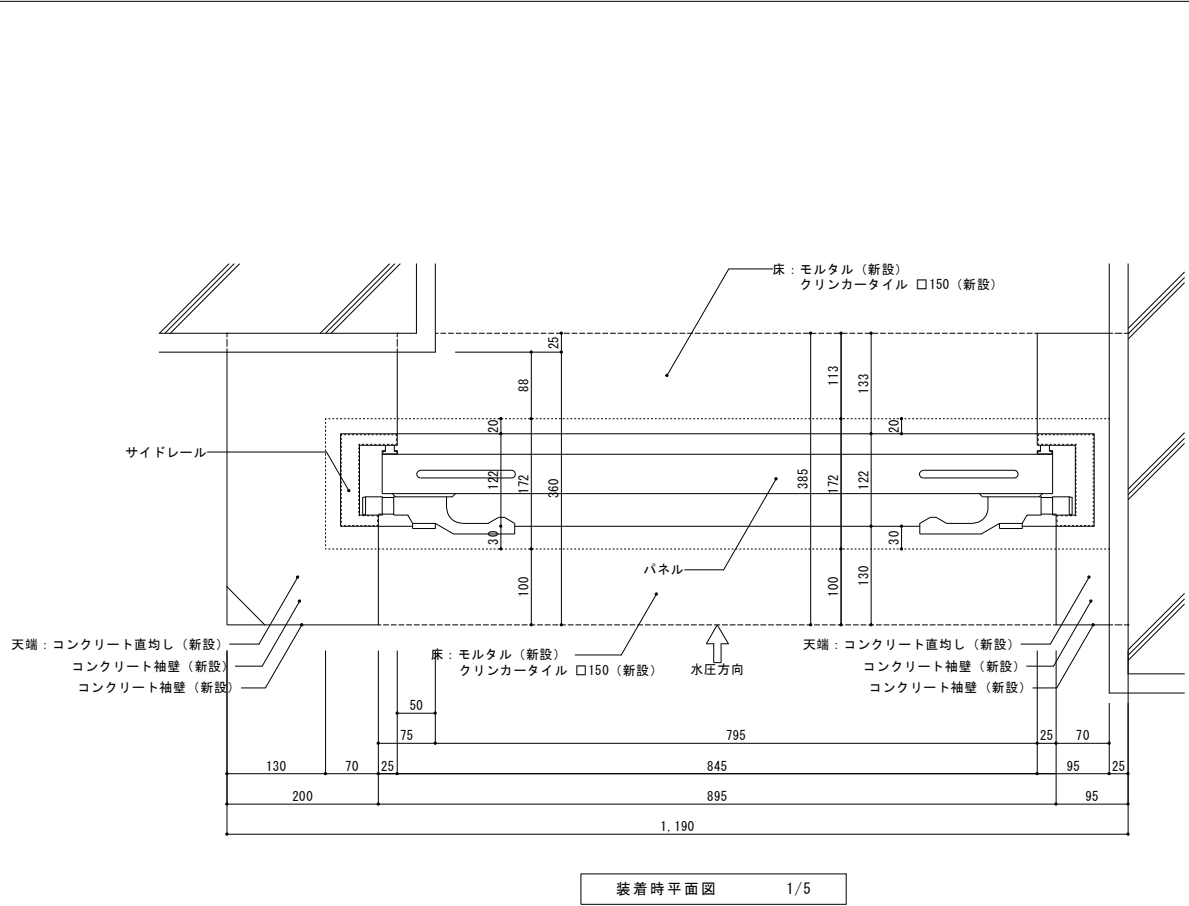
事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修部雑詳細図(2F) (2F-8 0/N)		
縮尺	1/10・50	設計年月日	令和 4 年 3 月 28 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-58



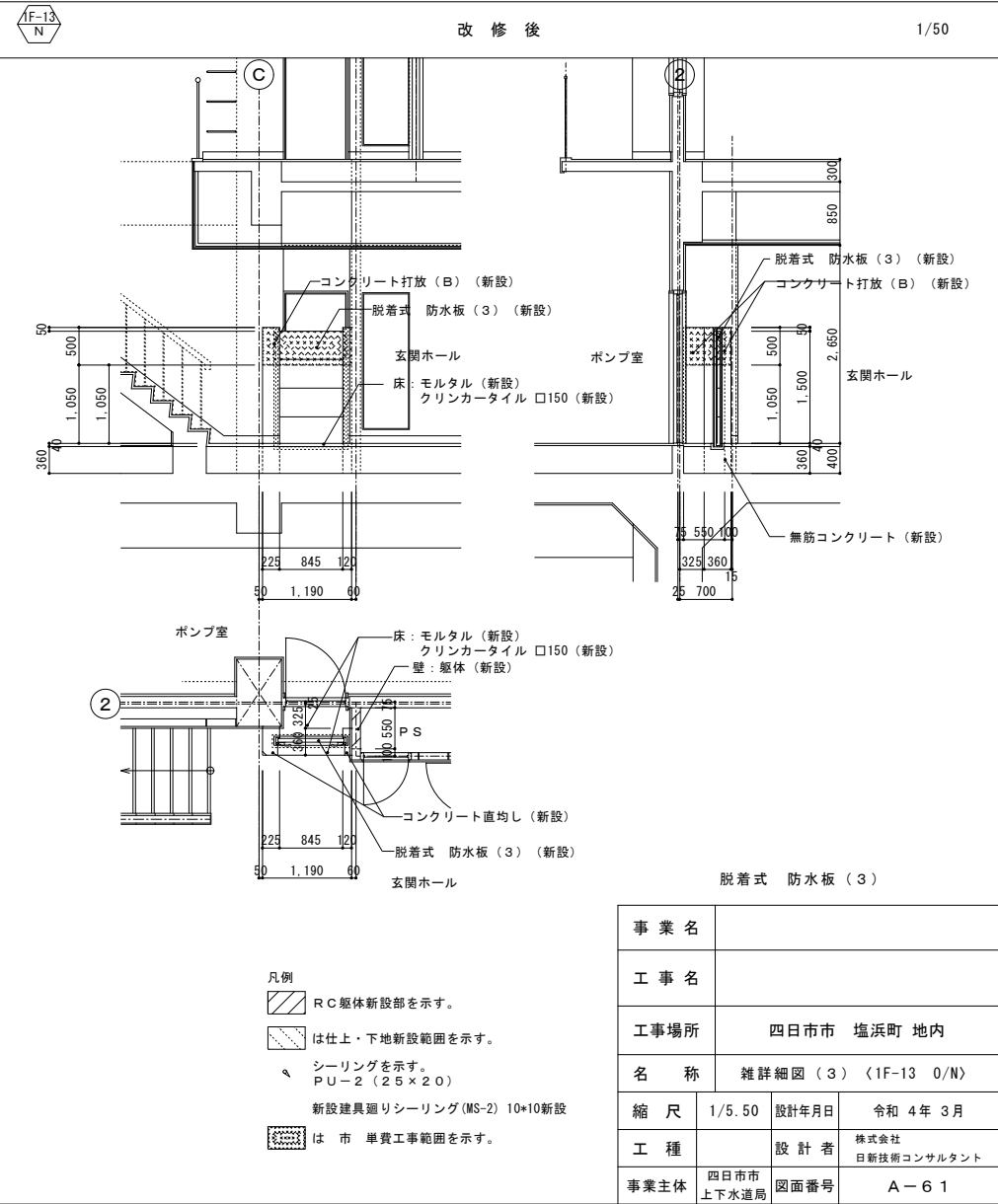
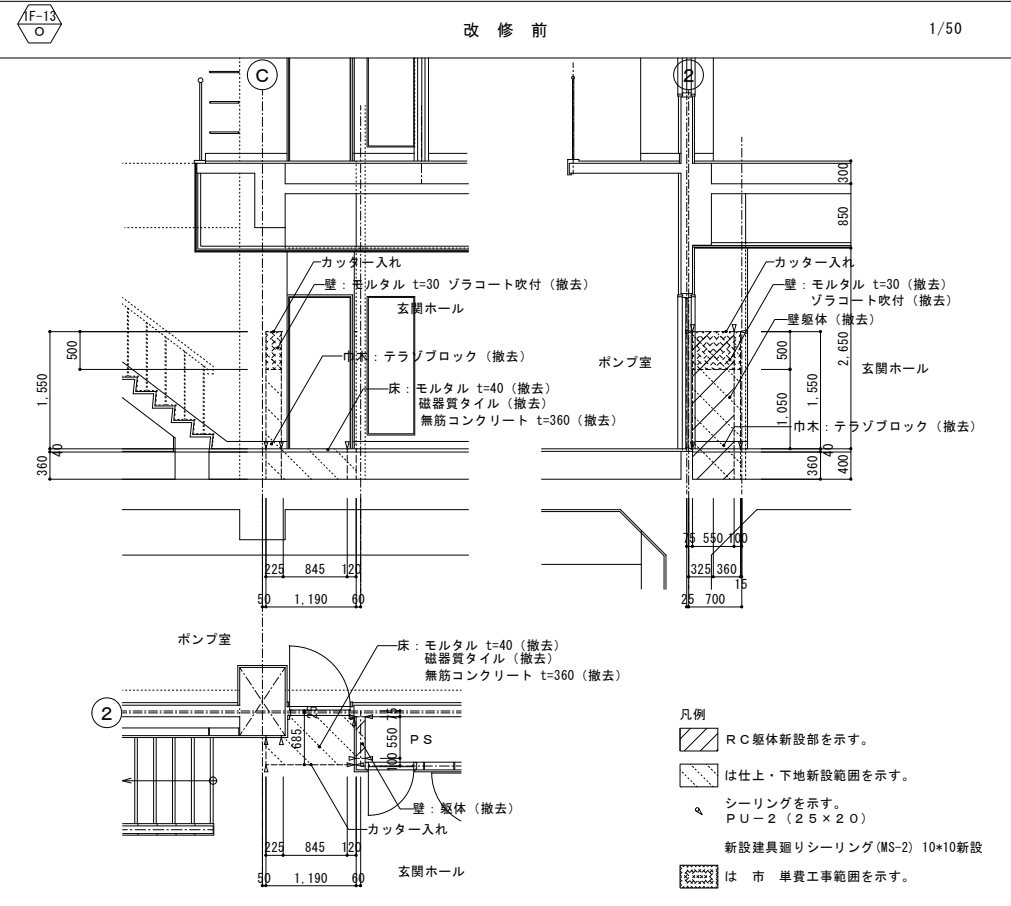
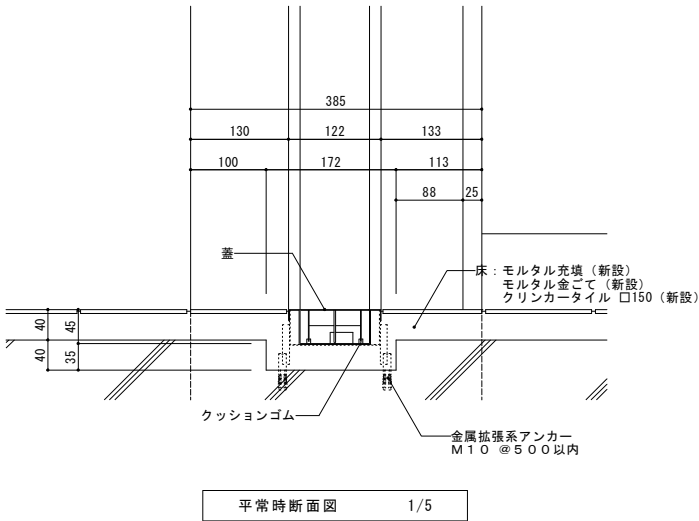
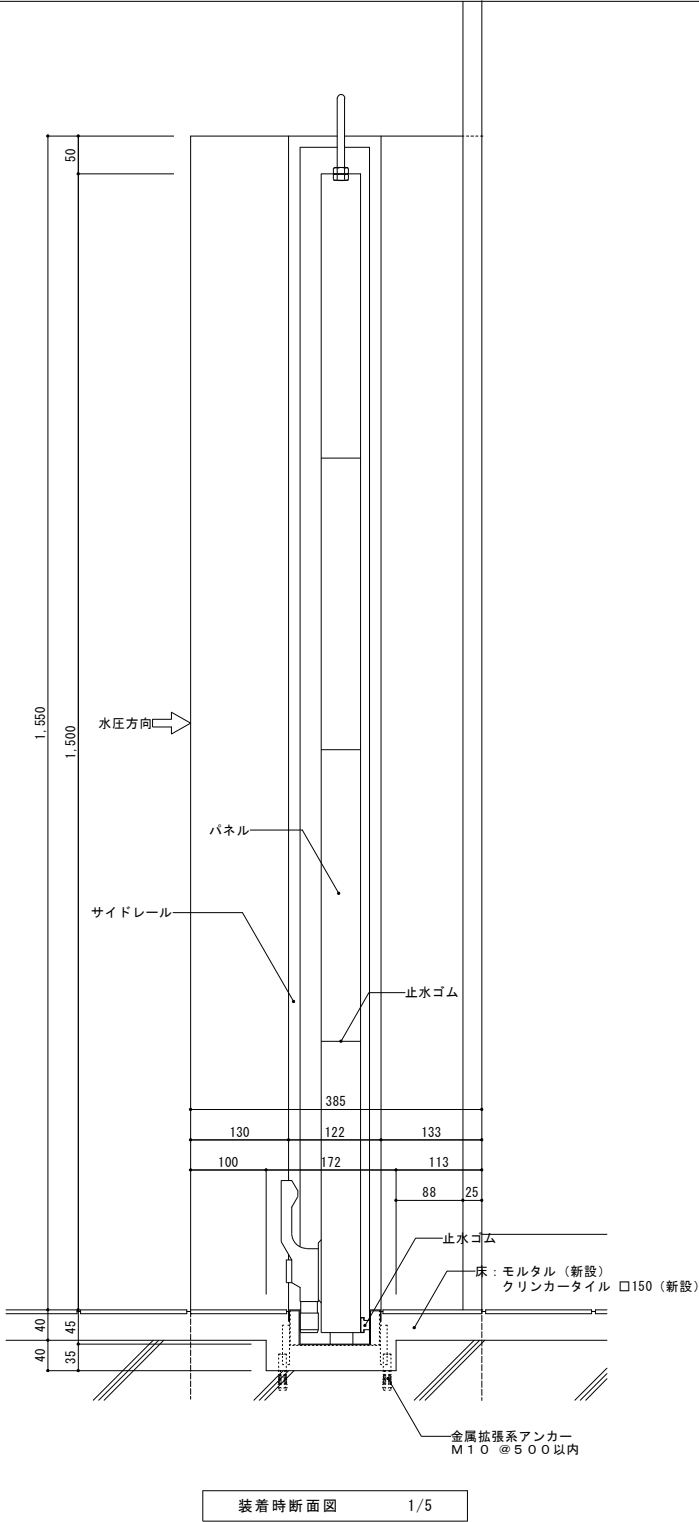
事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	雑詳細図 (1)		
縮尺	1/5.50	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-59



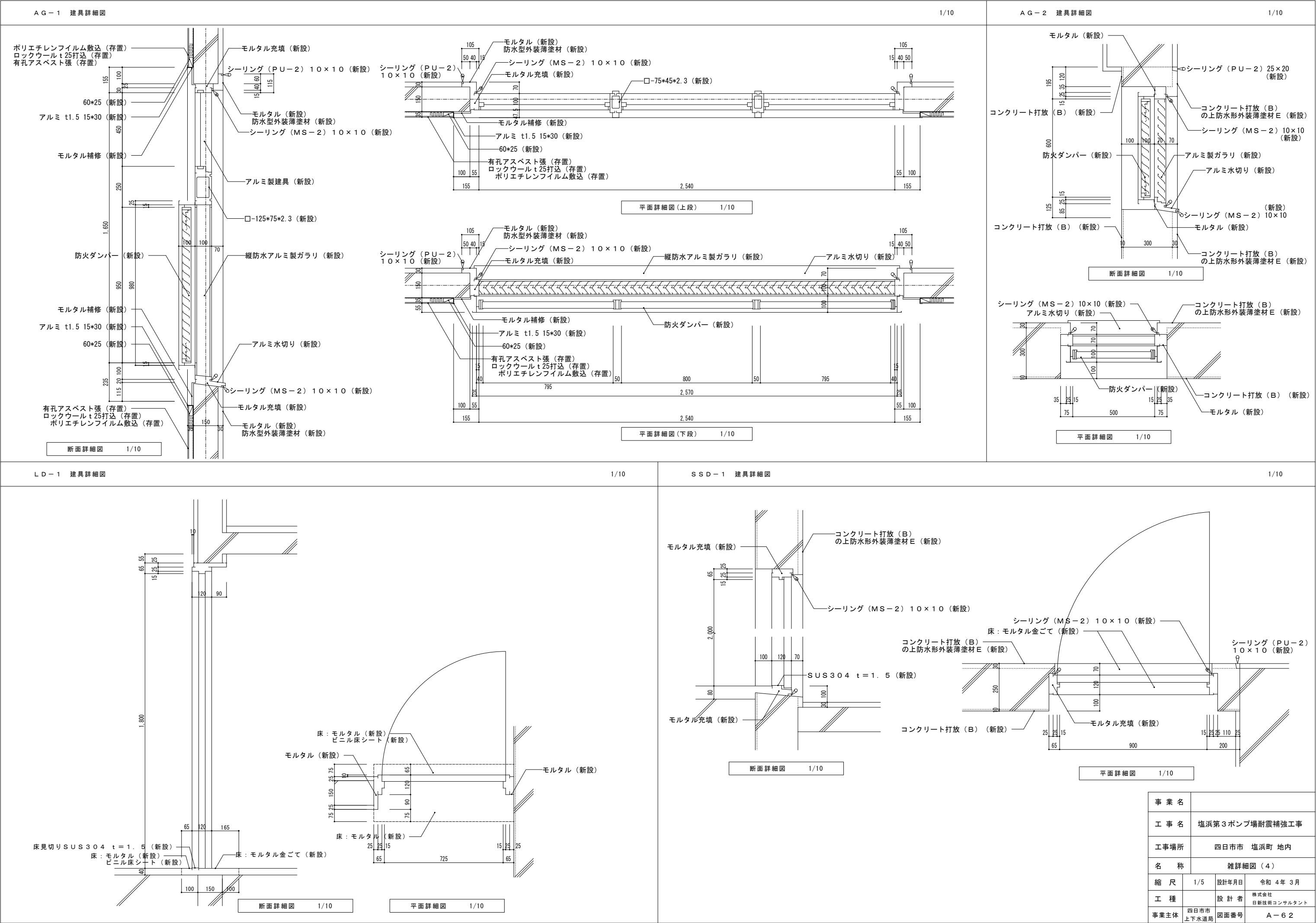


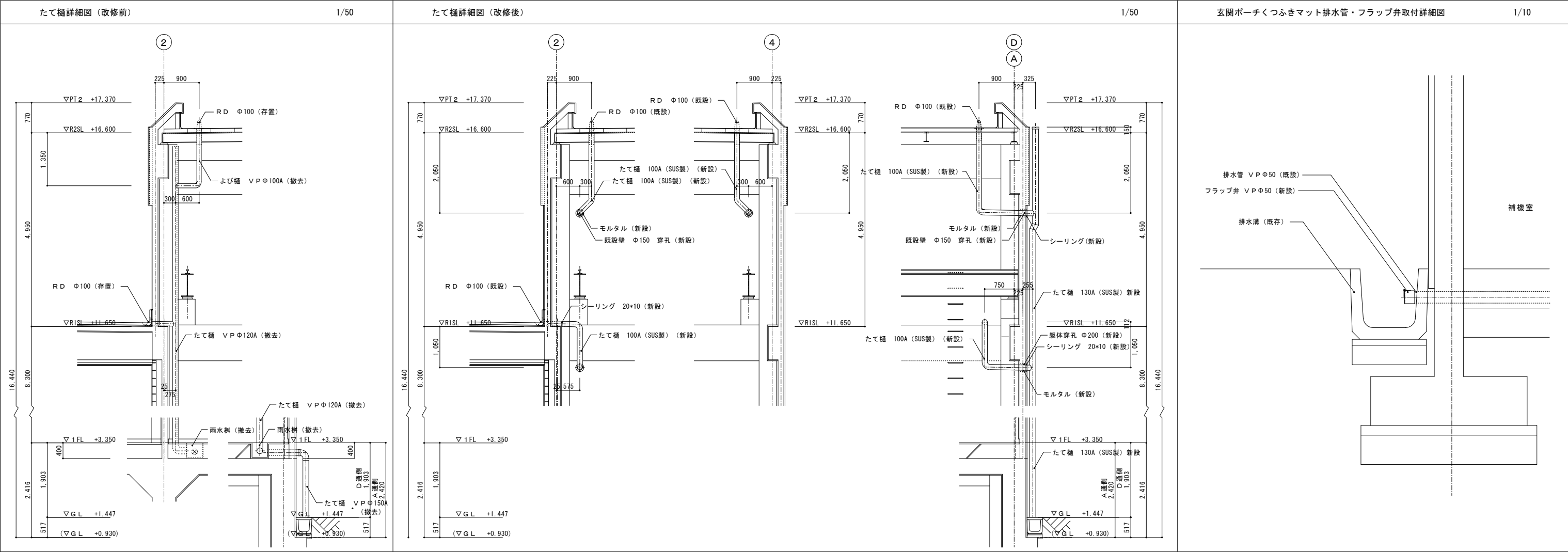


脱着式 防水板 (3)	
防水板製品仕様	
機種	脱着式 防水板
有効開口	W845
防水高さ	1,500mm
仕上	防水板: アルミパネル(アルマイト処理) サイドレール: SUS304 HL t=2.0mm 床カバー: SUS304 HL t=2.0mm
パネル重量	20Kg/枚 以下
許容漏水量	0.02m3/m2・h
特記	・全ての材料は紙などの耐水性の悪い材料は使用しない。 ・たわみ 1/300以下



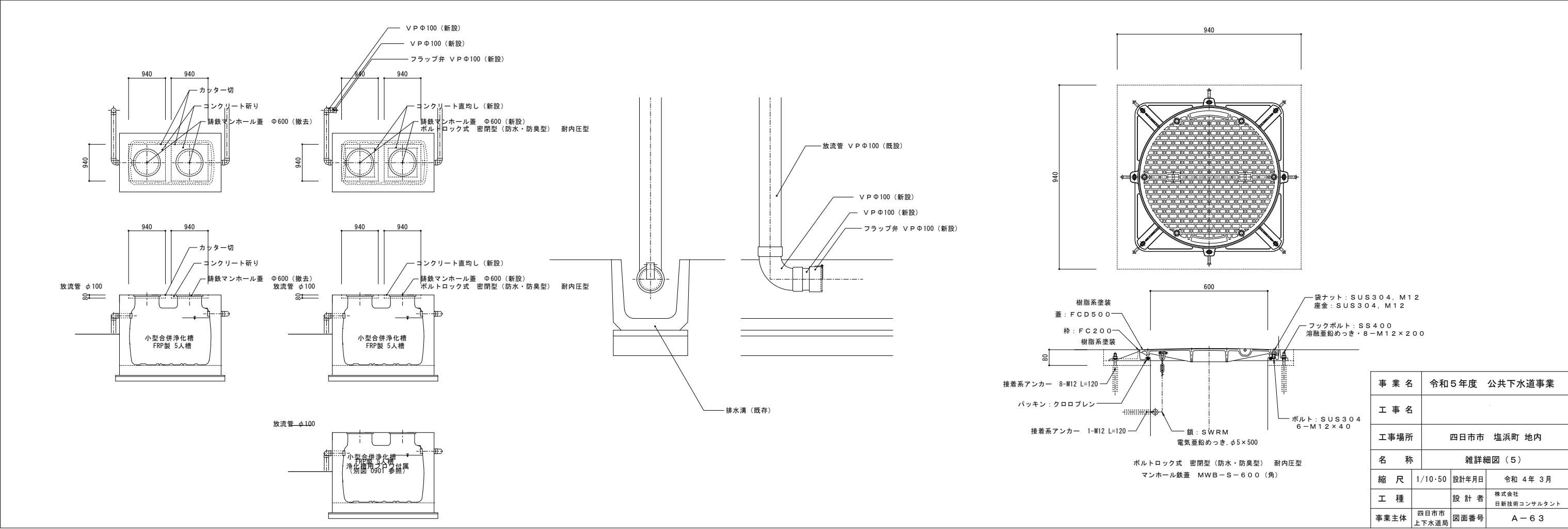
事業名	
工事名	
工事場所	四日市市 塩浜町 地内
名称	雑詳細図 (3) (1F-13 0/N)
縮尺	1/5.50
設計年月	令和 4 年 3 月
工種	設計者
事業主体	四日市市 上下水道局
図面番号	A-61



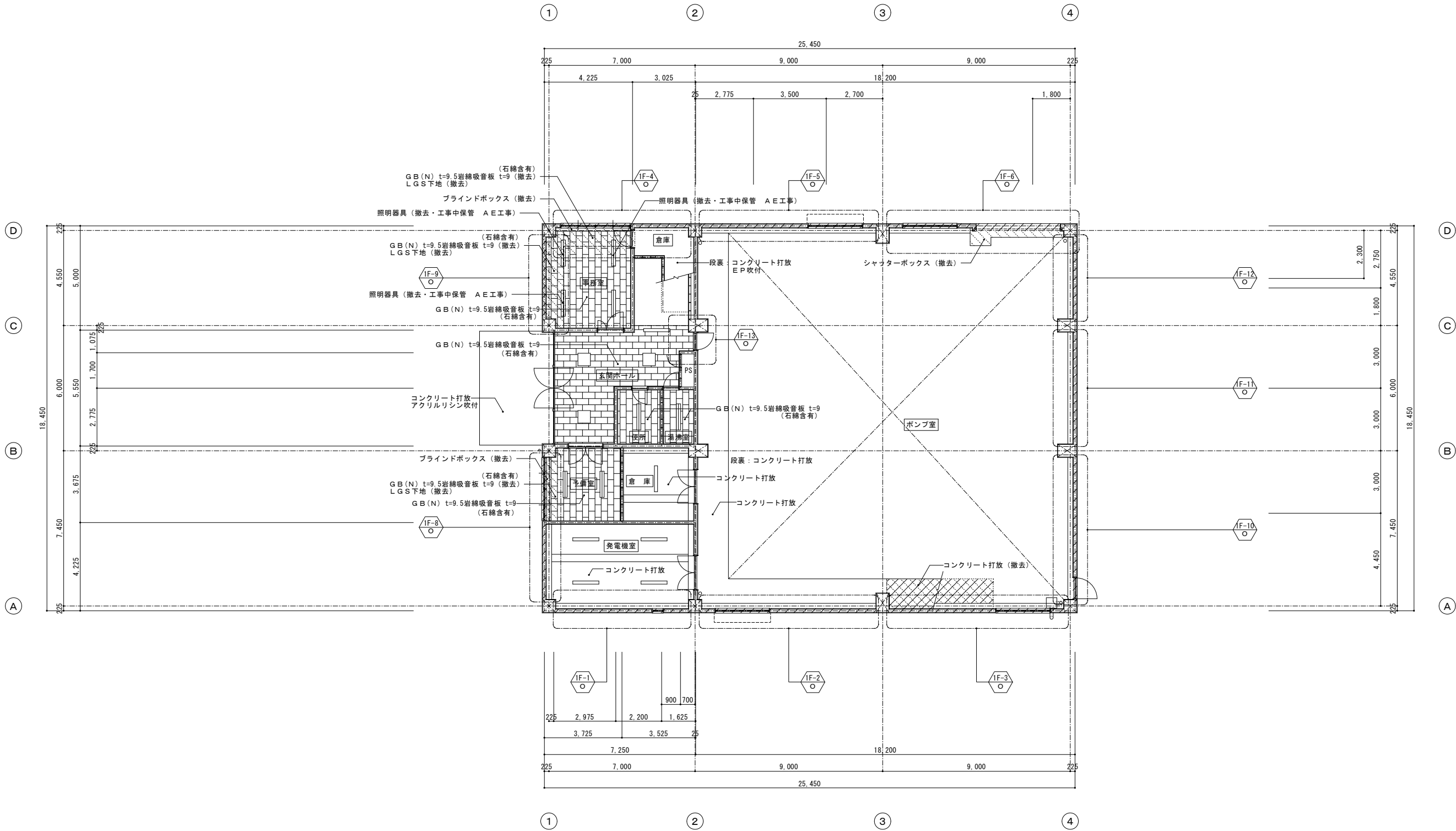


浄化槽マンホール蓋改修・放流管フラップ弁取付詳細図

1/10・50



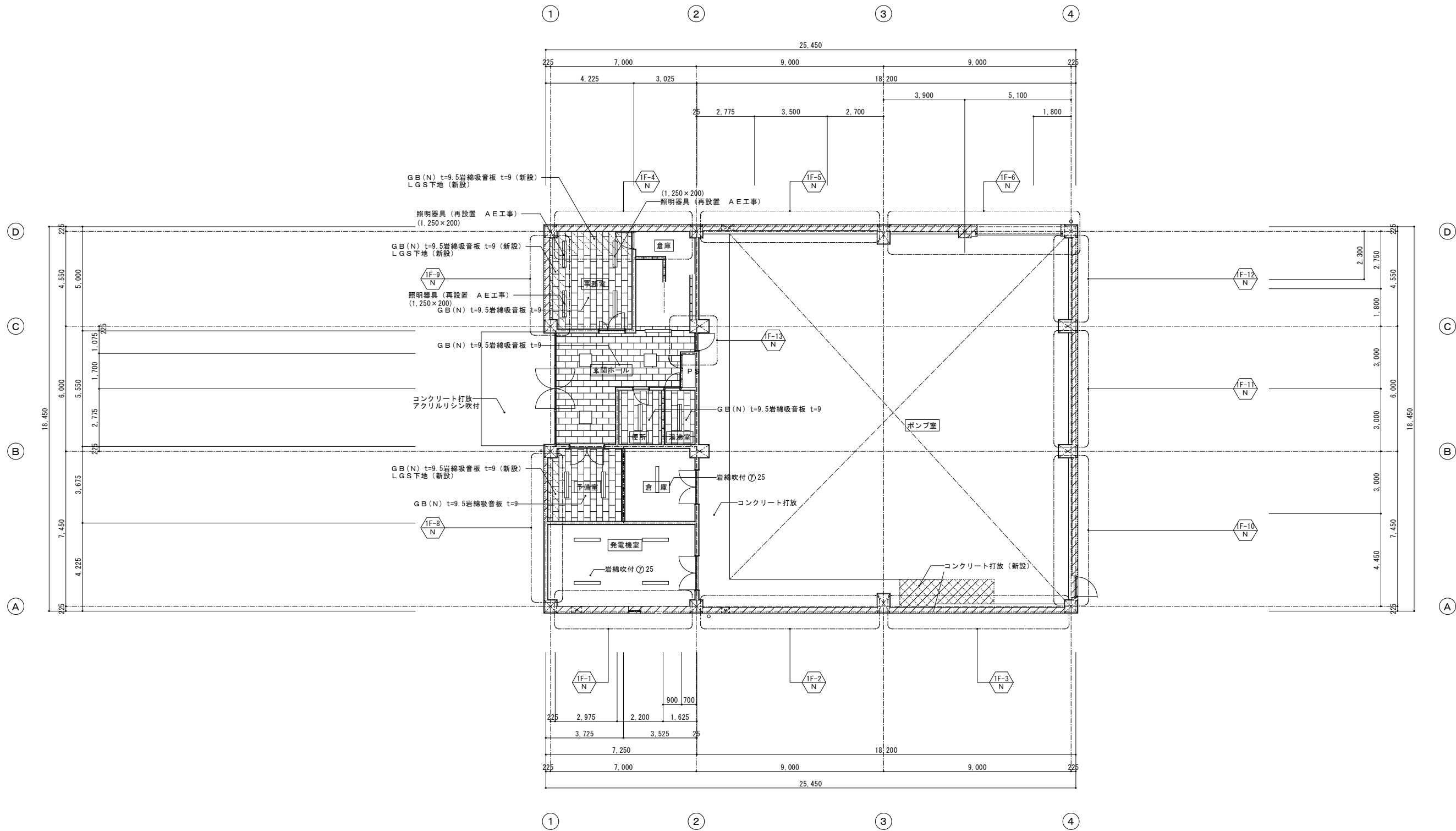
事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	雑詳細図（5）		
縮尺	1/10・50	設計年月	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-63



1 階天井伏図 1/100

- 凡例
- は工事部分を示す。
  - は部位番号を示す。  
--- は○：改修前 N：改修後
  - R C 躯体撤去部を示す。
  - は仕上・下地撤去範囲を示す。

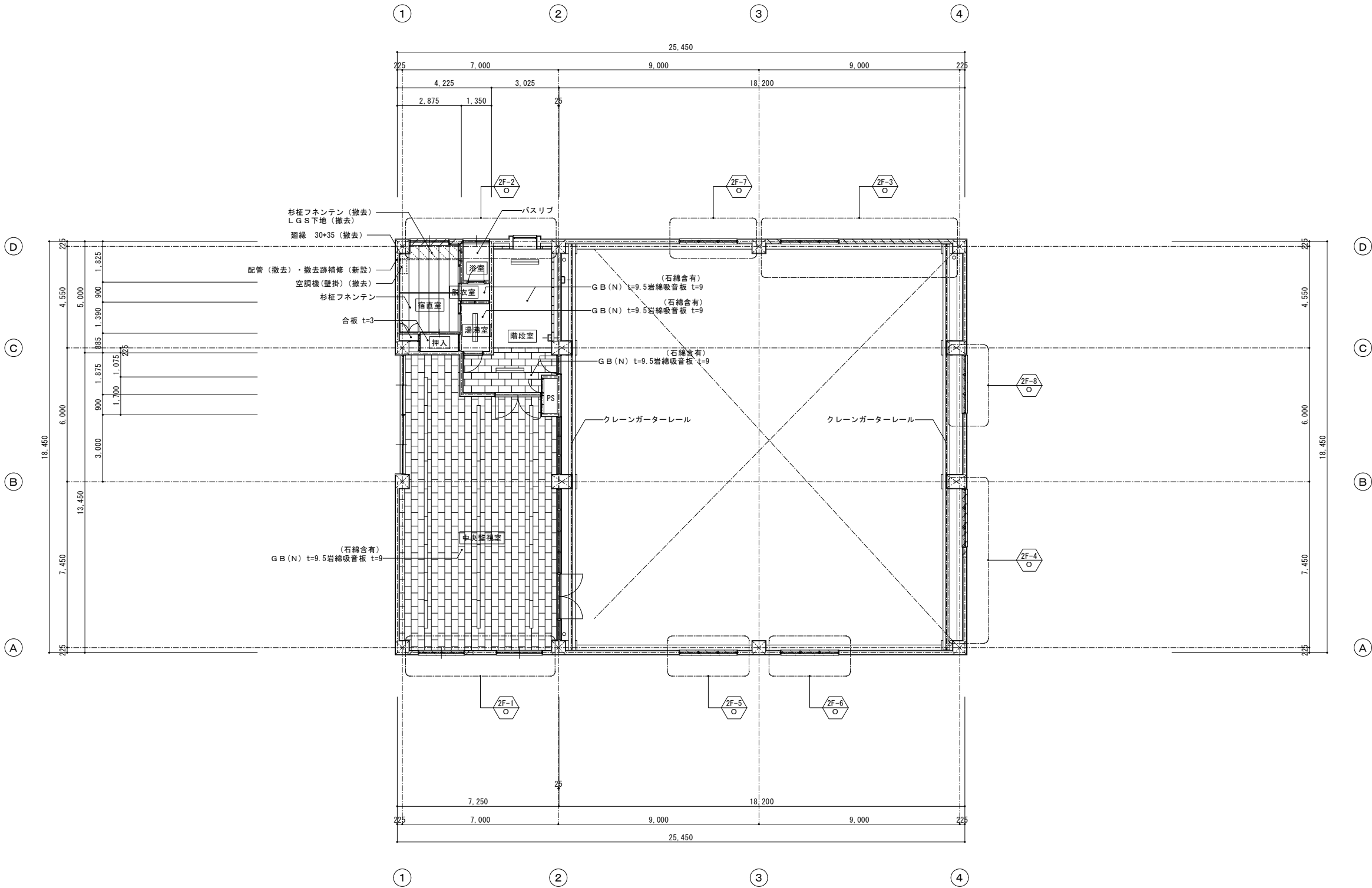
事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	天井伏図（1）（改修前）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-64



1 階天井伏図 1/100

- 凡例
- は工事部分を示す。
  - は部位番号を示す。  
--- は○：改修前 N：改修後
  - R C 躯体新設部を示す。
  - は仕上・下地新設範囲を示す。

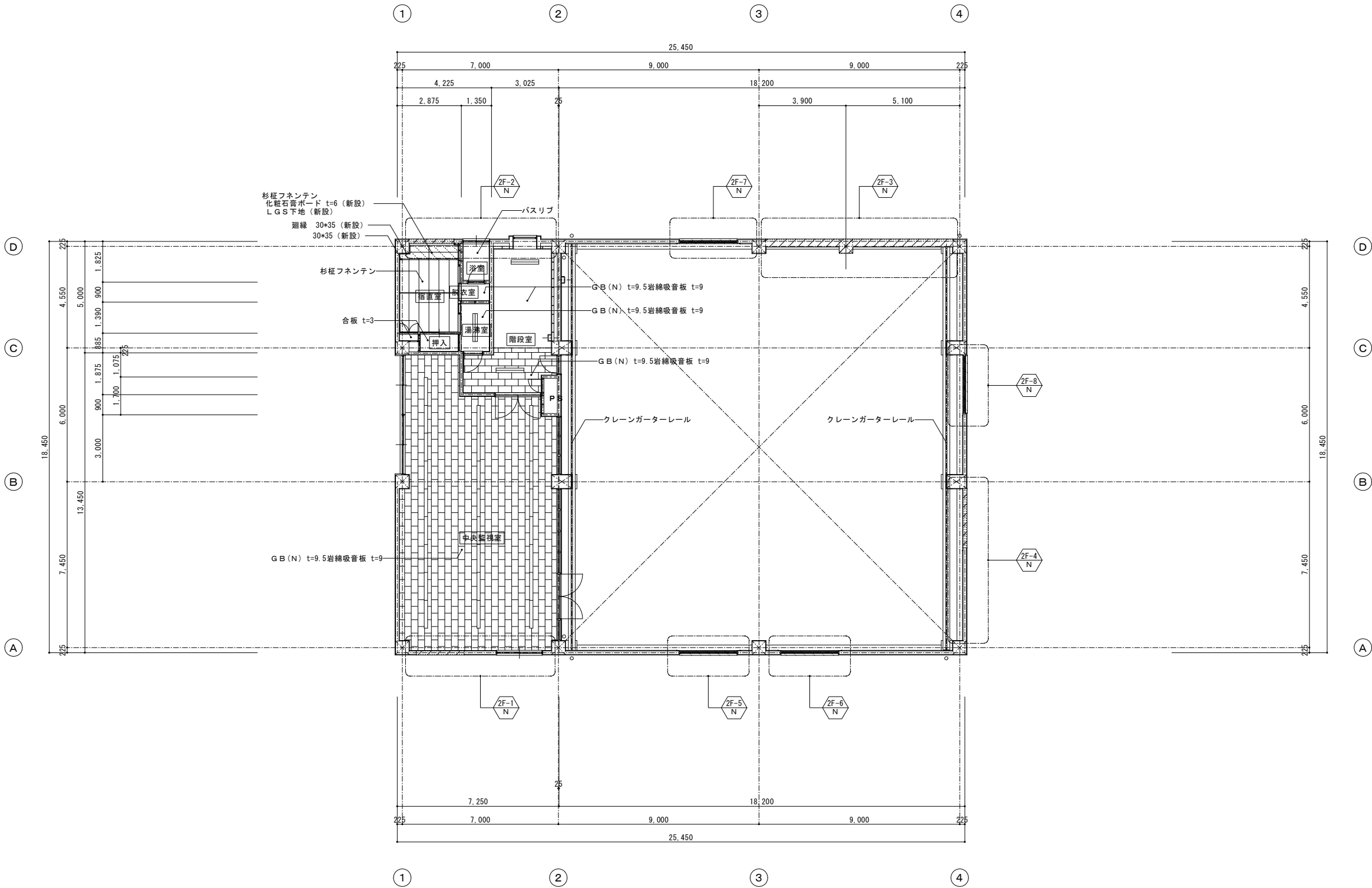
事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	天井伏図（2）（改修後）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-65



2 階天井伏図 1/100

- 凡例
- は工事部分を示す。
  - は部位番号を示す。
  - は○：改修前 N：改修後
  - RC躯体撤去部を示す。
  - は仕上・下地撤去範囲を示す。

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	天井伏図（3）（改修前）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-66

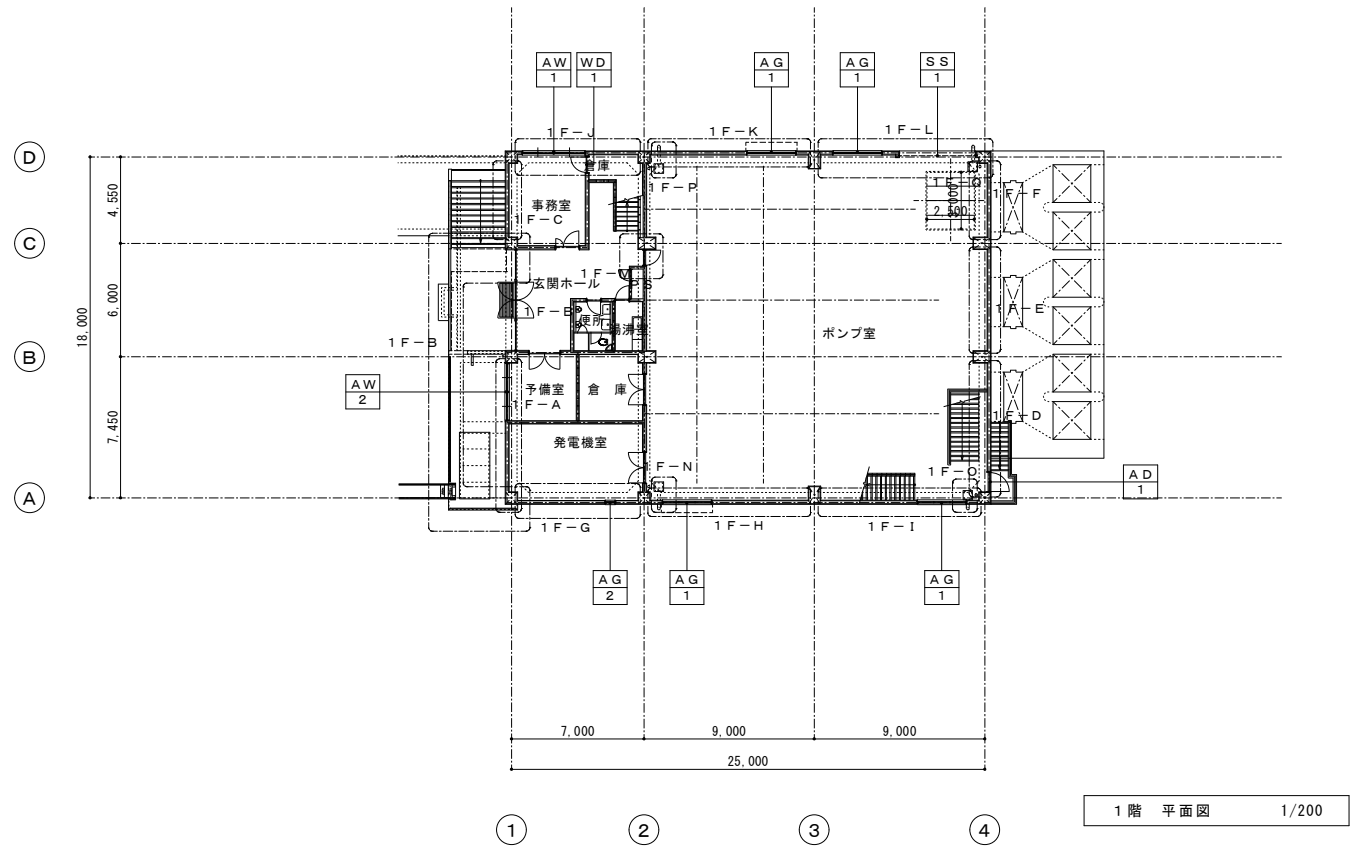
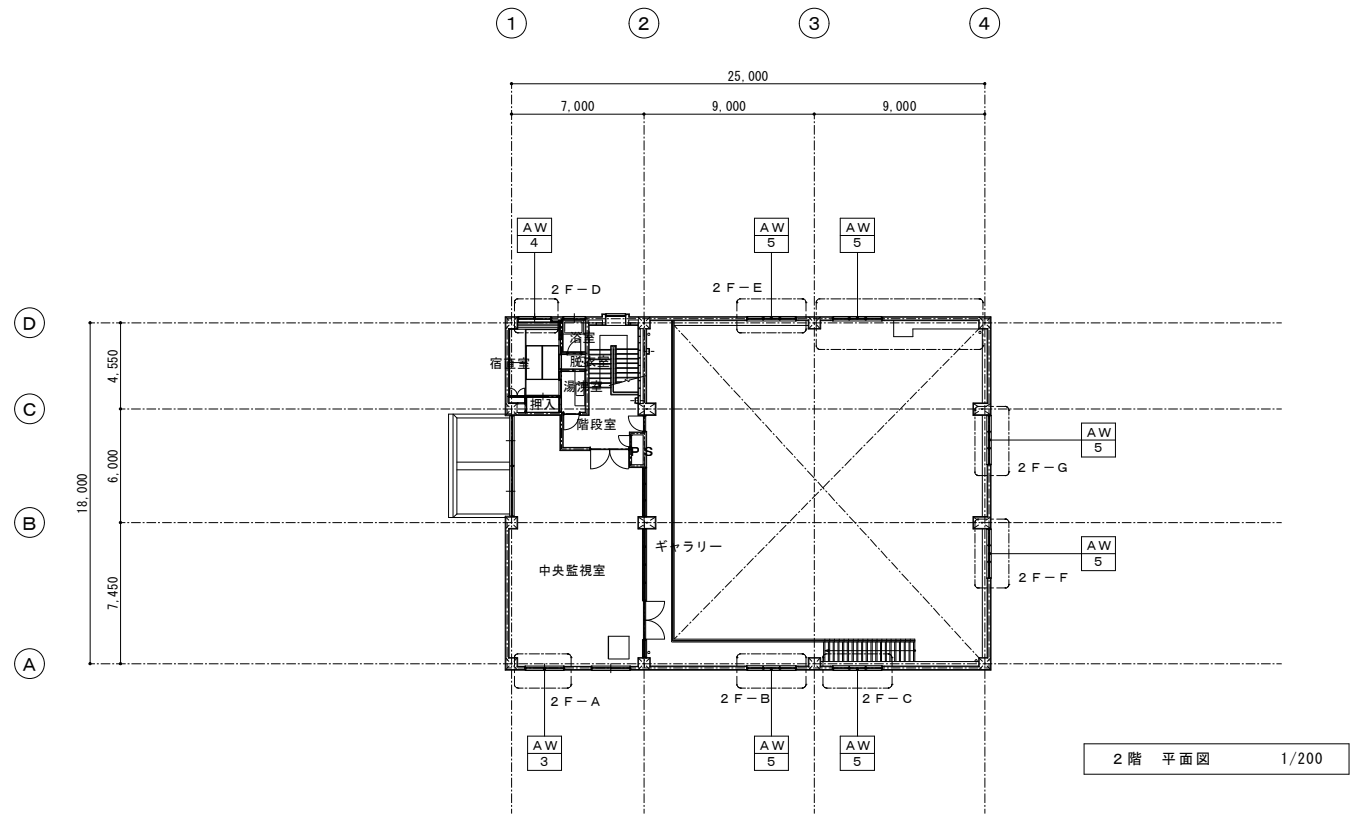


2 階天井伏図 1/100

- 凡例
- は工事部分を示す。
  - は部位番号を示す。
  - は○：改修前 N：改修後
  - RC躯体新設部を示す。
  - は仕上・下地新設範囲を示す。

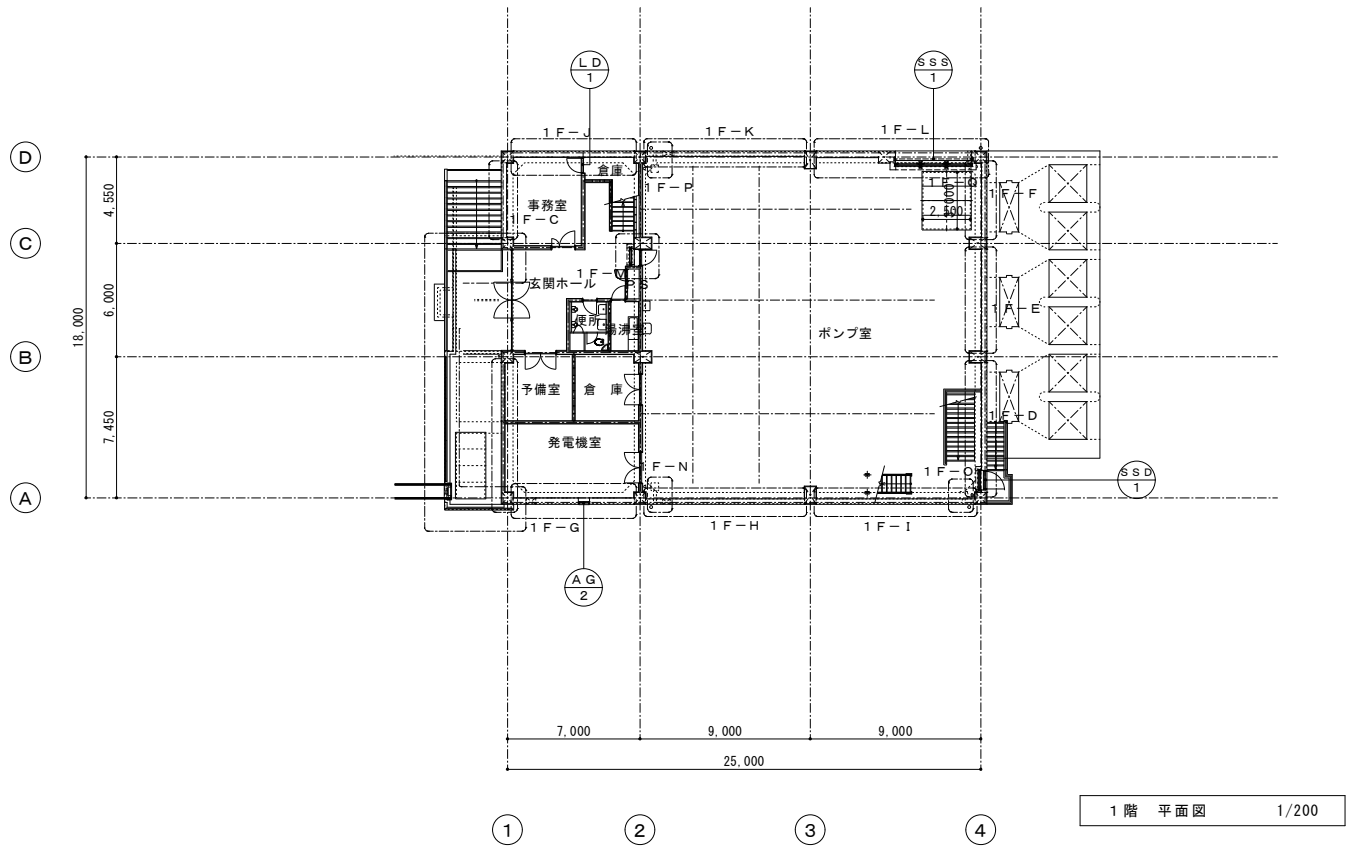
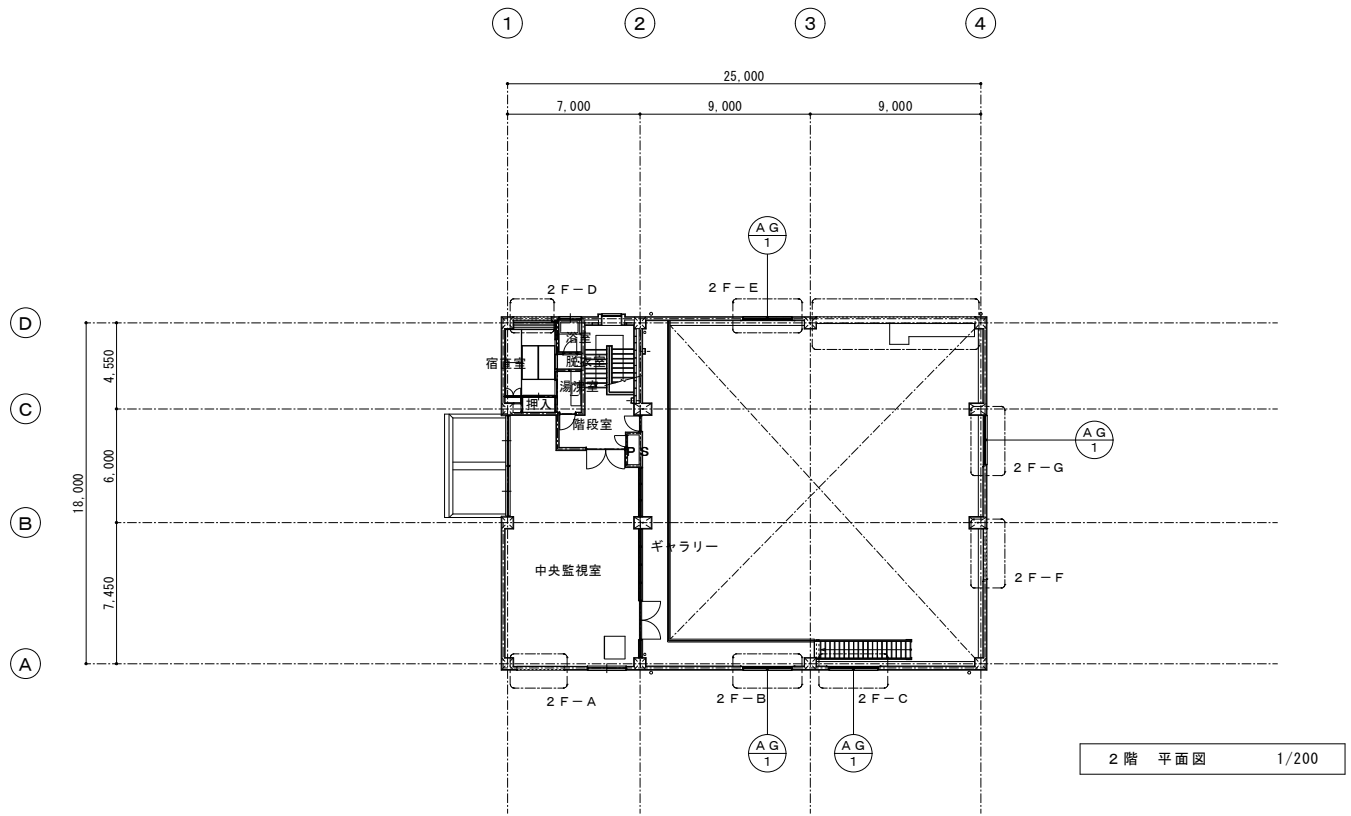
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	天井伏図（４）（改修後）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-67

改 修 前



AW ※ 既設建具撤去  
AD ※ 既存建具

改 修 後



SSD ※ 新設建具

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	建具位置図 (改修前・後)		
縮尺	1/200	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-68



建具表（１）														改 修 後			
符号 ・ 名称 ・ 個数		<div>AW1</div> 引違い窓 連窓	1	<div>AW2</div> 引違い窓 連窓	1	<div>AW3</div> 引違い窓	1	<div>AW4</div> 引違い窓 連窓	1	<div>AW5</div> 出し窓 ２段３連窓	6			<div>AG1</div> 縦防水ガラリ 上部はめ殺し窓	4		
場 所		1階 事務室		1階 予備室		2階 中央監視室		2階 宿直室		1階 ポンプ室上部				1階 ポンプ室			
仕上（枠共）		無着色陽極酸化塗装複合被膜		無着色陽極酸化塗装複合被膜		無着色陽極酸化塗装複合被膜		無着色陽極酸化塗装複合被膜		無着色陽極酸化塗装複合被膜				無着色陽極酸化塗装複合被膜			
建具	見込（ランマ）																
	硝子（ランマ）	P 5		P 5		P 5		P 5		P 5						N 6、8	
	ガラリ	_____		_____		_____		_____		_____						有効開口率 50%	
建具枠	見込取合 番据	7 0		7 0		7 0		7 0		7 0				1 0 0			
枠記号 番据（水切）記号																	
建具金物		引違い金物一式、水切、アングル		引違い金物一式、水切、アングル		引違い金物一式、水切、アングル		引違い金物一式、水切、アングル		出し金物一式、水切、アングル				水切、アングル		防火ダンパー	
その他																防火設備	
形状・寸法																	
符号 ・ 名称 ・ 個数						<div>AG1</div> ガラリ	4	<div>AG2</div> ガラリ	1					<div>AG2</div> ガラリ	1		
場所						1階 ポンプ室		1階 ポンプ室						1階 ポンプ室			
仕上（枠共）						無着色陽極酸化塗装複合被膜		無着色陽極酸化塗装複合被膜						無着色陽極酸化塗装複合被膜			
建具	見込（ランマ）																
	硝子（ランマ）																
	ガラリ					_____		_____								有効開口率 35%	
建具枠	見込取合 番据					7 0		7 0						7 0			
枠記号 番据（水切）記号																	
建具金物								水切、アングル		水切、アングル				水切、アングル		防火ダンパー	
その他																防火設備	
形状・寸法																	
符号 ・ 名称 ・ 個数				<div>AD1</div> 片開き扉	1	<div>WD1</div> 片開きフラッシュ扉	1	<div>SS1</div> 電動重量シャッター	1	<div>SSD1</div> 片開き扉	1	<div>LD1</div> 片開き扉	1	<div>SSS1</div> 電動重量シャッター	1		
場所				1階 ポンプ室		1階 事務室 倉庫		1階 ポンプ室		1階 ポンプ室		1階 事務室 倉庫		1階 ポンプ室			
仕上（枠共）				無着色陽極酸化塗装複合被膜		ポリ合板 t 4.0		OP		DP（FUE）		SOP		DP（FUE）			
建具	見込（ランマ）					4 0		t 1. 5				3 6		t 1. 5			
	硝子（ランマ）																
	ガラリ			_____		_____		_____		_____		_____		_____			
建具枠	見込取合 番据			7 0						1 2 0		1 2 0					
枠記号 番据（水切）記号																	
建具金物				握玉付シリンダー錠、ビボットヒンジ、ドアストッパー		握玉付空錠、丁番、ドアストッパー				＜4-44-3＞に準ずる 一般丁番(3枚)・シリンダー本締鍵(レバーハンドル) ドアクローザー(常時閉鎖)・戸当り付あり止		＜4-22-5＞に準ずる 一般丁番(2枚)・シリンダー本締鍵(レバーハンドル) 戸当り付あり止		SUSレール・まぐさ、電動装置、非常停止装置 シリンダー本締りシャッター錠、シャッターケース			
その他										防火設備 簡易気密戸				防火設備			
形状・寸法																	

共通事項

1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。  
但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締りとする。

2. パイプベース、ダクトベースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。

3. 便所等の施設を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。

4. AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、およびり止めをつける。  
壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）

5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。

6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1. 5 0 0以内とする。

7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。

8. 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。（特選り詳細による。）

9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは4 0 mmとする。

10. 防火戸の位置は建具配置図による。

11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。

12. 外部アルミ製建具の耐風圧性は、S－5とする。

建具略号

種別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	A D	A W	A G	A O D			A S	a W
鋼製	S D	S W	S G	S O D			S S	
鋼製軽量	L D						L S	
ステンレス製	SS D	SS W	SS G				SS S	
木製	W D	W W	W G		P	H		

ガラス略号

F	型板ガラス	金物	D C	ドアクローザー
P	フロート板ガラス		A H	オートヒンジ
N	網入型板ガラス		F H	フロアヒンジ
N P	網入みがき板ガラス		P H	ビボットヒンジ

AW※

既設建具撤去

SSD※

新設建具

事業名

令和5年度 公共下水道事業

工事名

工事場所

四日市市 塩浜町 地内

名称

建具表（改修前・後）

縮尺

1/50

設計年月日

令和 4 年 3 月

工種

設計者

事業主体

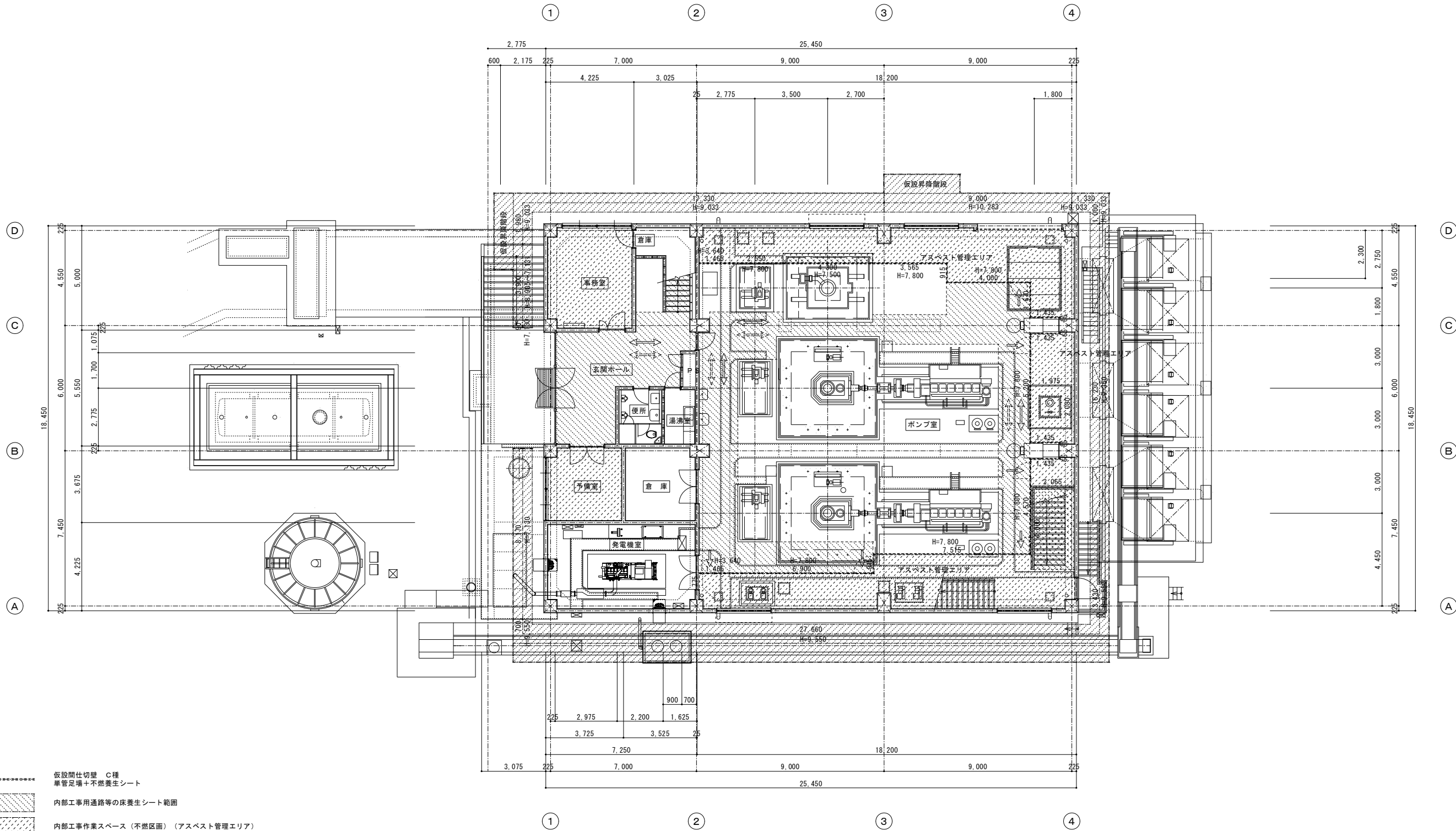
四日市市上下水道局

図面番号

A－6 9

株式会社

日新技術コンサルタント



凡 例

- 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
- 内部工事用通路等の床養生シート範囲
- 内部工事作業スペース（不燃区画）（アスベスト管理エリア）

- 工事動線
- 維持管理動線

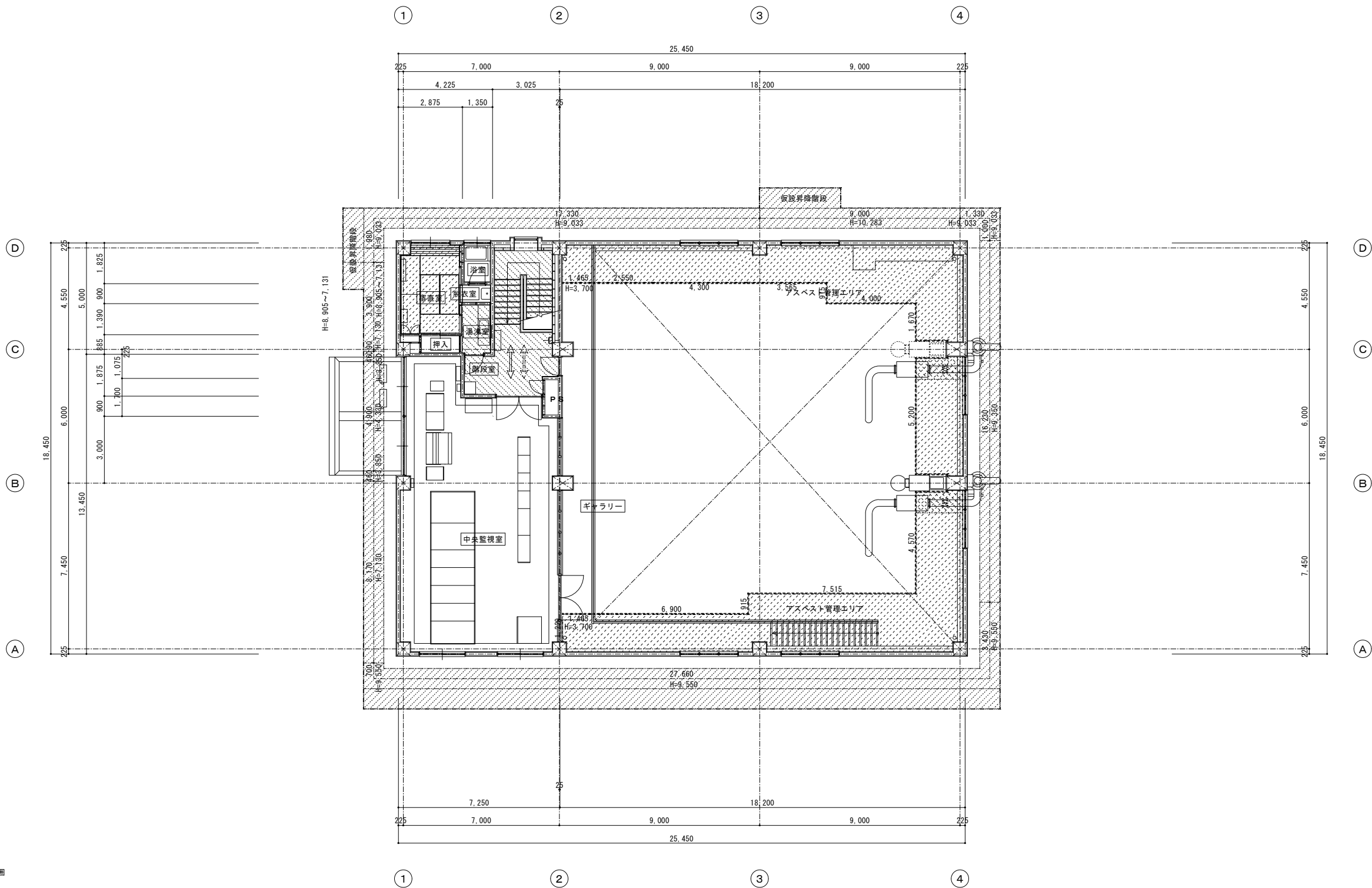
注 記

- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
- 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
- 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板  $t=4$ （不燃）とする。扉寸法は  $W=800$   $H=2100$  とし、常時閉鎖とする。
- 特記なき限り工事作業スペース内の設備機器等はシートにより養生とする。

1 階 平面図 1/100

参 考 図  
アスベスト撤去

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	アスベスト撤去工事仮設計画図(1)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-70



- 凡 例
- 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース（不燃区画）（アスベスト管理エリア）
  - 工事動線
  - 維持管理動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
  - 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
  - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t = 4（不燃）とする。厚寸法は W = 800 H = 2100 とし、常時閉鎖とする。
  - 特記なき限り工事作業スペース内の設備機器等はシートにより養生とする。

参 考 図  
アスベスト撤去

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	アスベスト撤去工事仮設計画図(2)		
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-7 1



凡 例

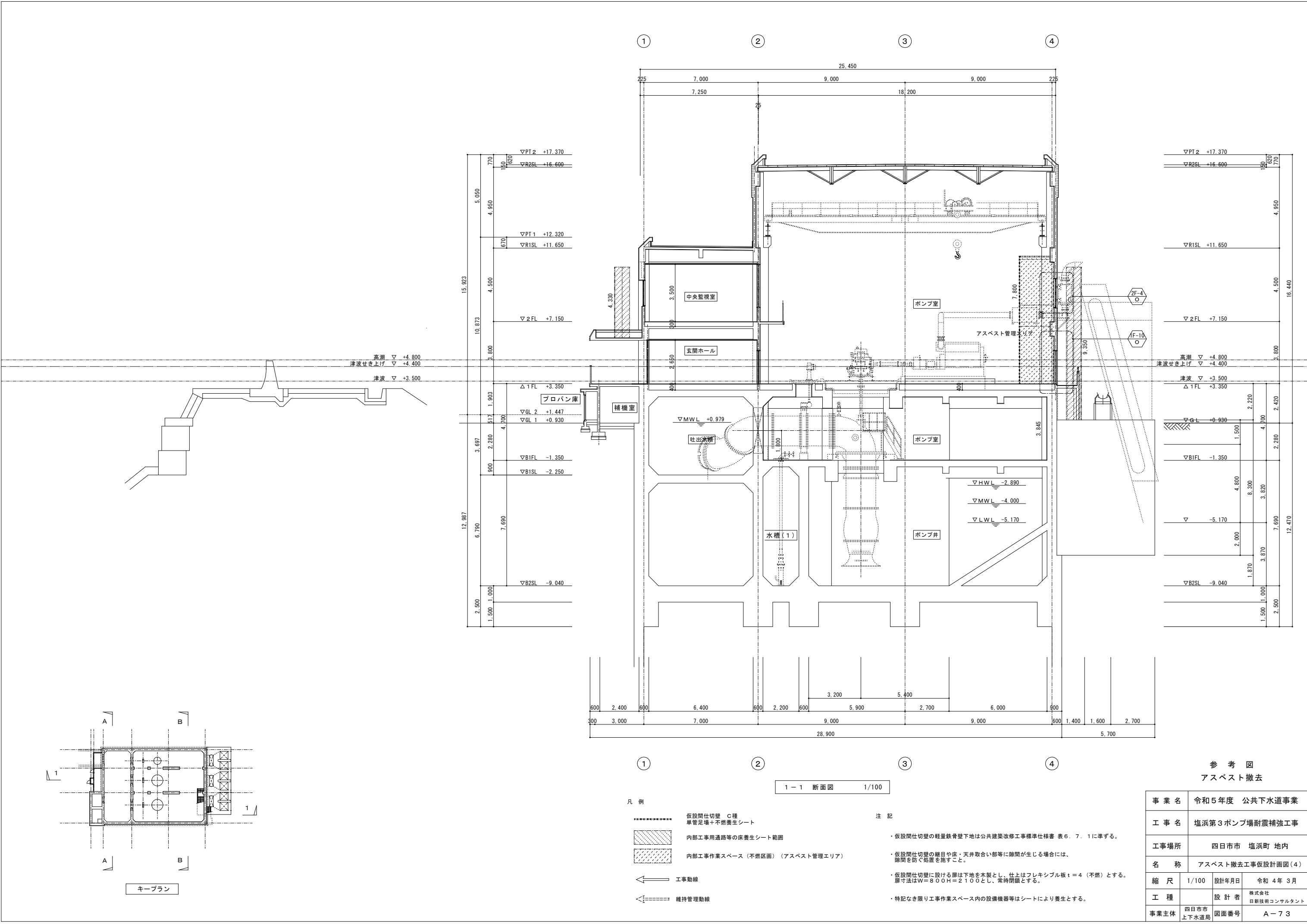
- 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
- 内部工事用通路等の床養生シート範囲
- 内部工事作業スペース（不燃区画）（アスベスト管理エリア）

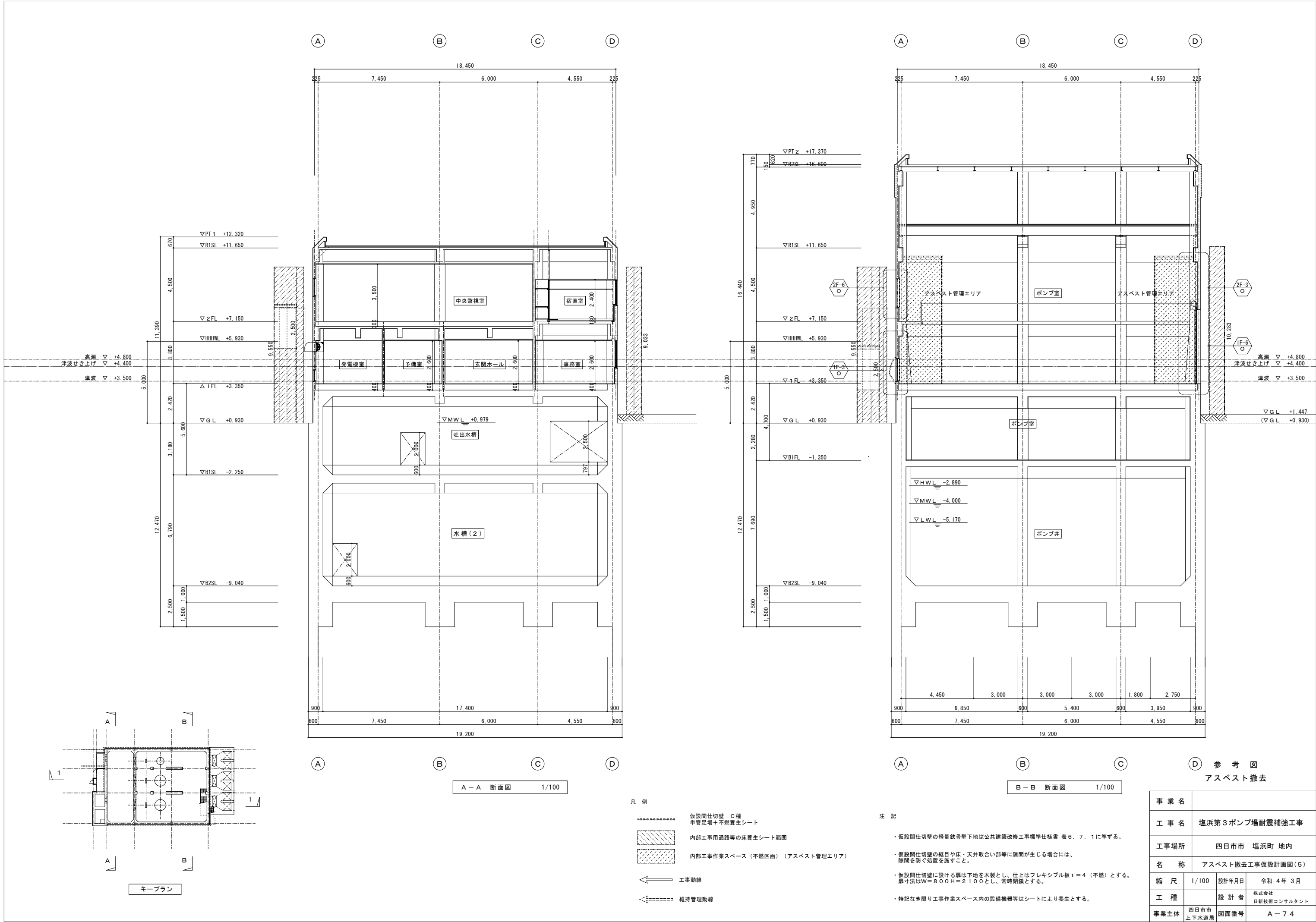
- 工事動線
- 維持管理動線

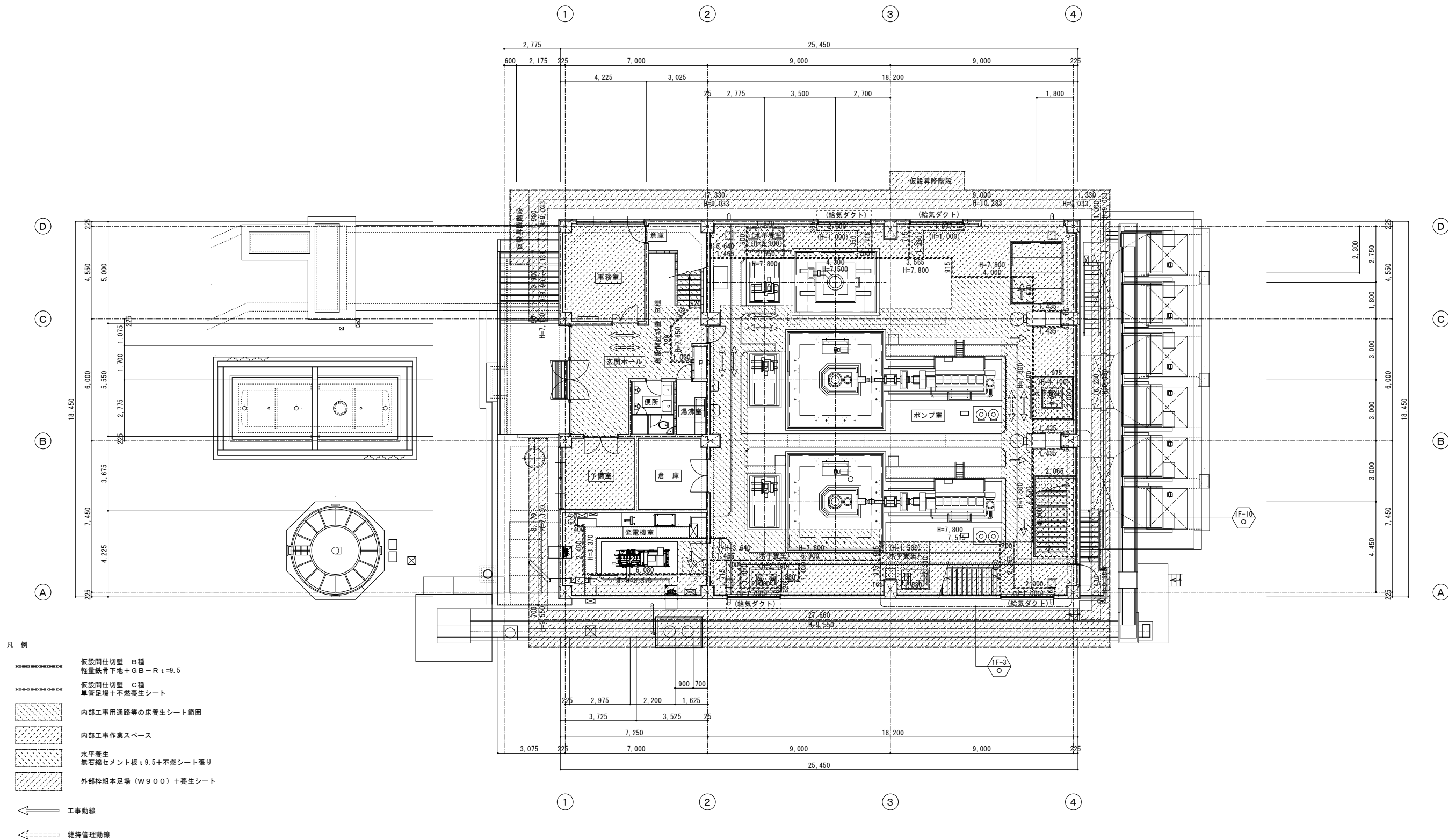
- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
  - 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
  - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板  $t=4$ （不燃）とする。扉寸法は  $W=800H=2100$  とし、常時閉鎖とする。
  - 養生シート等の防災種別は、外部枠組本足場防音シートは防災Ⅰ類、内部養生シートは防災Ⅱ類とする。
  - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

参 考 図 アスベスト撤去

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名 称	アスベスト撤去工事仮設計画図(3)		
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工 種	設計者	株式会社 日新技術コンサルティング	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-72







凡 例

- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地＋GB-R t=9.5
- 仮設間仕切壁 C種  
単管足場＋不燃養生シート
- 内部工事用通路等の床養生シート範囲
- 内部工事作業スペース
- 水平養生  
無石棉セメント板 t9.5＋不燃シート張り
- 外部枠組本足場 (W900) ＋養生シート

- 工事動線
- 維持管理動線

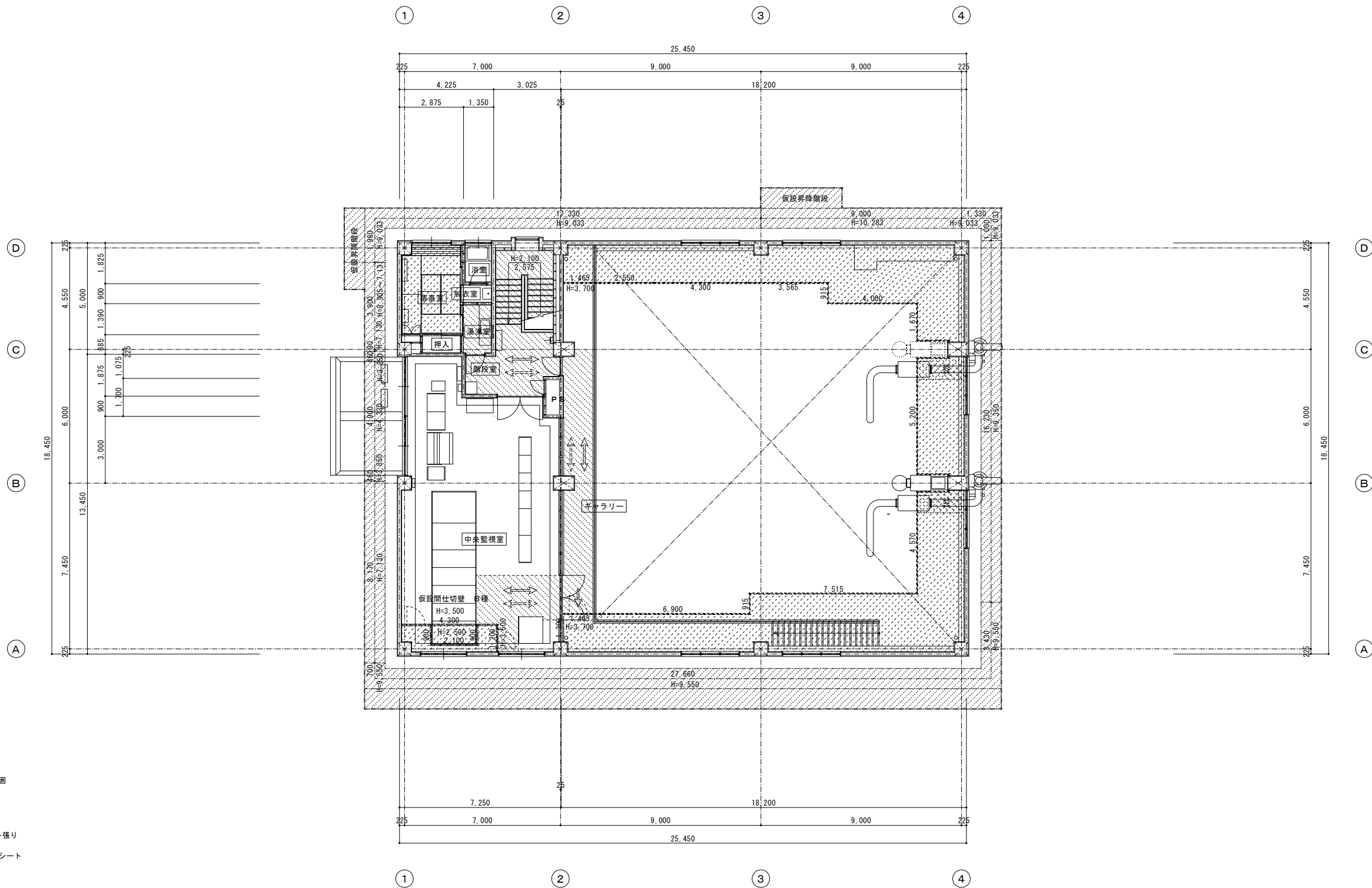
注 記

- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
- 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
- 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
- 養生シート等の防火種別は、外部枠組本足場防音シートは防火Ⅰ類、内部養生シートは防火Ⅱ類とする。
- 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

1 階 平面図 1/100

参 考 図  
全 体

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図 (0-1)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-75



- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石棉セメント板 t9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート

- ← 工事動線
- ← 維持管理動線

注 記

- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
- 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
- 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
- 養生シート等の防災種別は、外部枠組本足場防音シートは防災Ⅰ類、内部養生シートは防災Ⅱ類とする。
- 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

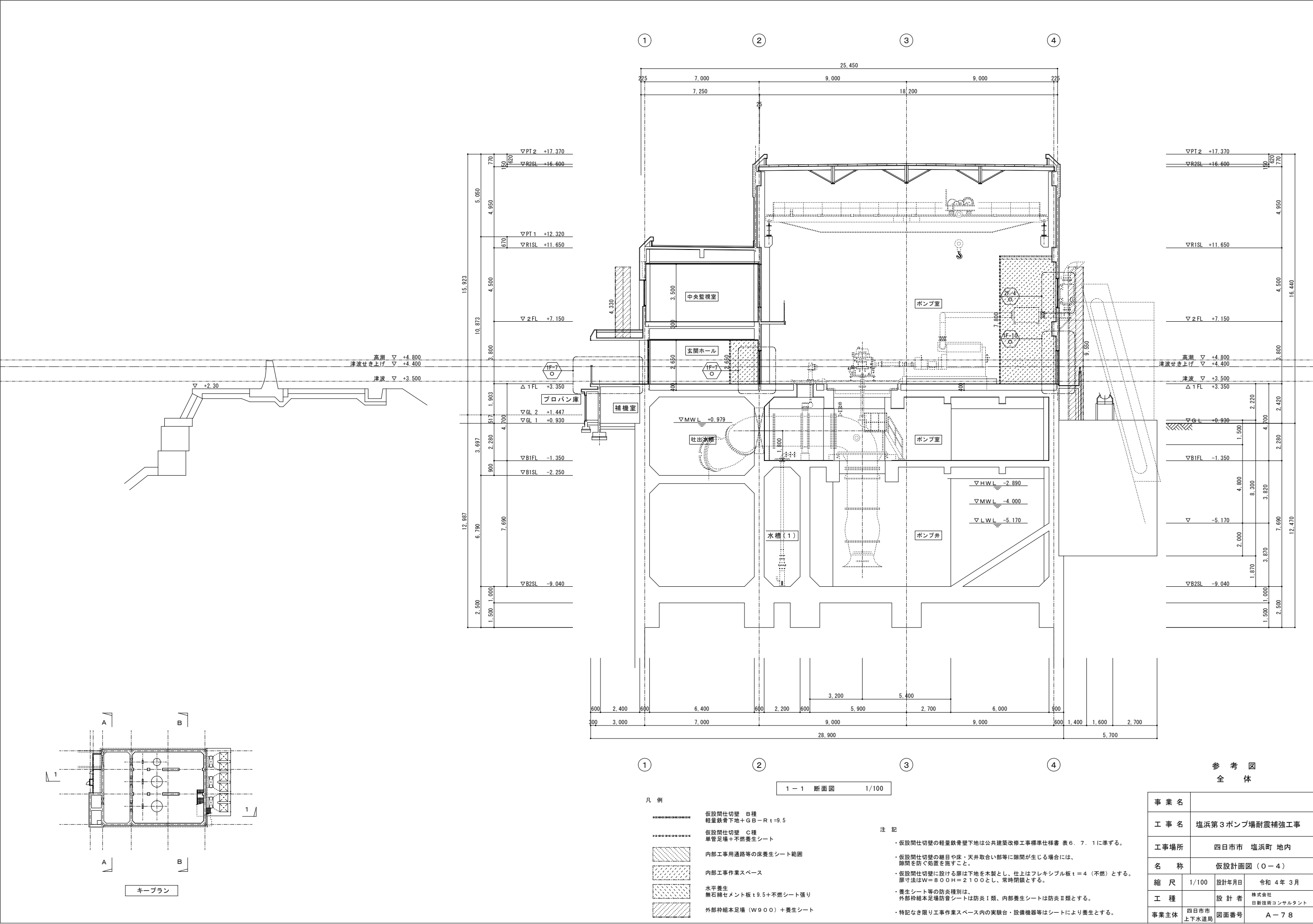
2 階 平面図 1/100

参 考 図  
全 体

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図 (0-2)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-76

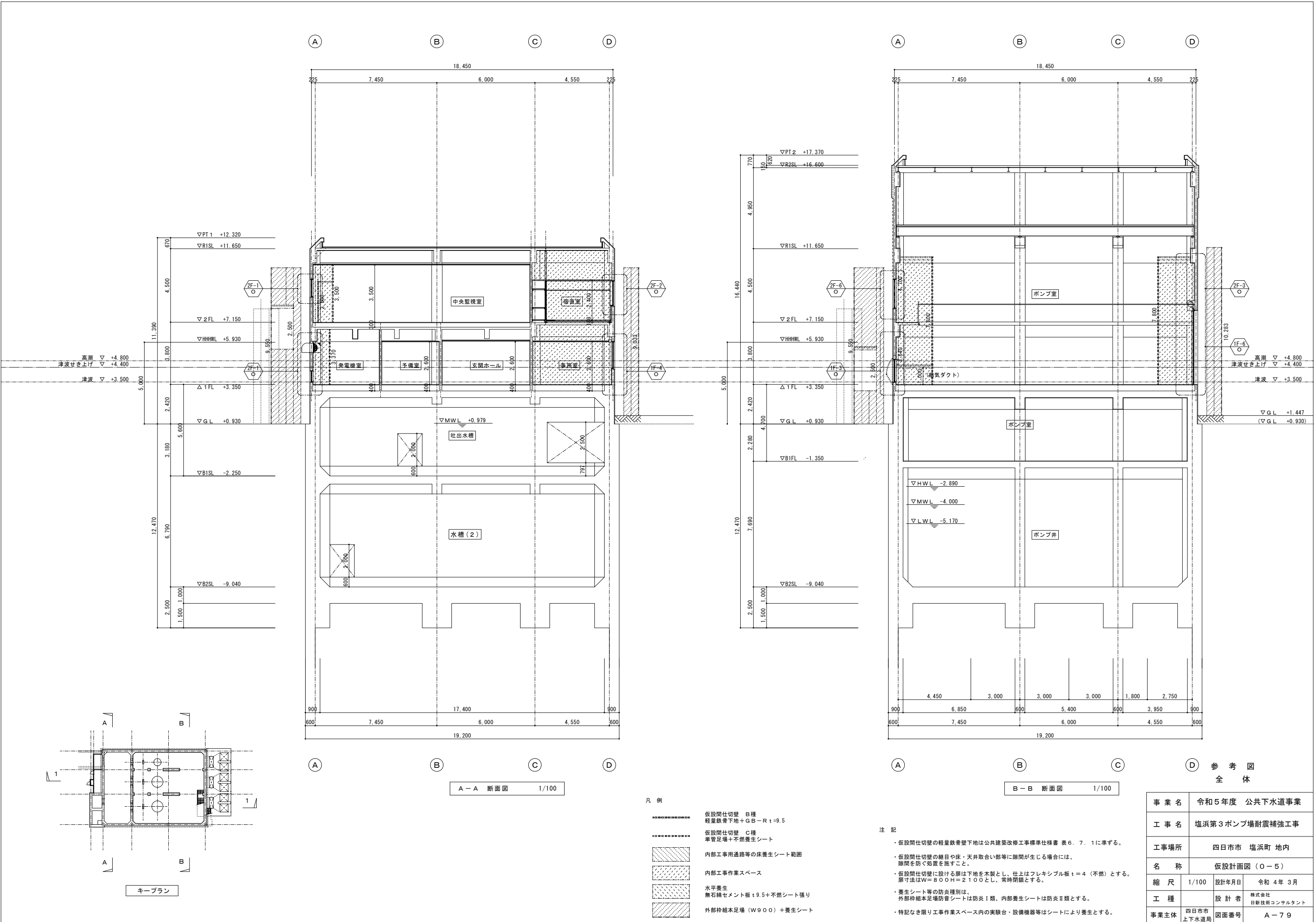






参 考 図  
全 体

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図（0-4）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-78

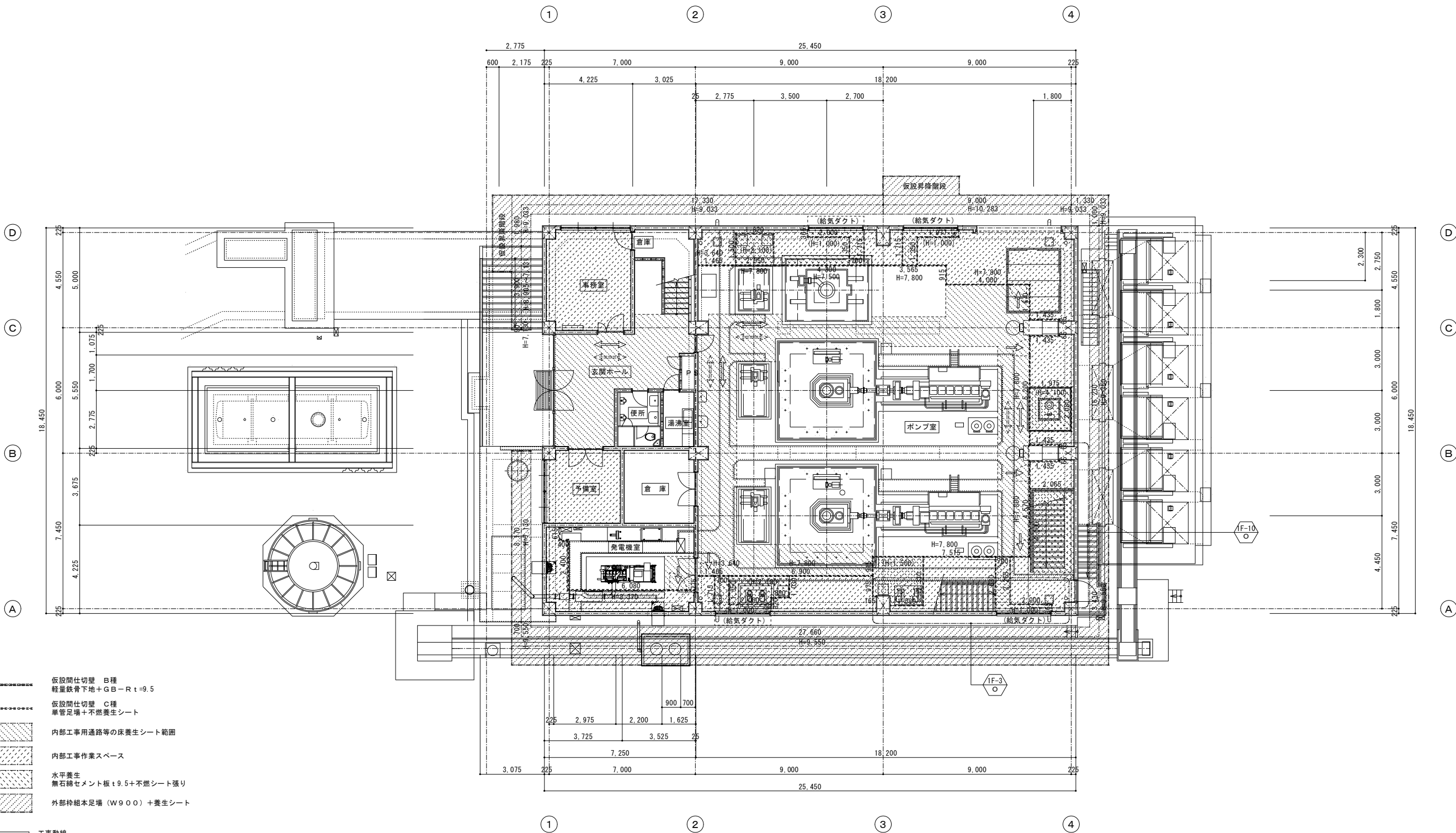


凡 例

- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
- 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
- 内部工事用通路等の床養生シート範囲
- 内部工事作業スペース
- 水平養生  
無石棉セメント板 t 9.5+不燃シート張り
- 外部枠組本足場 (W900) +養生シート

注 記

- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
- 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
- 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
- 養生シート等の防災種別は、外部枠組本足場防音シートは防災Ⅰ類、内部養生シートは防災Ⅱ類とする。
- 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。



- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石棉セメント板 t9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート

- 工事動線
- 維持管理動線

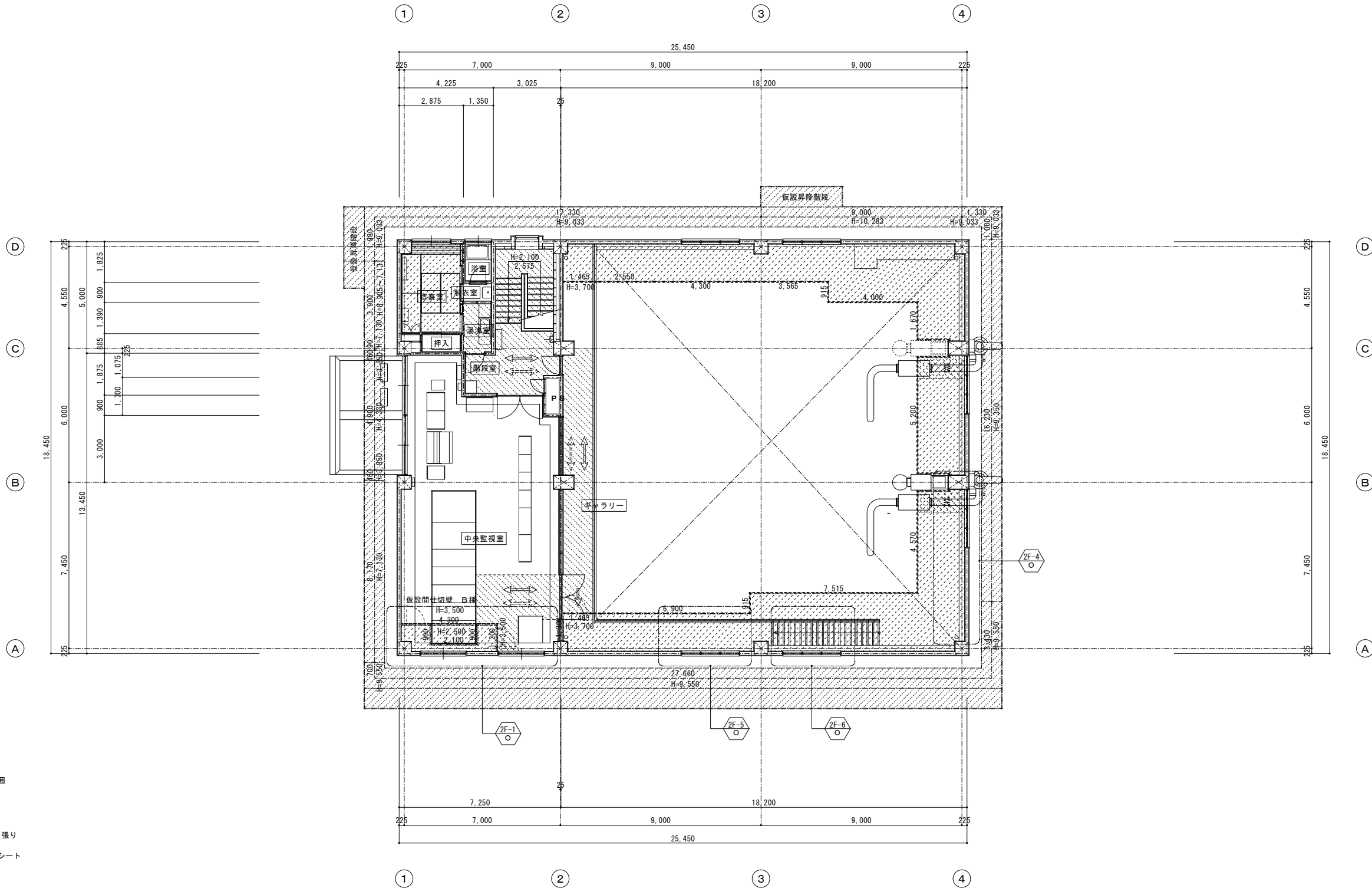
注 記

- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
- 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
- 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
- 養生シート等の防火種別は、外部枠組本足場防音シートは防火Ⅰ類、内部養生シートは防火Ⅱ類とする。
- 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

1 階 平面図 1/100

参 考 図  
Step 1

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図 (1-1)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-80



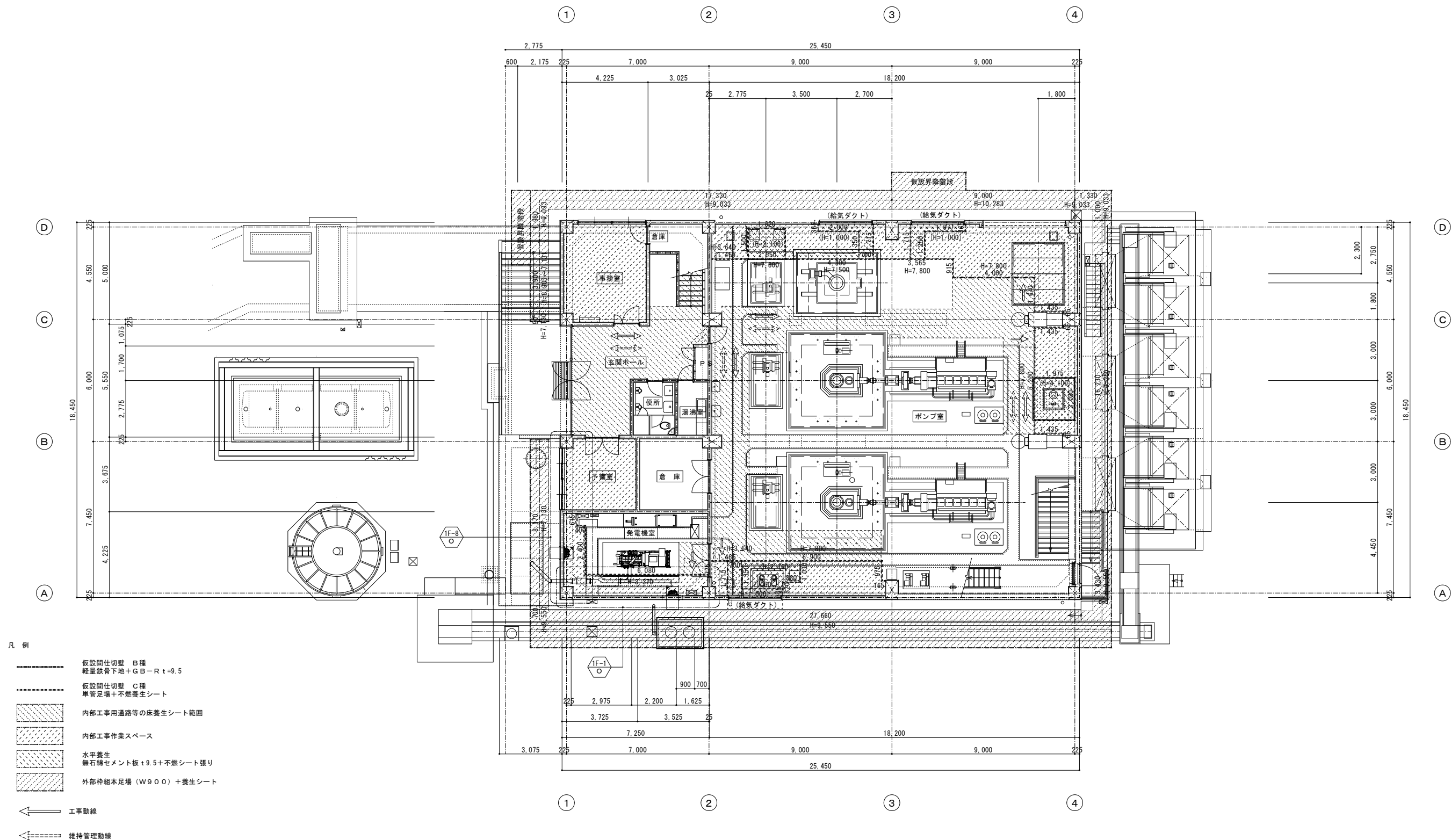
- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石棉セメント板 t9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
  - 工事動線
  - 維持管理動線

注 記

- ・仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表6. 7. 1に準ずる。
- ・仮設間仕切壁の壁目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
- ・仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
- ・養生シート等の防災種別は、外部枠組本足場防音シートは防災Ⅰ類、内部養生シートは防災Ⅱ類とする。
- ・特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

2 階 平面図 1/100

参 考 図 Step 1			
事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図 (1-2)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-81



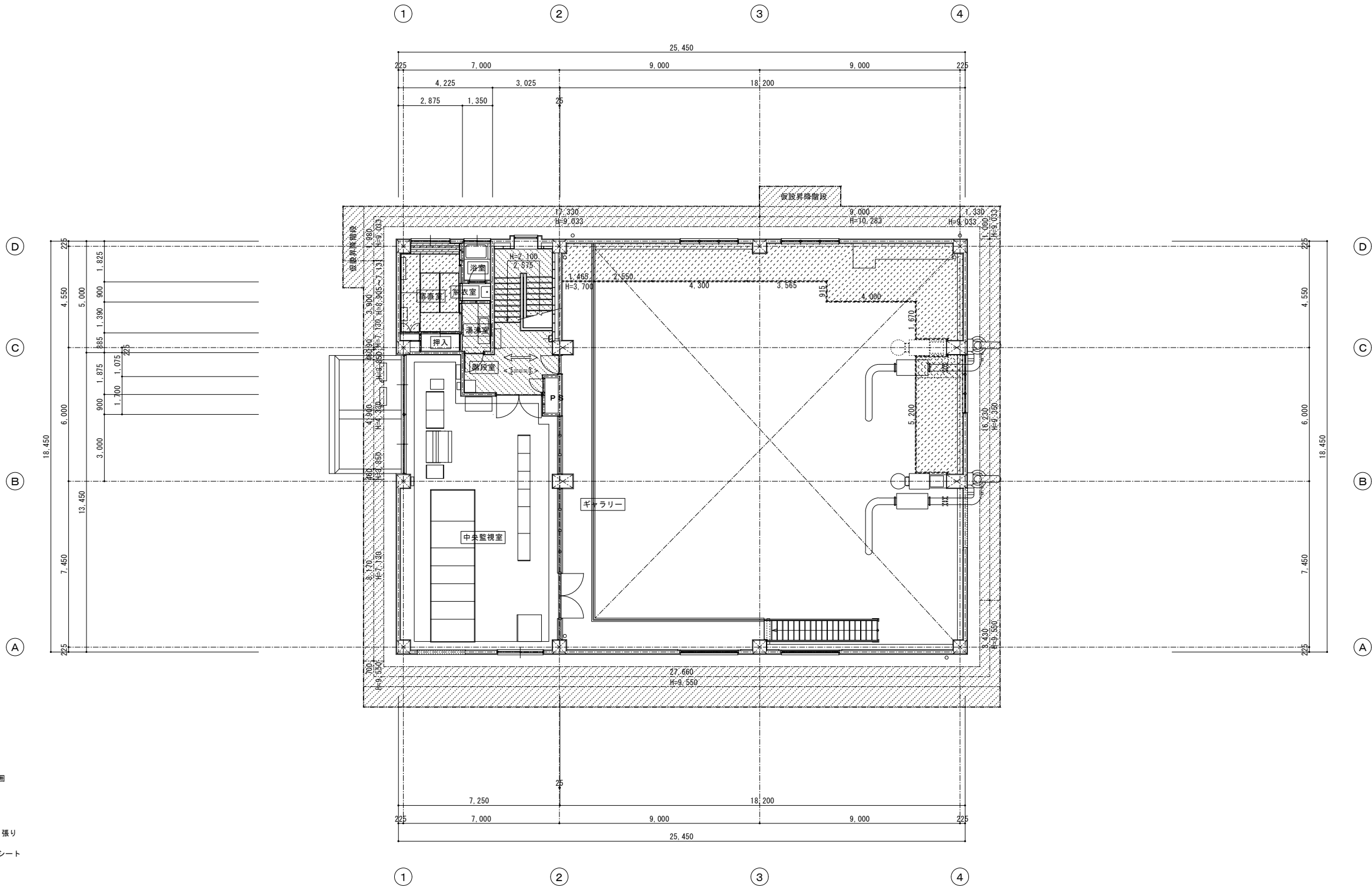
- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石棉セメント板 t9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート

工事動線  
維持管理動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表6. 7. 1に準ずる。
  - 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
  - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800H=2100とし、常時閉鎖とする。
  - 養生シート等の防災種別は、外部枠組本足場防音シートは防災Ⅰ類、内部養生シートは防災Ⅱ類とする。
  - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

1階 平面図 1/100

参 考 図 Step 2			
事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図(2-1)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和4年3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-82



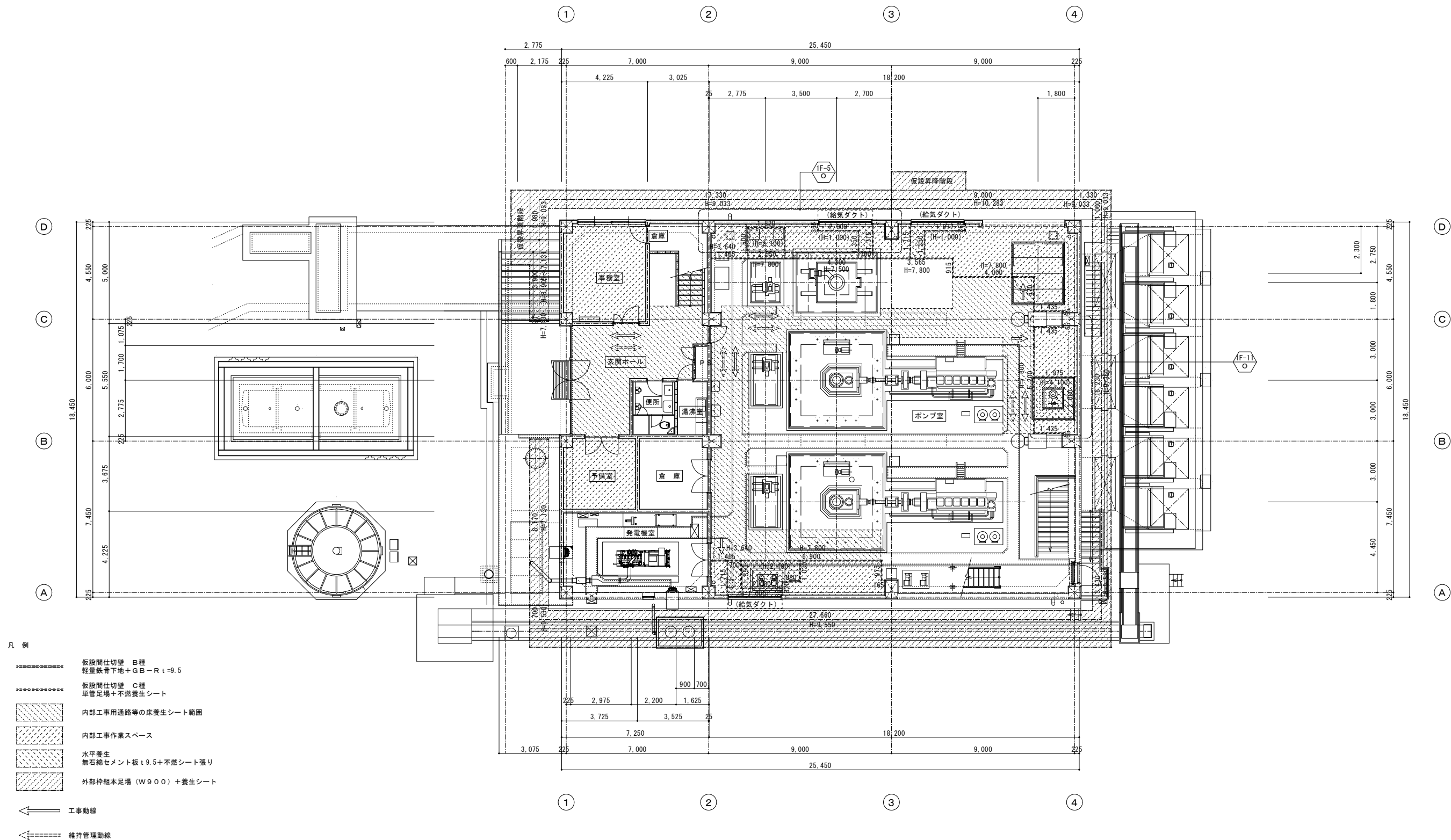
- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石綿セメント板 t9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
  - 工事動線
  - 維持管理動線

- 注 記
- ・仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1に準ずる。
  - ・仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
  - ・仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800H=2100とし、常時閉鎖とする。
  - ・養生シート等の防災種別は、外部枠組本足場防音シートは防災Ⅰ類、内部養生シートは防災Ⅱ類とする。
  - ・特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

2 階 平面図 1/100

参 考 図  
Step 2

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名 称	仮設計画図 (2-2)		
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-83



- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石棉セメント板 t 9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート

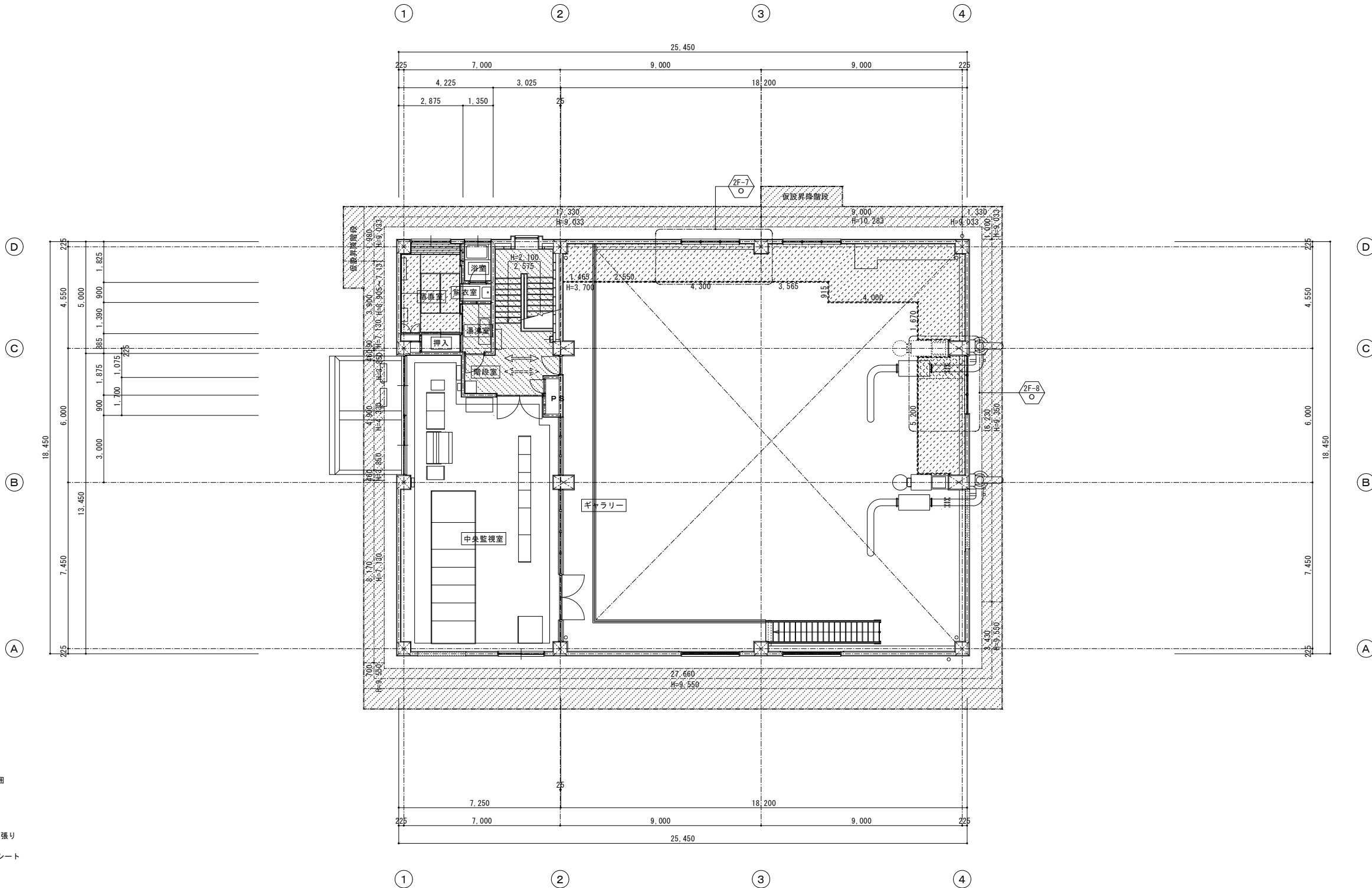
- 工事動線
- 維持管理動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1に準ずる。
  - 仮設間仕切壁の縦目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
  - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t = 4 (不燃) とする。扉寸法はW=800H=2100とし、常時閉鎖とする。
  - 養生シート等の防災種別は、外部枠組本足場防音シートは防災Ⅰ類、内部養生シートは防災Ⅱ類とする。
  - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

1 階 平面図 1/100

参 考 図 Step 3			
事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名 称	仮設計画図 (3-1)		
縮 尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-84





凡 例

- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
- 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
- 内部工事用通路等の床養生シート範囲
- 内部工事作業スペース
- 水平養生  
無石棉セメント板 t=9.5+不燃シート張り
- 外部枠組本足場 (W900) +養生シート

- ← 工事動線
- ←----- 維持管理動線

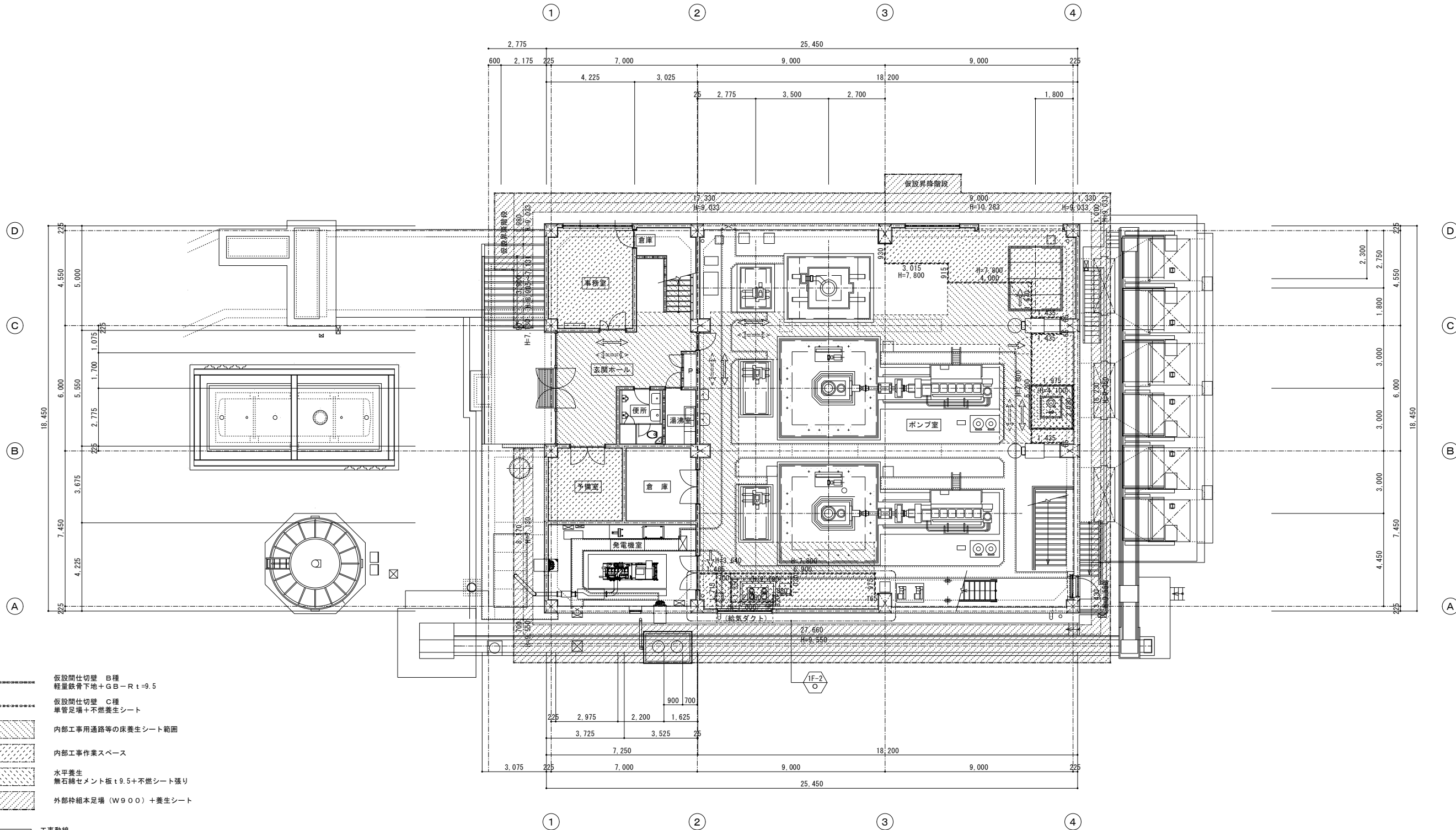
注 記

- ・仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
- ・仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
- ・仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。  
扉寸法はW=800H=2100とし、常時閉鎖とする。
- ・養生シート等の防火種別は、  
外部枠組本足場防音シートは防火Ⅰ類、内部養生シートは防火Ⅱ類とする。
- ・特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

2 階 平面図 1/100

参 考 図  
Step 3

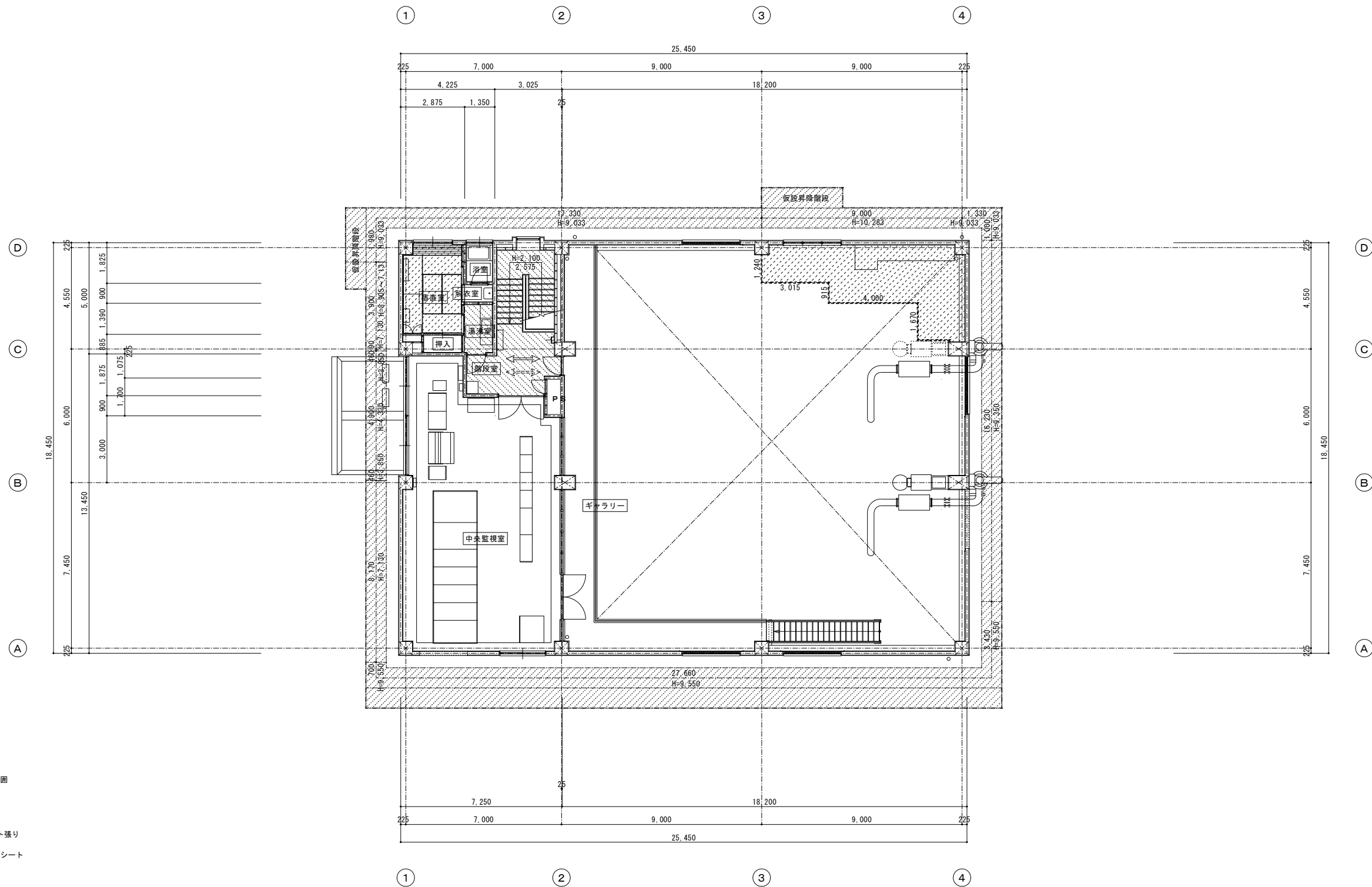
事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図 (3-2)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-85



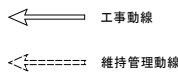
1 階 平面図 1/100

参 考 図  
Step 4

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図（4-1）		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-86



- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石棉セメント板 t9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート



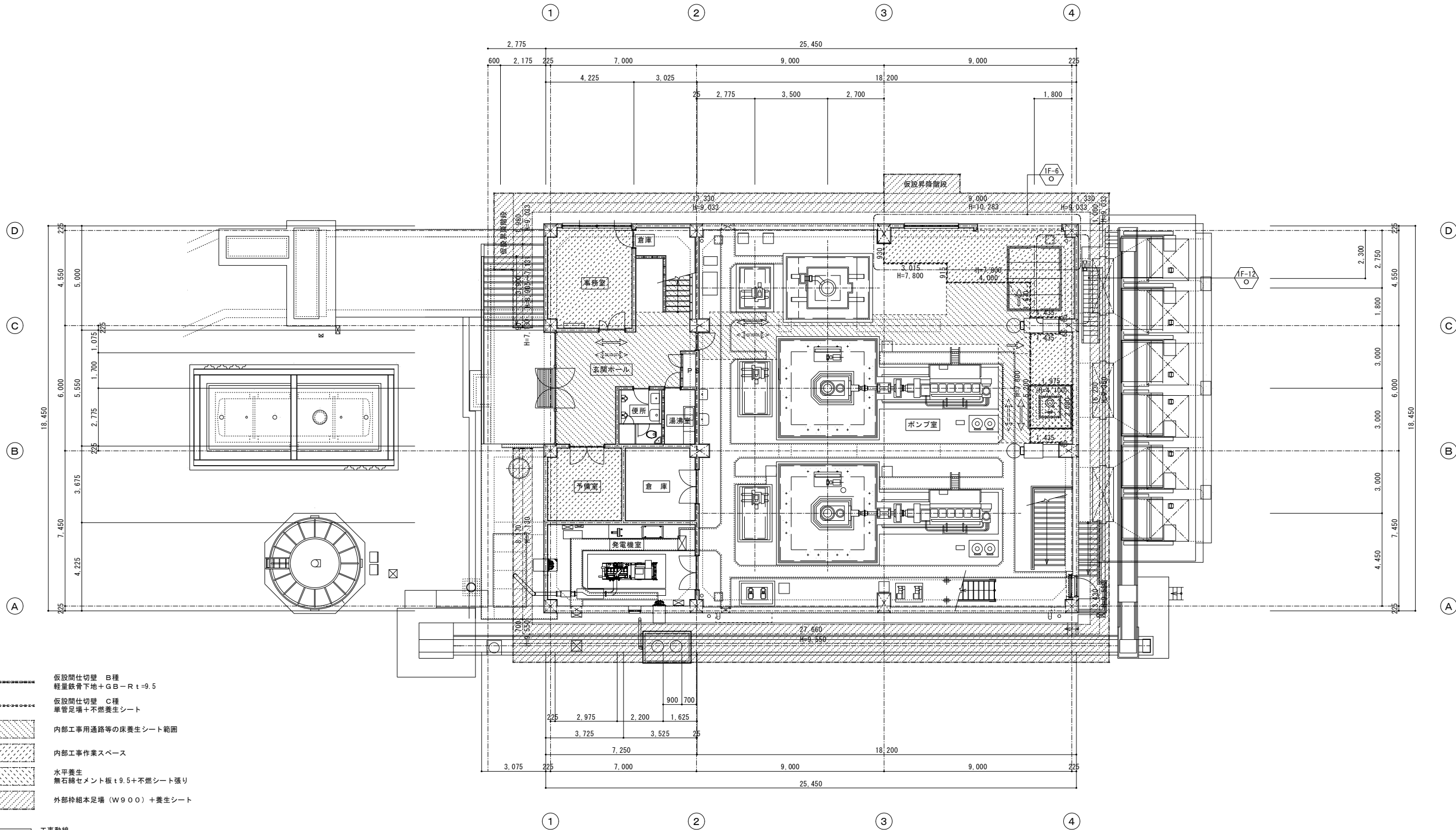
注 記

- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表6. 7. 1に準ずる。
- 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
- 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800H=2100とし、常時閉鎖とする。
- 養生シート等の防火種別は、外部枠組本足場防音シートは防火Ⅰ類、内部養生シートは防火Ⅱ類とする。
- 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

2 階 平面図 1/100

参 考 図  
Step 4

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	↓		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図 (4-2)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-87



- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石棉セメント板 t9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート

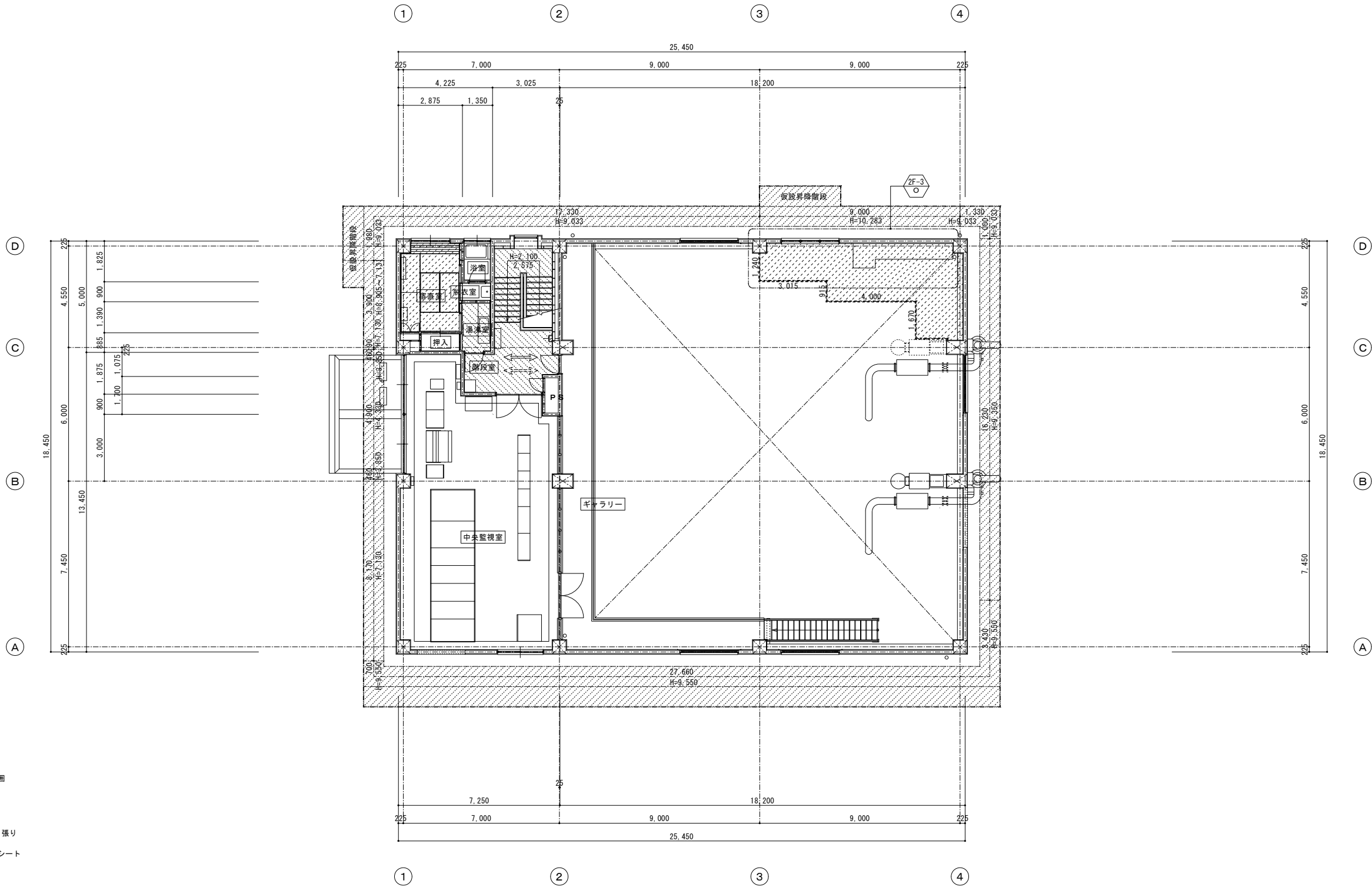
- 工事動線
- 維持管理動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
  - 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
  - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
  - 養生シート等の防火種別は、外部枠組本足場防音シートは防火Ⅰ類、内部養生シートは防火Ⅱ類とする。
  - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

1 階 平面図 1/100

参 考 図  
Step 5

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	↓		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図 (5-1)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-88

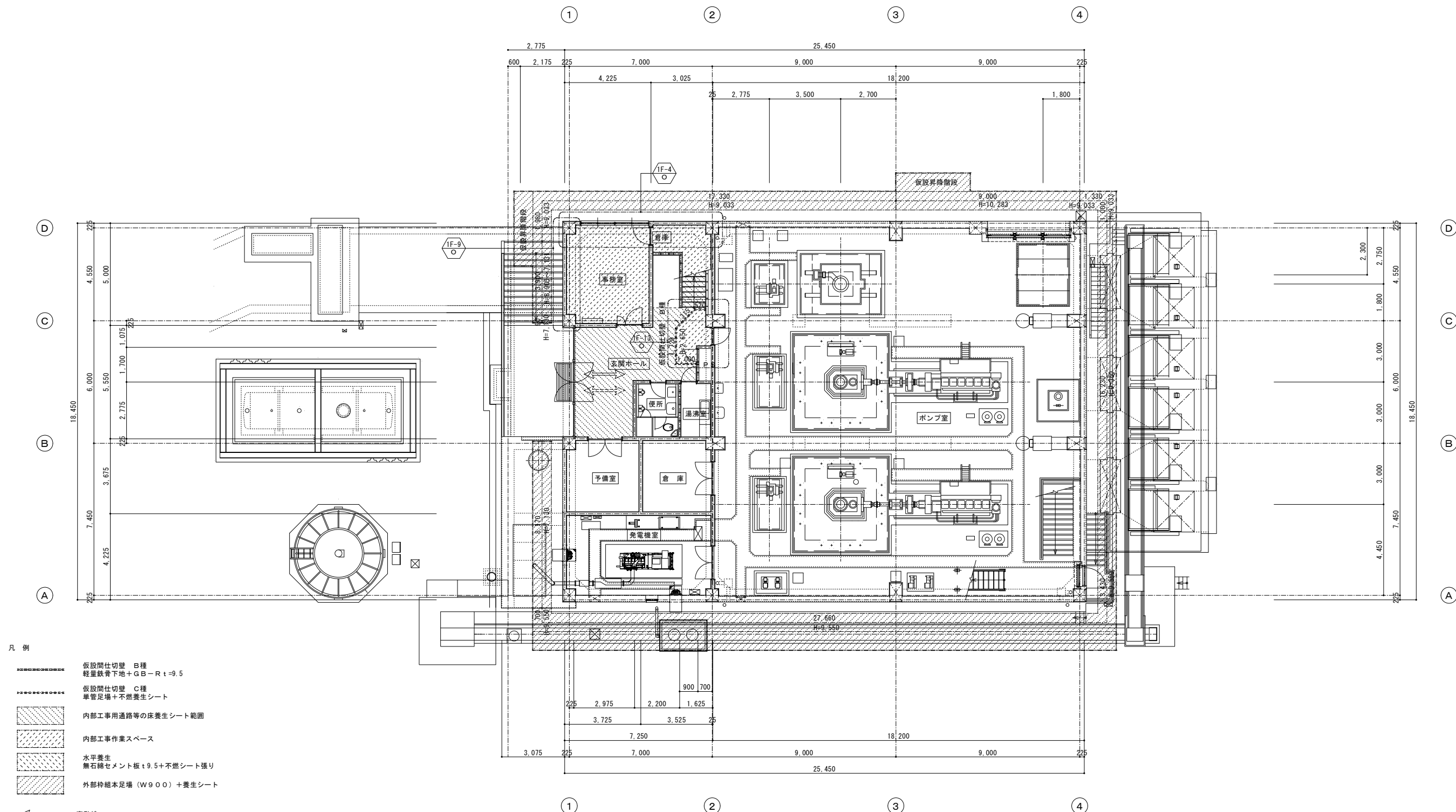


- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石綿セメント板 t9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
  - 工事動線
  - 維持管理動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表6. 7. 1に準ずる。
  - 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
  - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
  - 養生シート等の防災種別は、外部枠組本足場防音シートは防災Ⅰ類、内部養生シートは防災Ⅱ類とする。
  - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

参 考 図  
Step 5

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図 (5-2)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-89



- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石棉セメント板 t9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
  - ← 工事動線
  - ← 維持管理動線

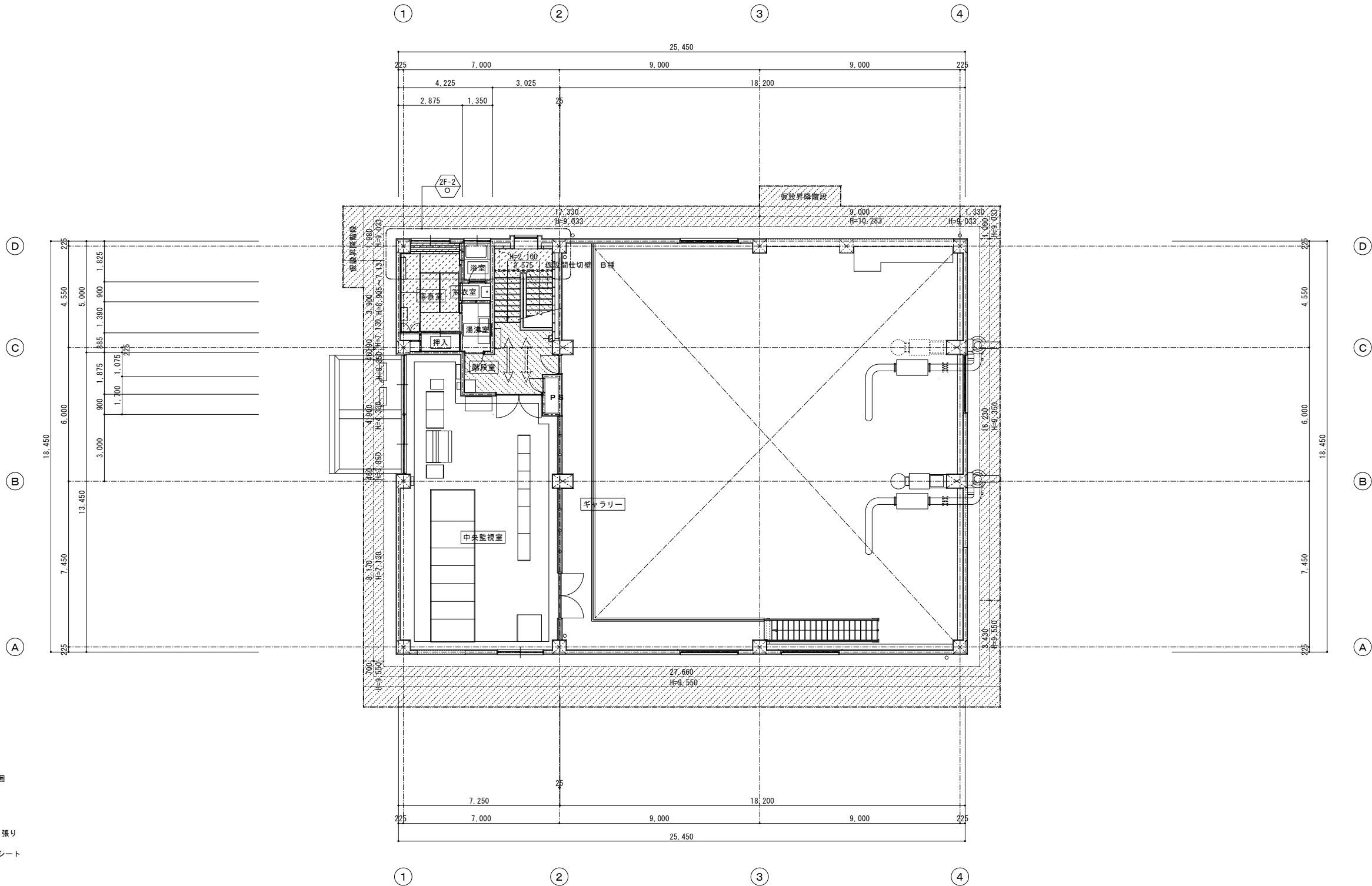
注 記

- ・仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表6.7.1に準ずる。
- ・仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
- ・仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
- ・養生シート等の防災種別は、外部枠組本足場防音シートは防災Ⅰ類、内部養生シートは防災Ⅱ類とする。
- ・特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

1 階 平面図 1/100

参 考 図  
Step 6

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図 (6-1)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-90



- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+G B-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石綿セメント板 t9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
  - 工事動線
  - 維持管理動線

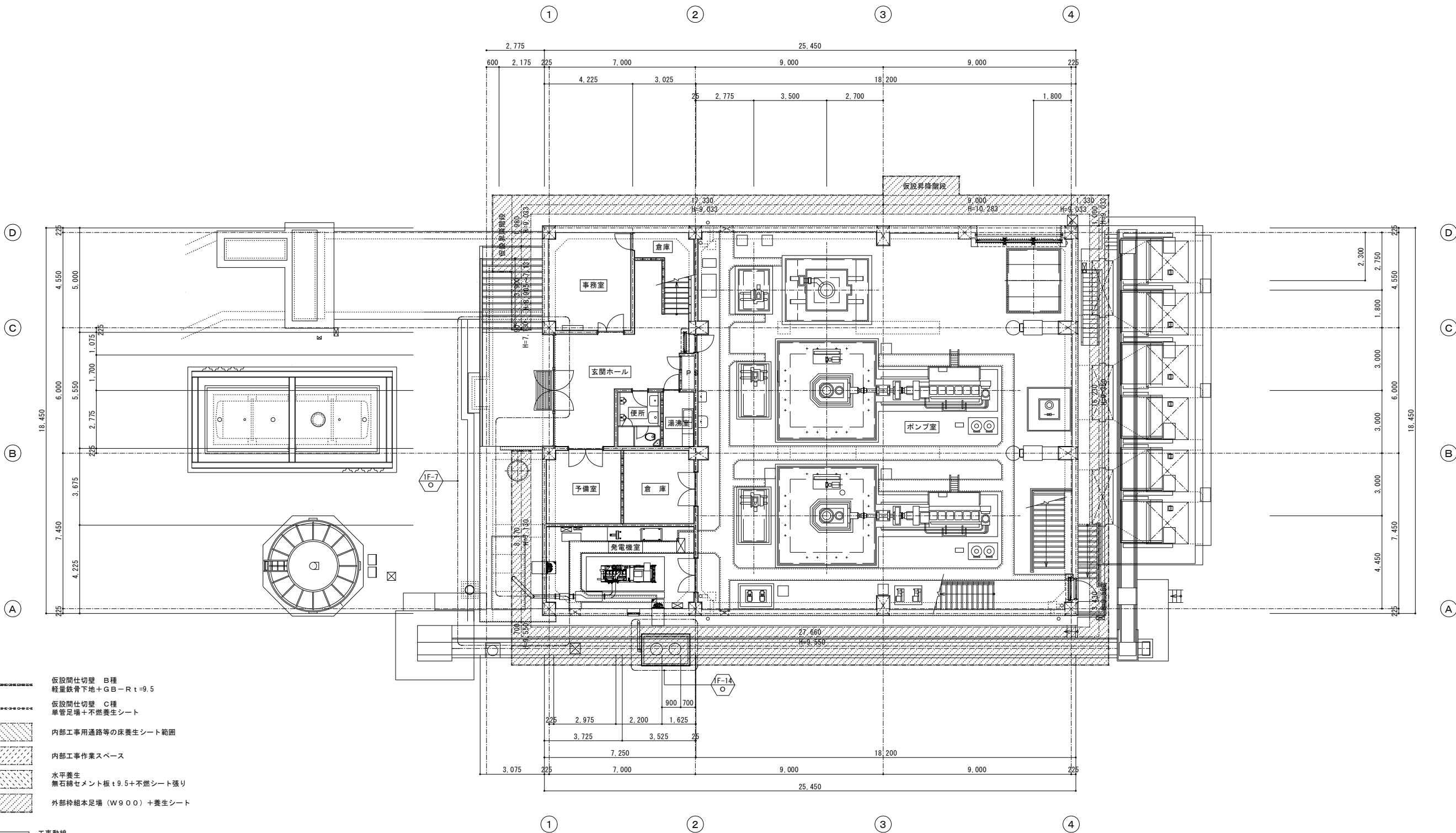
注 記

- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表6. 7. 1に準ずる。
- 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
- 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
- 養生シート等の防災種別は、外部枠組本足場防音シートは防災Ⅰ類、内部養生シートは防災Ⅱ類とする。
- 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

2 階 平面図 1/100

参 考 図  
Step 6

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図 (6-2)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-9 1



- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石棉セメント板 t9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート

- 工事動線
- 維持管理動線

注 記

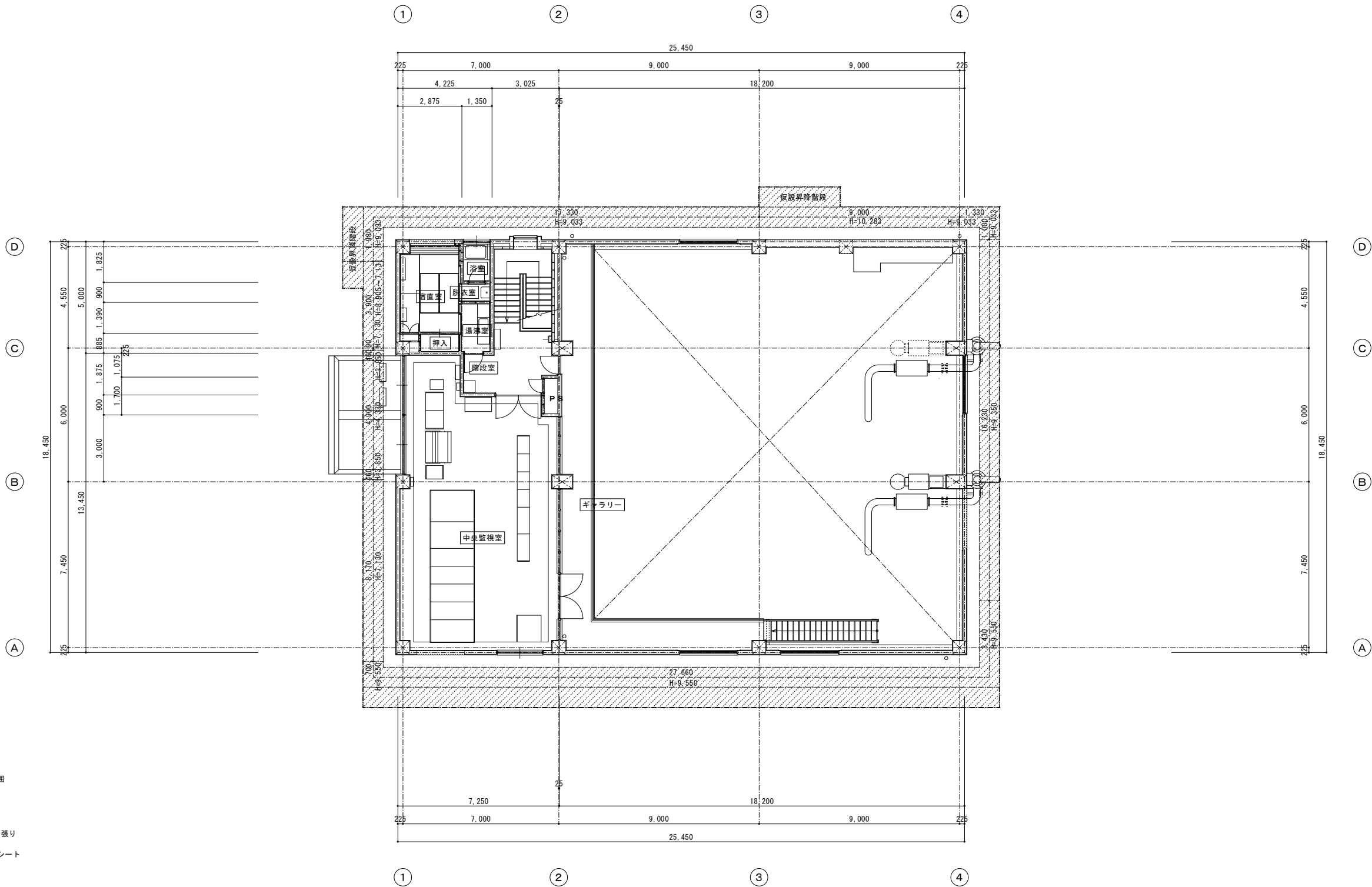
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
- 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
- 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100とし、常時閉鎖とする。
- 養生シート等の防災種別は、外部枠組本足場防音シートは防災Ⅰ類、内部養生シートは防災Ⅱ類とする。
- 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

1 階 平面図 1/100

参 考 図  
Step 7

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図 (7-1)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-92





- 凡 例
- 仮設間仕切壁 B種  
軽量鉄骨下地+GB-R t=9.5
  - 仮設間仕切壁 C種  
単管足場+不燃養生シート
  - 内部工事用通路等の床養生シート範囲
  - 内部工事作業スペース
  - 水平養生  
無石綿セメント板 t9.5+不燃シート張り
  - 外部枠組本足場 (W900) +養生シート
  - 工事動線
  - 維持管理動線

- 注 記
- 仮設間仕切壁の軽量鉄骨壁下地は公共建築改修工事標準仕様書 表 6. 7. 1 に準ずる。
  - 仮設間仕切壁の継目や床・天井取合い部等に隙間が生じる場合には、隙間を防ぐ処置を施すこと。
  - 仮設間仕切壁に設ける扉は下地を木製とし、仕上はフレキシブル板 t=4 (不燃) とする。扉寸法はW=800 H=2100 とし、常時閉鎖とする。
  - 養生シート等の防災理別は、外部枠組本足場防音シートは防災Ⅰ類、内部養生シートは防災Ⅱ類とする。
  - 特記なき限り工事作業スペース内の実験台・設備機器等はシートにより養生とする。

2 階 平面図 1/100

参 考 図  
Step 7

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	仮設計画図 (7-2)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	A-93

2 共通事項								
2. 1 記号及び 号								
設計図中で使用する記号及び 号は、2. 1表及び2. 2表を標準とする。								
2. 1表 鉄筋の断面表示								
径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記 号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊕
2. 2表 一般凡例								
記 号・ 号	内 容	※印の説明及び注意事項						
F※	フーチング断面種別	※ 番号						
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号						
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1、2、3 方向A、B、C						
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない						
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く						
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない						
※1W※2	壁配筋種別	※1 E：耐震壁、K：階段壁 ※1 D：土圧、水圧を受ける壁 階別区分はしない ※2 壁厚（cm）						
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚（cm） ※3 配筋種別（ 大文字） 階別区分はしない						
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A：片持床版形 B：二辺固定床版形 ※2 配筋種別（数字） 階別区分はしない						
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚（cm）						
	打ち増し範囲							
	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの＋、－に 応じた凡例により表示						
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値 （ N/m <sup>2</sup> ）						
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁						
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱						
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱						
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁						
組立筋	組立て筋	床版、底板						
2. 2 一般注意事項								
(1) 設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。 変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。								

3 鉄筋の 曲げ加工					
鉄筋の 曲げ加工は、3. 1表及び3. 2表を標準とする。					
(1) Dは、 曲げ内法直径を示す。					
(2) dは、鉄筋直径（呼び名）を示す。					
3. 1表 鉄筋の 曲げ形状及び寸法（ 端部）					
曲げ 角度	曲 げ 図	曲げ内法直径（D）		使 用 箇 所	
		SD295A SD345			
		D16 以下	D19 ～D38		
180		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 基礎のベース筋 D16以上の鉄筋	
135		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋	
90		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋	
135 90		3d以上	4d以上	90 幅止め筋	
(注) 1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90 フック又は135 フックを用いる場合は、 長を4dとする。 2. 90 未満の 曲げの内法直径は図示による。					
3. 2表 鉄筋の 曲げ形状及び寸法（中間部）					
曲げ 角度	曲 げ 図	曲げ内法直径（D）			使 用 箇 所
		SD295A SD345			
		D16 以下	D19 ～D25	D29 ～D38	
90 以下		3d以上	4d以上	—	あばら筋、帯筋 スパイラル筋
	4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋	
4 異形鉄筋の 端部					
4. 1 フックを設ける位置					
異形鉄筋の 端部には、4. 1表によりフックを設ける。					
4. 1表 フックを設ける位置					
部 位	継手方式		備 考		
		重ね継手 圧接継手			
柱	四隅の主筋	— 1) 最上階の柱 部	4. 1図の●印 8. 1図参照		
上下階の柱断面が異なる場合	— 1) 下階の柱主筋を引き通すことができない柱 部	4. 1図の●印 8. 2図参照			
帯筋(HOOP)	1) 端部 2) 継手部	1) 端部	9. 1図参照		
梁	あばら筋 (STP)	1) 端部 2) 継手部	1) 端部	11. 1図参照	
基礎	立フーチング基礎の底壁筋	1) 端部 2) 継手部	1) 端部	20. 1図参照	
煙突の鉄筋		1) 端部 2) 継手部	1) 端部	壁の一部となる場合を含む	
幅止め筋		—	—	3. 1表参照	
		4. 1図 異形鉄筋の 端部			
5 鉄筋のかぶり及び間隔					
5. 1 かぶり厚さ					
かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋（幅止め筋、組立筋を除く）の外面から躯体面までの距離（5. 1図）をいう。 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工 差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。					
5. 1図 鉄筋のかぶり厚さ					
5. 2 最小かぶり厚さ					
最小かぶり厚さは、5. 1表による。					
(1) 床版、梁、基礎及び 壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、 てコンクリートの厚さを含まない。					
(2) 柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1. 5 以上として最小かぶり厚さを定める。					
(3) 溶接金網にも適用する。					
5. 1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)					
埋置区分 構造部分の種類		※ 通常の施工の場合	・ 埋置対策を 必要とする場合		
一 般	床、耐力壁以外の壁	30	40		
柱、梁、耐力壁	40	50			
底板	40	50			
土、水に 接する部分	柱、梁、床、壁 底板、基礎	40 60	50 70		
煙突等高熱を受ける部分		60	70		
1：打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。 2： 基礎の場合の最小かぶり厚さは、 天端からとし、「21 基礎の補強」参照。 3：仕上なしの場合を標準とする。					
5. 3 鉄筋相 のあき					
鉄筋相 のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合はあきは特記による。					
(1) 粗骨材の最大寸法の1. 25					
(2) 最小のあき25mm					
(3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1. 5					
5. 2図 鉄筋相 のあき					
5. 2表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一					
鉄筋径（mm）	鉄筋相 のあき：a			最小鉄筋芯間隔 a＋D	
鉄筋径 d	最外径 D	(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	
D10	11	31mm 粗骨材 最大径 25mm の場合	25mm	15mm	42mm
D13	14	20mm	45mm		
D16	18	24mm	49mm		
D19	21	29mm	52mm		
D22	25	33mm	58mm		
D25	28	38mm	66mm		
D29	33	44mm	77mm		
1. 4 砕石及び てコンクリート					
砕石及び てコンクリートの厚さは、特記がなければ1. 3表による。					
1. 3表 砕石及び てコンクリートの仕様					
種 別	厚さ（mm）				
砂利または砕石	※ 60				
てコンクリート	※ 50				
1. 構造細目共通図（建築構造物）					
<平成30年版>					
※ 本図面は(一社)全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。使用にあたっては、上記協会への使用の提出と、配番号の記載が必要である。但し、この図面の【協会員意見】と【配番号】の記載が無い図面は無効とする。					
1 特記事項					
1. 1 適用範囲					
(1) 本構造細目共通図は下水道施設における処理場、ポンプ場の建築構造物に適用する。					
(2) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。					
1) 建築工事特記仕様書	(別紙による。)				
2) 建築工事一般仕様書	(平成 年版)				
3) 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）	国土交通省大臣官庁官庁営繕部 (平成 28 年版)				
(3) 項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と⊗印のある場合は、共に適用する。					
1. 2 鉄筋の仕様					
鉄筋の種類及び継手は1. 1表による。					
1. 1表 鉄筋の種類及び継手					
鉄筋の種類	種 別	径			
鉄筋の種類	SD295A	※D16以下			
SD345	※D19以上				
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外			
ガス圧接	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋				
機械式継手	・ 図面による。				
1. 3 コンクリートの仕様					
コンクリートは1. 2表による。					
1. 2表 コンクリートの仕様					
分 類	コンクリート種別	設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>)	スランプ (cm)	セメントの種類	
鉄筋 コンクリート	地上	※普通 コンクリート	※ 24	※ 18	※普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB
地下 基礎、基礎梁	・普通 コンクリート	・ 24	・ 15	・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB	
無筋コンクリート		※普通 コンクリート	※ 18	※ 15	・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB
注1：無筋コンクリートには てコンクリートを含む。					
1. 4 砕石及び てコンクリート					
砕石及び てコンクリートの厚さは、特記がなければ1. 3表による。					
1. 3表 砕石及び てコンクリートの仕様					
種 別	厚さ（mm）				
砂利または砕石	※ 60				
てコンクリート	※ 50				
事業名 令和5年度 公共下水道事業					
工事名					
工事場所 四日市市 塩浜町 地内					
名称 構造細目共通図（建築構造物）(I) H30\_04					
縮尺	-	設計年月日	令和4年3月		
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント			
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-1		

6 鉄筋の継手及び定着

6. 1 継手及び定着

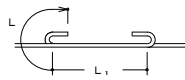
6. 1. 1 鉄筋の重ね継手

- (1) 鉄筋の重ね継手の長さは、6. 1表による。
- (2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

6. 1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	L <sub>1</sub> (フックなし)		L <sub>1</sub> (フックあり)
		L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>1</sub>
SD295A	24、27	35d		25d
	30	35d		25d
SD345	24、27	40d		30d
	30	35d		25d

- (注) 1. L<sub>1</sub>、L<sub>1</sub> : フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL<sub>1</sub>は、6. 1図に示すようにフック部分Lを含まない。



6. 1図

6. 1. 2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。
- (2) 異種径の鉄筋をガス圧接する場合は、鉄筋径の直近の範囲内とする。

6. 1. 3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、6. 2表による。

6. 2表 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	フックなし				フックあり			
		L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>a</sub>		L <sub>1</sub>	L <sub>2</sub>	L <sub>a</sub>	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295A	24、27	35d	30d	20d	10d かつ 150mm	25d	20d	10d	
	30	35d	30d			25d	20d		
SD345	24、27	40d	35d	20d	150mm 以上	30d	25d	10d	
	30	35d	30d			25d	20d		

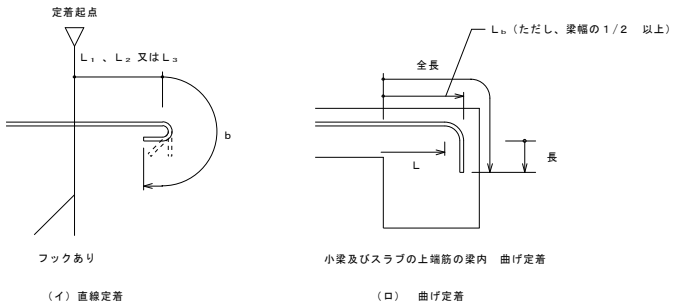
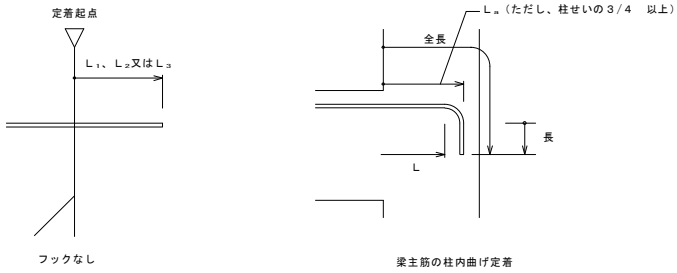
- (注) 1. L<sub>1</sub>、L<sub>1</sub> : 2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ
2. L<sub>2</sub>、L<sub>2</sub> : 割 破 れ の ない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L<sub>a</sub> : 小梁及びスラブの下端の直線定着の長さ (基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く)  
なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4. L<sub>a</sub> : 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、6. 2図 (イ) に示すようにフック部分bを含まない。また、中間部での 曲げは行わない。

6. 1. 4 定着の方法

定着の方法は6. 2図による。

なお、(ロ) 曲げ定着の梁主筋の柱内 曲げ定着において、仕口内に縦に 曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、6. 2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を6. 2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、 長を8d、仕口面から鉄筋外面までの 影定着長さを6. 3表に示す長さをのみ込ませる。

- (注) 1. L<sub>a</sub>、L<sub>b</sub>は、6. 3表の鉄筋の 影定着長さを示し、下記条件を満たすものとする。
- ・梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3/4 以上
  - ・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2 以上
  - ・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2 以上



6. 2図 定着の方法

6. 3表 鉄筋の 影定着長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	L <sub>a</sub>	L <sub>b</sub>
SD295A	24、27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24、27	20d	15d
	30	15d	15d

- (注) 1. L<sub>a</sub> : 梁主筋の柱内 曲げ定着の 影定着長さ (基礎梁、片持ちスラブを含む。)
2. L<sub>b</sub> : 小梁及びスラブの上端筋の梁内 曲げ定着の 影定着長さ  
(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

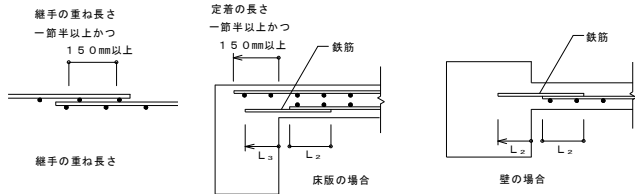
6. 2 隣り合う継手の位置及び定着

- (1) 隣り合う継ぎ手の位置は、6. 4表により、a寸法を守ること。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

6. 4表 隣り合う継手の位置

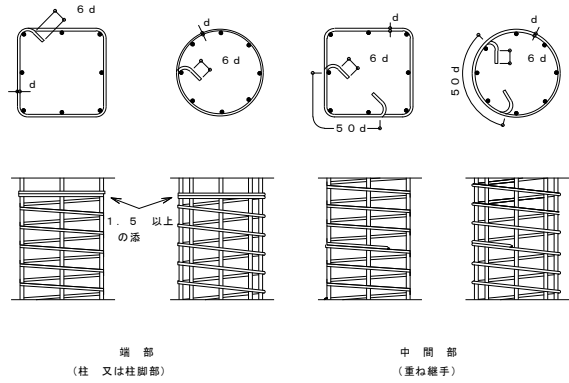
条 件		重ねる場合	離す場合
重ね継手	フック有りの場合		
	フックなしの場合		
圧接継手			

(2) 溶接金網の継手及び定着



6. 3図 溶接金網の継手及び定着要領

(3) スパイラル筋の継手及び定着



6. 4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

7 柱筋の継手位置

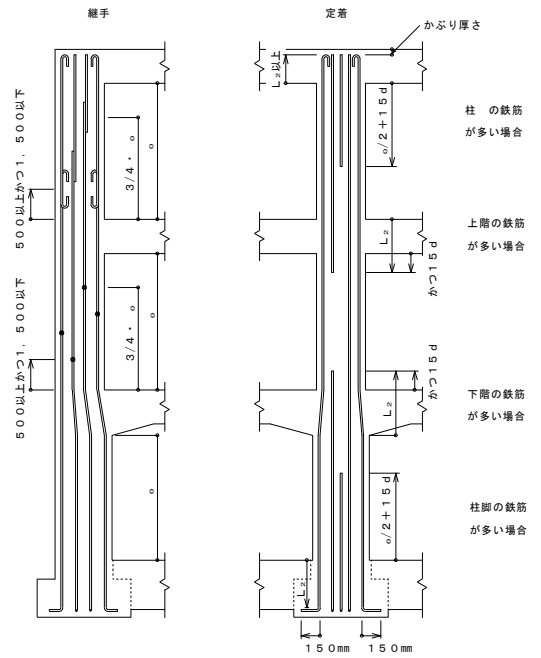
7. 1 継手及び圧接中 位置

- (1) 柱の継手及び圧接中 位置は、梁上端から50cm以上、150cm以下かつ3/4 ( は柱の内法高さ) 以下とする。

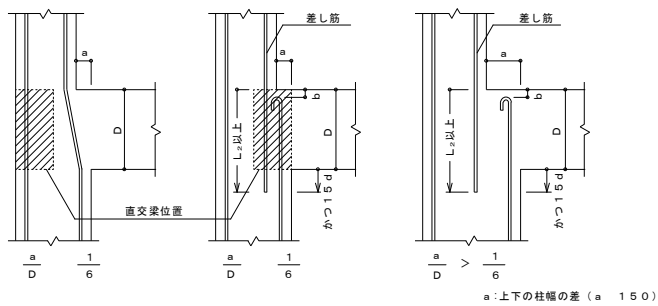
8 柱筋の継手及び定着

8. 1 一般事項

- (1) 継手長さはL<sub>1</sub>とし、定着及び 長は、8. 1図による。
- (2) 柱 定着長さL<sub>2</sub>が確保出来ない場合は、図面による。
- (3) 上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の 曲げ及び定着は、8. 2図による。



8. 1図 柱主筋の継手、定着及び 長



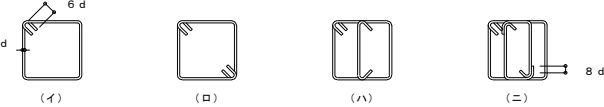
8. 2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の 曲げ及び定着

9 帯筋

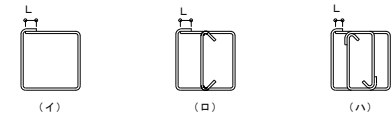
9. 1 帯筋の形状

- (1) 帯筋の形状は、9. 1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
- (a) H形を標準とする。
- (b) H形の135 曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
- (c) 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
- (d) SP形において、柱 及び柱脚の端部は、1. 5 以上の添 きを行う。

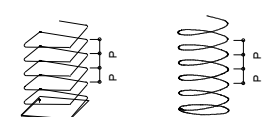
・H形



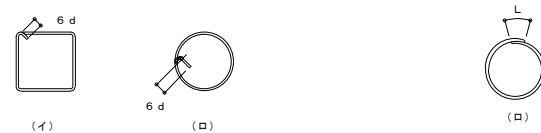
・W-I形 (溶接を行う)



・SP形 (スパイラル筋)



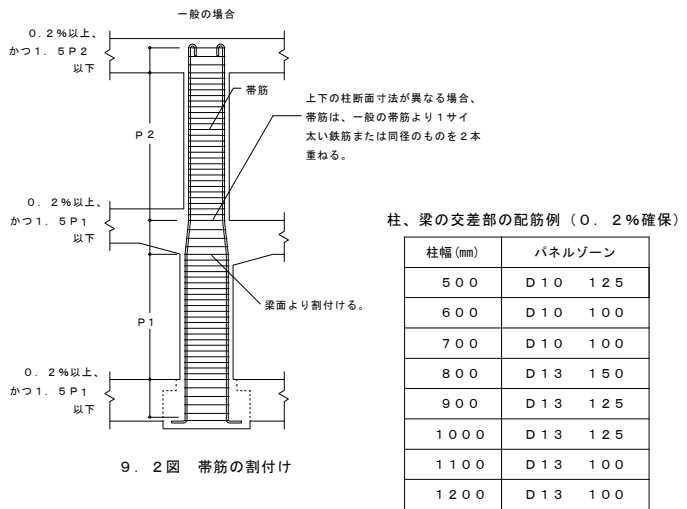
・丸形



9. 1図 帯筋組立の形

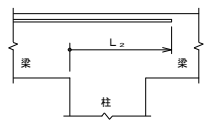
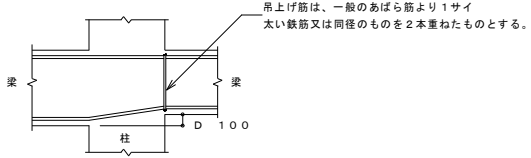
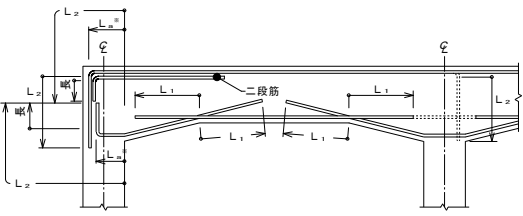
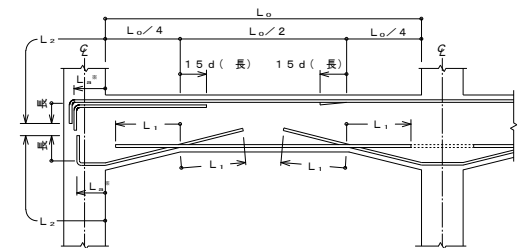
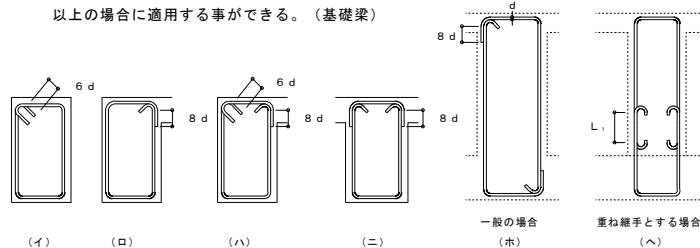
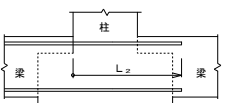
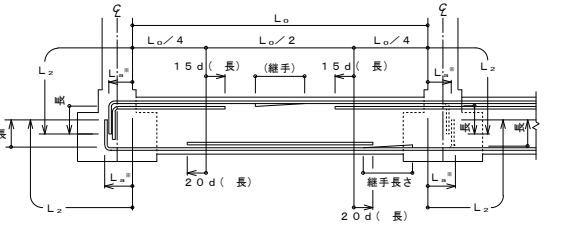
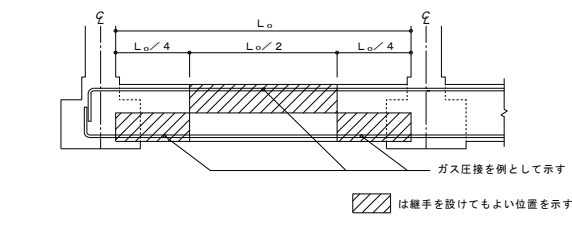
9. 2 帯筋の割付け

- (1) フック及び継手の位置は交 とする。
- (2) 帯筋の割付けは、9. 2図による。ただし、図面にある場合はそれによる。
- (3) 柱、梁の交差部 (パネルゾーン) の帯筋のせん断補強比は、0. 2%以上を確保し、補強筋間隔 1. 5Pとする。

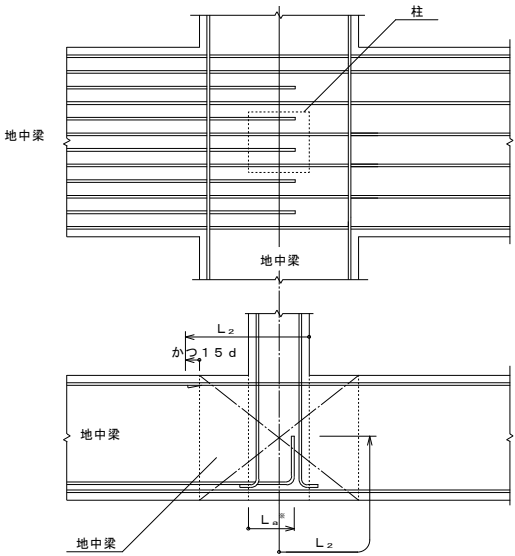


※ 1. 5P<sub>1</sub>、1. 5P<sub>2</sub>のピッチは150mm以下とする。

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	構造細目共通図 (建築構造物) (2) H30.04		
縮尺	-	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-2

<div>10 大梁筋の継手及び定着</div> <div>10.1 大梁（基礎梁以外の大梁に限る）主筋の継手、定着及び 長</div> <div>大梁主筋の継手及び定着の一般事項</div> <div>a. 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b. により柱内に定着することができる。</div> <div>ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、10.1図による。</div> <div></div> <div>10.1図 梁主筋の梁内定着</div> <div>b. 梁主筋を、柱内に 曲げて定着する場合は次による。</div> <div>なお、定着の方法は、6.1.4による。</div> <div>上端筋：曲げ下ろす。</div> <div>下端筋：原則として曲げ上げる。</div> <div>c. 段違い梁は10.2図による。</div> <div></div> <div>10.2図 段違い梁</div>	<div>10.3 ハンチのある場合</div> <div>(1) 最上階の場合</div> <div></div> <div>10.4図 ハンチのある大梁の定着及び 長（最上階）</div> <div>(2) 一般階の場合</div> <div></div> <div>10.5図 ハンチのある大梁の定着及び 長（一般階）</div> <div>(注)1. 4. 異形鉄筋の 端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。</div> <div>2. 印は、継手及び 長を示す。</div> <div>3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、 のように引き通すことができる。</div> <div>4. 破線は、梁内定着の場合を示す。</div> <div>※ L<sub>a</sub>の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4 以上とする。</div>	<div>11 梁のあばら筋、 筋及び幅止め筋</div> <div>11.1 一般事項</div> <div>(1) 筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。</div> <div>(2) 壁梁の場合、 筋の定着長さ及び継手長さは、L<sub>2</sub>とする。</div> <div>(3) 土圧、水圧を受ける梁は、図面による。</div> <div>(4) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10ー1000mmピッチ程度とする。</div> <div>11.2 あばら筋組立の形及びフックの位置</div> <div>(1) 形は、11.1図(イ)を標準とする。</div> <div>ただし、(イ)によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。</div> <div>a. 床版が片側に付く場合は、(ロ)又は(ハ)</div> <div>b. 床版が両側に付く場合は、(ロ)～(ニ)</div> <div>(2) フックの位置</div> <div>a. (イ)の場合は交 とする。</div> <div>b. (ロ)の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側。床版が両側に付く場合は交 。</div> <div>c. (ハ)の場合は床版の付く側を90 曲げ、8d確保する。</div> <div>d. (ホ) (ヘ)の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが1.5m 以上の場合に適用する事ができる。（基礎梁）</div> <div></div> <div>11.1図 あばら筋組立の形及びフックの位置</div>	<div>12 基礎梁及び底版の継手及び定着</div> <div>12.1 基礎梁主筋の継手、定着及び 長</div> <div>(1) 一般事項</div> <div>(a) 梁筋は、 続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、12.1図による。</div> <div>(b) 梁筋を柱内に定着する場合は10.1(1)bによる。</div> <div></div> <div>12.1図 梁筋の基礎梁内への定着</div> <div>(2) 立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び 長</div> <div></div> <div>12.2図 主筋の継手、定着及び 長（その1）</div> <div>(3) 続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び 長</div> <div></div> <div>12.3図 主筋の継手、定着及び 長（その2）</div> <div>(注)1. 図示のない事項は、10.1による。</div> <div>2. 印は、継手及び 長位置を示す。</div> <div>3. 破線は、柱内定着の場合を示す。</div> <div>※ L<sub>a</sub>の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4 以上とする。</div> <div>(注)1. 図示のない事項は、10.1による。</div> <div>2. 印は、継手及び 長位置を示す。</div> <div>3. 破線は、柱内定着の場合を示す。</div> <div>※ L<sub>a</sub>の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4 以上とする。</div> <div>(注)1. 図示のない事項は、10.1による。</div> <div>2. 印は、継手及び 長位置を示す。</div> <div>3. 破線は、柱内定着の場合を示す。</div> <div>※ L<sub>a</sub>の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの3/4 以上とする。</div> <table><tr><td>事業名</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td>工事名</td><td colspan="3">塩浜第3ポンプ場耐震補強工事</td></tr><tr><td>工事場所</td><td colspan="3">四日市市 塩浜町 地内</td></tr><tr><td>名称</td><td colspan="3">構造細目共通図（建築構造物）(3) H30.04</td></tr><tr><td>縮尺</td><td>-</td><td>設計年月日</td><td>令和 4年 3月</td></tr><tr><td>工種</td><td></td><td>設計者</td><td>株式会社 日新技術コンサルタント</td></tr><tr><td>事業主体</td><td>四日市市 上下水道局</td><td>図面番号</td><td>S-3</td></tr></table>	事業名				工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事			工事場所	四日市市 塩浜町 地内			名称	構造細目共通図（建築構造物）(3) H30.04			縮尺	-	設計年月日	令和 4年 3月	工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-3
事業名																															
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事																														
工事場所	四日市市 塩浜町 地内																														
名称	構造細目共通図（建築構造物）(3) H30.04																														
縮尺	-	設計年月日	令和 4年 3月																												
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント																												
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-3																												

- (4) 柱幅<梁幅の場合
- (a) 交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。

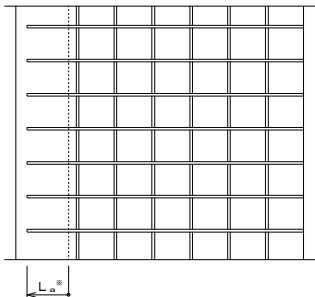


※  $L_a$ の数値は、原則として、6.3表の数値かつ柱せいの $3/4$ 以上とする。

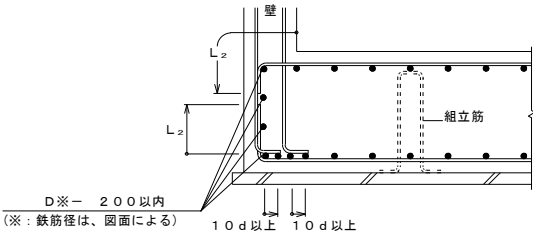
12.4図 主筋の継手、定着及び 長 (その3)

12.4 梁形を設けない場合の基礎底板 (オイルタンク等)

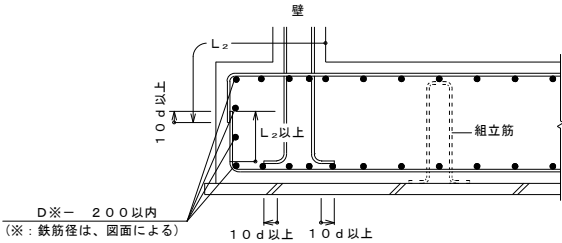
- (1) 定着の取り方は、壁の面からとする。
- (2) 途中で配筋が変わる場合の定着は、12.2図のように基礎底板筋を梁筋と みかえる。



※  $L_a$ の数値は、原則として、柱せいの $3/4$ 以上とする。

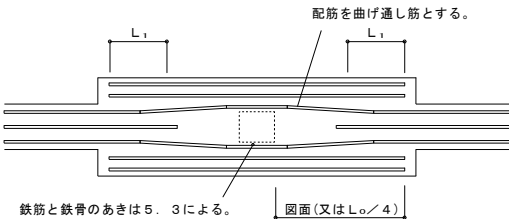


D※ - 200以内 (※: 鉄筋径は、図面による)



12.5図 主筋の継手、定着及び 長 (その4)

- (3) 鉄骨造のBOX柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



鉄筋と鉄骨のあきは5.3による。 図面(又は $L_o/4$ )

12.6図 主筋の継手、定着及び 長 (その5)

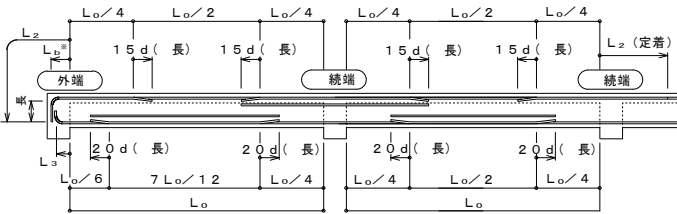
13 小梁及び片持梁の配筋要領

13.1 一般事項

- (1) 図面にない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。
- (2) 印は、継手及び 長を示す。

13.2 小梁

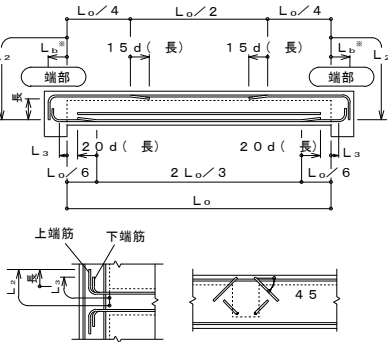
- (1) 続小梁の場合



※  $L_o$ の数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の $1/2$ 以上とする。

13.1図 小梁主筋の継手、定着及び 長 (その1)

- (2) 単 小梁の場合



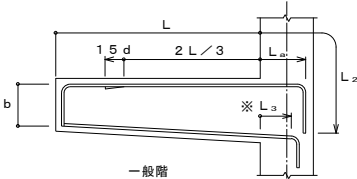
13.2図 小梁主筋の継手、定着及び 長 (その2)

- (注) 1. 印は、継手及び 長を示す。
2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく 直で 長がとれない場合、めにしてもよい。
3. 図示のない事項は、10.1及び12.1に準ずる。
- ※  $L_o$ の数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の $1/2$ 以上とする。

13.3 片持梁筋の定着

- (1) 先端に小梁のない場合

- a. 先端の 曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
- b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。

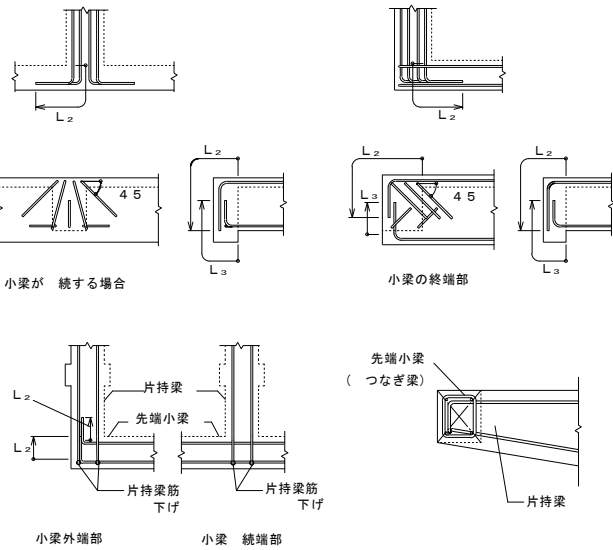


※  $L_a$ をフックなしで定着させる場合は $25d$ とする。

13.3図 片持梁主筋の定着及び 長 (先端に小梁のない場合)

- (2) 先端に小梁がある場合

- a. 上端筋は、先端小梁内に めに定着する。
- b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
- c. 先端小梁の 続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

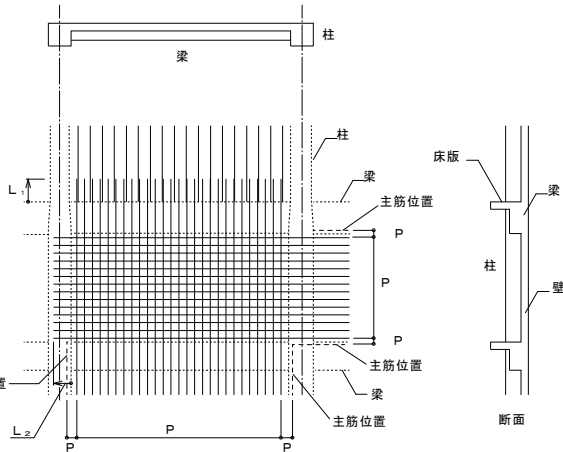


13.4図 片持梁主筋の定着

14 壁の配筋要領

14.1 一般事項

- (1) 壁配筋の継手の長さは $L_1$ 、及び定着の長さは、 $L_2$ とする。
- (2) 土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さを $L_1$ 、定着長さは $L_2$ とする。ただし、耐力壁の重ね継手の長さは $40d$ とし、SD490を使用する場合は特記による。
- (3) 幅止め筋は、縦、横ともD10 - 1000を標準とする。
- (4) 一般部壁筋は、14.1図による。



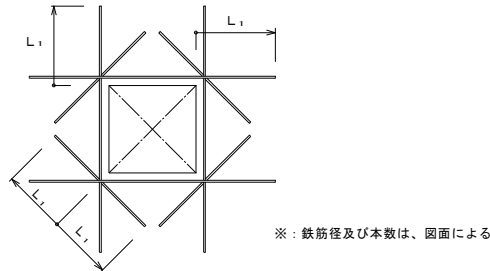
14.1図 壁の配筋

14.2 耐震壁の開口

- (1) 耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。
- (2) やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

14.3 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、14.3図を標準とする。

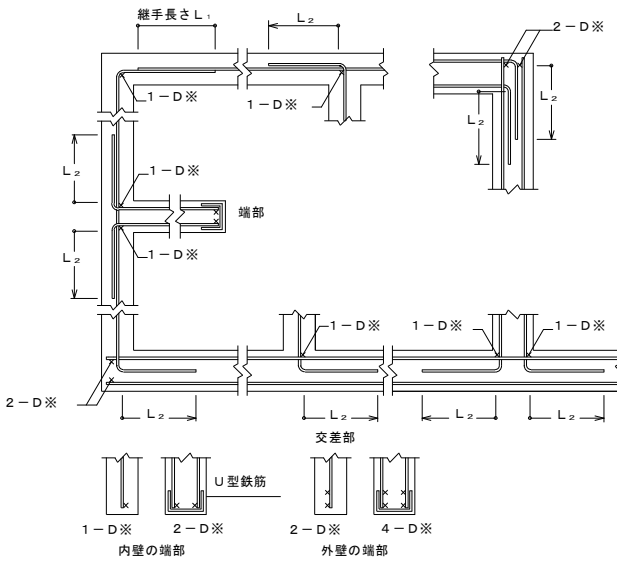


14.3図 壁開口部の補強の定着長さ

- (2) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

14.4 壁の交差部及び端部

- 壁と壁の交差部は、14.4図による。
- a. 交差部補強筋D※はD13以上、かつ壁主筋と同径とする。
- b. 壁の端部にU型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。

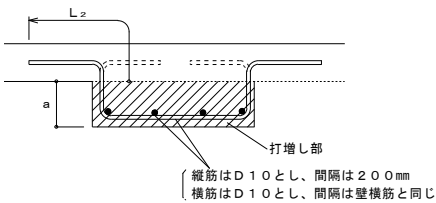


14.4図 壁の交差部及び端部の配筋

※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」(建築学会)に基づき図面による。

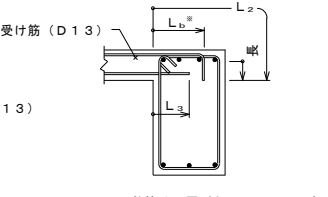
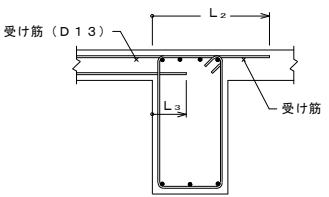
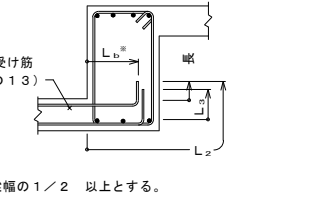
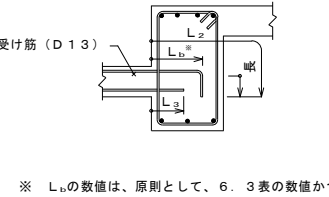
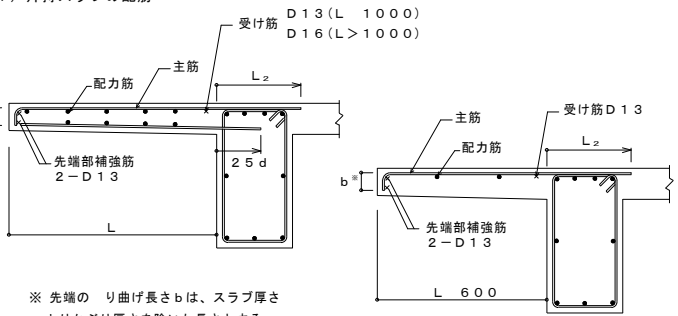
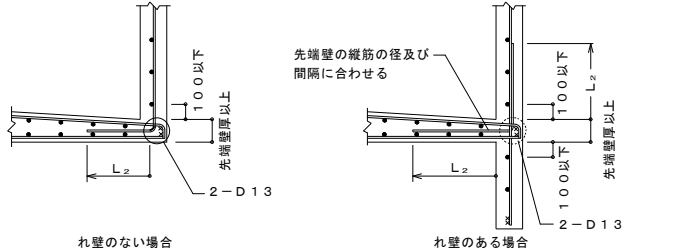
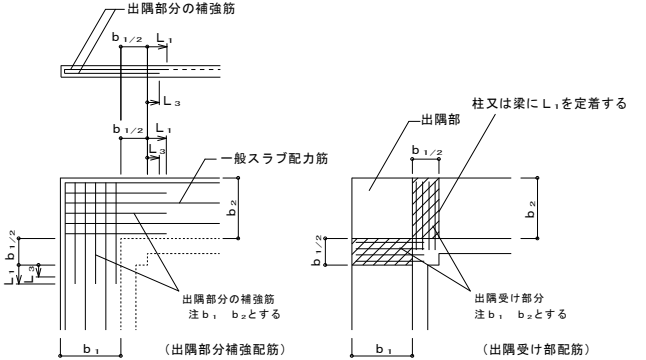
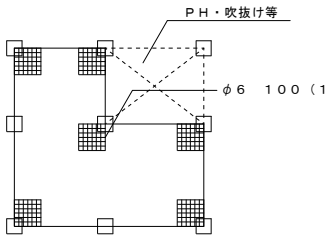
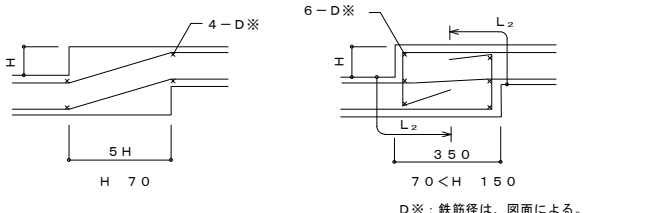
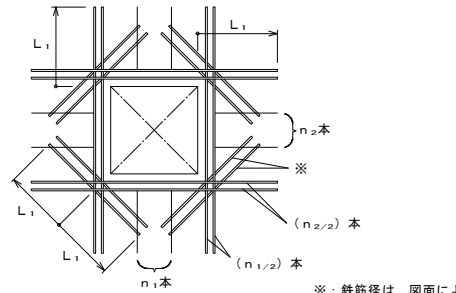
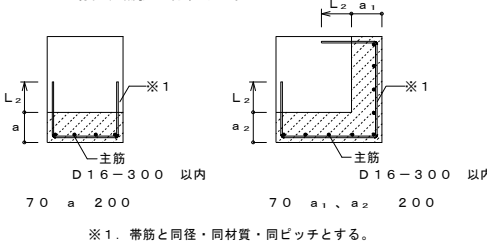
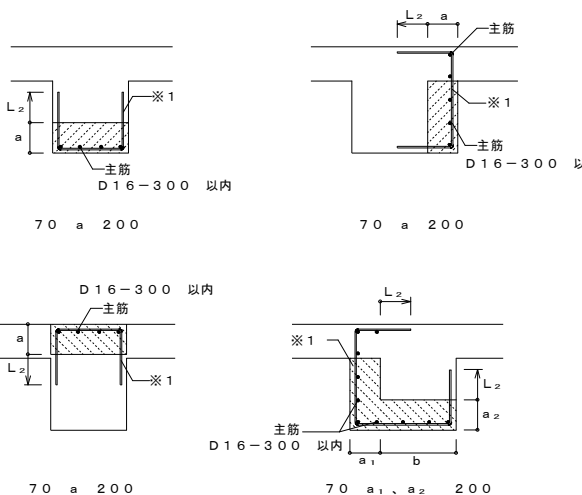
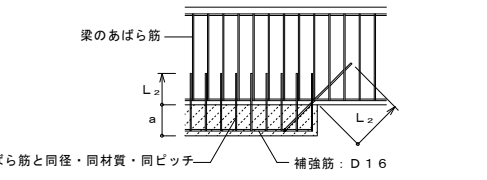
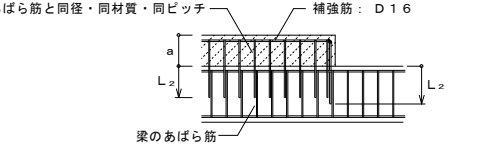
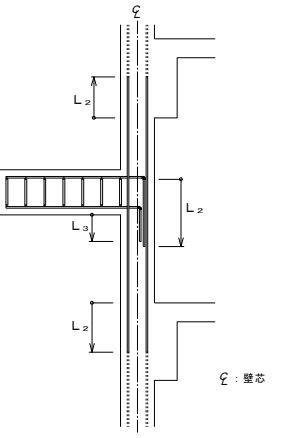
14.5 壁の打増し要領

- コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、14.5図による。
- 打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。
- 200mmを超える場合は、特記による。



14.5図 壁の打増し補強配筋

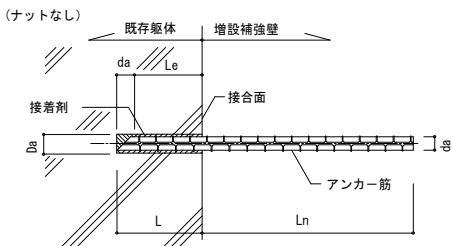
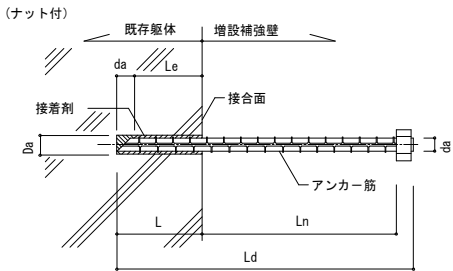
事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	構造細目共通図 (建築構造物) (4) H30.04		
縮尺	-	設計年月日	令和4年3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-4

<div>15 床の配筋要領</div> <div>15.1 一般事項</div> <div><p>(1) 鉄筋の継手長さは、<math>L_1</math>とする。</p><p>(2) 定着長さ及び受け筋は、15.1図による。ただし、引き通すことができない場合は、15.2図、15.3図により梁内に定着する。</p><p>(3) 基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。図面がなければ16.5図による。</p></div> <div></div> <div><p>※ <math>L_a</math>の数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の<math>1/2</math>以上とする。</p></div> <div>15.1図</div> <div>スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その1）</div> <div></div> <div><p>※ <math>L_a</math>の数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の<math>1/2</math>以上とする。</p></div> <div>15.3図</div> <div>スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その3）</div> <div>15.2 片持スラブ</div> <div><p>(1) 片持スラブの配筋</p></div> <div></div> <div><p>※ 先端のり曲げ長さ<math>b</math>は、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。</p></div> <div>15.4図</div> <div>片持スラブの配筋</div> <div><p>(2) 先端に小梁がなく壁が取り付けく場合</p></div> <div></div> <div><p>※ 先端壁の縦筋の径及び間隔に合わせる</p></div> <div>15.5図</div> <div>先端に壁が付く場合の配筋</div> <div>23 15.3 出隅部の配筋方法</div> <div><p>(1) 補強の配筋は図面による。配筋方法は、15.6図による。 特記にない場合は、D10 100ダブルとする。</p><p>(2) 出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面(幅は<math>b_{1/2}</math>とする)による。</p></div> <div></div> <div><p>※ 柱又は梁に<math>L_1</math>を定着する</p></div> <div>15.6図</div> <div>片持スラブ出隅部の補強配筋</div> <div>23 15.4 地上部最上階の屋根床版</div> <div><p>(1) 出隅及び入隅部分には、15.7図により、補強筋(溶接金網)を上端筋の下側に配筋する。</p><p>(2) 屋根、配屋根共通とする。</p></div> <div></div> <div>15.7図</div> <div>出隅及び入隅部分の補強配筋</div> <div>23 15.5 段差床版の補強</div> <div><p>同一床版に段差がある場合、15.8図の補強を行う。ただし、<math>H&gt;150</math>の場合は、小梁を設ける事を原則とする。</p></div> <div></div> <div>15.8図</div> <div>段差のある床版の補強配筋</div> <div>23 15.6 床版開口部の補強</div> <div><p>(1) 開口の最大径 700の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する。(15.9図) 開口の最大径<math>&gt;700</math>の場合は図面による。</p></div> <div></div> <div><p>※ 鉄筋径は、図面による</p></div> <div>15.9図</div> <div>床版開口部の補強配筋</div> <div><p>(2) 床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。</p></div> <div>23 16 柱及び梁の増し打ち要領</div> <div>16.1 柱</div> <div><p>(1) 増し打ちコンクリートの補強は、16.1図による。 ただし、<math>a&lt;70\text{mm}</math>の場合、補強は行わない。</p></div> <div></div> <div><p>※1. 帯筋と同径・同材質・同ピッチとする。</p></div> <div>16.1図</div> <div>柱の増し打ち補強配筋</div> <div><p>(2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。</p><p>(3) 増し打ち部分の帯筋の定着長さは、<math>L_2</math>以上とする。</p><p>(4) 増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。</p></div> <div>23 16.2 梁</div> <div><p>(1) 増し打ちコンクリートの補強は、16.2図による。ただし、<math>a&lt;70\text{mm}</math>の場合、補強は行わない。</p></div> <div></div> <div><p>※1. あばら筋と同径・同材質・同ピッチとする。</p></div> <div>16.2図</div> <div>梁の増し打ち補強配筋</div> <div><p>(2) 増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。</p><p>(3) 増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、<math>L_2</math>以上とする。</p><p>(4) 増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。</p><p>(5) 梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合</p></div> <div></div> <div>16.3図</div> <div>梁の上下の増し打ち配筋補強（途中で終わる場合）</div> <div><p>(6) 梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合</p></div> <div></div> <div>16.4図</div> <div>梁の側面の増し打ち補強配筋（途中で終わる場合）</div> <div>23 18 階段の配筋要領</div> <div>18.1 階段の配筋要領</div> <div><p>(1) 壁配筋は、図面による。</p><p>(2) 階段主筋は、壁の中線を越えてから縦に曲げ下ろす。</p></div> <div></div> <div>18.1図</div> <div>片持スラブ形階段配筋の定着</div> <table><tr><td colspan="2">事業名</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td colspan="2">工事名</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td colspan="2">工事場所</td><td colspan="2">四日市市 塩浜町 地内</td></tr><tr><td colspan="2">名称</td><td colspan="2">構造細目共通図（建築構造物）(5) H30.04</td></tr><tr><td>縮尺</td><td>-</td><td>設計年月日</td><td>令和 4年 3月</td></tr><tr><td>工種</td><td></td><td>設計者</td><td>株式会社 日新技術コンサルタント</td></tr><tr><td>事業主体</td><td>四日市市 上下水道局</td><td>図面番号</td><td>S-5</td></tr></table>	事業名				工事名				工事場所		四日市市 塩浜町 地内		名称		構造細目共通図（建築構造物）(5) H30.04		縮尺	-	設計年月日	令和 4年 3月	工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-5
事業名																												
工事名																												
工事場所		四日市市 塩浜町 地内																										
名称		構造細目共通図（建築構造物）(5) H30.04																										
縮尺	-	設計年月日	令和 4年 3月																									
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント																									
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-5																									



## あと施工アンカー

(1) 接着系アンカー



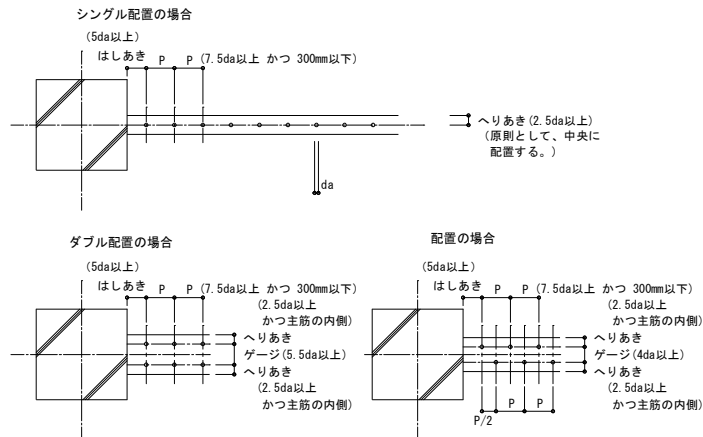
L : コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ  
Le : アンカーの有効埋め込み長さ  
Ld : アンカー筋の全長  
Ln : 有効定着長さ  
La : 既存コンクリート躯体への穿孔径  
da : アンカー 部の直径、アンカー筋の呼び名

アンカー関係共通事項	
接着系アンカーの有効 埋め込み長さ	一般部 : $L_e = 7 d_a$  開口補強筋 : $L_e = 12 d_a$
接着系アンカーの有効 定着長さ	一般部 : $L_n = 20 d_a$ 一般部 (ナットなし)・開口補強筋 : $L_n = 40 d_a + 5 d_a$ (=補強筋との継手長さ+ナット径)
アンカー筋形状	ナット付き異形棒鋼(開口補強筋用はナットなし)とし、ナットからねじが2 以上でること。  また、先端形状は45°カットとする。

アンカー-筋呼び名 (da)	アンカーの有効埋込長さ (Le)	荷 重 (kN)
D [     ]	[     ] da	[     ]
D13	7 da	18.2
D13	1 2 da	25.0
D16	1 2 da	39.1
D19	1 2 da	49.0
D22	1 2 da	75.3

確認強度は、計算で得られた、アンカーの鋼材による引張荷重又はコンクリート破 による引張荷重（埋込みピッチ及びへりあきの影響を受ける場合は、低減した荷重）の小さい方の2/3程度の荷重。

(2) あと施工アンカーの位置と間隔



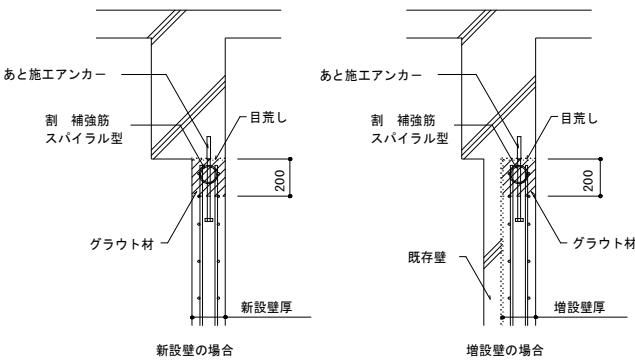
## 割 補強筋配筋要領

1. 割 補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。
2. 割 補強筋は、6φスパイラル型とし、ピッチ、スパイラル径は下記による。
3. 継手は、2 以上の重ねとする。

壁 厚	スパイラル径	割 補強筋	備 考
150	70φ	6φ 6	
250	150φ	6φ 6	
300	200φ	6φ 6	
320	220φ	6φ 6	

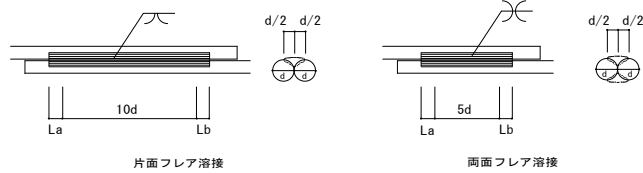
## 新設・増設壁上部グラウト要領

1. 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。
2. グラウト材の設計基準強度は30N/mm<sup>2</sup>以上とする。調査はJIS R 5201(セメントの物理試験方法)のフロー試験によるモルタルのコンシステンシーに応じ、フロー値は180mm以上240mm未満とする。  
コンシステンシー 試験はJ14ロート試験法に準ずる

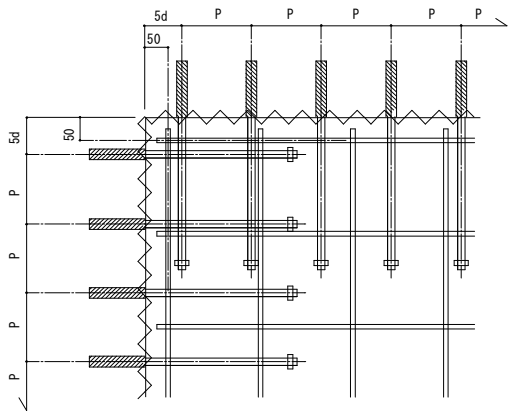


## 鉄筋フレア溶接要領

1. 特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。
2. 鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの点 (La) 及び、クレータ (Lb) を除いた部分の長さとする。但し、La 及び Lb は 2d 以上とする。



## アンカ-筋ピッチ標準



既存壁等撤去要領図

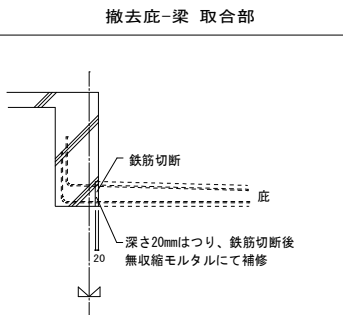
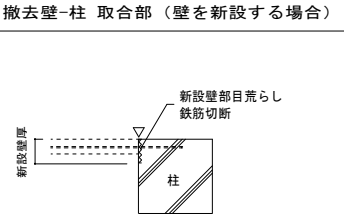
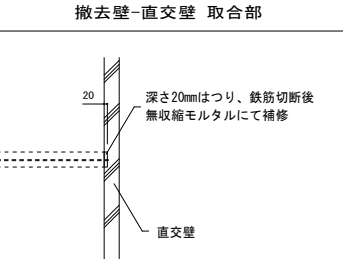
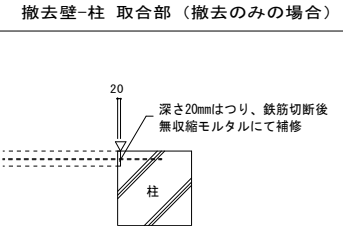
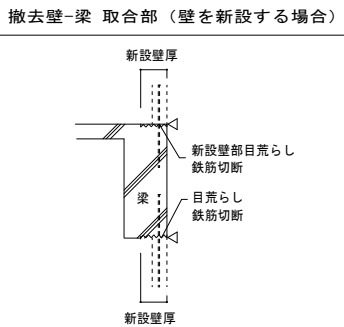
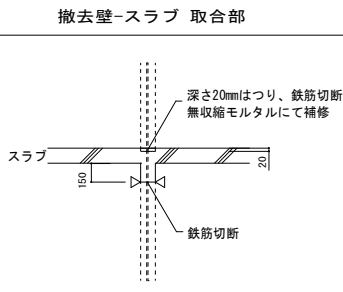
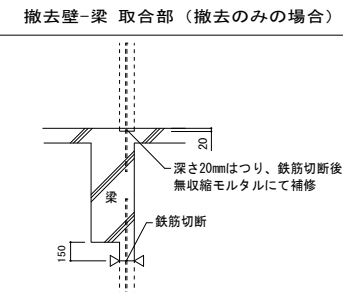
$$S=1/30$$

注記) 特記なき壁等の撤去は下図による。


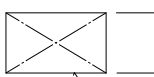
注記) ◁ 印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30とする。

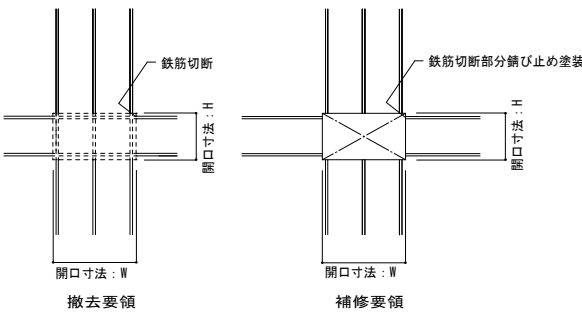
注記) 鉄筋切断部には、錆止め塗装を行う。

注記) 鉄筋はつり出しは、特記による。



### 新設壁開口配筋要領図

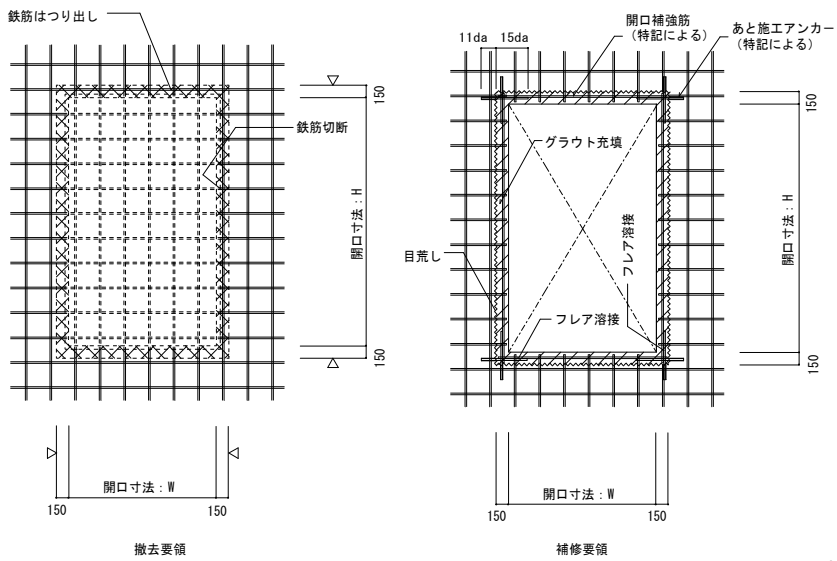
1. 床・壁にコア抜きにより先導孔を開ける。
- 
- 先導孔 (100φ程度)
2. 各開口寸法に合わせ、コンクリートカッター及び、はつり出しにより開口部を開ける。
- 
- エッジ開口部
- コンクリートカッター及び、はつり出し
- 開口寸法: W
3. 小開口部は切断面の補修（錆び止め塗装）を施す。
- 大開口部はあと施工アンカーにより、開口補強筋を設ける。
- 開口補強筋を取り付けた後、内型枠に合わせグラウト材を充填する。



## 一般事項

1. 参考図書
- 「2017年改 版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針 同解説」 日本建築防災協会／国土交通大臣指定耐震改修 センター
- ※第3章 補強部材・部位の設計
- ※第4章 補強工事の施工

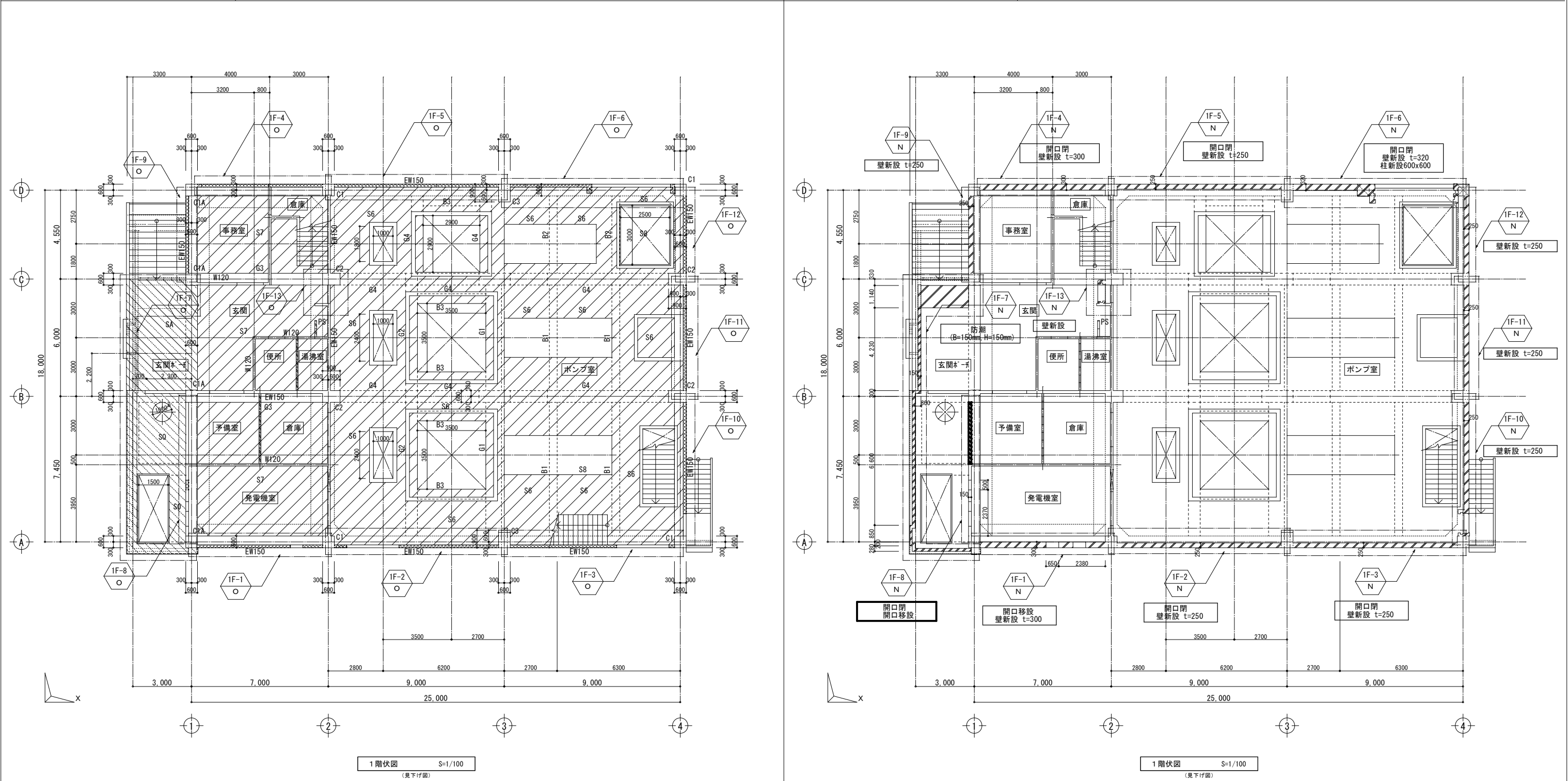
大開口部 ・適用は特記による。



注記) ◁ 印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	耐震改修標準詳細図		
縮尺	-	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-7



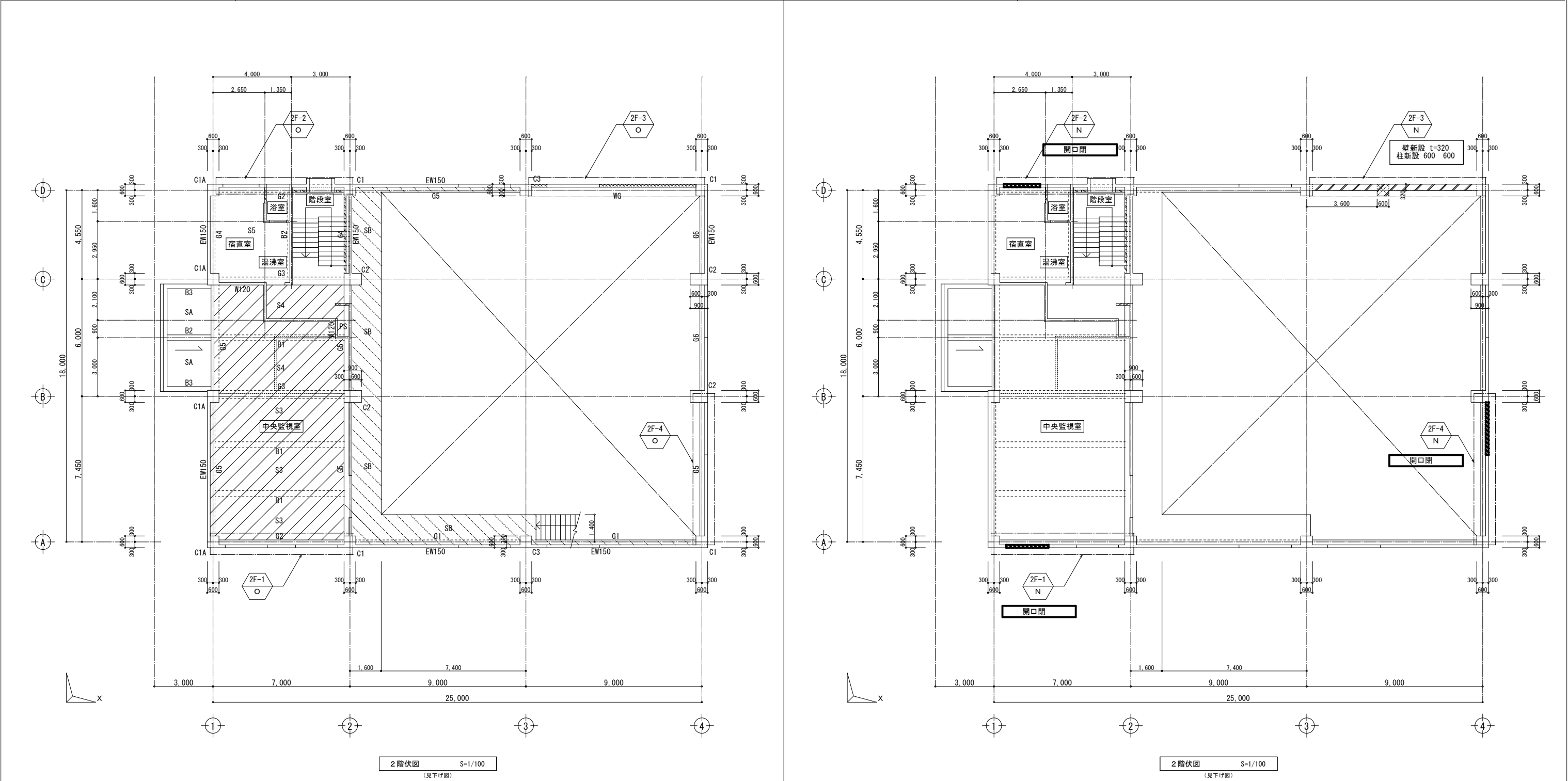


特記なき限り下記による	
基準レベル	1FL = ▽+3.350
梁上端レベル	±0 (▽+3.350)
スラブ上端レベル	±0 (▽+3.350)
壁	W150
	-30 (▽+3.320)
	-50 (▽+3.300)
	-400 (▽-2.950)

凡例	
特記なき限り下記による。	
	印：既設コンクリート
及び鉄筋撤去範囲を示す。	
	○：部位番号 を示す。
	○：補強前、N：補強後
	改修工事範囲

凡例	
特記なき限り下記による。	
	印：開口閉、補強を示す。
	印：RC壁新設を示す。
	○：部位番号 を示す。
	○：補強前、N：補強後
	改修工事範囲

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	1階伏図 (補強前・後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-8

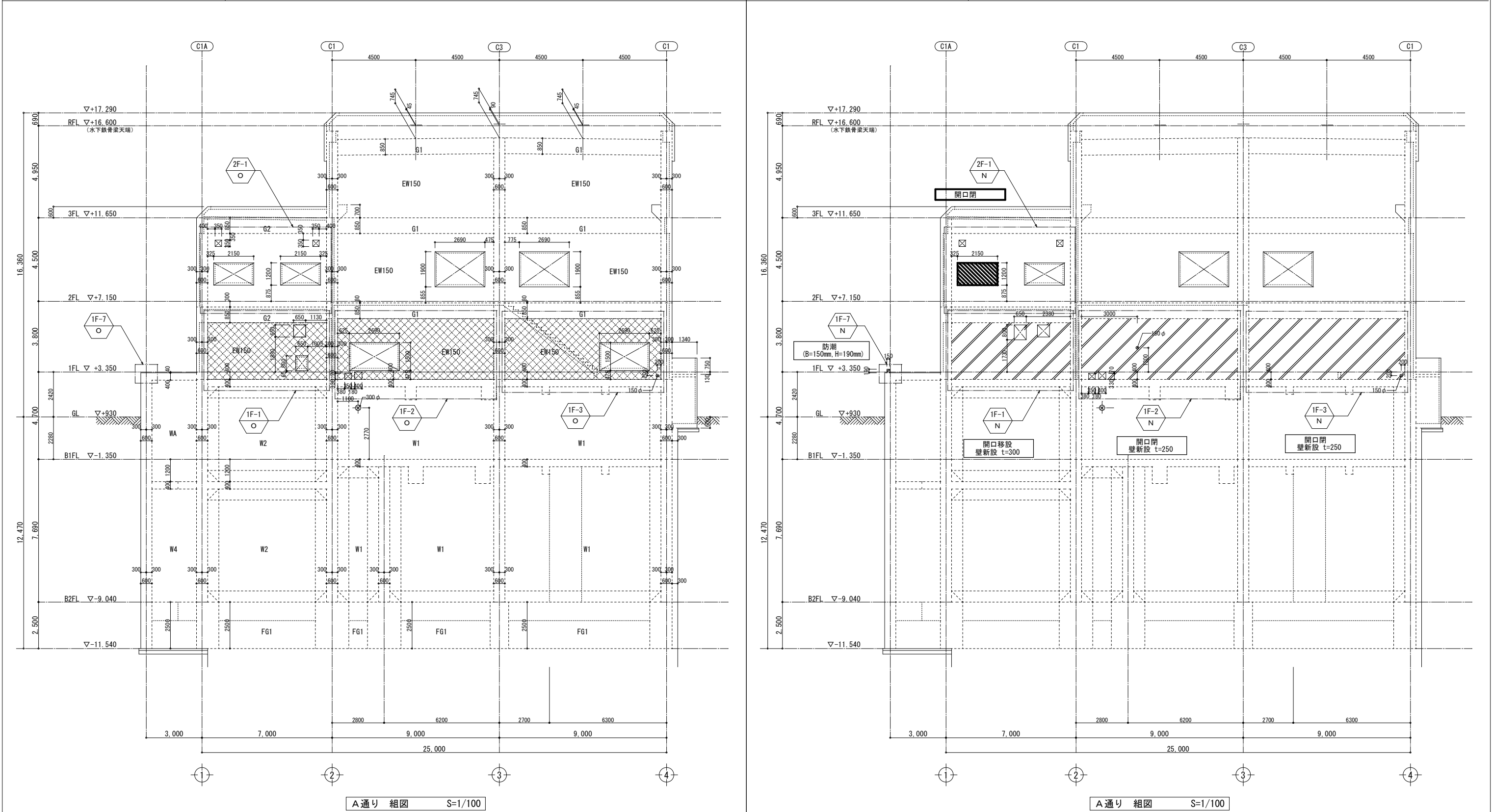


特記なき限り下記による	
基準レベル	2FL = ▽+7.150
梁上端レベル	-30 (▽+7.120)
スラブ上端レベル	-30 (▽+7.120)
壁	W150
	-80 (▽+7.070)
	-300 (▽+6.850)

凡例	
特記なき限り下記による。	
	印：既設コンクリート、及び鉄筋撤去範囲を示す。
	○：部位番号 を示す。
	○：補強前、N：補強後
	改修工事範囲

凡例	
特記なき限り下記による。	
	印：開口開、補強を示す。
	印：RC壁新設を示す。
	○：部位番号 を示す。
	○：補強前、N：補強後
	改修工事範囲

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	2階伏図 (補強前・後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-9



凡例

特記なき限り下記による。

印：既設コンクリート。

及び鉄筋除去範囲を示す。

部位番号 を示す。

○：補強前、N：補強後

改修工事範囲

凡例

特記なき限り下記による。

印：開口閉、補強を示す。

印：RC壁新設を示す。

部位番号 を示す。

○：補強前、N：補強後

改修工事範囲

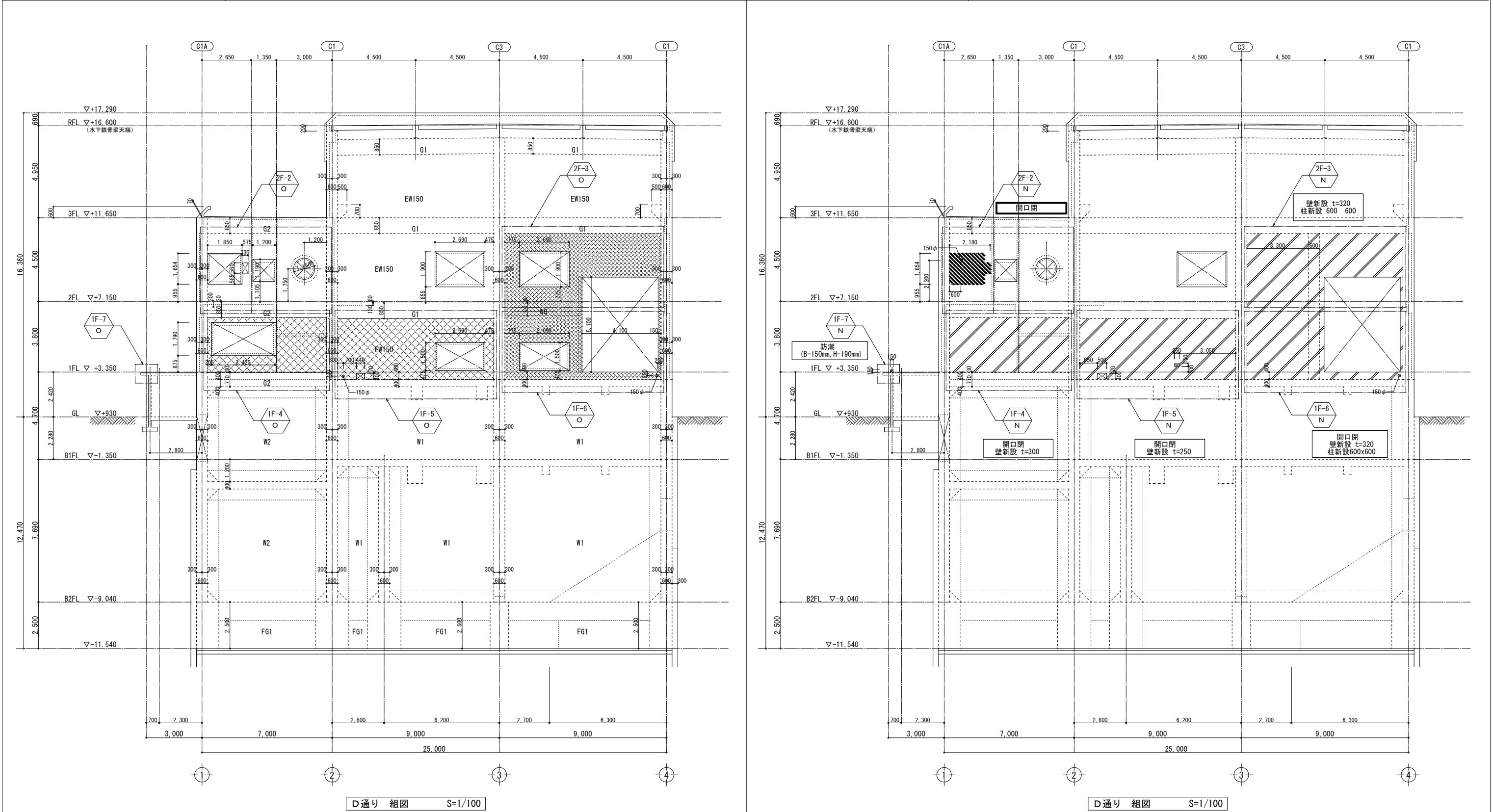
共通事項

特記なき限り下記による。

壁：W150

Cn 印は柱 号を示す。

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	A通り 組図 (補強前・後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-10



凡例

特記なき限り下記による。

印：既設コンクリート。

及び鉄筋撤去範囲を示す。

部位番号 を示す。

○：補強前、N：補強後

改修工事範囲

凡例

特記なき限り下記による。

印：開口閉、補強を示す。

印：RC壁新設を示す。

部位番号 を示す。

○：補強前、N：補強後

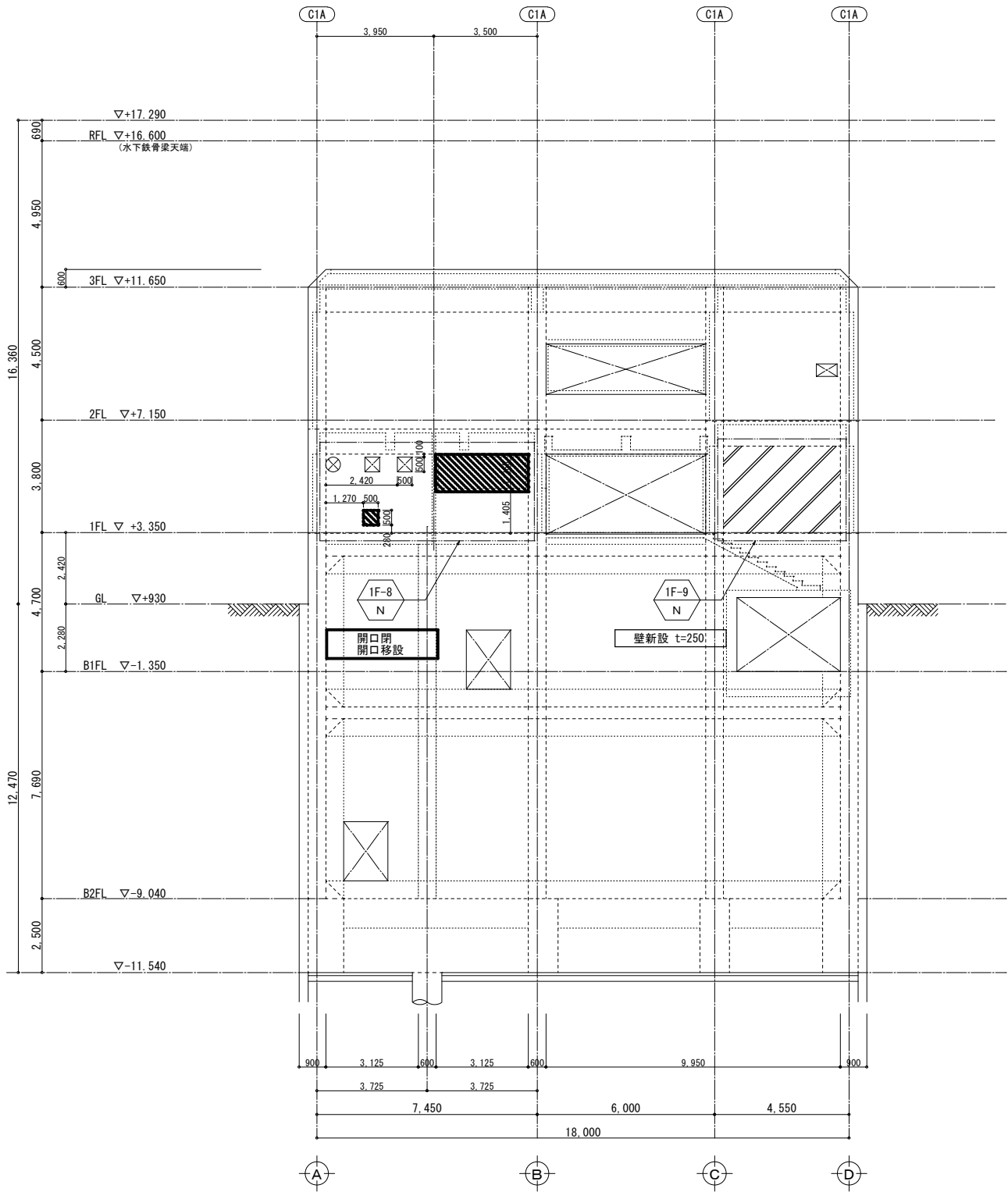
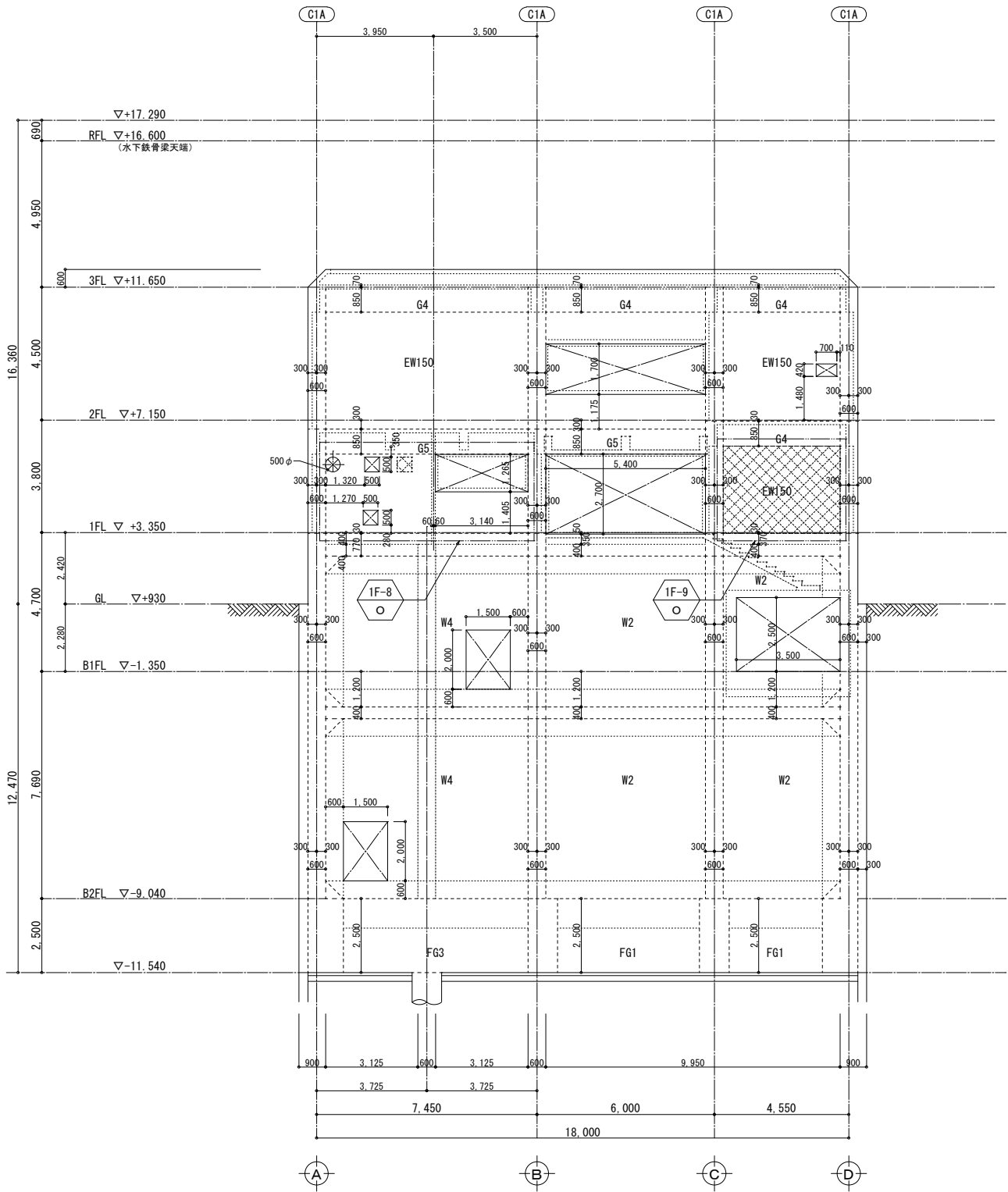
共通事項

特記なき限り下記による。

壁 W150

Cn 印は柱 号を示す。

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	D通り 組図 (補強前・後)		
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-11



凡例

特記なき限り下記による。

印：既設コンクリート。

及び鉄筋撤去範囲を示す。

部位番号 を示す。

○：補強前、N：補強後

改修工事範囲

凡例

特記なき限り下記による。

印：開口閉、補強を示す。

印：RC壁新設を示す。

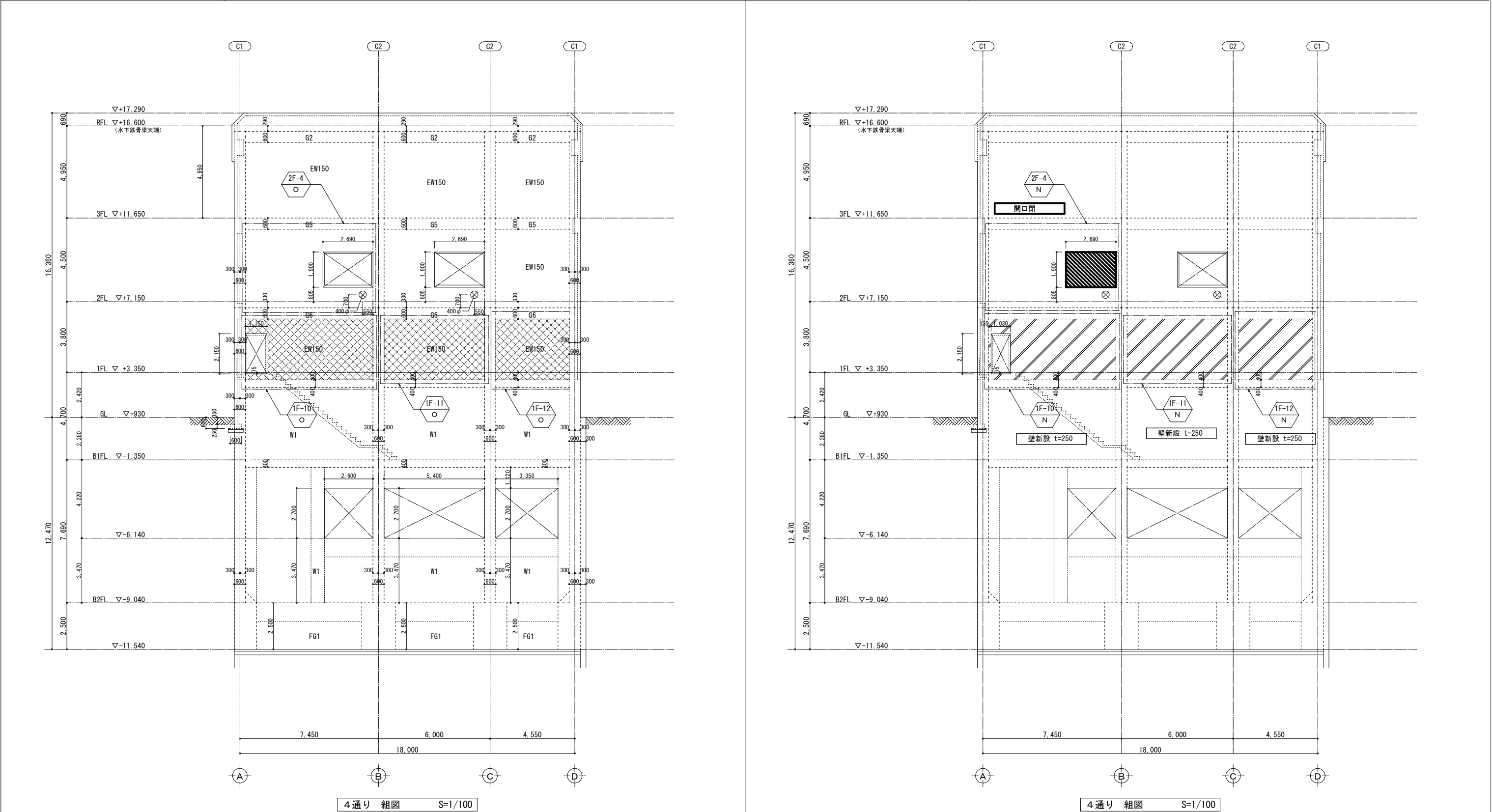
部位番号 を示す。

○：補強前、N：補強後

改修工事範囲

共通事項	
特記なき限り下記による。	
壁	W150
Cn	印は柱 号を示す。

事業名	
工事名	
工事場所	
名 称	1通り組図（補強前・後）
縮 尺	1/100
設計年月日	令和 4 年 3 月
工 種	設計者
事業主体	四日市市 上下水道局
図面番号	S-12

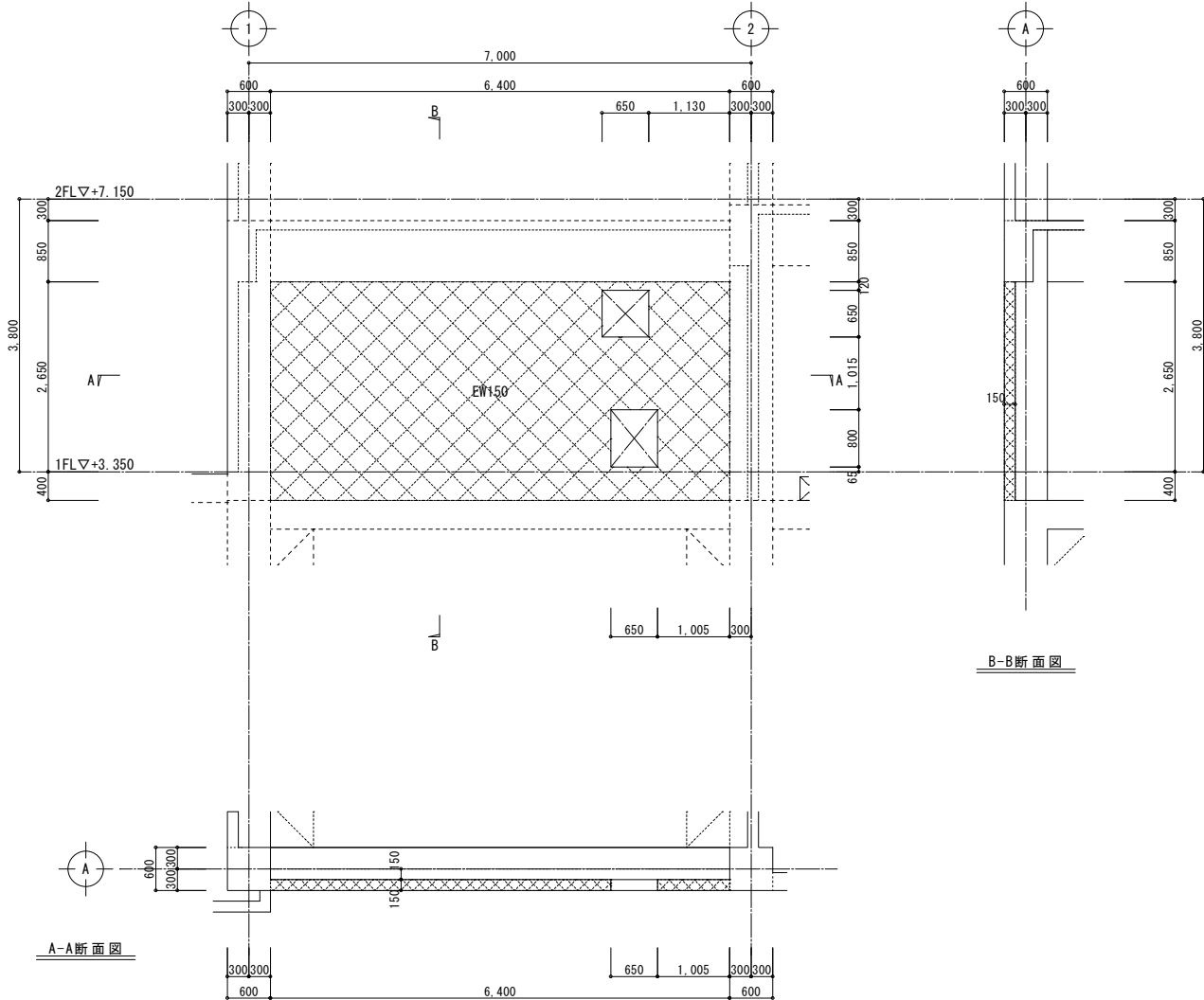



凡例	
特記なき限り下記による。	
	印：既設コンクリート。
及び鉄筋撤去範囲を示す。	
	部位番号 を示す。
	○：補強前、N：補強後
	改修工事範囲

凡例	
特記なき限り下記による。	
	印：開口閉、補強を示す。
	印：RC壁新設を示す。
	部位番号 を示す。
	○：補強前、N：補強後
	改修工事範囲

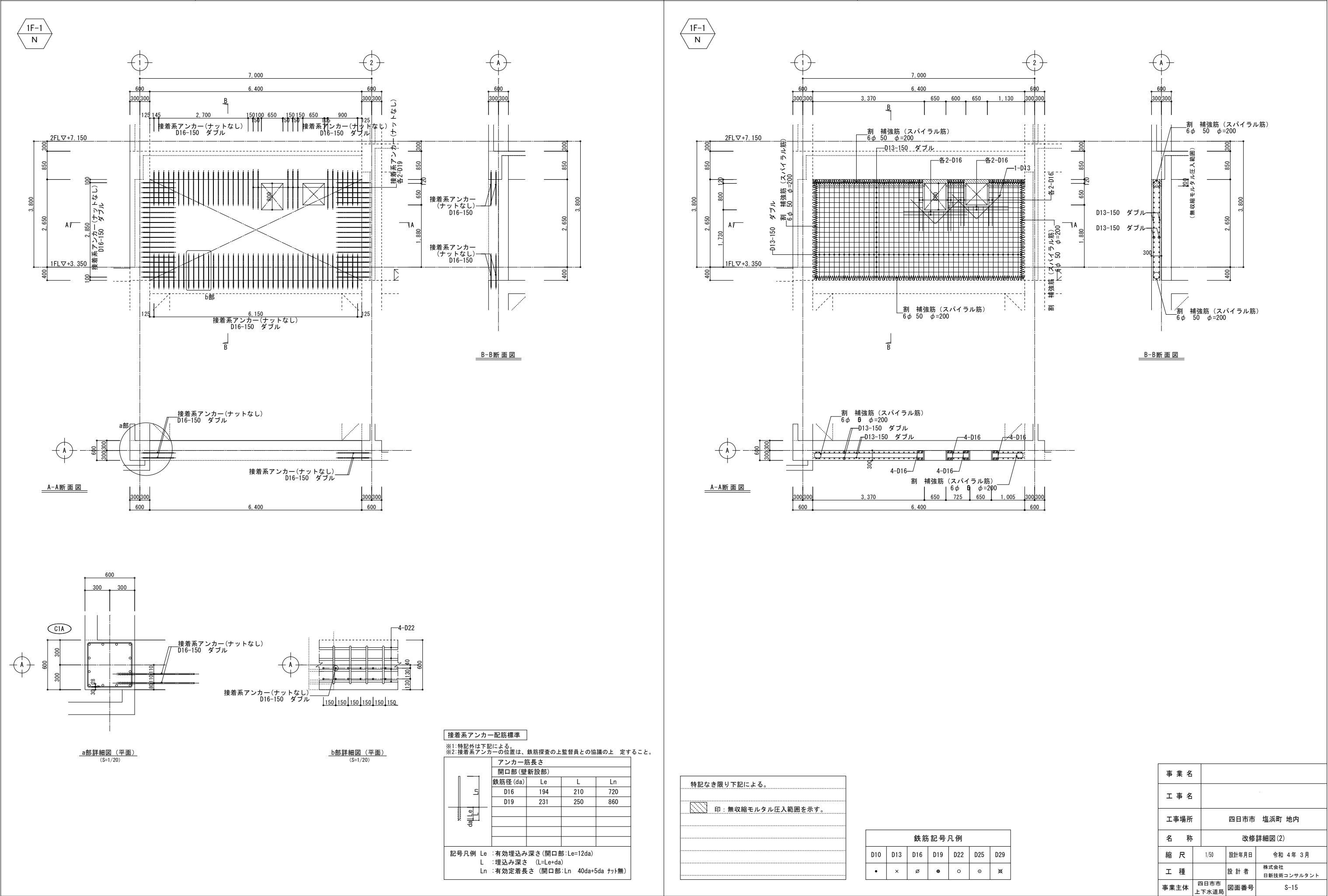
事業名			
工事名		塩浜第3ポンプ場耐震補強工事	
工事場所		四日市市 塩浜町 地内	
名称		4通り組図（補強前・後）	
縮尺	1/100	設計年月日	令和 4 年 3 月
		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
工種	四日市市 上下水道局	図面番号	S-13

1F-1  
○

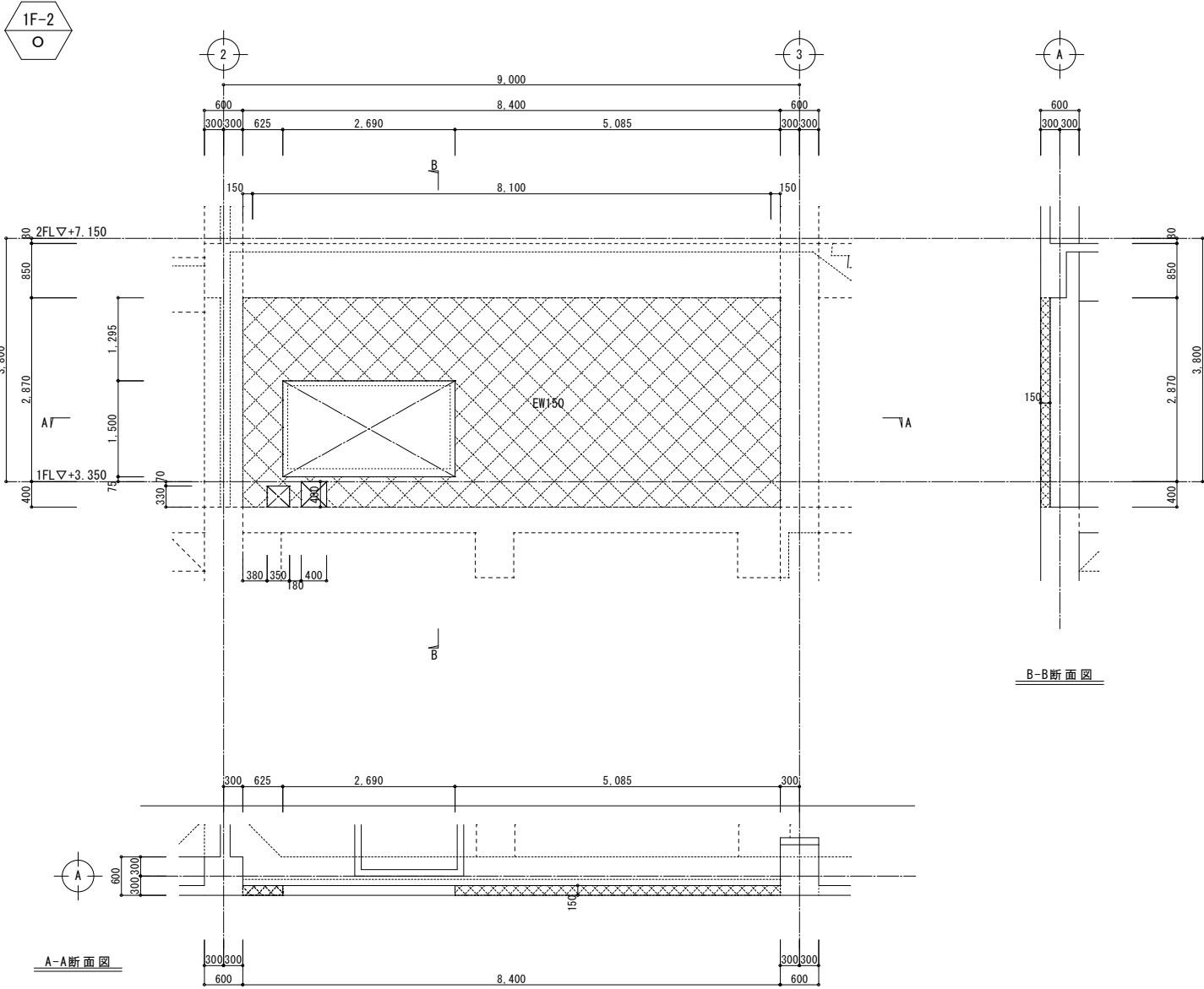


特記なき限り下記による。	
	印：既設壁・既設仕上げ撤去範囲を示す。

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(1)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-14



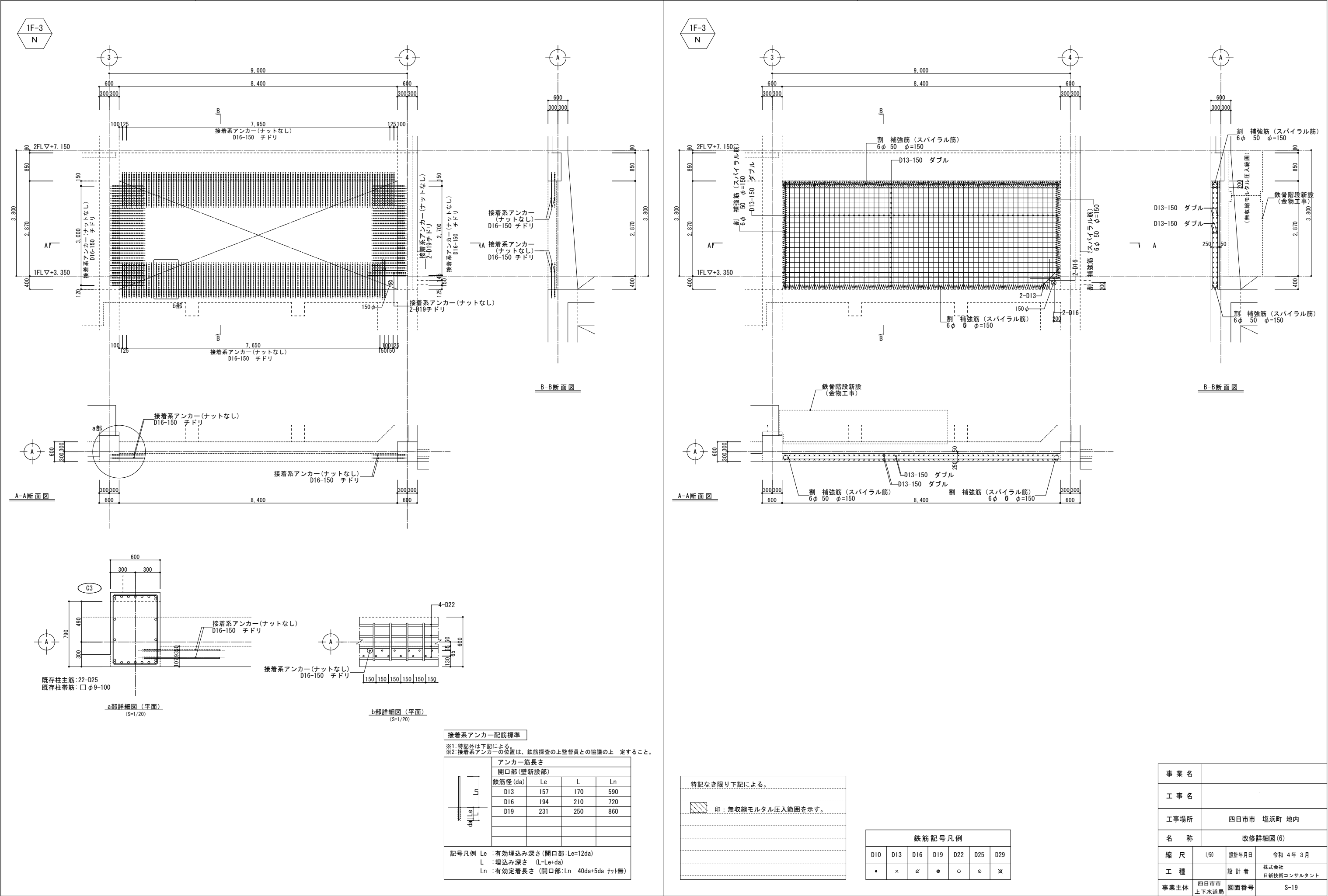




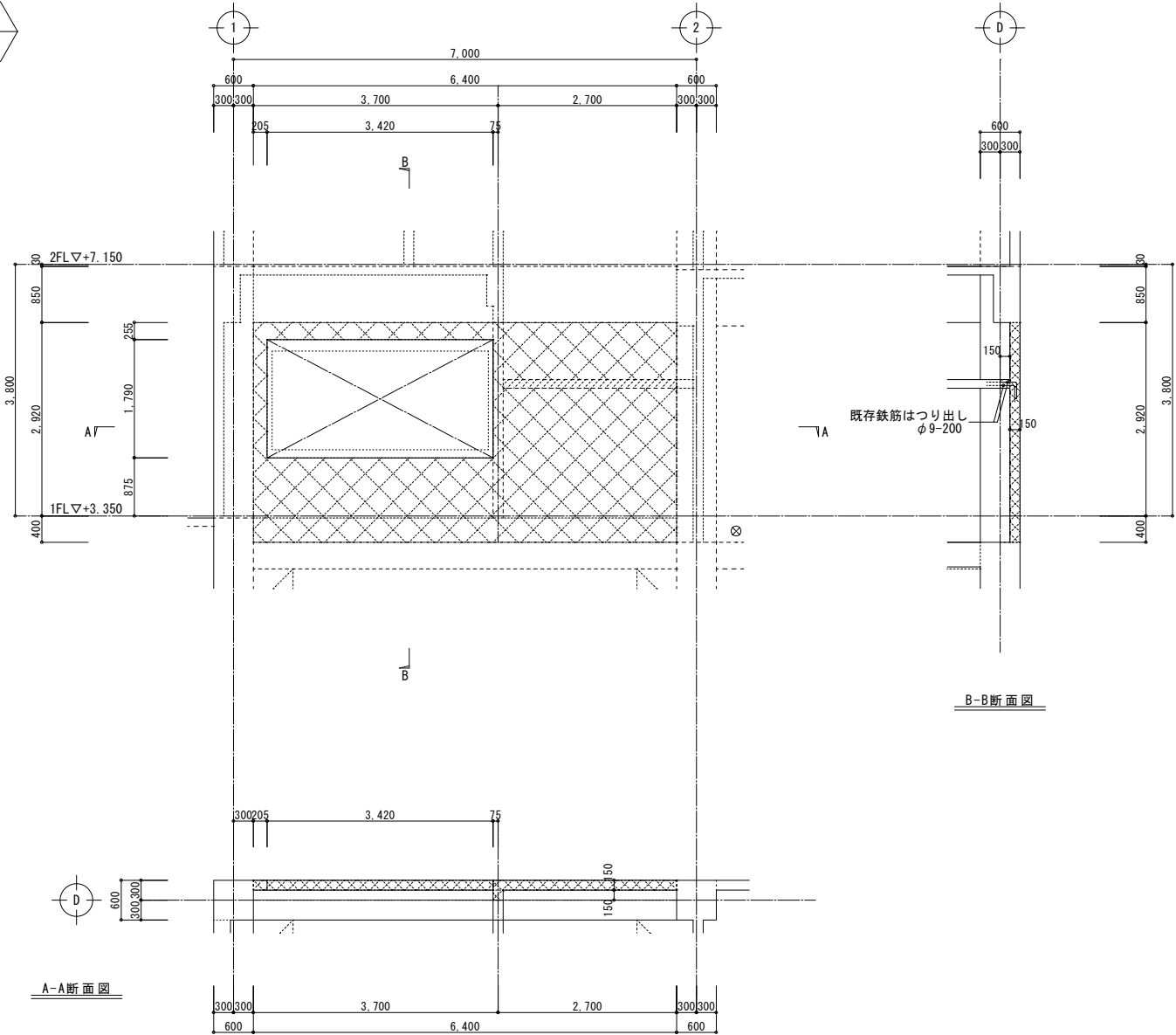
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(3)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-16





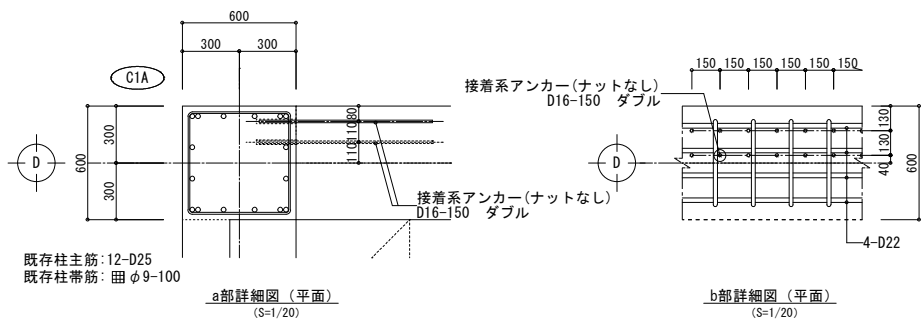
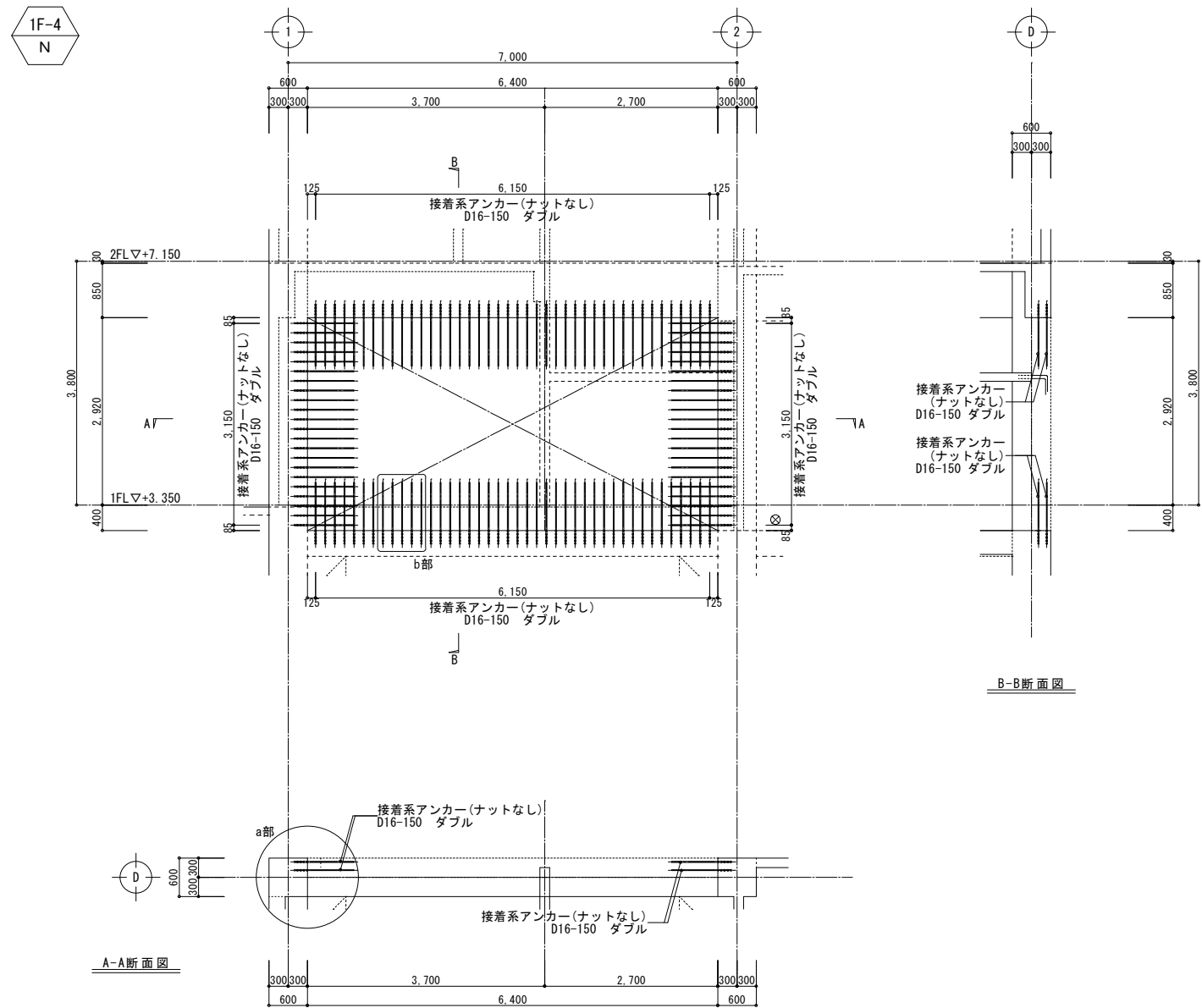


1F-4  
○



特記なき限り下記による。	
	印：既存壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。
	印：既設壁・既設仕上げ撤去範囲を示す。

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(7)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-20



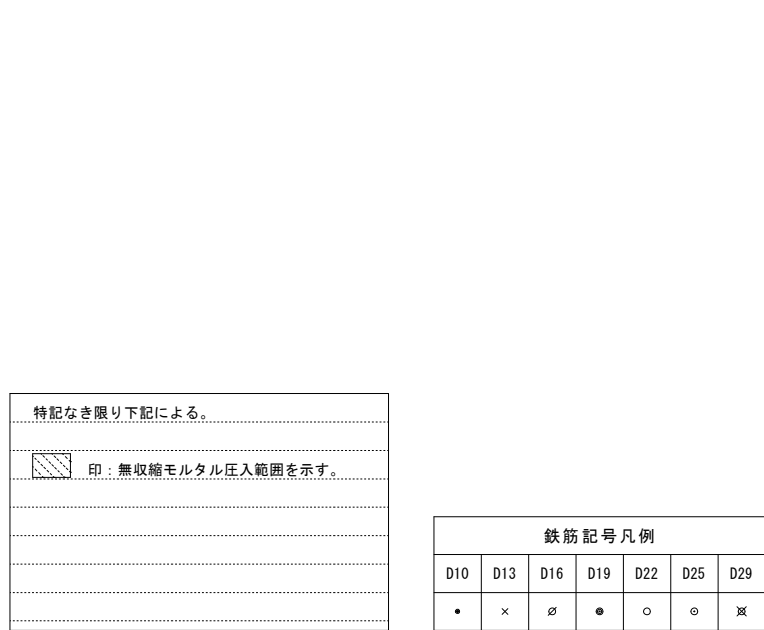
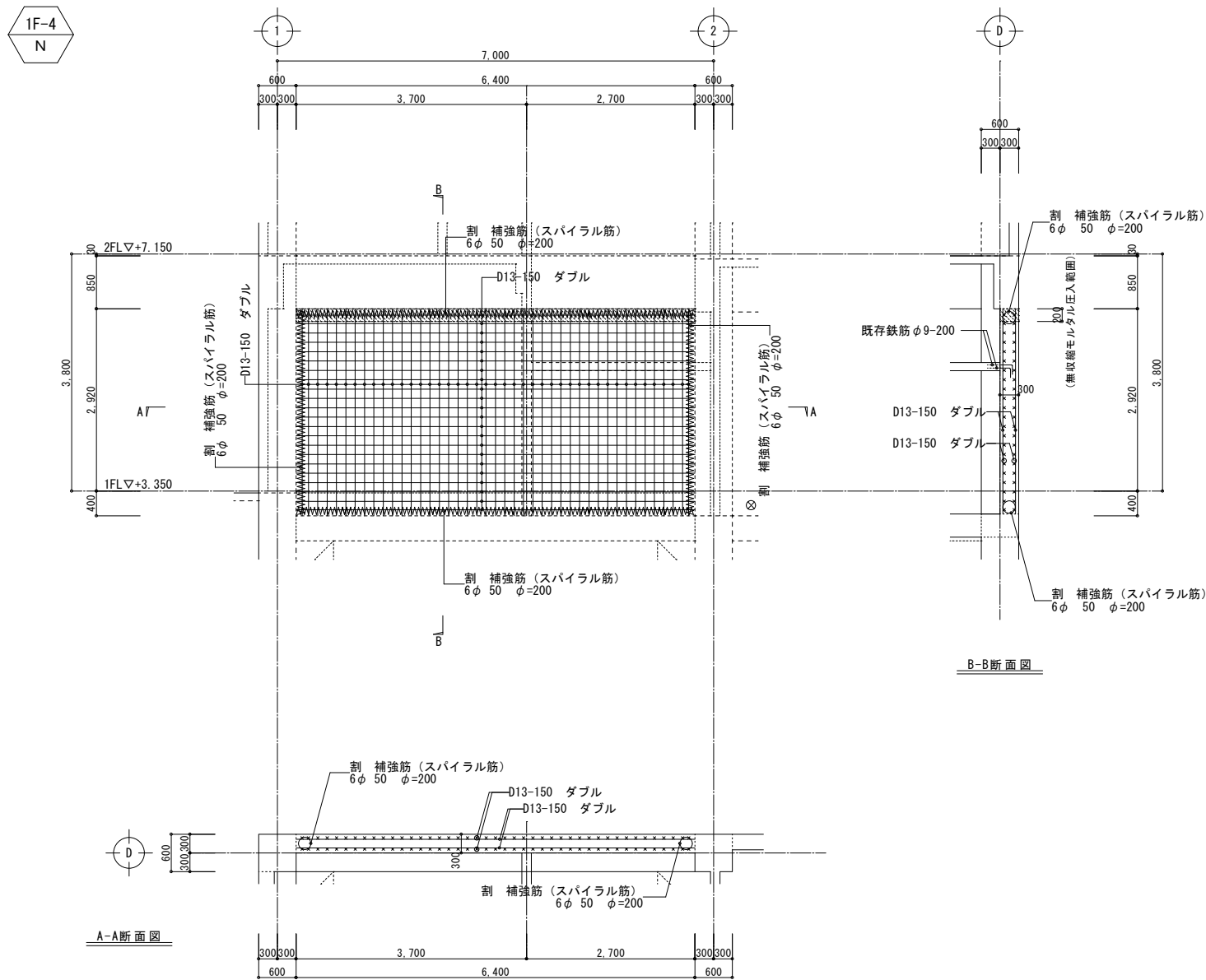
## 接着系アンカー配筋標準

※1:特記外は下記による。  
 ※2:接着系アンカーの位置は、鉄筋探査の上監督員との協議の上 定すること。

※2: 接着系アンカーの位置は、鉄筋探査の上監督員との協議の上 定すること。

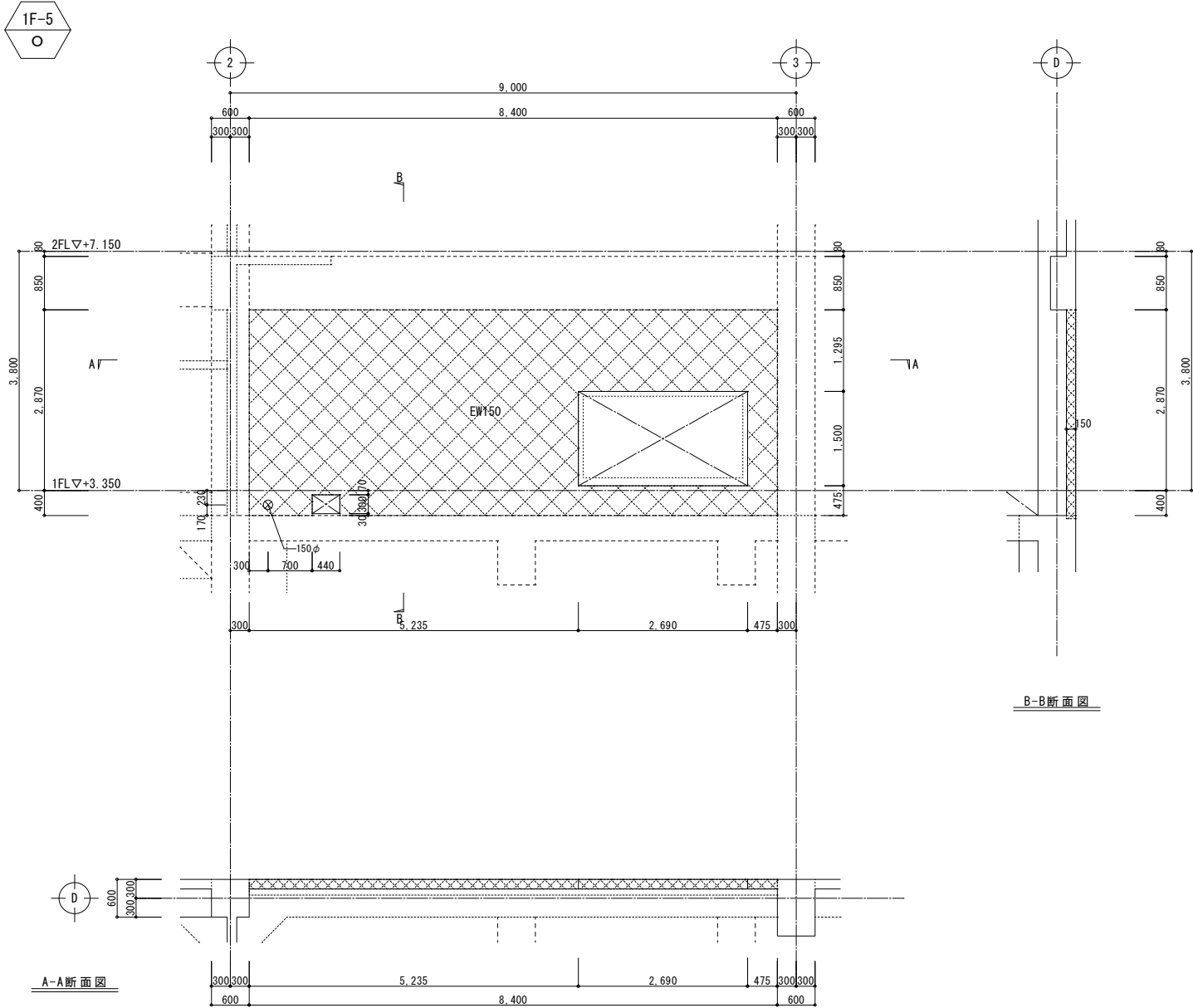
	アンカー筋長さ			
	開口部（壁新設部）			
	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln
	D16	194	210	720
記号凡例 Le : 有効埋込み深さ（開口部: $Le=12da$ ） L : 埋込以下深さ（ $L=Le+da$ ） Ln : 有効定着長さ（開口部: $Ln = 40da+5da$ 以下無）				

D通り補強詳細図(1)



鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
●	×	∅	●	○	⊙	⊗

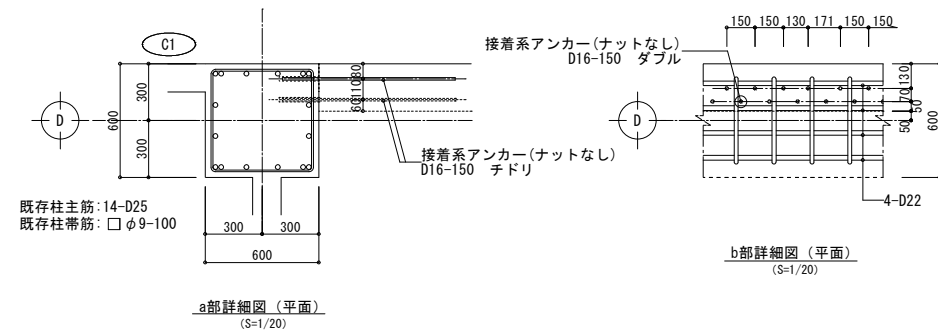
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(8)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルティング
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-21



特記なき限り下記による。

印：既設壁・既設仕上げ撤去範囲を示す。

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(9)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-22

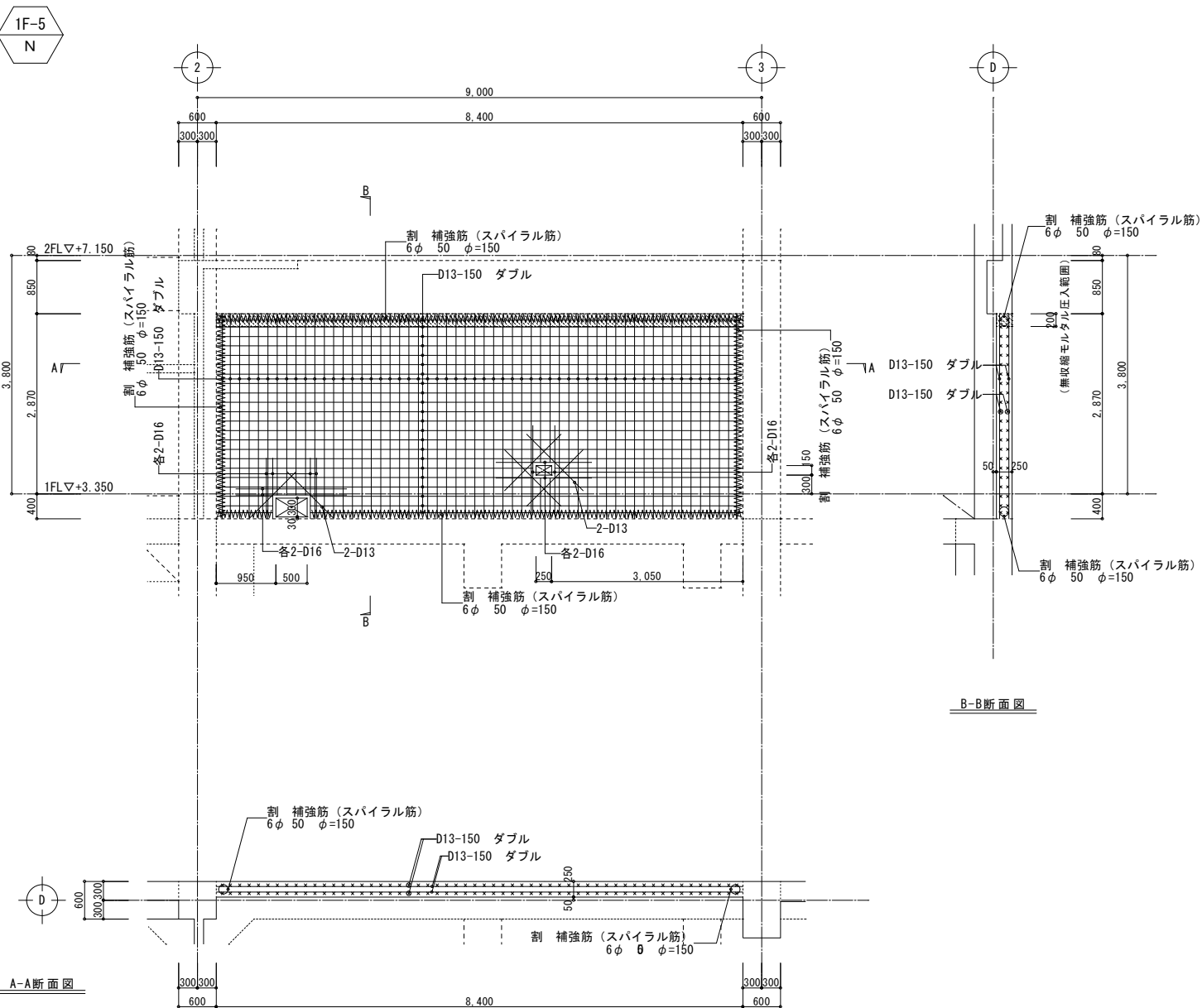


## 接着系アンカー配筋標準


※1:特記外は下記による。  
 ※2:接着系アンカーの位置は、鉄筋探査の上監督員との協議の上 定すること。

※2: 接着系アンカーの位置は、鉄筋探査の上監督員との協議の上 定すること。

D通り補強詳細図(2)



特記なき限り下記による。

 印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

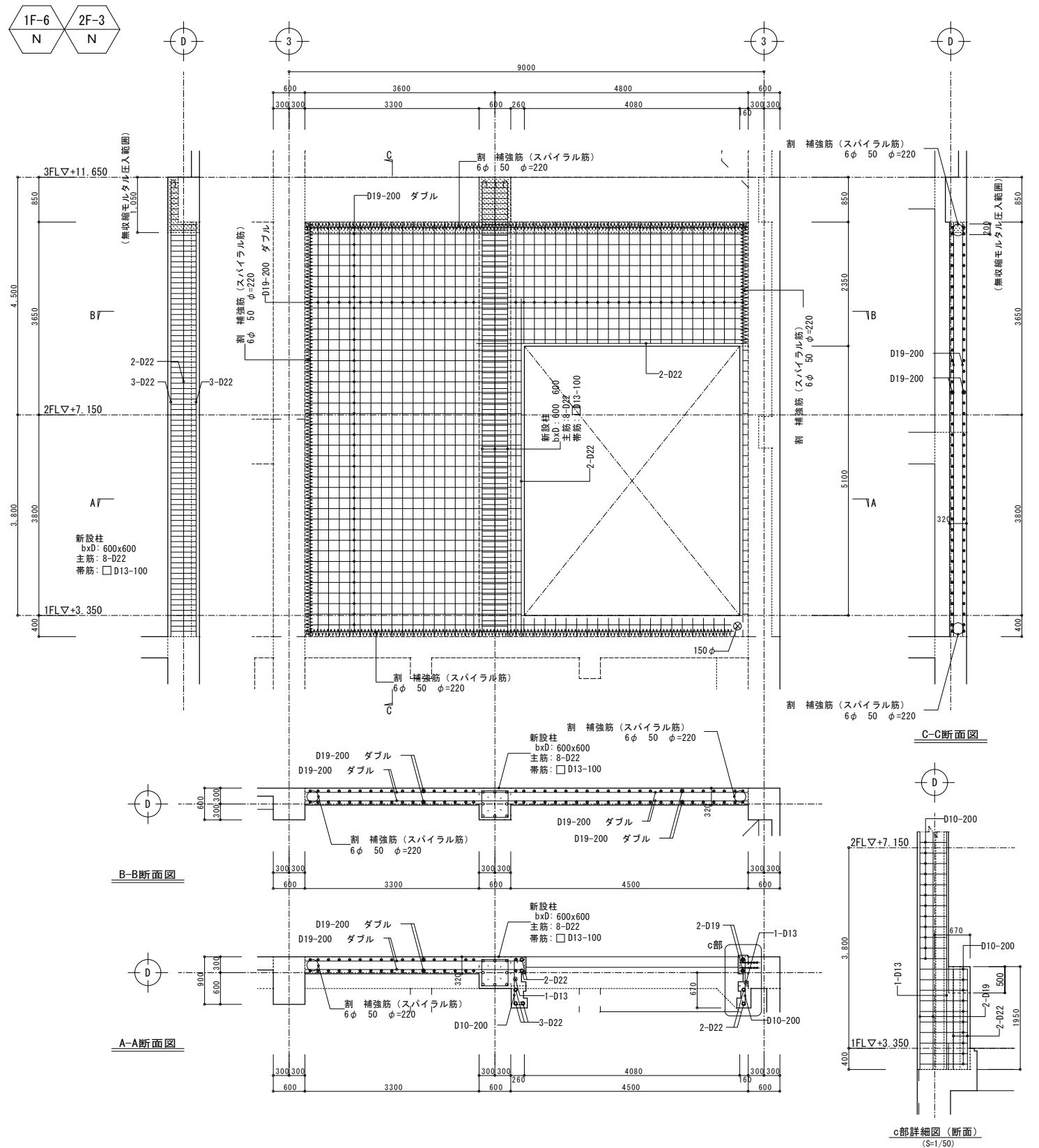
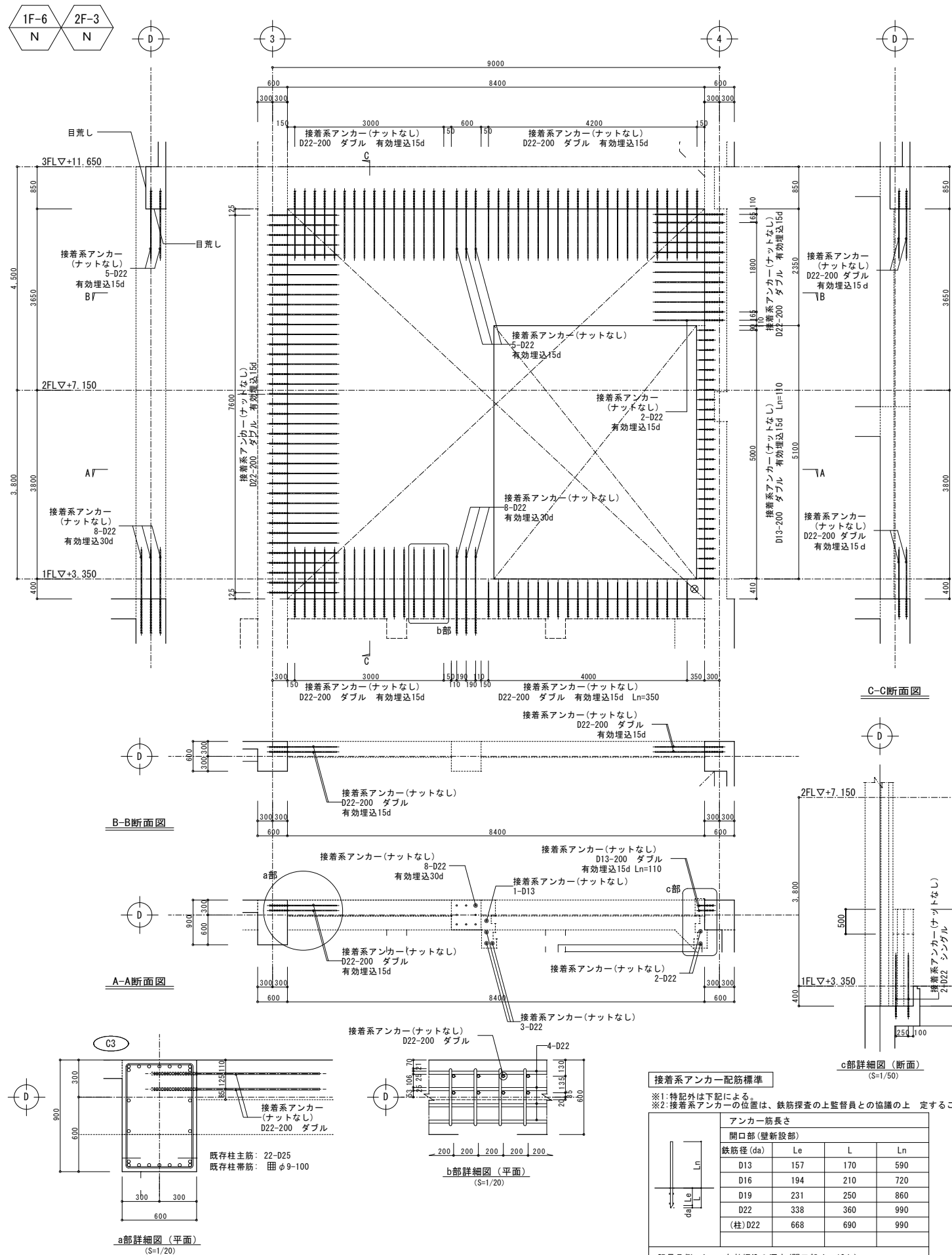
## 鉄筋記号凡例

D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
•	×	∅	●	○	⊙	⊗


事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(10)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-23







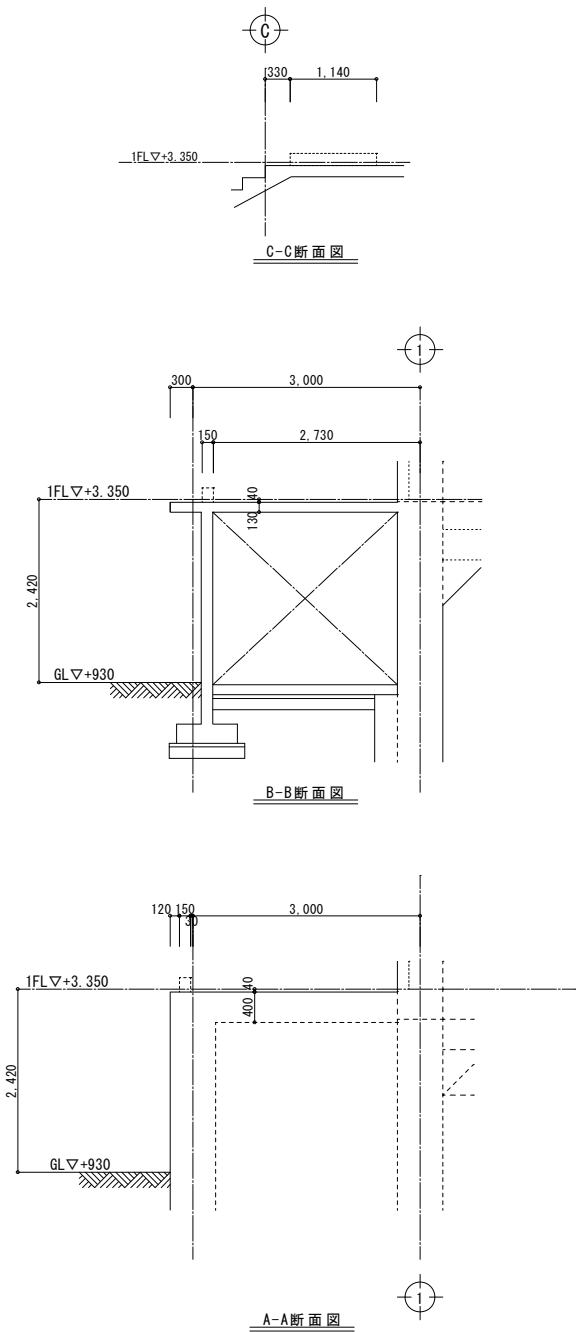
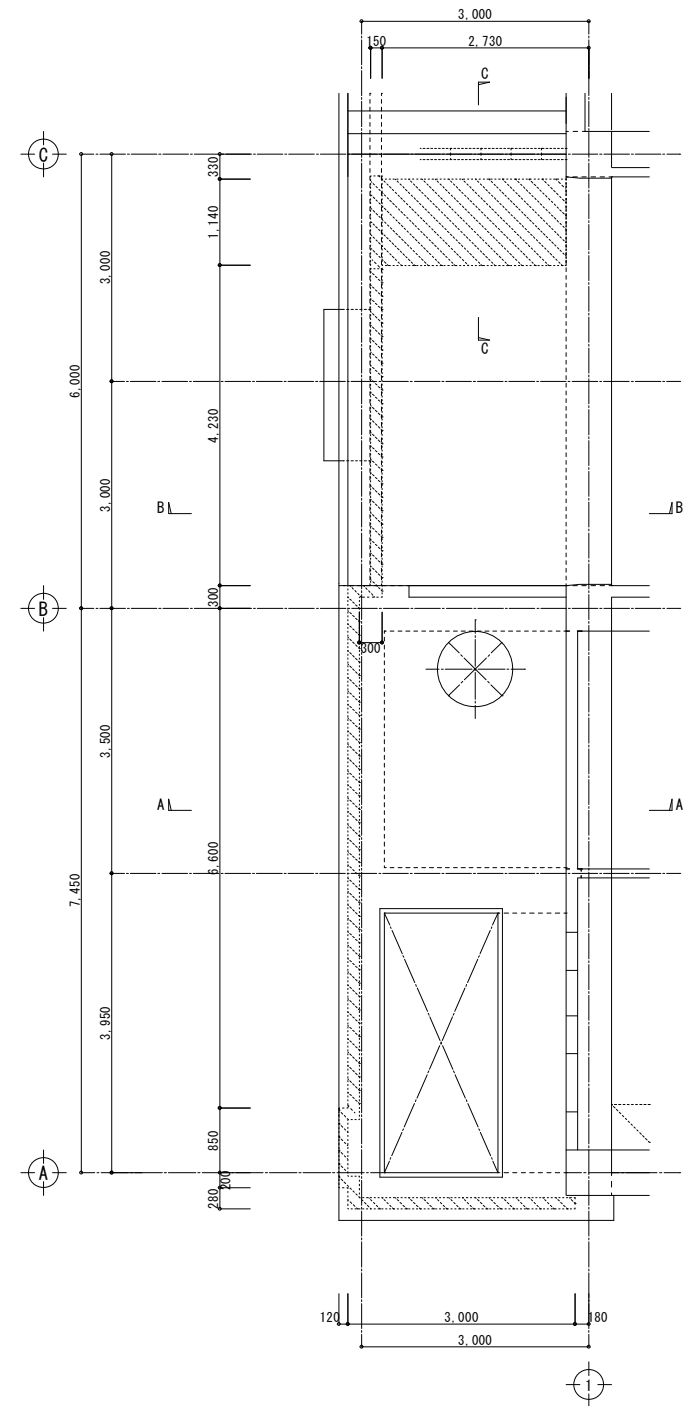
特記なき限り下記による。

 印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
●	×	⊘	●	○	⊙	⊗

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(12)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-25

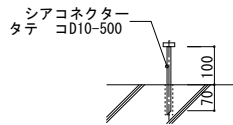
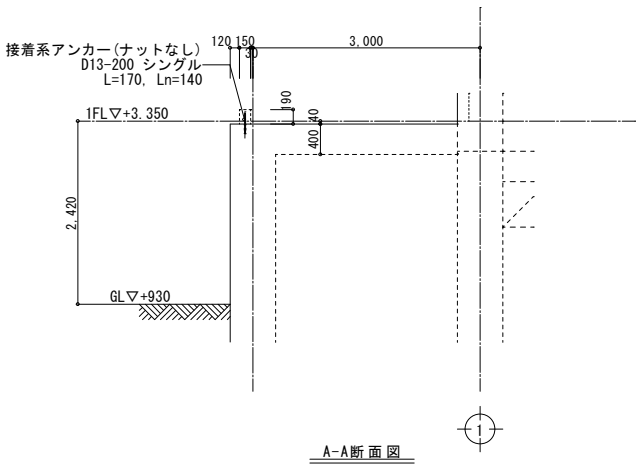
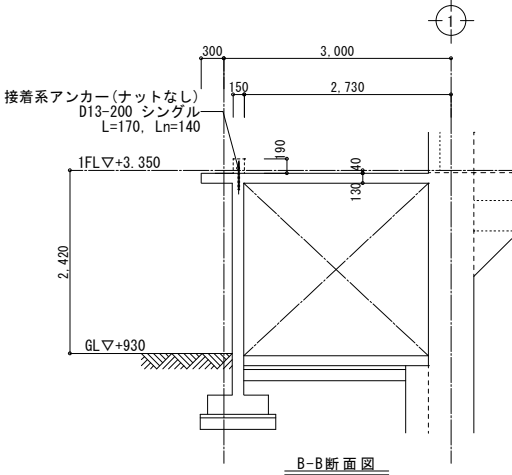
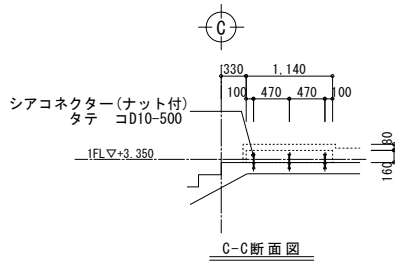
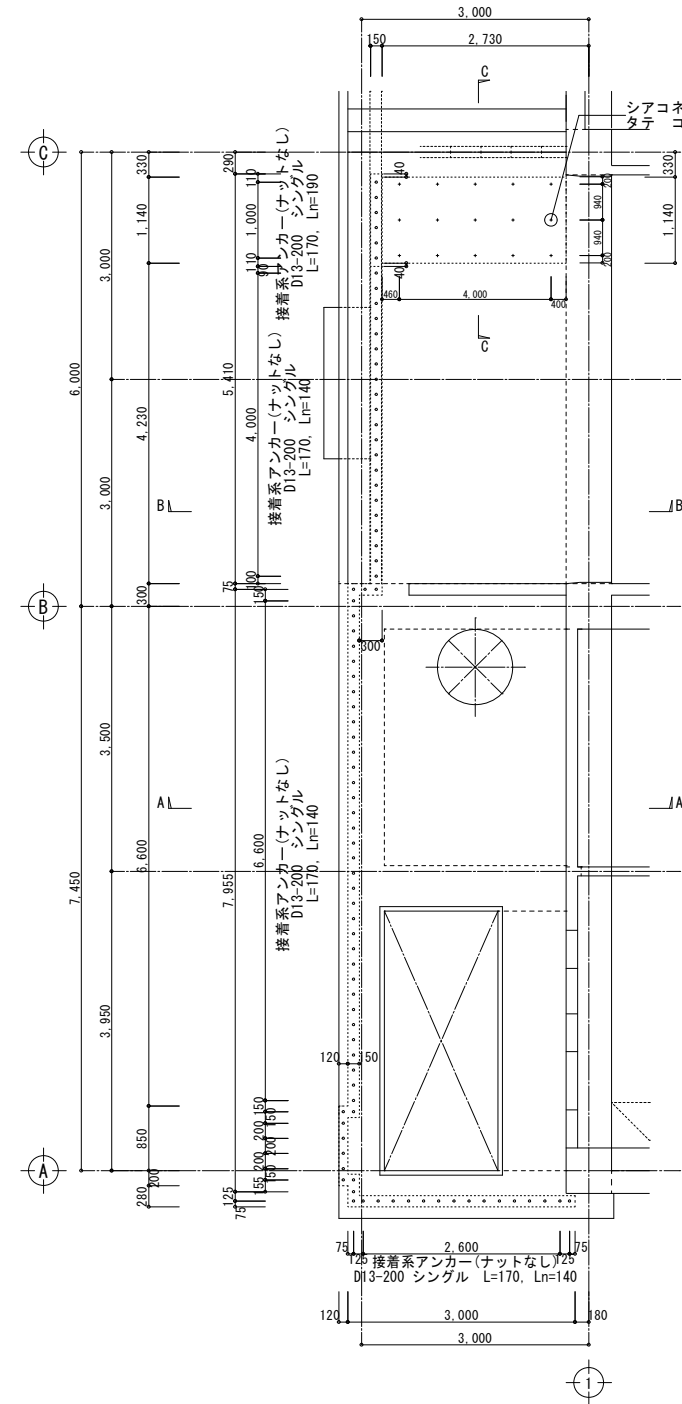
1F-7  
○



特記なき限り下記による。	
	印：既存壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。
	印：目黒し範囲を示す。

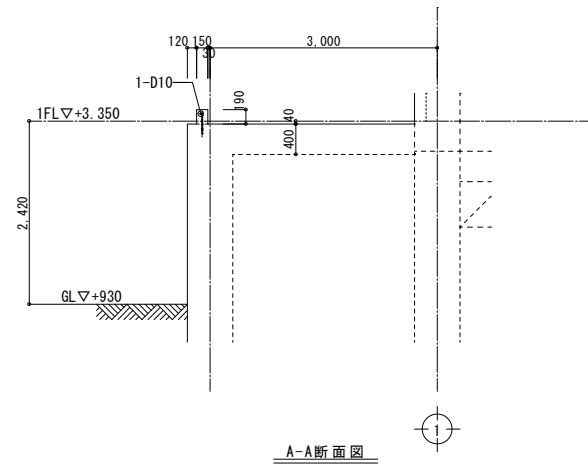
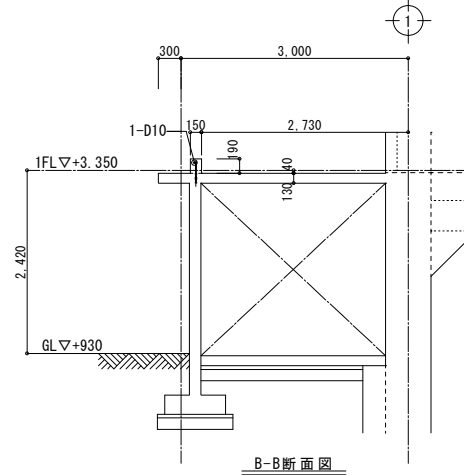
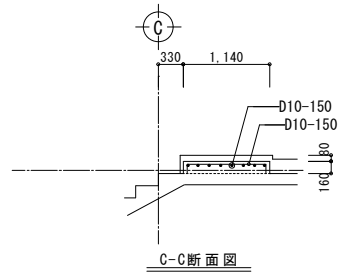
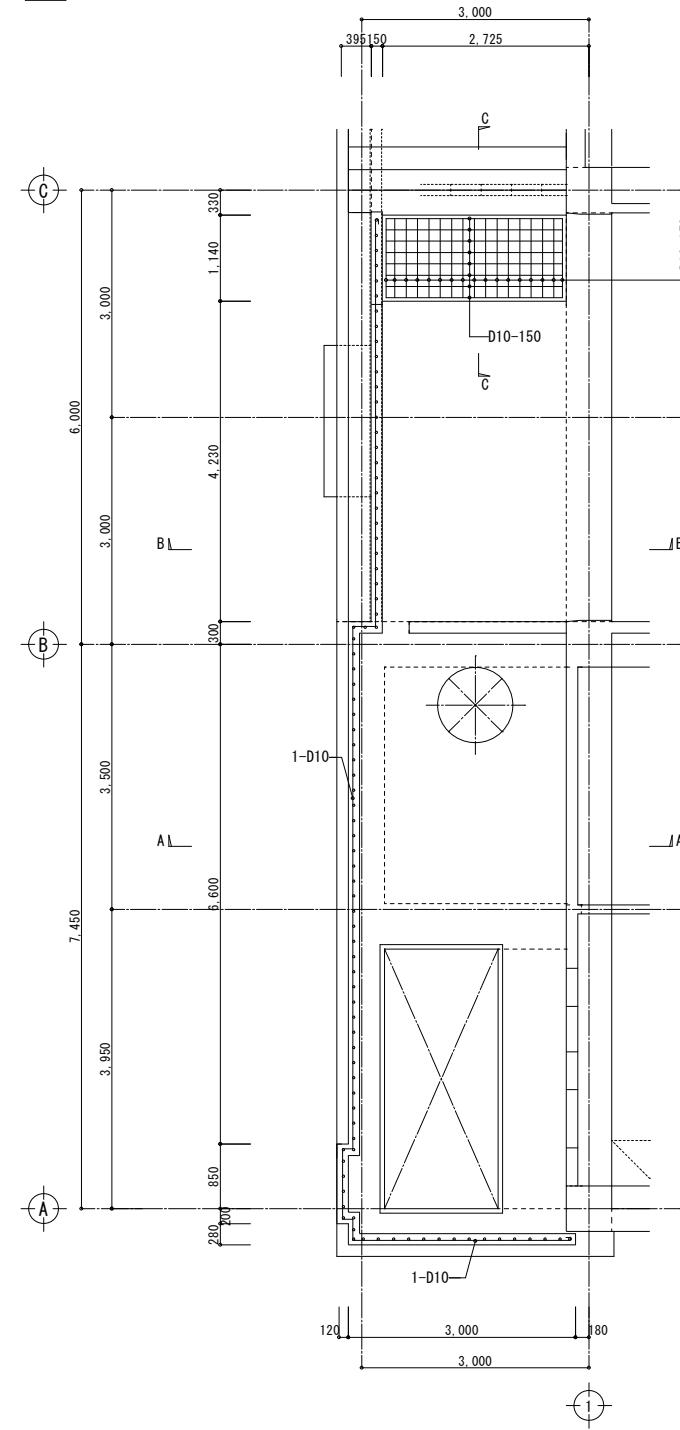
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(13)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-26

1F-7  
N



接着系アンカー配筋標準				
	アンカー筋長さ			
	開口部(壁新設部)			
	鉄筋径(da)	Le	L	Ln
	D13	157	170	100
記号凡例 Le :有効埋込み深さ(開口部:Le=12da) L :埋込み深さ (L=Le+da) Ln :有効定着長さ(開口部:Ln=40da+5da ナット無)				

1F-7  
N

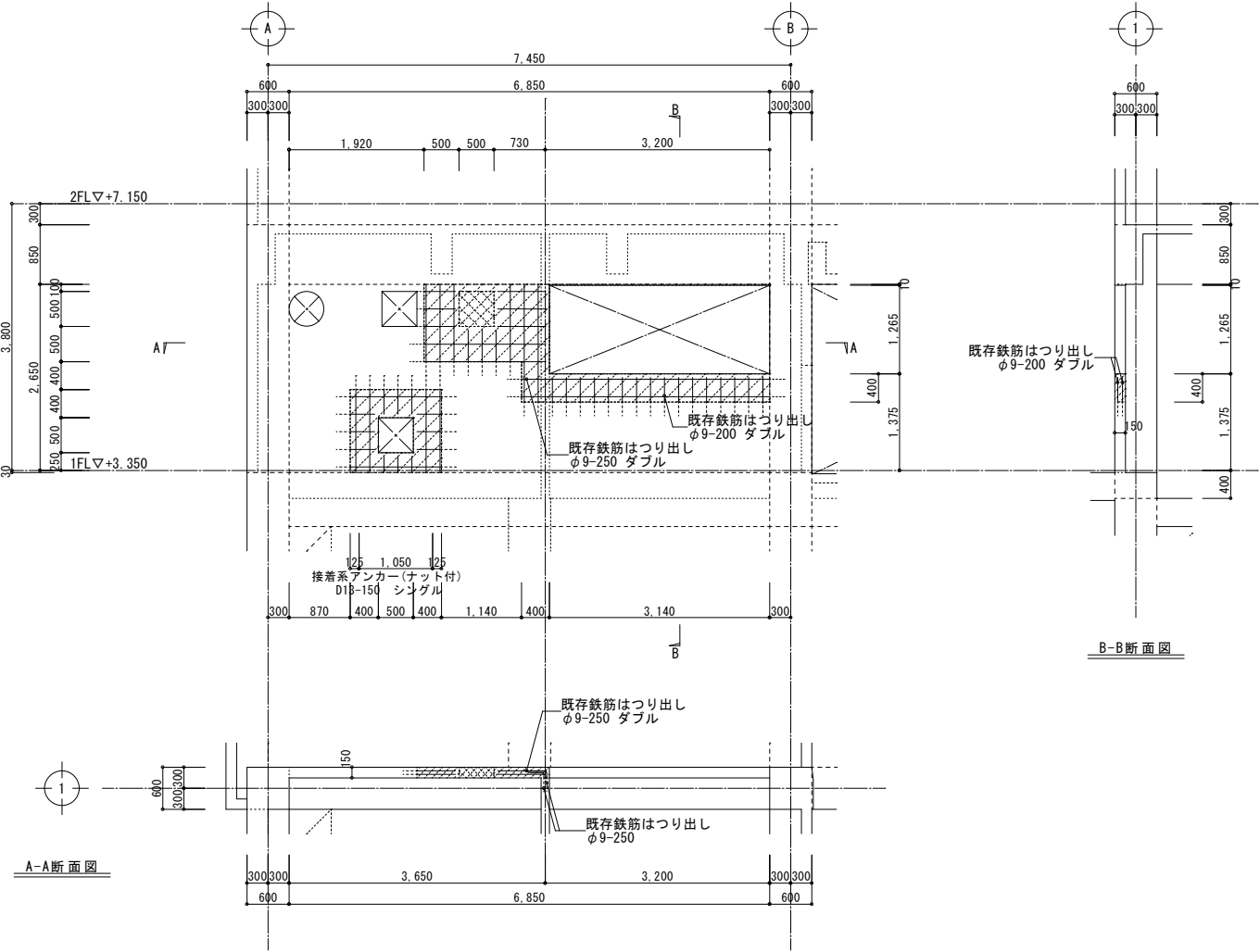


鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
●	×	◇	●	○	◎	※

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(14)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-27

1F-8

○

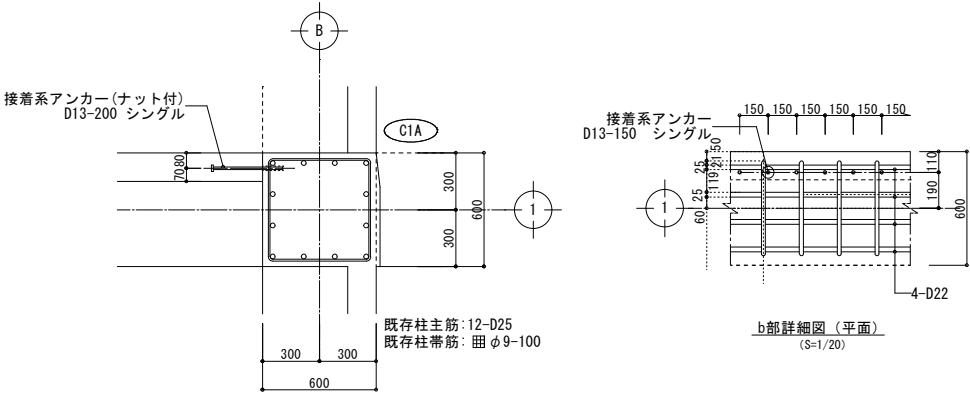
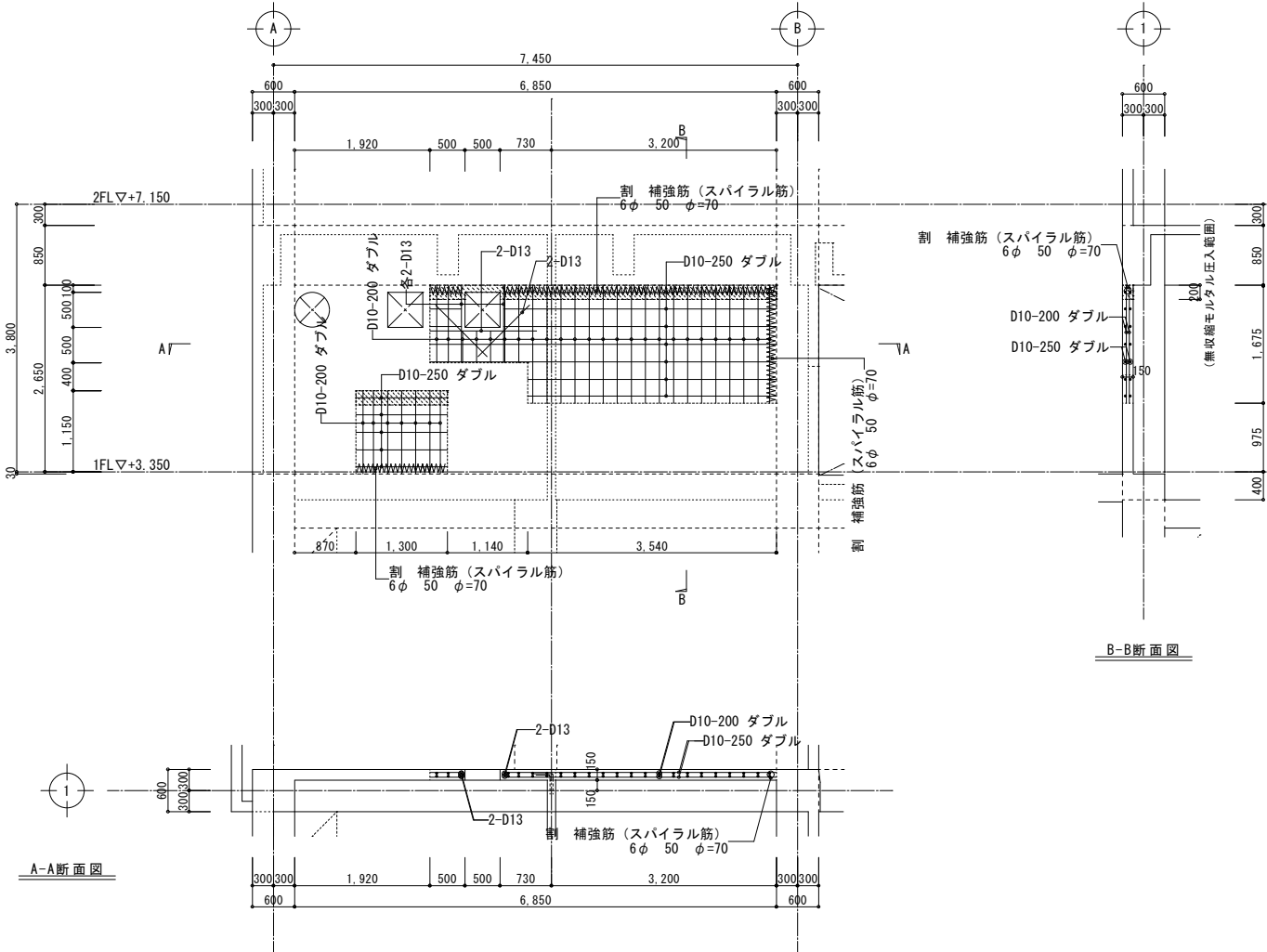
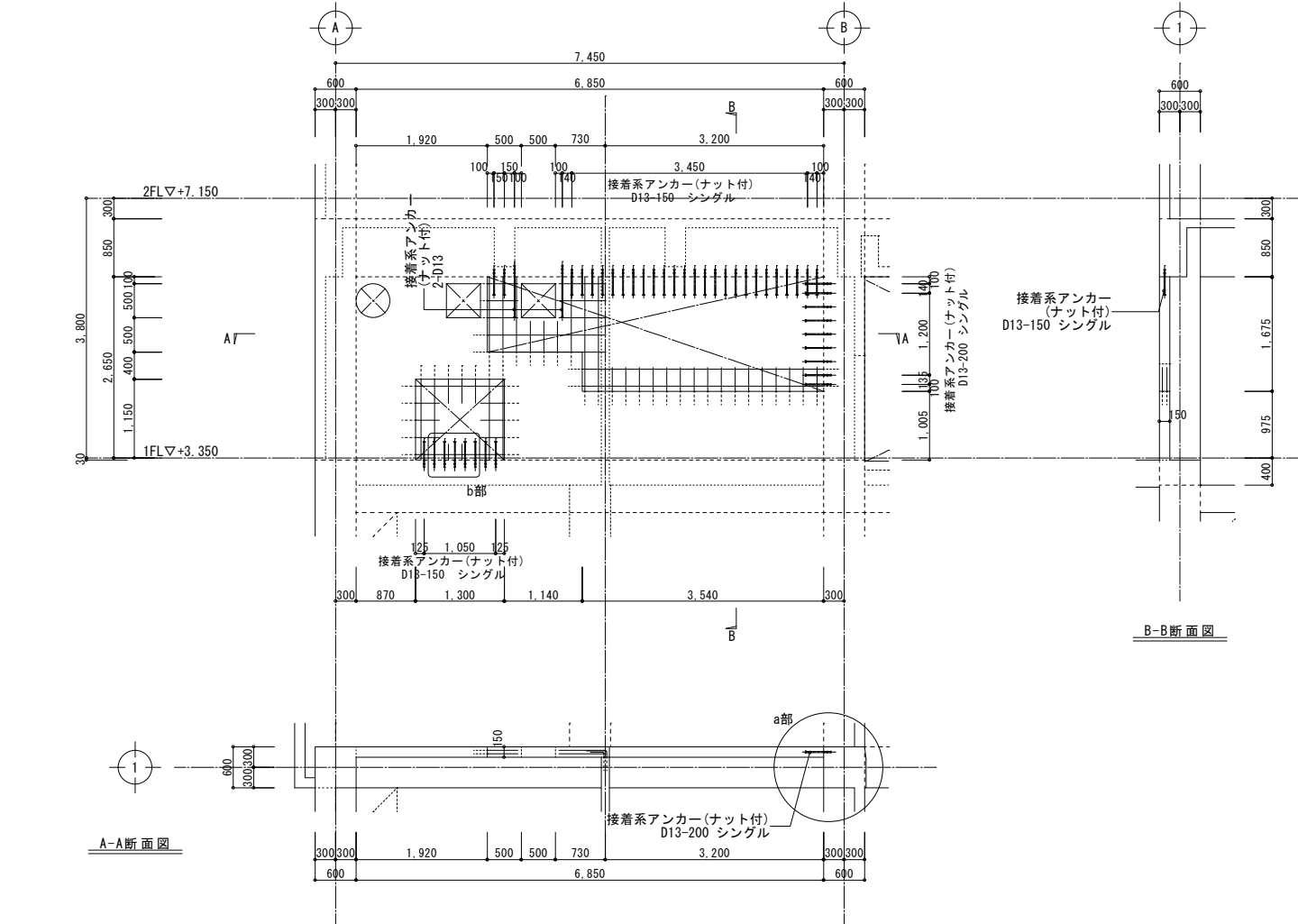


特記なき限り下記による。	
	印：既設壁・既設仕上げ撤去範囲を示す。
	印：既存壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(15)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-28

1F-8  
N

1F-8  
N



接着系アンカー配筋標準								
	アンカー筋長さ				開口部			
	一般部							
	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln
	D13	97	110	260	D13	157	170	590
記号凡例 Le :有効埋込み深さ(一般部:Le 7da,開口部:Le 12da) L :埋込み深さ (L=Le+da) Ln :有効定着長さ (一般部:Ln 20da ナット付き、開口部:Ln 40da+5da ナットなし)								

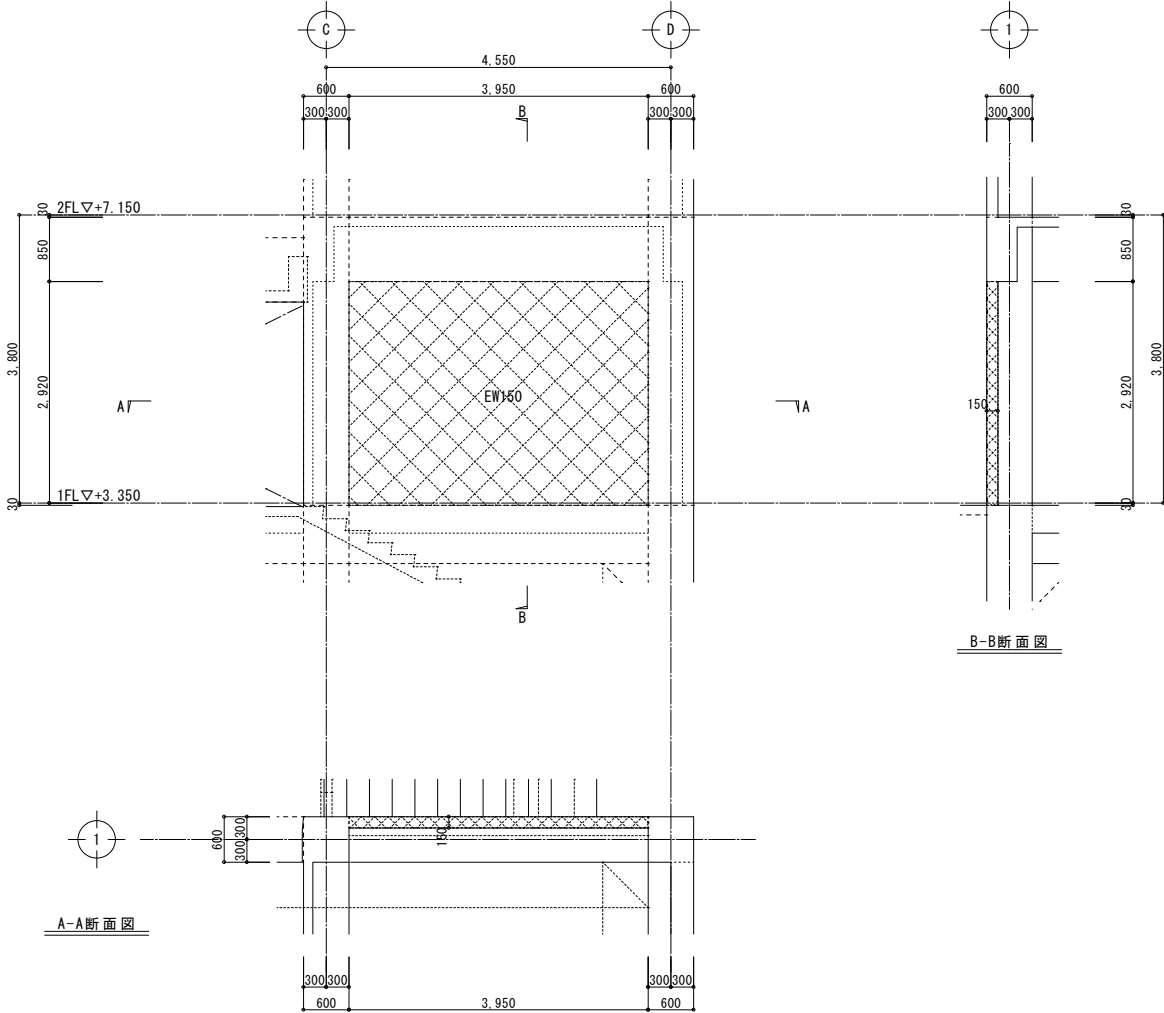
特記なき限り下記による。	
	印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
●	×	◇	●	○	◎	⊗

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(16)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-29

1F-9

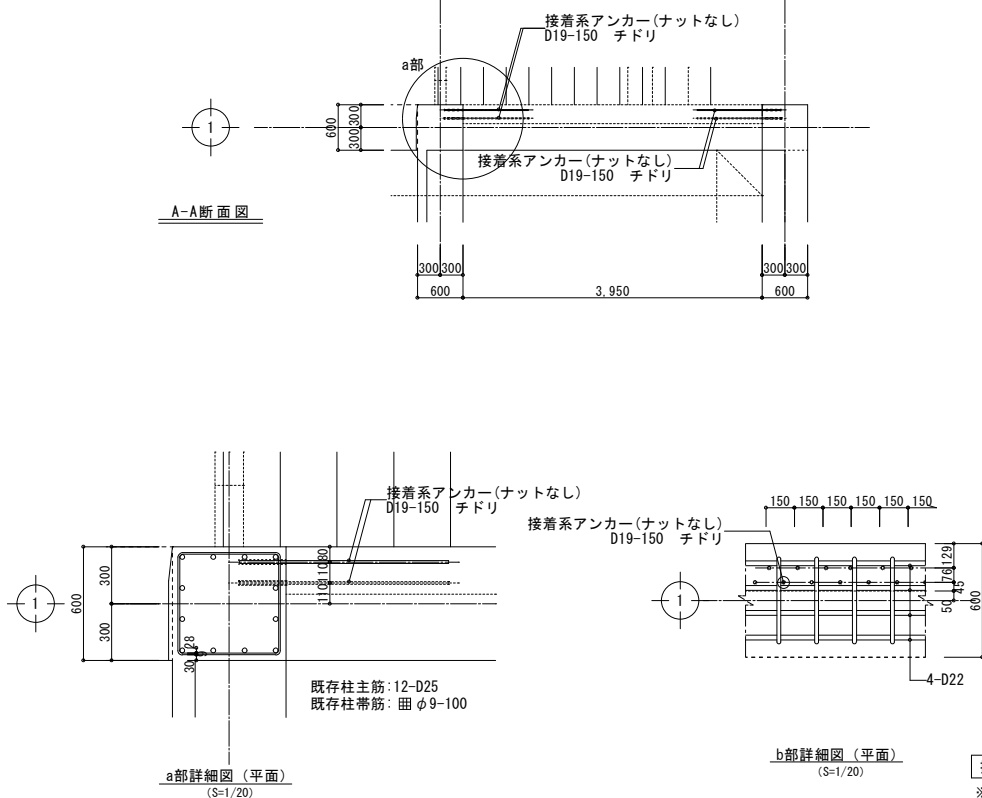
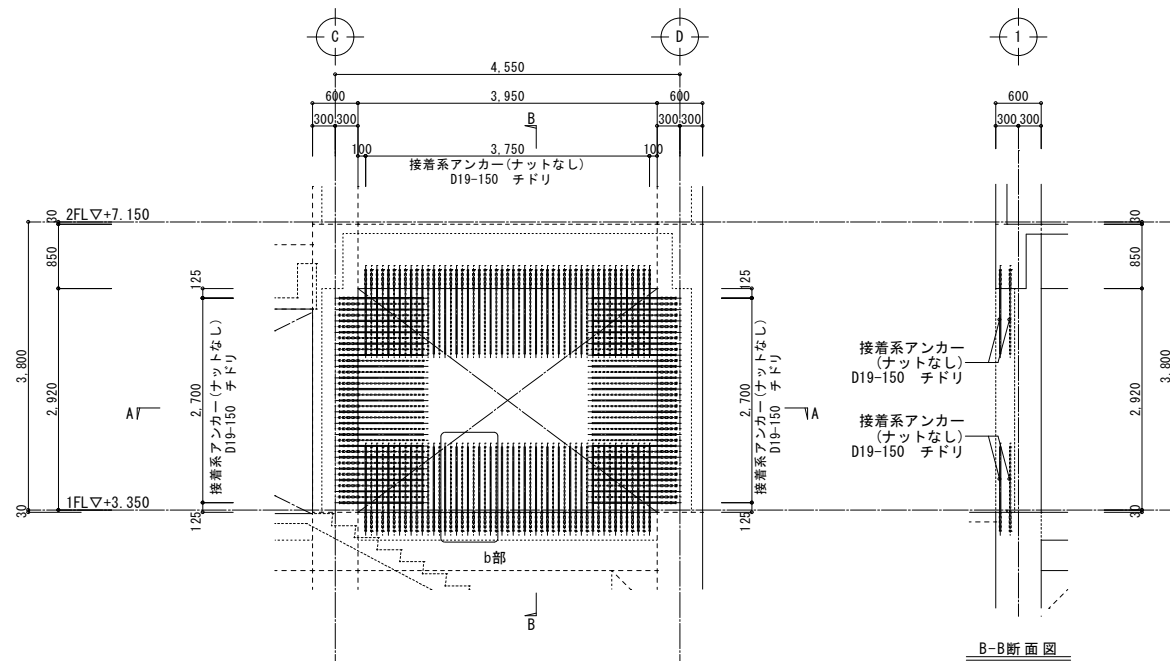
O



特記なき限り下記による。

印：既設壁・既設仕上げ撤去範囲を示す。

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(17)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-30

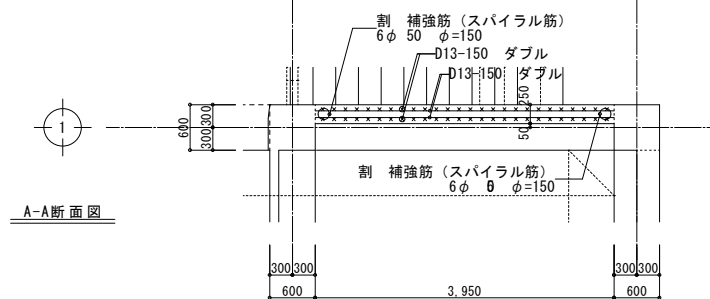
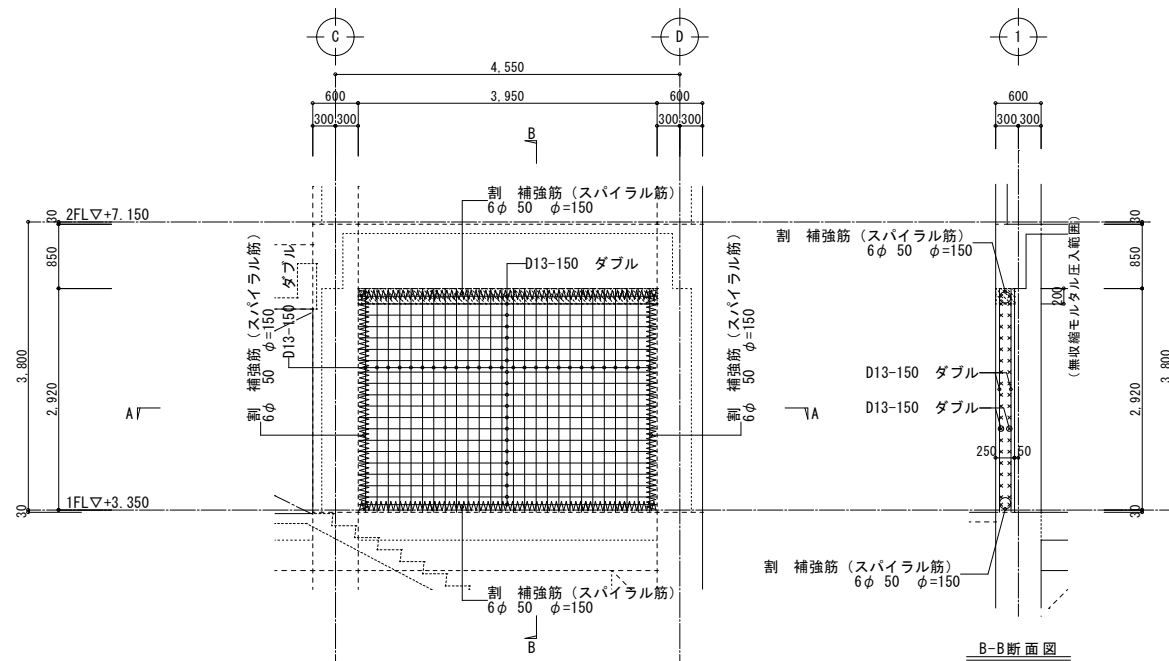


### 接着系アンカー配筋標準

※1:特記外は下記による。  
 ※2:接着系アンカーの位置は、鉄筋探査の上監督員との協議の上 定すること。

アンカー筋長さ				
開口部（壁間設部）				
鉄筋径 (da)	Le	L	Ln	
D16	194	210	720	
D19	231	250	860	


記号凡例 Le：有効埋込み深さ（開口部：Le=12da）  
 L：埋込み深さ（L=Le+da）  
 Ln：有効定着長さ（開口部：Ln=40da+5da ナット無）



A-A断面图

B-B 断面图

特記なき限り下記による。

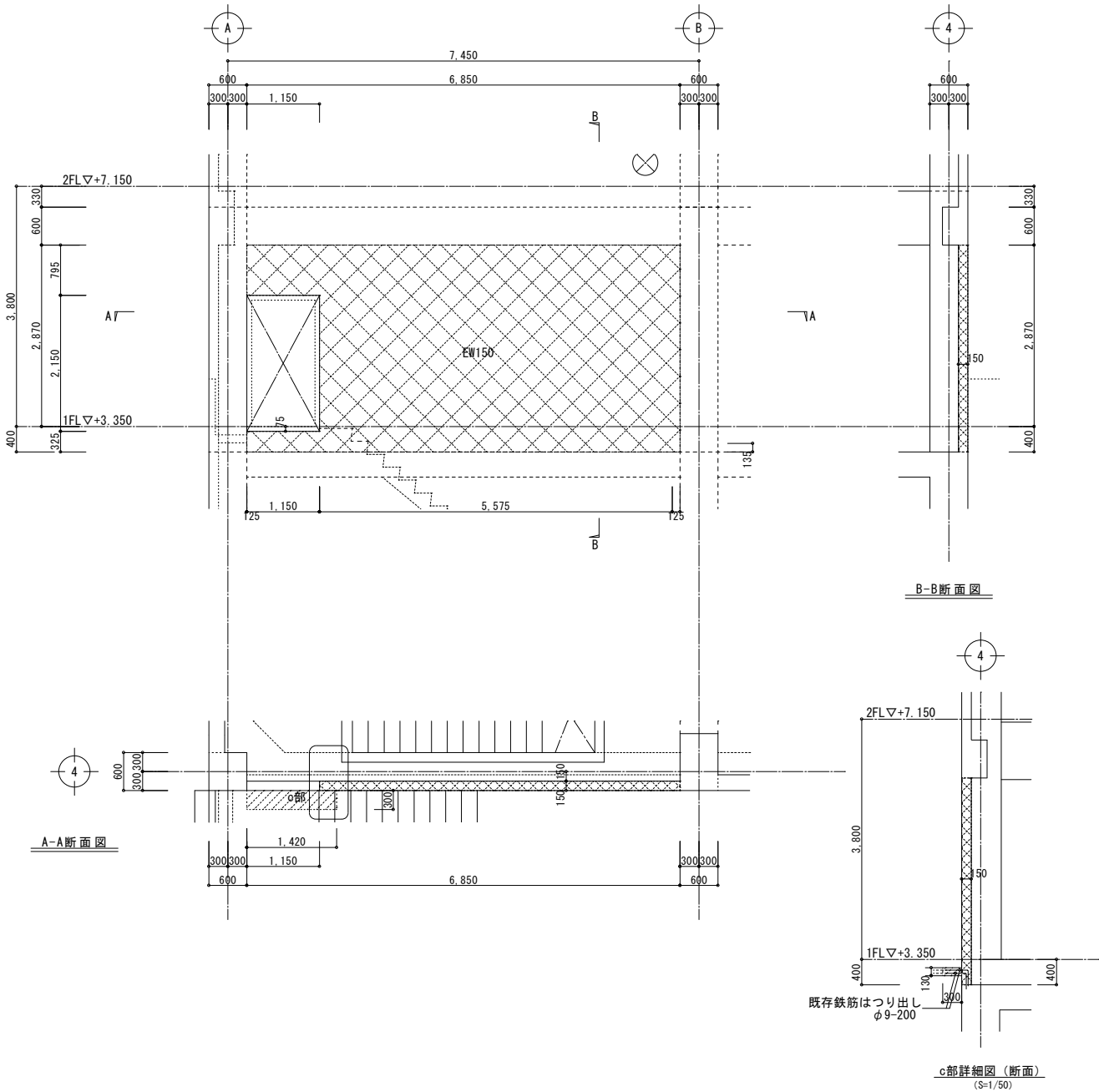
 印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
●	×	∅	●	○	⊙	⊗

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(18)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-31

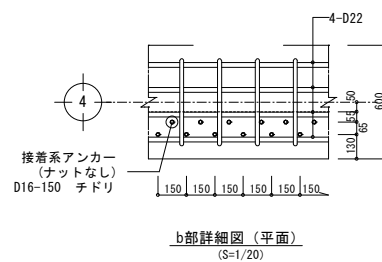
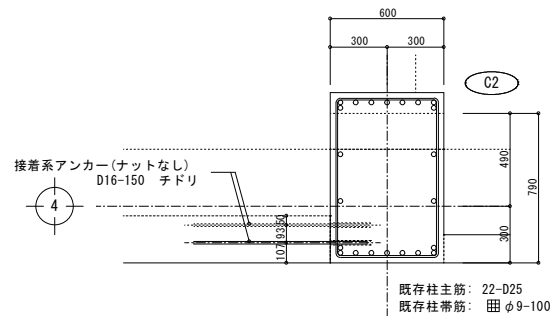
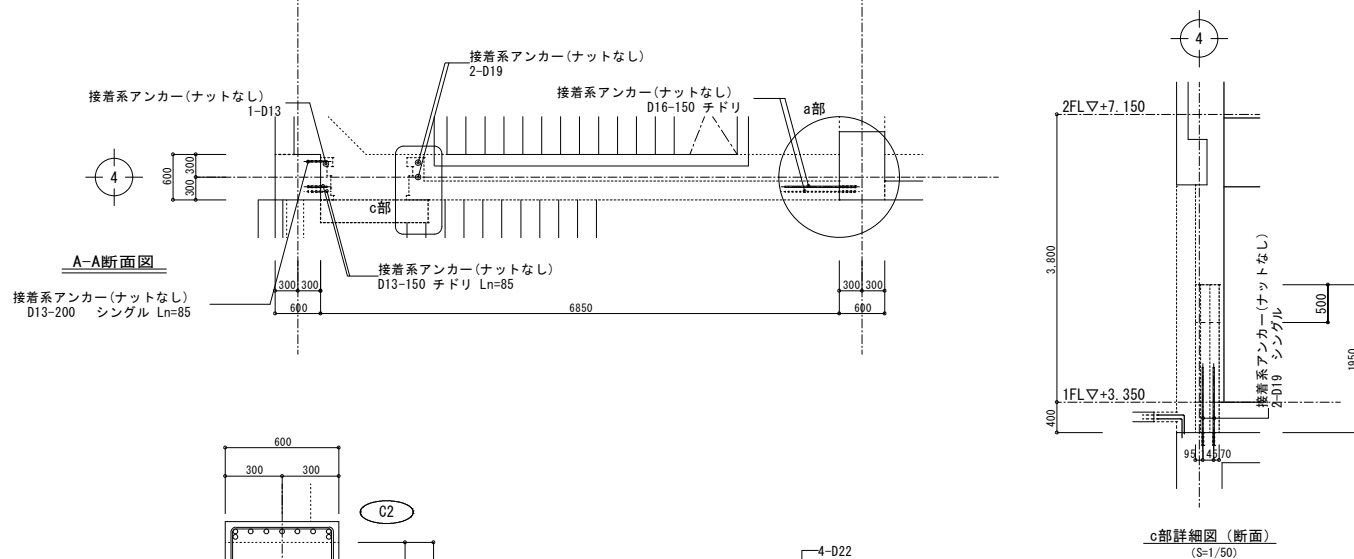
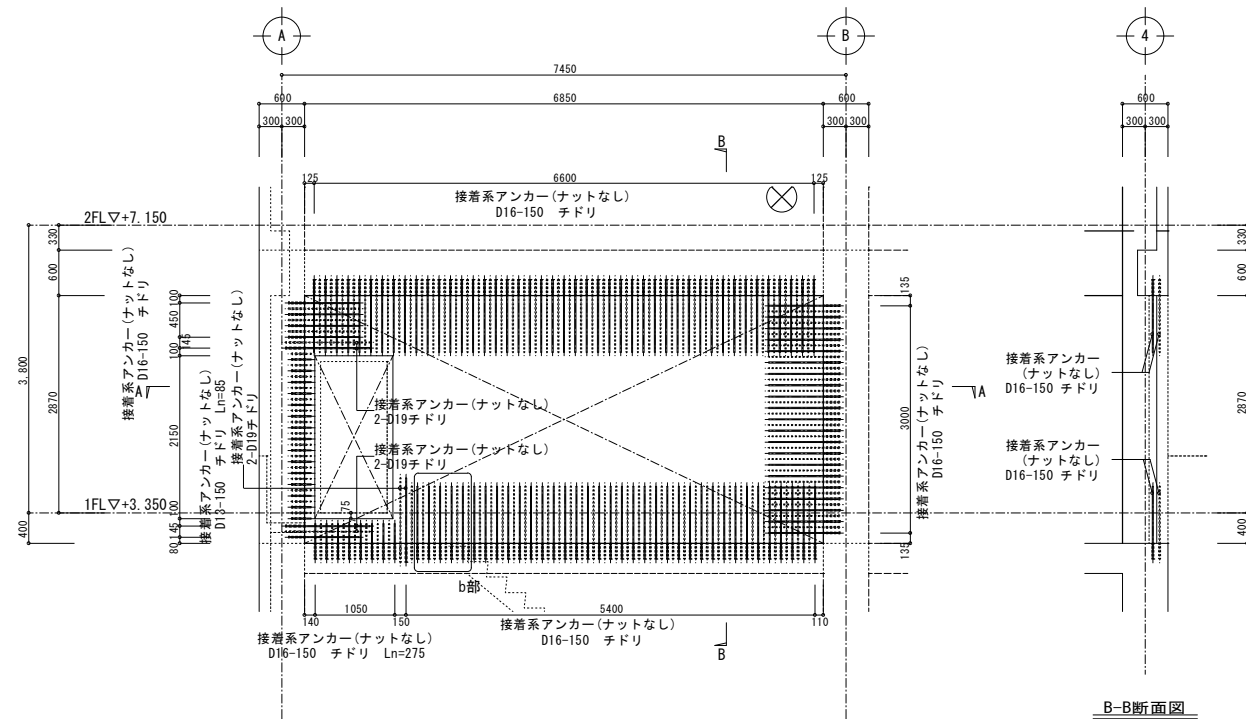


1F-10  
○



特記なき限り下記による。	
	印：既存壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。
	印：既設壁・既設仕上げ撤去範囲を示す。

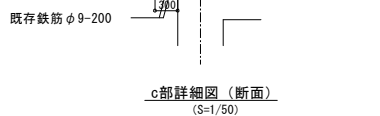
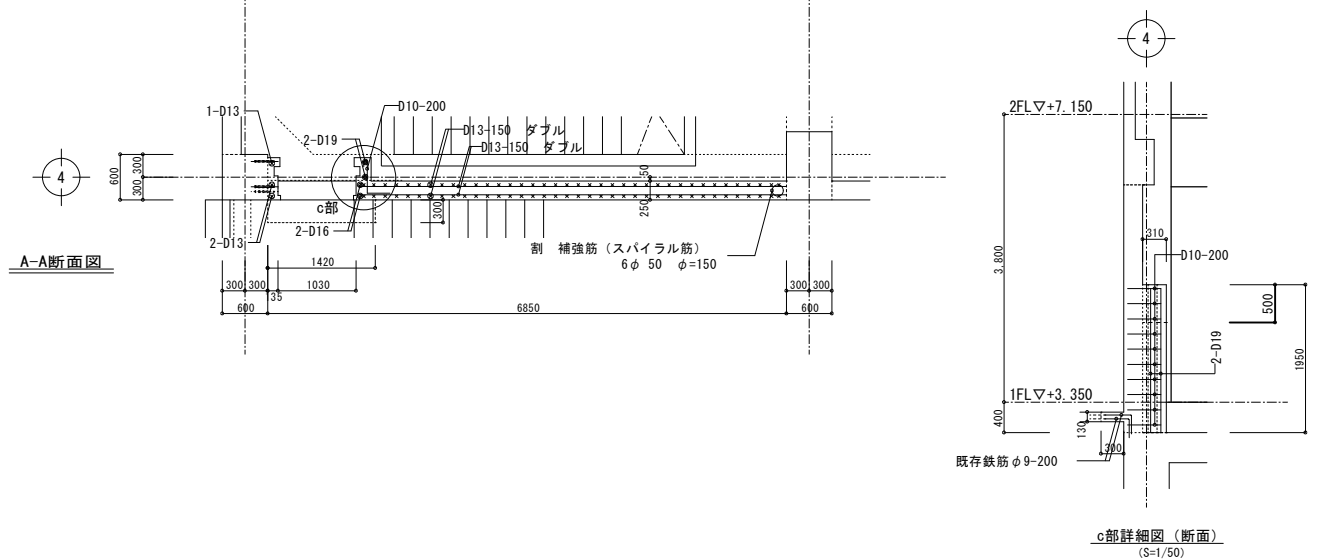
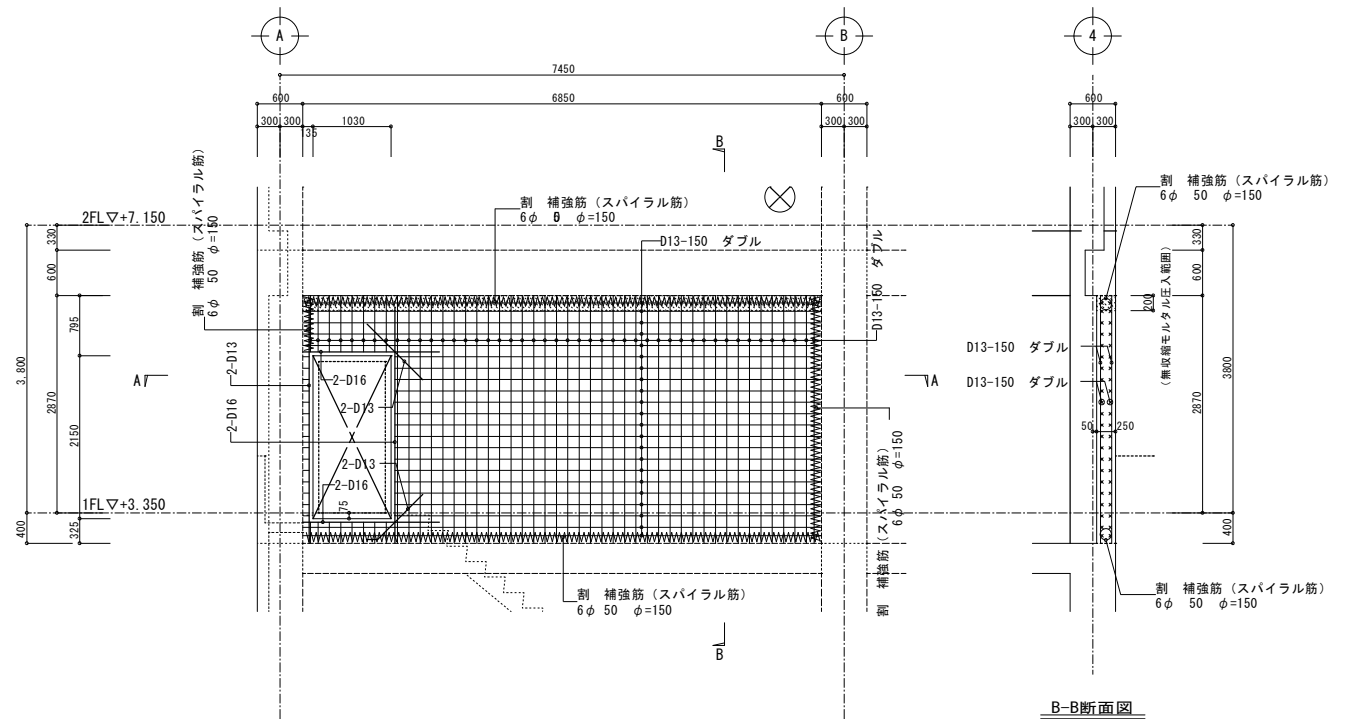
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(19)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-32



### 接着系アンカー配筋標準

※1:特記外は下記による。  
 ※2:接着系アンカーの位置は、鉄筋探査の上監督員との協議の上 定すること。

	アンカー筋長さ			
	開口部(壁断面部)			
	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln
	D16	194	210	720
	D19	231	250	860



特記なき限り下記による。

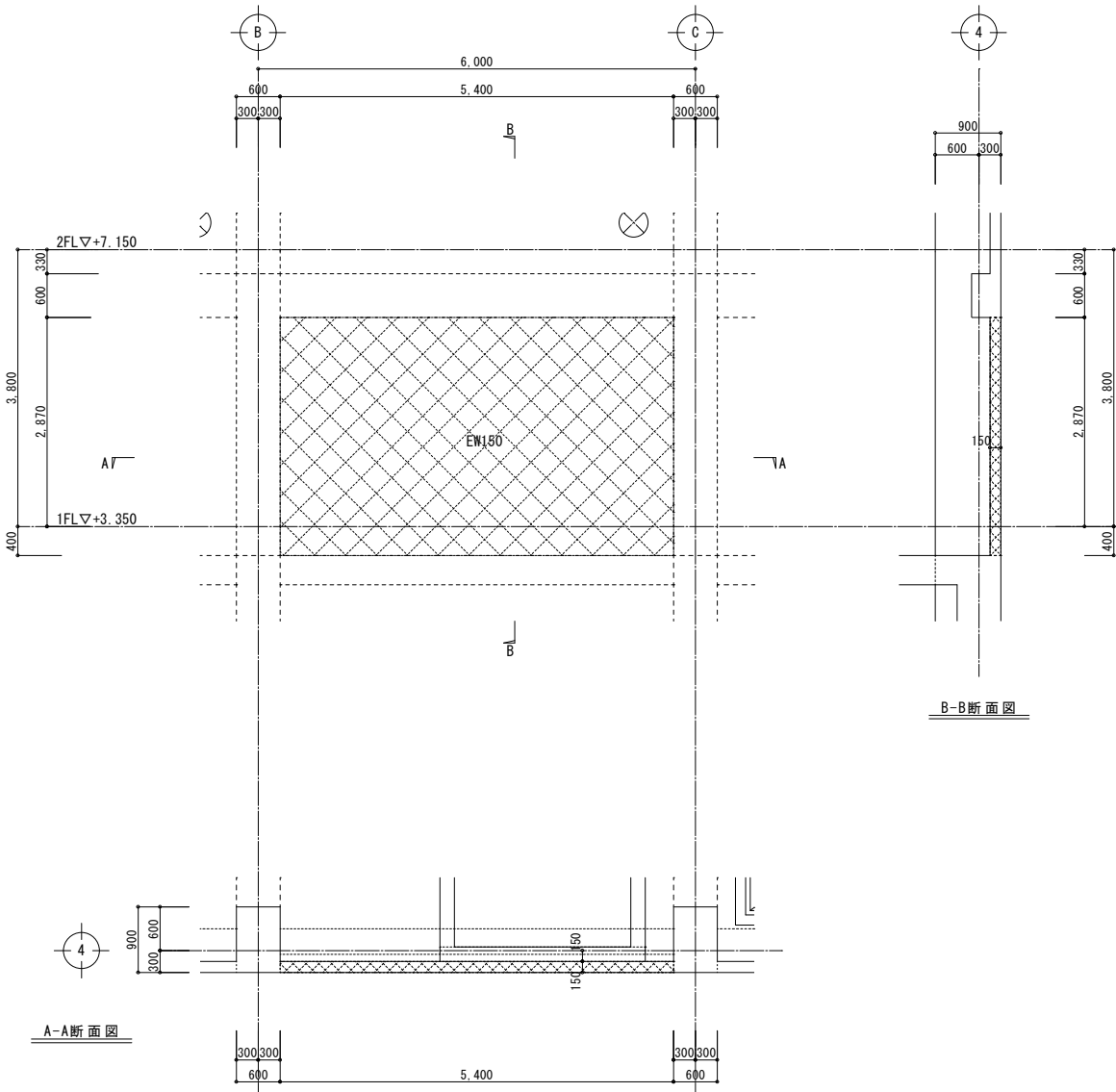
 印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

 印：コンクリート 旧範囲を示す。

鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
●	×	⌀	●	○	⊙	⊗

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(20)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-33

1F-11  
○

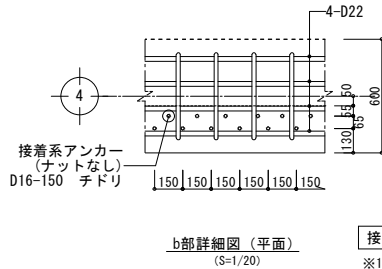
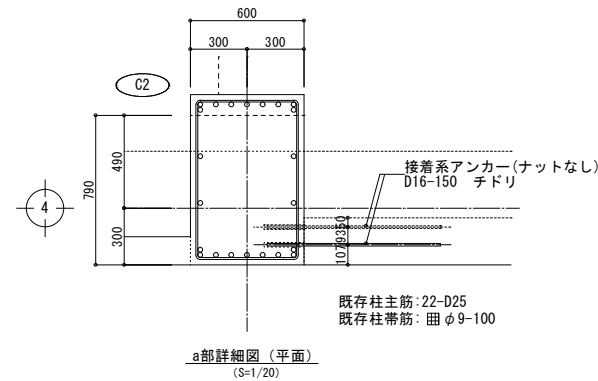
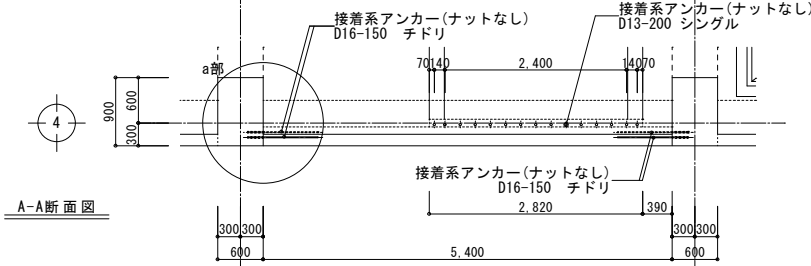
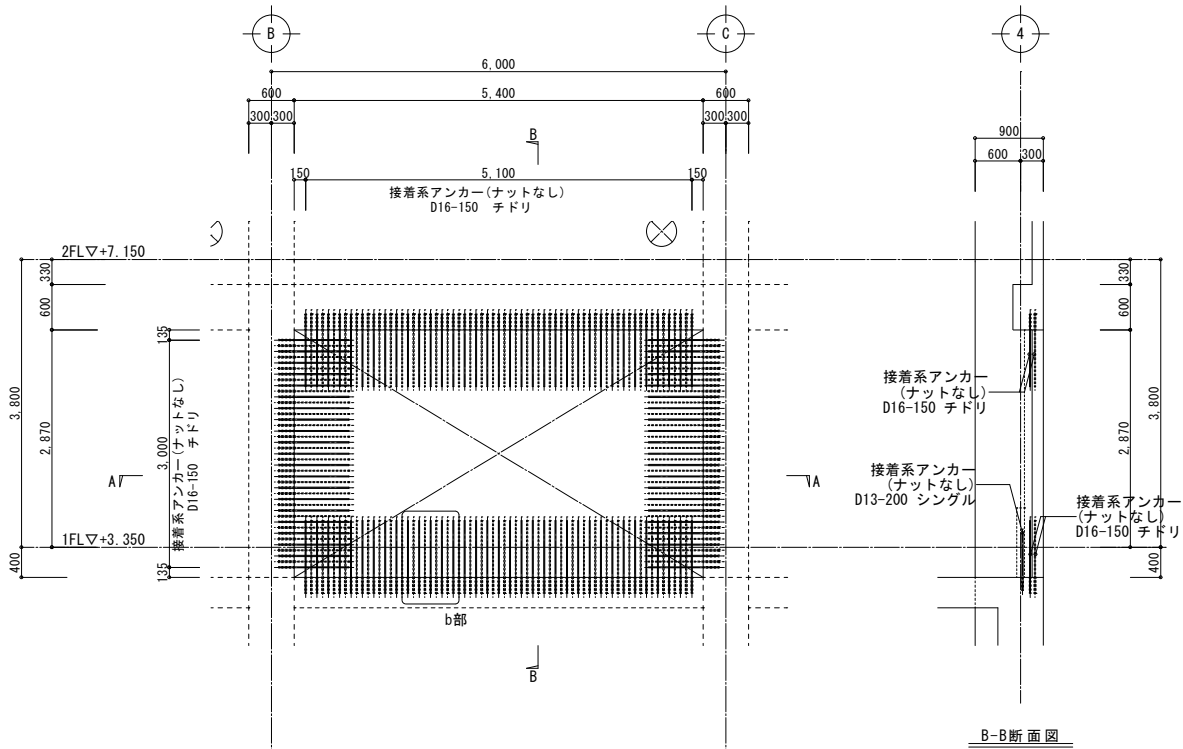


特記なき限り下記による。

印：既設壁・既設仕上げ撤去範囲を示す。

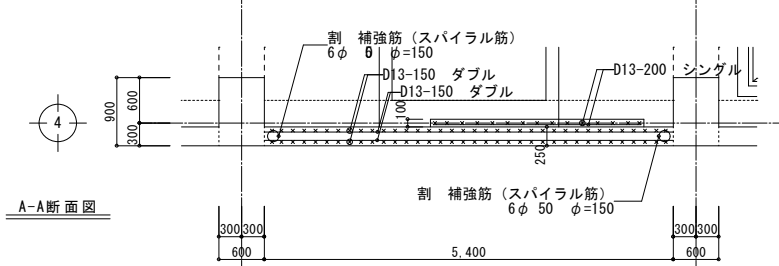
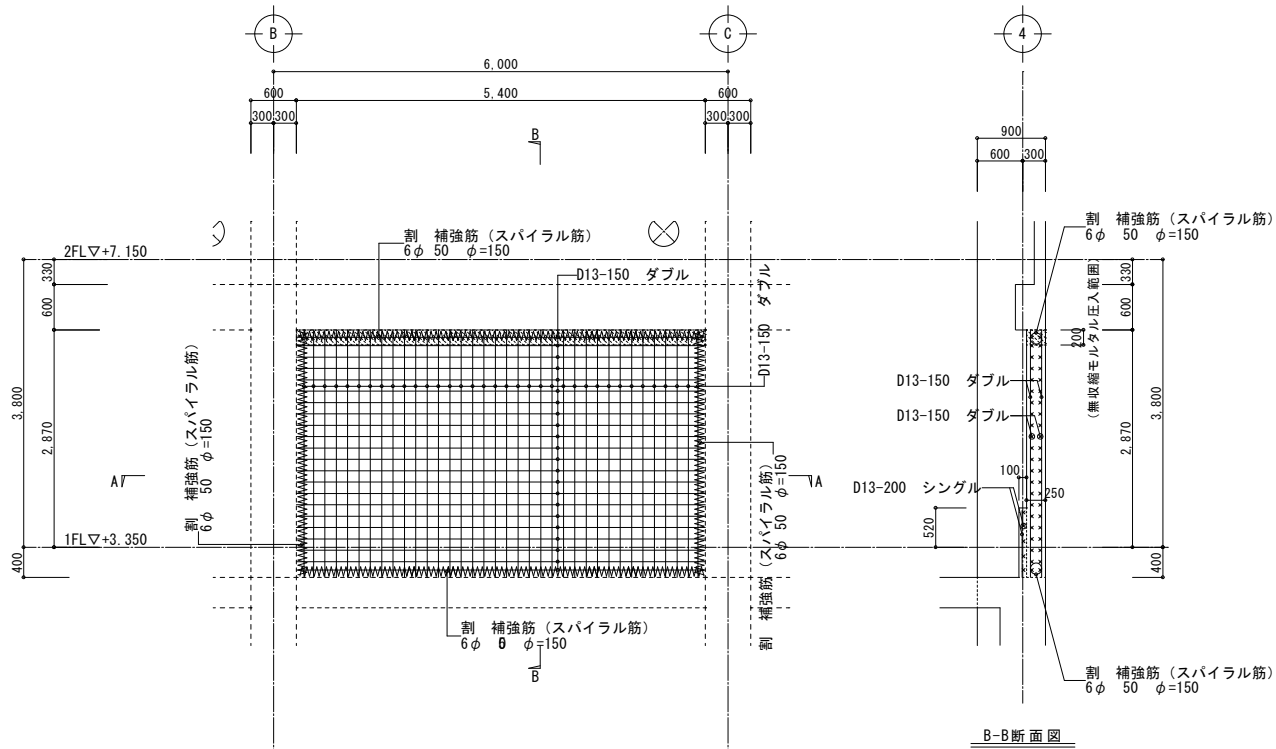
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(21)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-34

1F-11  
N



接着系アンカー配筋標準				
	アンカー筋長さ			
	開口部(壁新設部)			
	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln
	D13	157	170	590
	D16	194	210	720
	D19	231	250	860
記号凡例 Le :有効埋込み深さ(開口部:Le=12da) L :埋込み深さ (L=Le+da) Ln :有効定着長さ(開口部:Ln=40da+5da ナット無)				

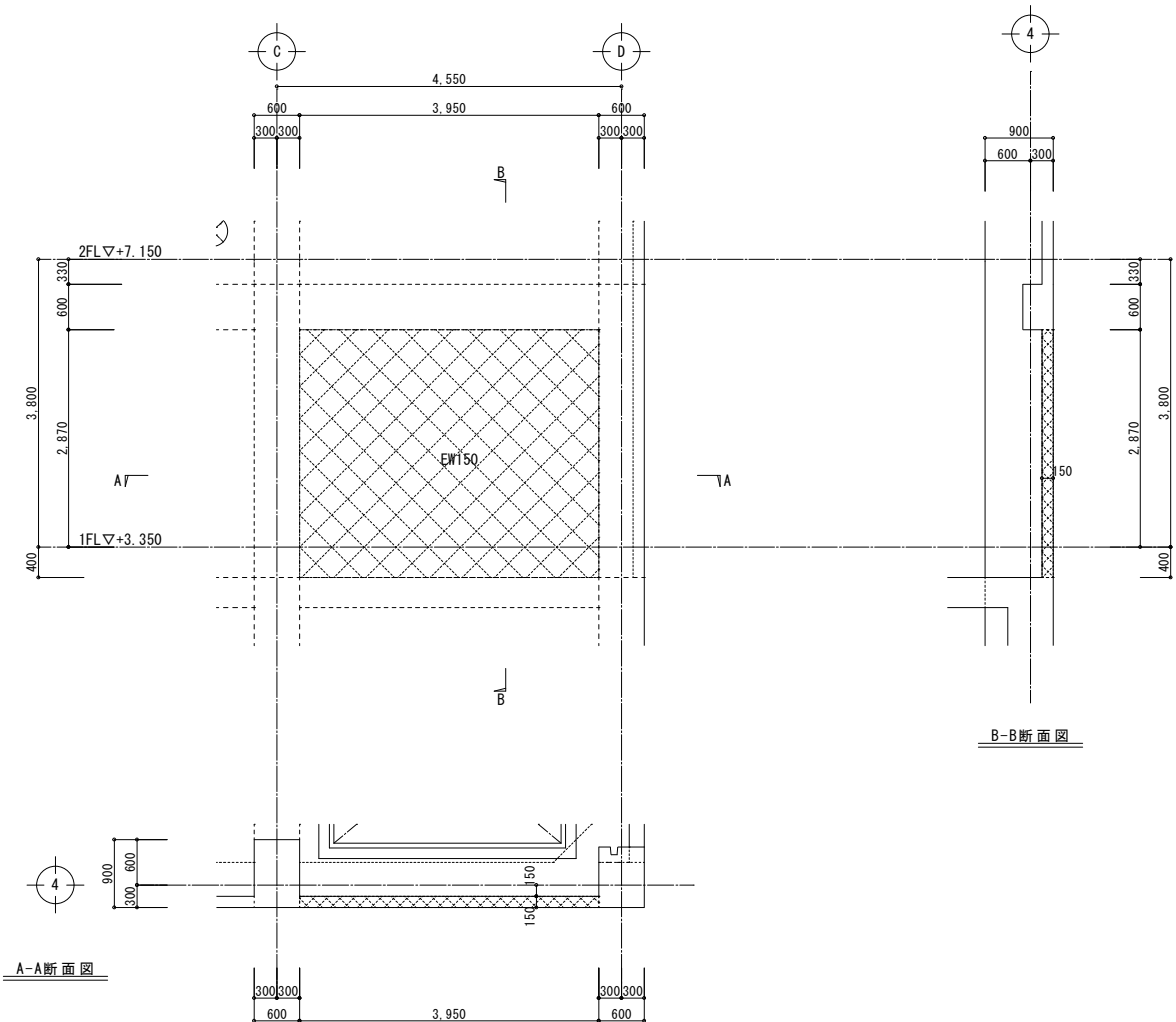
1F-11  
N




事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(22)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-35

1F-12

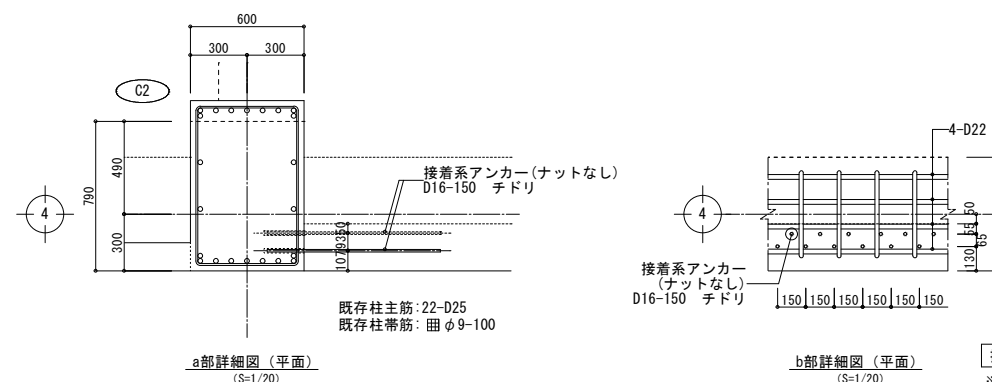
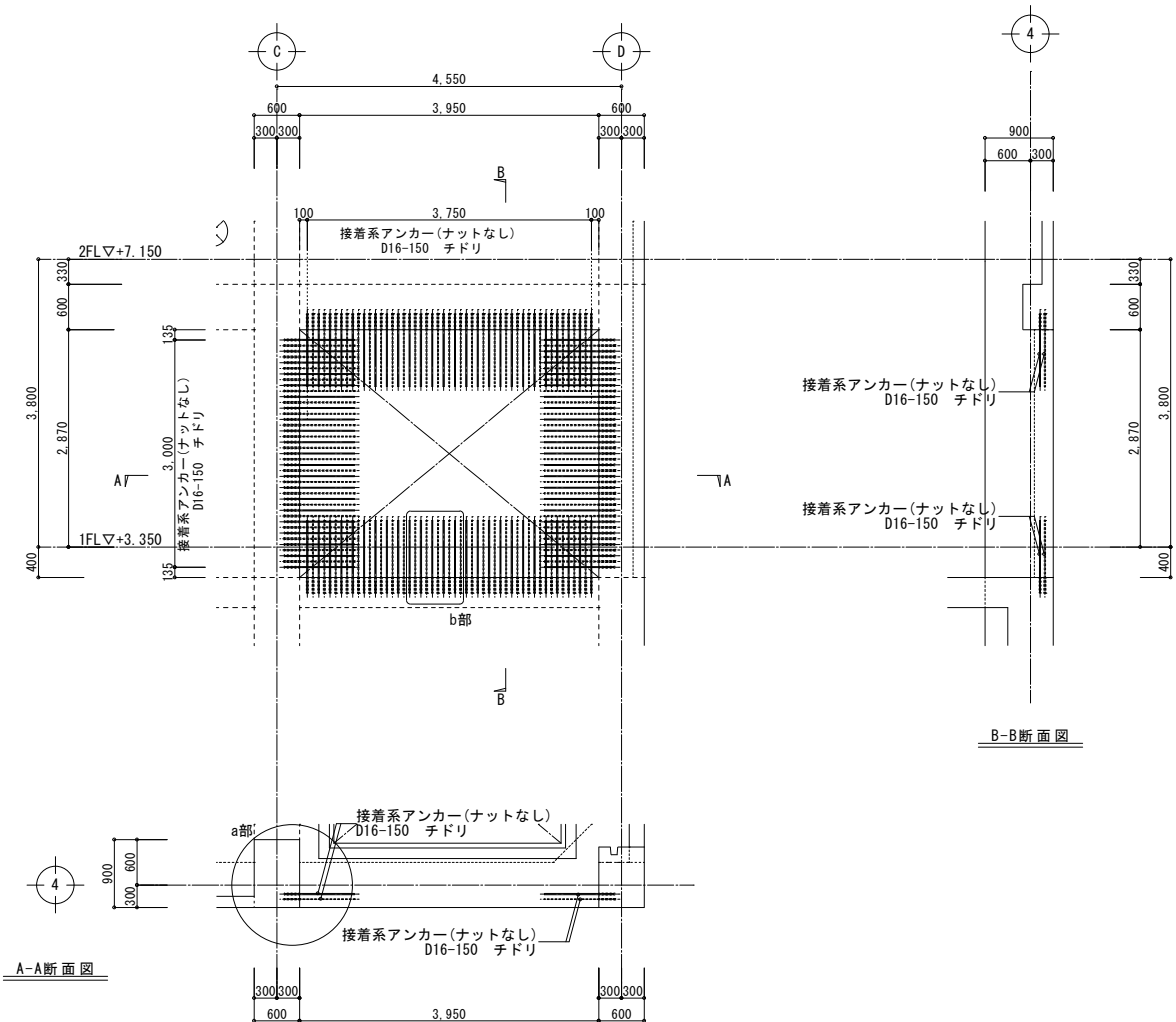
O



特記なき限り下記による。	
	印：既設壁・既設仕上げ撤去範囲を示す。

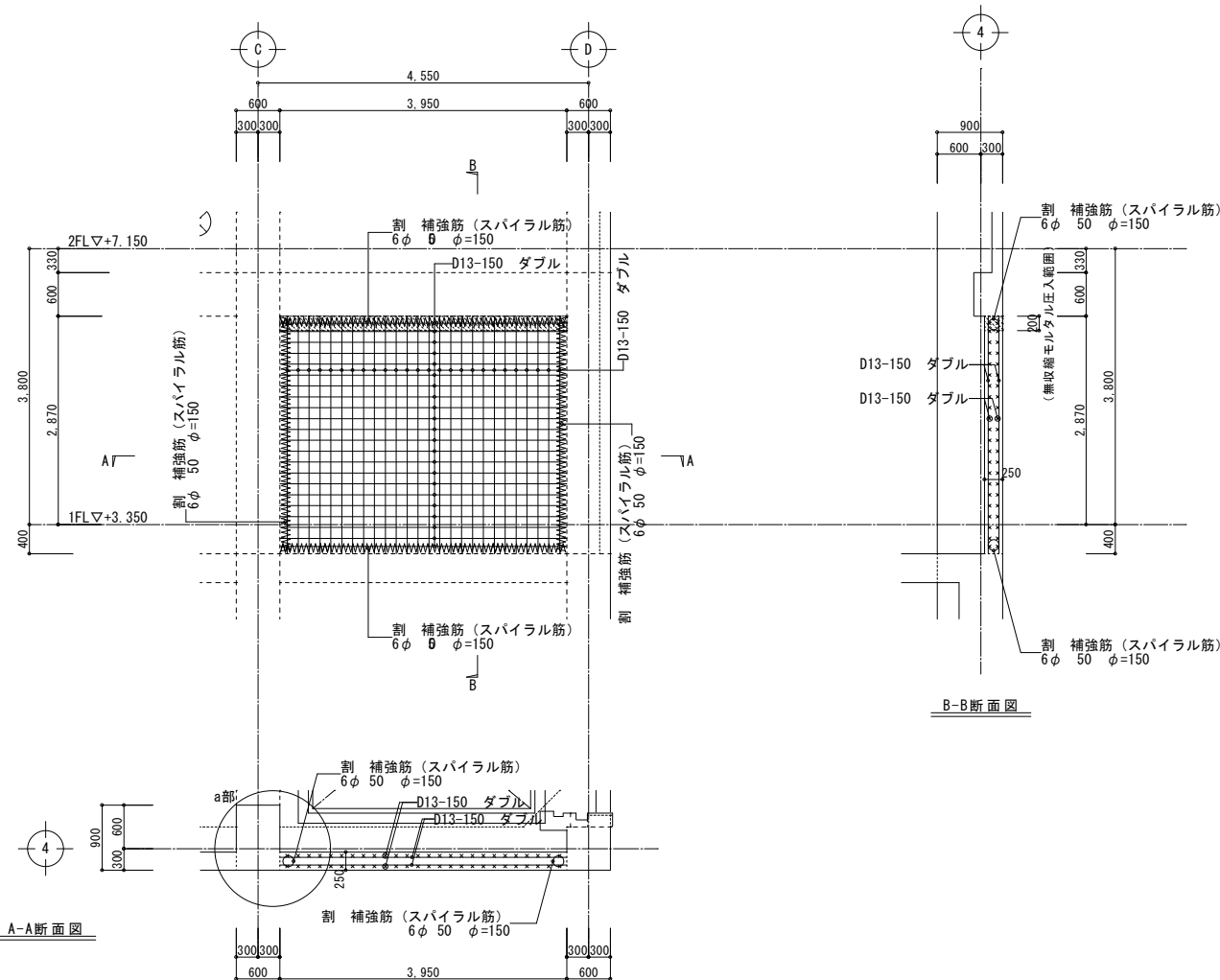
事業名			
工事名			
工事場所		四日市市 塩浜町 地内	
名称		改修詳細図(23)	
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-36

1F-12  
N



接着系アンカー配筋標準				
	アンカー筋長さ			
	開口部(壁新設部)			
	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln
	D16	194	210	720
	D19	231	250	860
記号凡例 Le :有効埋込み長さ(開口部:Le=12da) L :埋込み長さ (L=Le+da) Ln :有効定着長さ (開口部:Ln 40da+5da ナット無)				

1F-12  
N



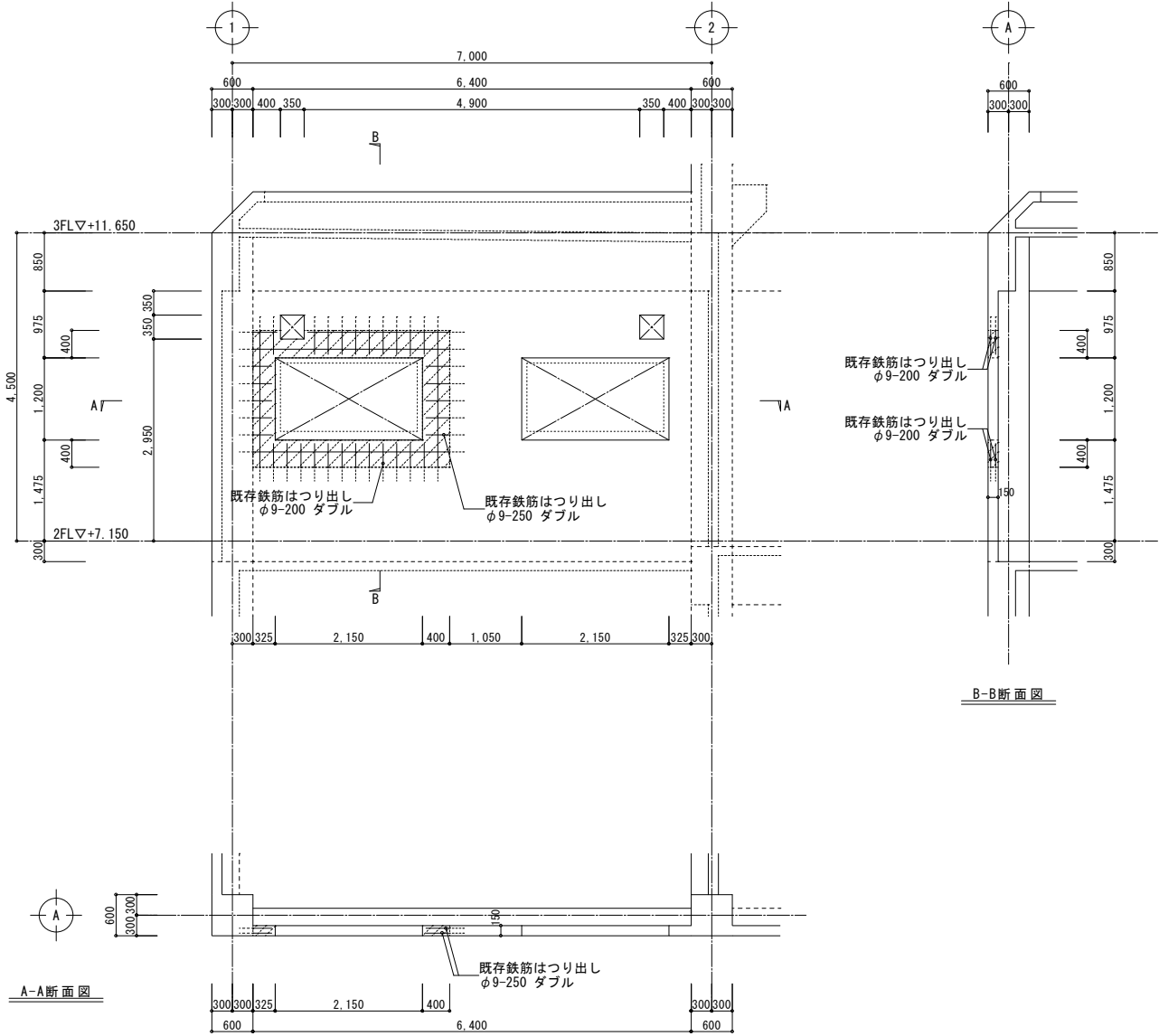
特記なき限り下記による。	
	印 : 無収縮モルタル圧入範囲を示す。

鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
●	×	◇	●	○	◎	⊗

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(24)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-37

2F-1

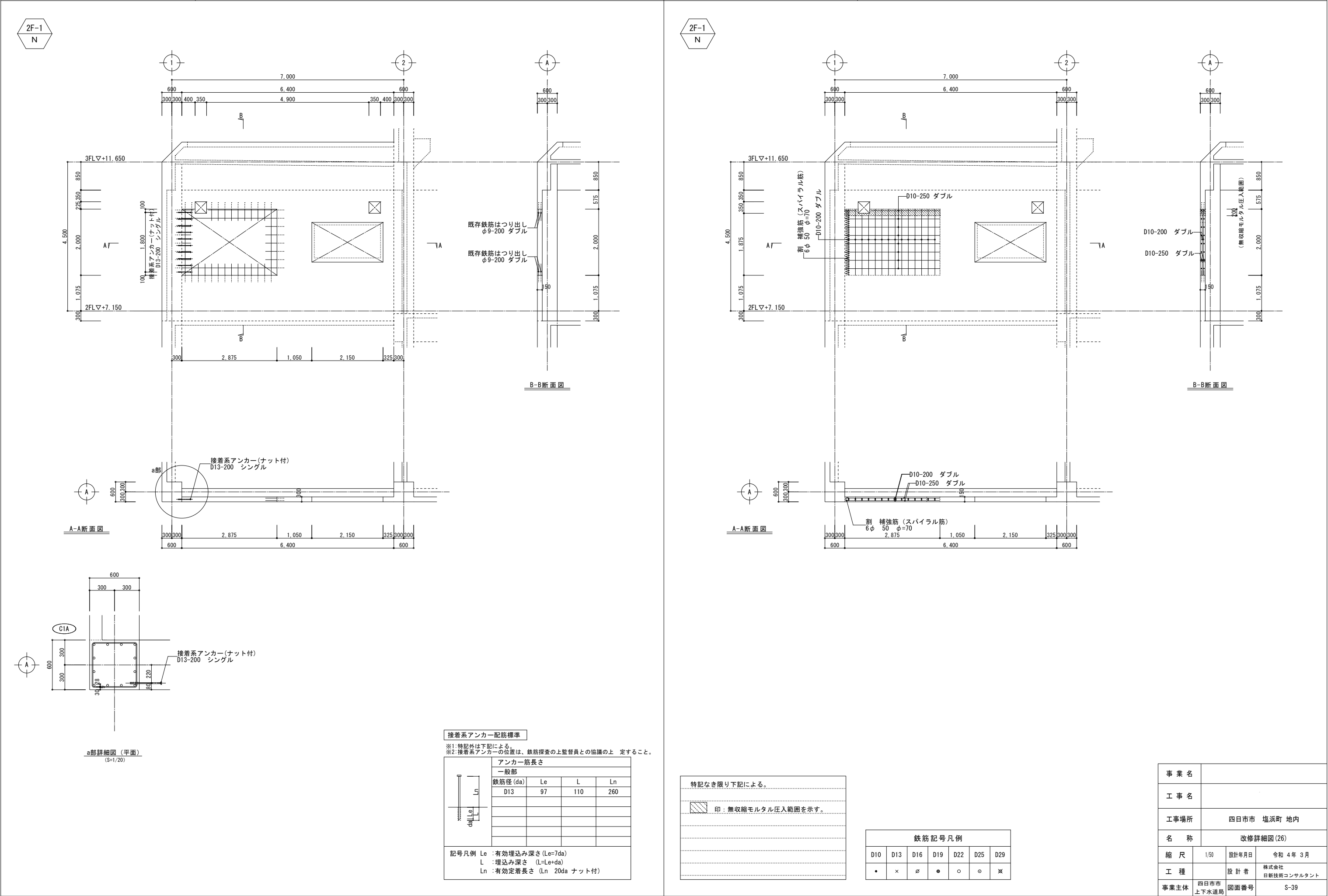
O



特記なき限り下記による。

印：既存壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。

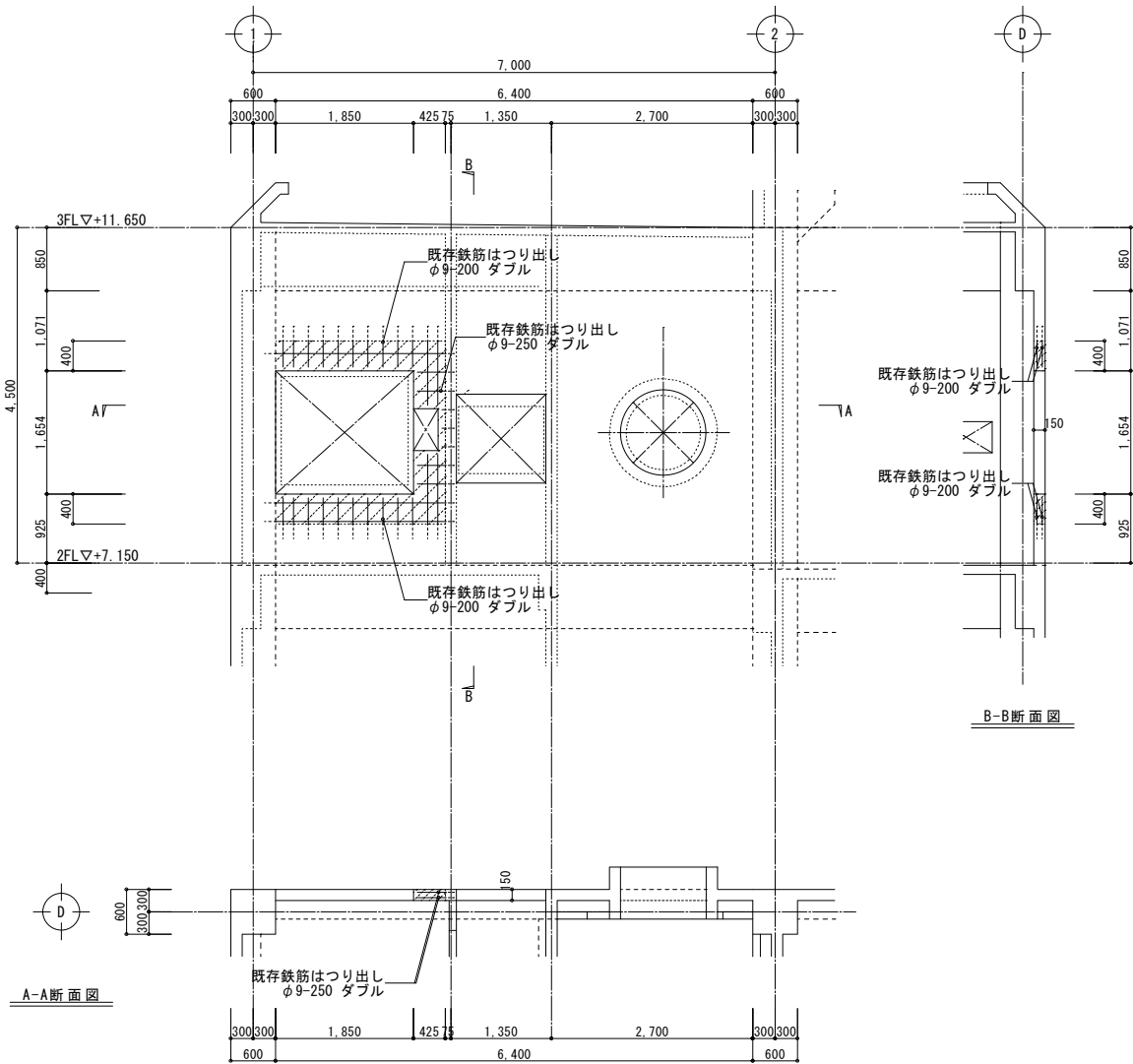
事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(25)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-38



事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(26)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-39



2F-2  
○



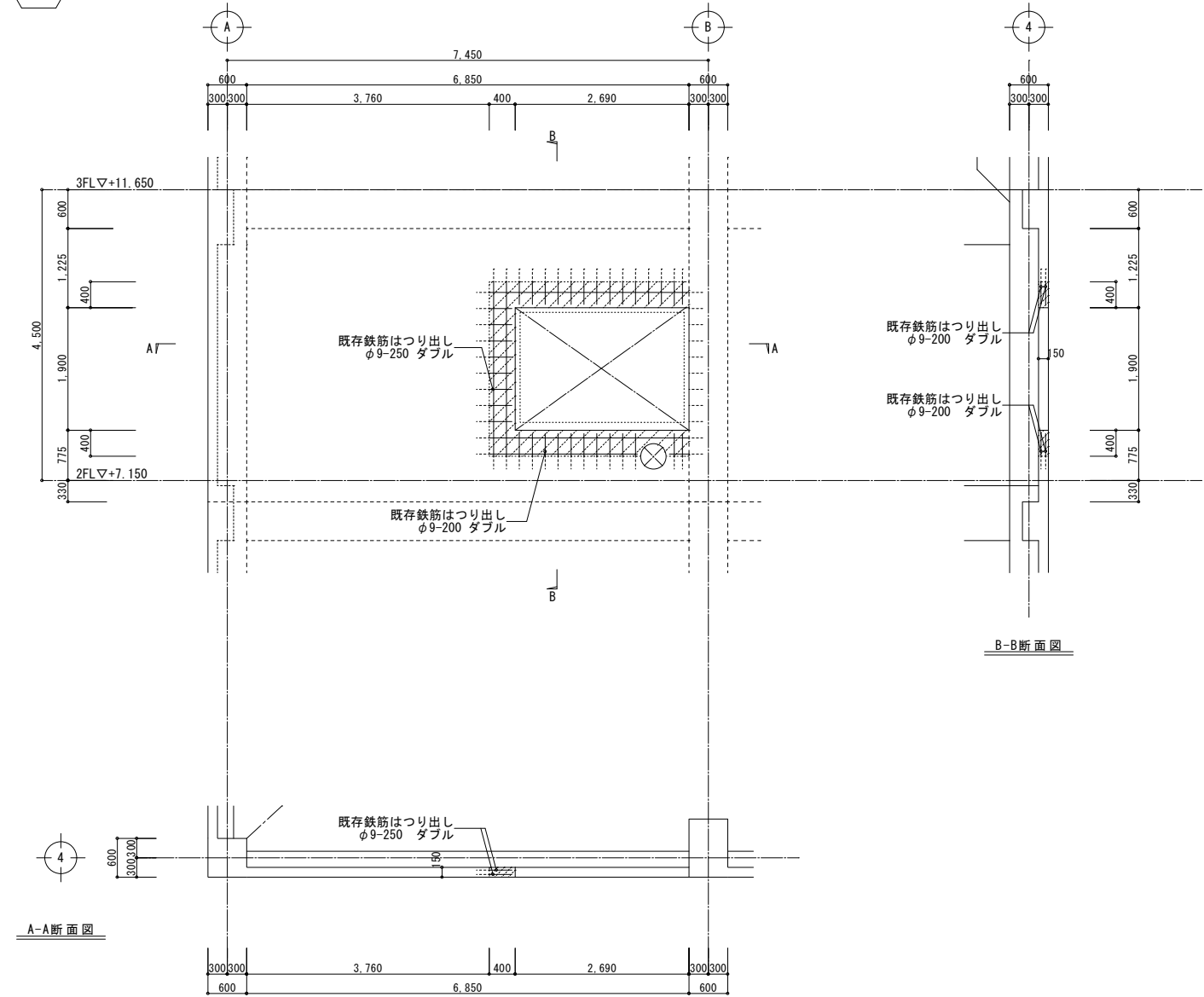
特記なき限り下記による。


印：既存壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(27)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-40



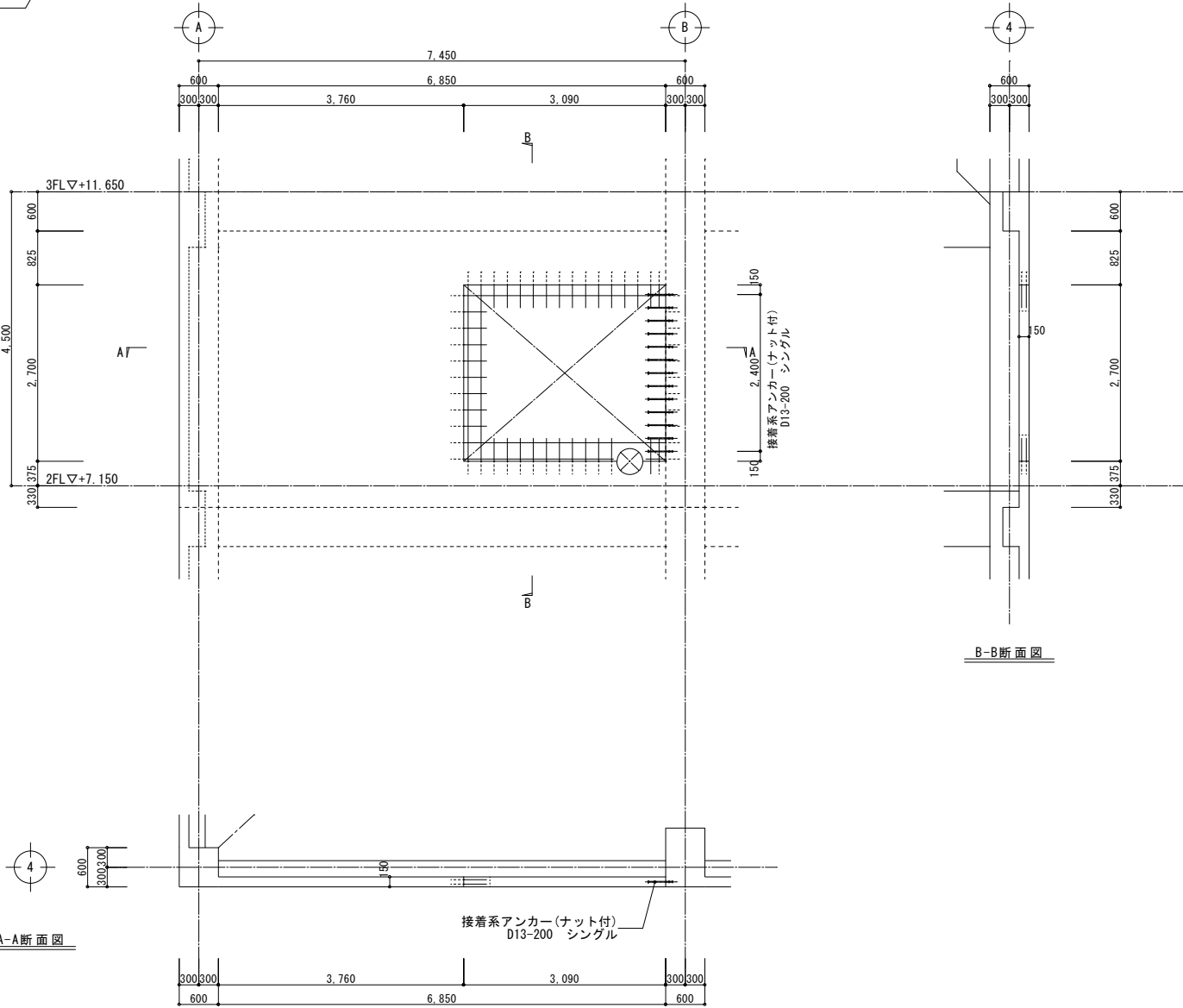
2F-4  
○



特記なき限り下記による。	
	印：既存壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。

事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(29)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-42

2F-4  
N



A-A断面図

B-B断面図

a部詳細図(平面)  
(S=1/20)

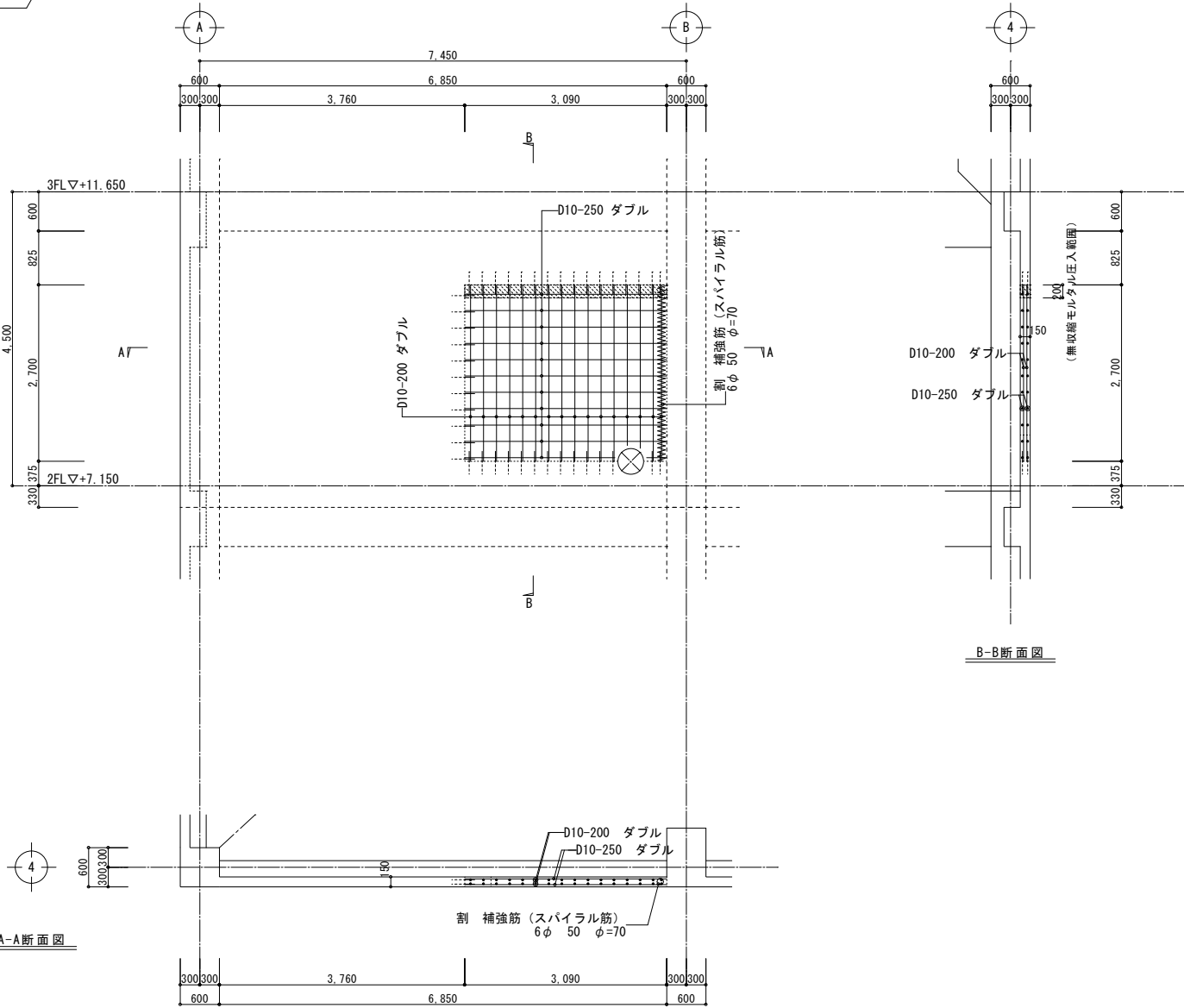
接着系アンカー配筋標準

※1:特記外は下記による。  
※2:接着系アンカーの位置は、鉄筋探査の上監督員との協議の上 定すること。

鉄筋径 (da)	アンカー筋長さ		
	一般部	埋込み部	埋込み部
D13	97	110	260
D16	110	130	310
D19	130	160	370
D22	160	200	460
D25	200	250	580
D29	250	310	720

記号凡例 Le :有効埋込み長さ (Le=7da)  
L :埋込み長さ (L=Le+da)  
Ln :有効定着長さ (Ln 20da ナット付)

2F-4  
N



A-A断面図

B-B断面図

特記なき限り下記による。

印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

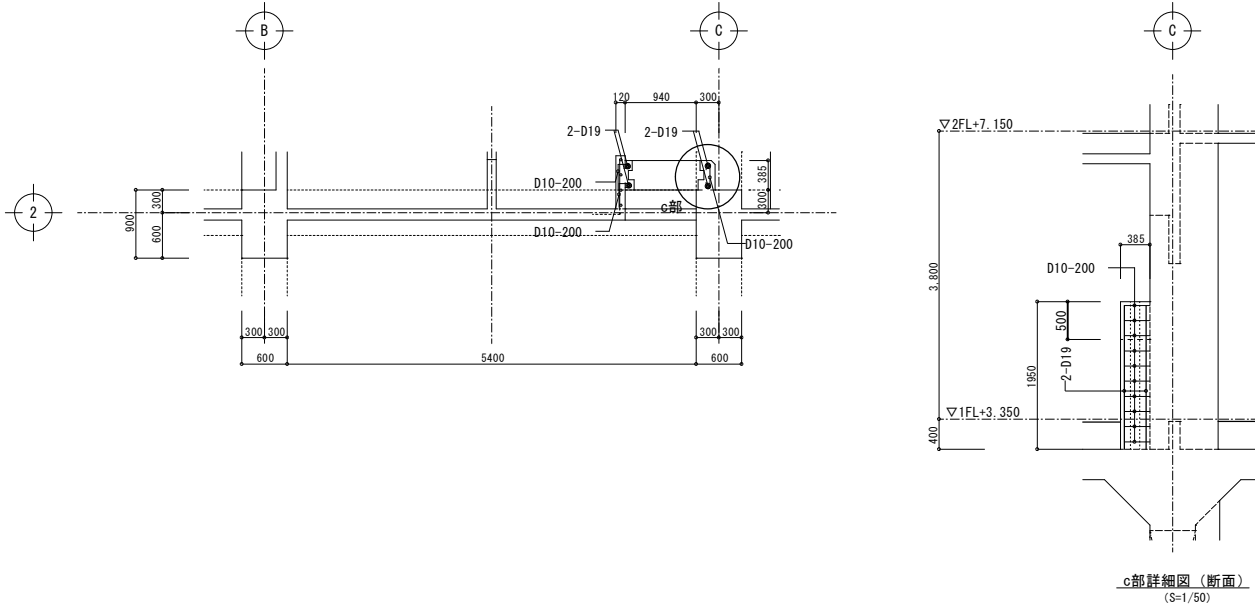
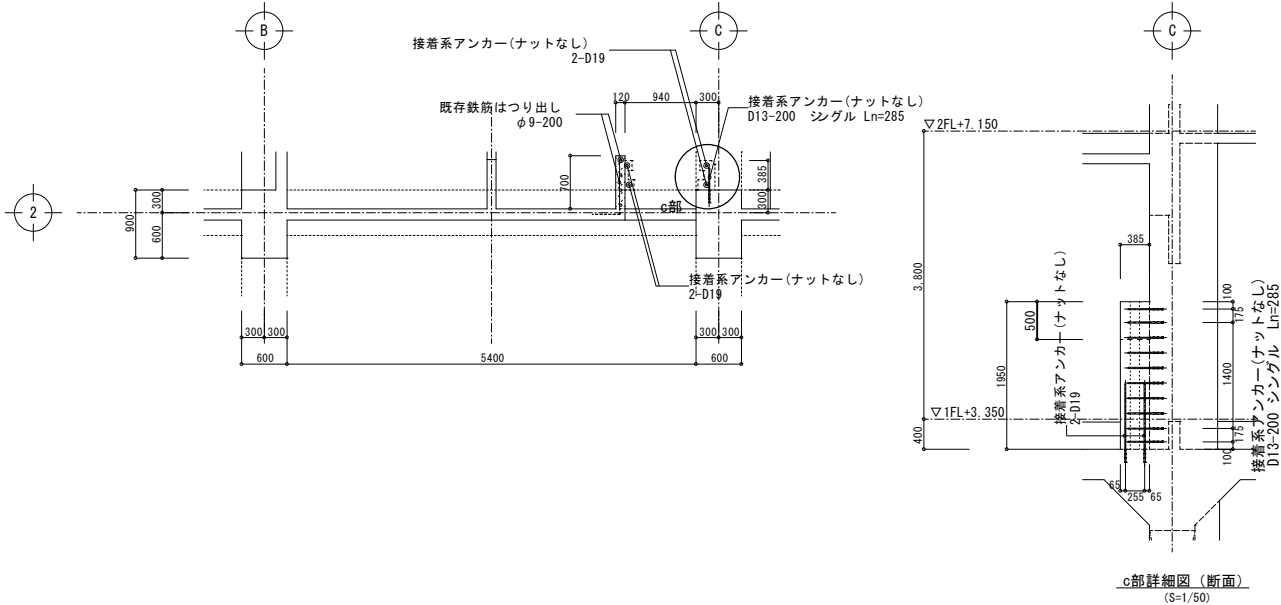
鉄筋記号凡例

D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
●	×	◇	●	○	◎	⊗


事業名			
工事名			
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(30)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4年 3月
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-43

1F-13  
O

1F-13  
N




特記なき限り下記による。

 印：既存壁撤去（鉄筋はつり出し）範囲を示す。

接着系アンカー配筋標準				
	アンカー筋長さ			
	開口部（壁新設部）			
	鉄筋径 (da)	Le	L	Ln
	D13	157	170	590
記号凡例 Le :有効埋込み深さ（開口部:Le=12da） L :埋込み深さ（L=Le+da） Ln :有効定着長さ（開口部:Ln 40da+5da ナット無）				

特記なき限り下記による。

 印：無収縮モルタル圧入範囲を示す。

鉄筋記号凡例						
D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
●	×	∅	●	○	◎	⊗

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	改修詳細図(31)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	S-44

塩浜第3ポンプ場耐震補強工事

設計図

仕様書

I. 工事概要

1. 工事場所

四日市市 塩浜町 地内

2. 建物概要

建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積 (㎡)	消防法施行令別表第一	備考
ポンプ棟	RC造	地上2階	645.845	15項	

3. 工事種目 (○印の付いたものを適用する)

建物別及び屋外工事種目	ポンプ棟	工事種別				
・電灯設備	○					
・動力設備						
・電気自動車用充電設備						
・電熱設備						
・雷保護設備						
・受変電設備						
・発電設備						
・構内情報通信設備						
・構内交換設備						
・情報表示設備						
・映像・音響設備						
・拡声設備						
・誘導支援設備						
・テレビ共同受信設備						
・防犯カメラ設備						
・駐車場管制設備						
・防犯・入室管理設備						
・火災報知設備	○					
・中央監視制御設備						
・構内配電線路						
・構内通信線路						
・テレビ電波障害除去工事						
・撤去工事						

4. 指定部分

○ 無 ・ 有 ( 部位 : 指定部分工期 令和 年 月 日 )

II. 工事仕様

1. 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通大臣官庁官庁管轄部制定の下記仕様書等のうち、○印の付いたものによる。

○ 公共建築工事標準仕様書 (電気設備工事編) (令和4年版) (以下、「標準仕様書」という。)

○ 公共建築改修工事標準仕様書 (電気設備工事編) (令和4年版) (以下、「改修標準仕様書」という。)

○ 公共建築設備工事標準図 (電気設備工事編) (令和4年版) (以下、「標準図」という。)

2. 特記仕様

項目及び特記事項は○印の付いたものを適用する。

項目	特記事項
① 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 <div><div>○ 風圧力</div><div>風速 (V0=34m/s)</div><div>地表面粗度区分 ( ・Ⅰ ・Ⅱ ○Ⅲ ・Ⅳ )</div><div>○ 積雪荷重</div><div>垂直積雪量 (0.3m)</div></div>
② 環境への配慮	(1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図面に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 <div><div>① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図面に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。</div><div>② 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。</div><div>③ 接着剤は、可塑剤 (フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難燃発性の可塑剤を除く) が添加されていない材料を使用する。</div><div>④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。</div></div> <div>(2) 設計図面に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは、次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。<div><div>① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料</div><div>② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</div><div>③ 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料</div><div>④ 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</div></div><div>(3) 「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」に基づく特定調達物品等に関する判断の基準は、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針 (平成27年2月閣議決定)」による。</div></div>

項目

特記事項

③ 材料・機材の品質等

(1) 本工事に使用する材料・機材等は、設計図面に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。

(2) 下表に示す材料・機材等の製造業者等は次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、製造業者等が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。

① 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。

② 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。

③ 安定的な供給が可能であること。

④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。

⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。

⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられていること。

機 材 名 称	
LED照明器具	高圧送相コンデンサ
照明制御装置	高圧限流ヒューズ
可変速電動機用インバータ装置	高圧負荷開閉器
分電盤	高圧変圧器 (特定機器)
制御盤	交流無停電電源装置
キュービクル式配電盤	太陽光発電装置
	(V-F-V) 及び系統連係保護装置
高圧スイッチギア (CWF形、PWF形)	防犯カメラ装置
高圧交流遮断器	中央監視制御装置 (監視制御装置)

④ 電源周波数

・ 50Hz ○ 60Hz

⑤ 電気工作物の種類

○ 事業用電気工作物

・ 一般用電気工作物

電気保安技術者

・ 要 ○ 不要

契約電力500kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工を行うものとする。

すべて受注者の負担とする。

構内につくことが ・ できる ・ できない

⑥ 電気工事士

別契約の関係受注者が設置したものは、無償で使用できる。

・ 本工事で設置とする。(改修標準仕様書 第1編 2.2.2)によるほか下記による。)

「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据え置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

・ 内部足場の種類 ( 種 )

・ 外部足場の種類 ( 種 )

7 工事用仮設備

仮設備期間 ( ・ 図示 ・ )

仮電源等 ( ・ 受変電設備 ・ 発電設備 ・ 電灯設備 ・ 図示 )

8 足場その他

○ はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に定査式埋設物調査を行うこと。

・ 石綿含有分析調査 (定性分析により石綿が含有されている場合は、定量分析を実施する。)

○ 既設埋設配管等を切断または接続する箇所は、事前に試掘調査を行うこと。

構造部等の機械はつり箇所は、非破壊検査等による埋設物の調査を行い、監督職員に報告書を出す。なお、放射線透過検査による場合は特記とし、撮影枚数は、1枚以上／部位とする。

⑬ 穿孔作業

既存躯体に穿孔する場合は金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を使用する。

⑭ 耐震安全性の分類と耐震施工

(1) 設備機器、電気配線の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(独立行政法人建築研究所監修)による。(100kg以上の機器を対象とする。)

1)設計用水平地震力

機器の重量[kN]に、設計用水平震度を乗じたものとする。

なお特記なき場合、設計用水平震度は次による。

設計用水平震度		・ 特定の施設		・ 一般の施設	
設置場所	機器種別	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階・屋上及び塔屋	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水 槽 類	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	機 器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水 槽 類	1.5	1.0	1.0	0.6
地階・1階	機 器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水 槽 類	1.5	1.0	1.0	0.6

※水槽類には、オイルタンク等を含むものとする。

上層階とは、2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4層とする。

中間階とは、地階、1階を除く各階で上層階に該当しないものとする。

重要機器

・ 配電盤 ・ 発電装置 ・ 直流電源装置 ・ 交流無停電電源装置

・ 交換機 ○ 火災報知受信機 ・ 中央監視制御装置

・ キュービクル ・ その他 ( )

2)設計用鉛直地震力

設計用水平地震力の1／2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

項目

特記事項

15 建設発生土の処理

・ 埋戻し後の建設発生土は、監督職員が指示する構内の場所に敷きならしとする。

・ 構外搬出適切な処理とする。

※建設発生土を搬出する場合は、事前に書面にて処分地の報告(位置図等)を行い、処分地での処理状況が分かる写真を提出すること。また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。

16 電線本数、管路等

分電盤、制御盤及び端子盤等の二次側以降の配管・配線は、経路、電線太さ、電線本数、管径等は監督職員の承諾を受けて変更しても差し支えない。

また、機械室等の床埋設配管は図面上 所管で記載している場合であっても、立上げ部分等の露出配管部分は金属管とし、その場合は全長に亘って接地線を設ける。

⑰ 金属製電線管の塗装・仕上げ

下記の金属製電線管の露出配管は塗装、めっき等の仕上げを行う。

○ 屋外 (内外面溶融亜鉛メッキ仕上げ箇所: 全て (塗装箇所除く)

・ 屋内 (内外面溶融亜鉛メッキ仕上げ箇所 地階、ビット階 )

・ 塗装 ( ・ 屋内 ・ 屋外 ・ 全て ・ 図示 )

18 フラッシュプレート

図面に特記なき場合は、 ・ 金属製 (ステンレス、新金属も含む) ・ 樹脂製 とする。

19 電 線 類

EM-UTPケーブルは、用途に応じ色分けすること。

20 二重床内器具

二重床内に設置する器具の位置表示として、マーキングを直上の天井面に付けること。また、用途に応じ色分けすること。

21 インバータ装置の規約効率

三相可変速電動機用インバータ装置の規約効率は次の値以上とする。

電動機出力 (kW)	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	18.5	22	30	37	45
規約効率 (%)	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5

備考 (1) 規約効率は、JET-TR245「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。

(2) 規約効率は、JIS C 4212「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧200V、1P4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。

22 高効率誘導電動機の配線用遮断器等の選定

高効率誘導電動機回路保護用の配線用遮断器等の選定は下記による。

200V三相誘導電動機回路の器具容量等

電 動 機		器具容量、コンデンサ回路の配線									
定格出力 [kW]	定格電流 (参考値) [A]	配線用遮断器等 [A]		コデンサ回路		コデンサ [μF]					
		直入始動 [A]	Y-Δ始動 [A]	電流計 [A]	接続する電線 (B-E) の最小太さ [mm <sup>2</sup> ]						
					長さ3m以下	長さ3m以下	50Hz	60Hz			
0.2	1.8	15	—	15	3	2.0	2.0	15	10		
0.4	3.2	15	—	15	5	2.0	2.0	20	15		
0.75	4.8	15	—	15	5	2.0	2.0	30	20		
1.5	8	30	—	15	10	2.0	2.0	40	30		
2.2	11.1	40	—	20	10	2.0	2.0	50	40		
3.7	17.4	75	—	30	20	2.0	2.0	75	50		
5.5	26	100	60	50	30	3.5	2.0	100	75		
7.5	34	125	75	60	50	3.5	2.0	150	100		
11	48	125	125	75	60	8.0	2.0	200	150		
15	65	125	150	125	60	8.0	2.0	250	200		
18.5	79	150	175	125	100	14	3.5	300	250		
22	93	175	200	150	100	14	3.5	400	300		
30	124	250	300	200	150	14	5.5	500	400		
37	152	300	350	225	200	14	8.0	600	500		
45	190	400	450	200	200						
55	228	450	500		250						

400V三相誘導電動機回路の器具容量等

電 動 機		器具容量、コンデンサ回路の配線									
定格出力 [kW]	定格電流 (参考値) [A]	配線用遮断器等 [A]		コデンサ回路		コデンサ [μF]					
		直入始動 [A]	Y-Δ始動 [A]	電流計 [A]	接続する電線 (B-E) の最小太さ [mm <sup>2</sup> ]						
					長さ3m以下	長さ3m以下	50Hz	60Hz			
0.2	0.9	15	—	—	3	2.0	2.0	5	5		
0.4	1.6	15	—	15	3	2.0	2.0	5	5		
0.75	2.4	15	—	15	5	2.0	2.0	7.5	5		
1.5	4	15	—	15	5	2.0	2.0	10	7.5		
2.2	5.5	20	—	15	10	2.0	2.0	15	10		
3.7	8.7	30	—	15	10	2.0	2.0	20	15		
5.5	13	40	30	30	15	2.0	2.0	25	20		
7.5	17	75	40	30	20	2.0	2.0	40	25		
11	24	100	60	50	30	3.5	2.0	50	40		
15	32	125	75	60	30	3.5	2.0	75	50		
18.5	39	125	100	75	60	3.5	2.0	75	75		
22	46	125	100	100	60	8.0	2.0	100	75		
30	62	125	150	125	60	8.0	2.0	125	100		
37	76	150	175	125	100	8.0	3.5	150	125		
45	95	200	225	150	100	8.0	3.5	200	150		
55	115	225	300	175	150	14	5.5	250	200		
75	155	300	350	225	150	14	8.0	300	250		
90	180	350	400	300	200	22	8.0	300	250		
110	220	450	500	350	250	22	8.0	397	300		

23 接 地 極

接地極の材料は下記による。なお接地棒EB (14φ) の長さは1,500mm 以上とし、10φはW=30 L=900mm 以上、14φは、W=40 L=1,200mm 以上としても差し支えない。

接 地 の 種 類	記 号	接地抵抗値	接 地 極 (参考)
・ 共 同 接 地	E <sub>共通</sub>	Ω以下	EB (14φ) × 3連—3組
・ 共 同 接 地	E <sub>共通</sub>	10Ω以下	EB (14φ) × 3連—3組
・ A 種	E <sub>A</sub>	10Ω以下	EB (14φ) × 3連—2組
・ B 種	E <sub>B</sub>	Ω以下	EB (14φ) × 3連—2組
・ D 種	E <sub>D</sub>	100Ω以下	EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)
・ C 種	E <sub>C</sub>	10Ω以下	EB (14φ) × 3連—2組
・ 高圧避雷器用	E <sub>H</sub>	10Ω以下	EB (14φ) × 3連—3組
・ 低圧避雷器用	E <sub>L</sub>	10Ω以下	EB (14φ) × 3連—2組
・ 構 造 体 接 地			
・ 交 換 機 用	E <sub>レ</sub>	10Ω以下	EB (14φ) × 3連—3組
・ 通 信 用	E <sub>レ</sub>	10Ω以下	EB (14φ) × 3連—3組
・ 通 信 用	E <sub>レ</sub>	100Ω以下	EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)
・ 電話引込口の保安用	E <sub>レ</sub>	100Ω以下	EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)
・ 測 定 用	E <sub>レ</sub>		EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)

24 天井仕上げ表示

図面において、室名に ( ) を付したものは直天井を示し、それ以外は二重天井の部量を示す。

⑮ 取付高さ

壁付、壁掛形の機器等の取付高さは、図面に記載のない場合は原則として下表による。

名 称	測 点	取付高さ [mm]
ブラケット (一般)	床 上 ～ 中心	2,100
〃 (講壇)	〃	2,500
〃 (鏡上)	鏡上端 ～ 中心	150
スイッチ (一般)	床 上 ～ 中心	1,200
〃 (多機能使用用)	〃	1,200
自動スイッチ (照明、換気扇用等)	〃	1,800
コンセント、電話用ジャック、テレビ端子 (一般)	〃	300
〃 (和室)	○	150
〃 (台所)	台 上 ～ 中心	150
コンセント (土間)	床 上 ～ 中心	800 ～ 1,300
コンセント (電動機いす充電用)	〃	900
引込開閉器箱 (低圧)	床 上 ～ 上端	1,500
分電盤、制御盤、実験盤	床 上 ～ 中心	1,500 (上端1,900以下)
開閉器箱	〃	1,500
電磁開閉器用押しボタン	〃	1,200
接地用端子箱	地 上、床 上 ～ 中心	500
試験用接続端子箱	床 上 ～ 下端	800
接地極埋設機	地 上 ～ 中心	600
給油ボックス	地 上 ～ 給油口	1,000
室内端子盤 (廊下・室内)	床 上 ～ 下端	300
中間端子盤 (EPS・電気室)	床 上 ～ 中心	1,500
壁付電話機	〃	1,300
観時計	〃	1,500 (上端1,900以下)
子時計、スピーカ	〃	(天井高) × 0.9
アッテネータ	〃	1,200
表示盤	〃	(天井高) × 0.9
発信器 (出退表示用)	〃	1,200
外部受付用インターホン (子機)	〃	標準図による
壁付インターホン (上記以外)	〃	1,100
呼出ボタン (多機能使用用)	〃	900
復帰ボタン ( 〃 )	〃	1,300
廊下表示灯 ( 〃 )	〃	2,000
テレビ機器収納箱	天井下 ～ 上端	200
火報受信機 (複合盤)	床 上 ～ 操作部	800 ～ 1,500
副受信機	床 上 ～ 中心	1,500
機器収納箱 (火災報知設備)	〃	800 ～ 1,500
発信機	〃	800 ～ 1,500
警報ベル	〃	(天井高) × 0.9
表示灯 (火災報知設備)	〃	(天井高) × 0.8
連動制御器 (自動閉鎖)	〃	1,500
ガス漏れ検知器 (重ガス)	〃	300
ガス漏れ検知器 (軽ガス)	天井面 ～ 中心	(天井高) - 200

26 他工事又は他工種との取合い

工事区分表による。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議する。

27 資源有効利用促進

※本工事が資源の有効な利用の促進に関する法律 (平成三年法律第四十八号) の規定により再生資源利用促進計画の作成を要する工事である場合 (下記内容該当工事) は、受注者は、工事の施工前に発注者に再生資源利用促進計画を提出し、その内容を説明しなければならない。完成後に発注者から請求があったときは、その実施状況を発注者に報告しなければならない。

・ 建設副産物を搬出する際の計画

1. 土砂500m<sup>3</sup>以上

2. コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材の合計が200t以上

・ 再生資材を利用する際の計画

1. 土砂500m<sup>3</sup>以上

2. 砕石500t以上

3. 加熱アスファルト200t以上

図面番号

AE-01

図面名

特記仕様書

建築電気設備 1

縮 尺

1: N0 (A2)

設計番号

作図 令和5年12月

工 事 名

塩浜第3ポンプ場耐震補強工事 設計図

図面番号

AE-01





























株式会社 日新技術コンサルタント






















1 級 建 築 士 登 録 第 166668 号 宮 本 哲 也  
東 京 都 中 央 区 日 本 橋 堀 留 町 1-5-7  
令和5年4月版

/



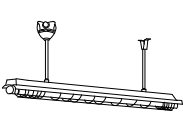
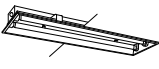
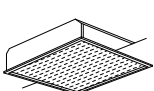




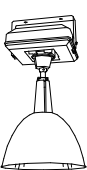

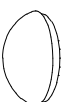

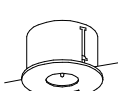


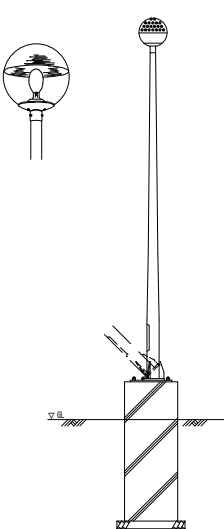
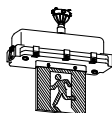
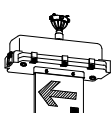

[illegible]

凡 例

記 号	名 称 ・ 摘 要
 (A1)	FHF32W×1逆富士形蛍光灯
 (B1)	FHF32W×2逆富士形蛍光灯
 (B2)	FHF32W×2逆富士形蛍光灯 電池内蔵形非常用
 (B3)	FL20W×2逆富士形蛍光灯
 (C1)	FHF32W×1パイプ吊安全増防爆形蛍光灯
 (D1)	FL20W×2下面開放埋込形蛍光灯
 (E1)	FL20W×4下面開放埋込形蛍光灯
 (F1)	FHC32W+20W和風ペンダント形蛍光灯
 (G1)	FL20W×1ブラケット形蛍光灯
 (H1)	FL20W×1ブラケット形蛍光灯 防雨型
 (I1)	FHF32W×1階段誘導蛍光灯 電池内蔵形非常用
 (J1)	HID400W×1高天井水銀灯 昇降装置付
 (K1)	FL20W×1ブラケット形蛍光灯
 (L1)	FCL20W×1シーリング形浴室蛍光灯 防湿型
 (M1)	FCL20W×1シーリング形軒下蛍光灯 防雨型
 (N1)	JE30W×1埋込形ハロゲン灯 電池内蔵形非常用
 (O1)	壁付形避難口誘導灯C級 電池内蔵形
 (O2)	天井付形避難口誘導灯C級 電池内蔵形
 (P1)	天井付形通路誘導灯C級 電池内蔵形
 (Q1)	直付耐圧防爆片面形避難口誘導灯BL級 電池内蔵形
 (R1)	直付耐圧防爆片面形通路誘導灯BL級 電池内蔵形
 (S1)	HID300W×1投光器広角形水銀灯 重耐塩害仕様
 (T1)	HID300W×1アルミボール可傾ベース式水銀灯
 電灯分電盤 L－1	
 外灯盤	
 安定器盤	
 電動昇降装置用操作盤	
 換気扇	

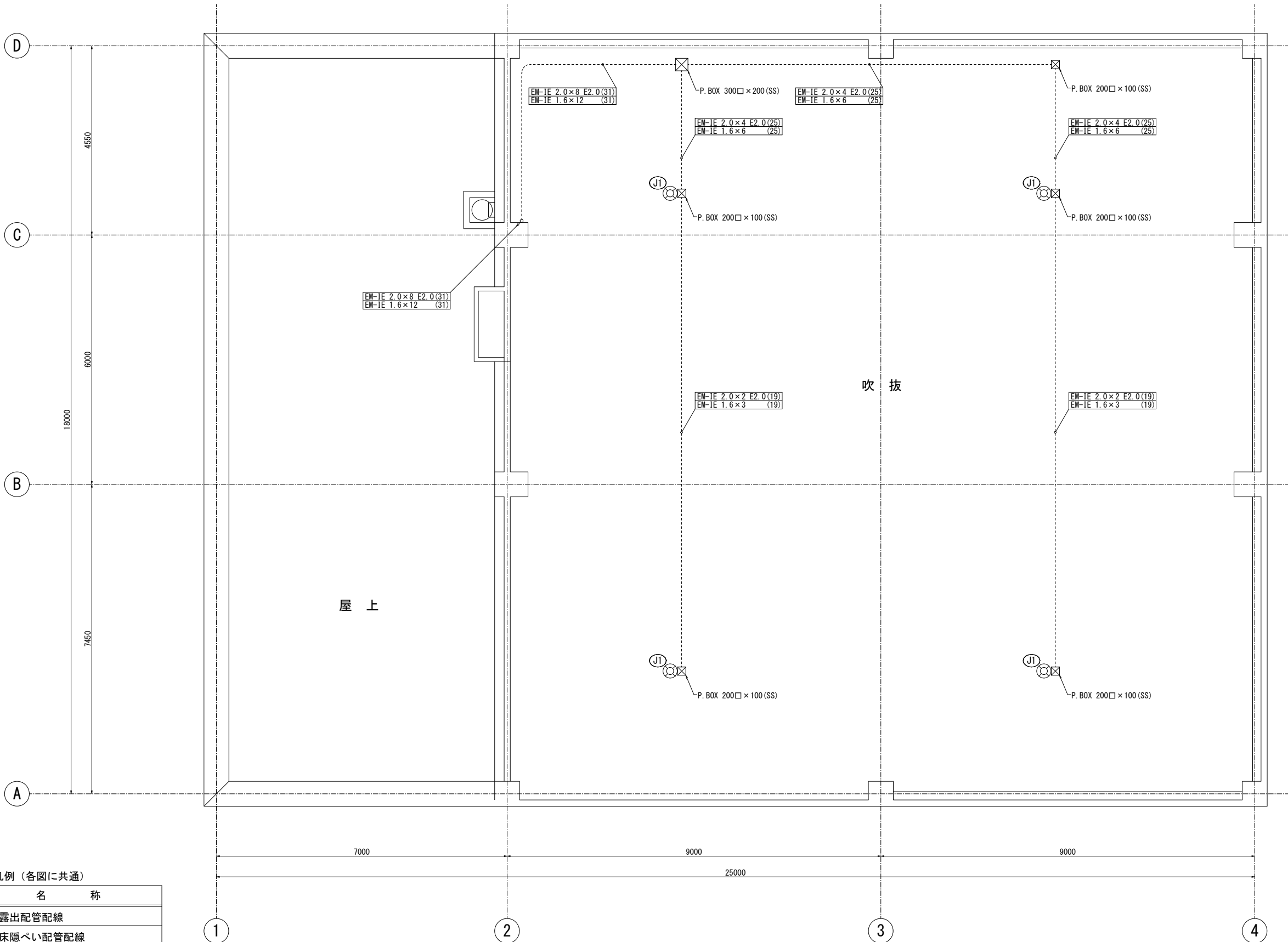
記 号	名 称 ・ 摘 要
 タンブラスイッチ 片切 15A	
 タンブラスイッチ 3路 15A	
 タンブラスイッチ 両切 15A	
 耐圧防爆形 タンブラスイッチ 両切 20A	
 自動点滅器 200V 3A	
 リモコンスイッチ 6回路	
 コンセント 2P15A×2	
 コンセント 2P15A×2 接地極付	
 アップコンセント 2P15A 接地極付	
 コンセント 200V 2P20A 接地極付	
 耐圧防爆形 コンセント 2P15A 接地極付	
	隠べい配管配線
	床隠べい配管配線
	露出配管配線
	ケーブル配線
	地中埋設配管配線
	立上り
	引下げ
	ジョイントボックス
	耐圧防爆形露出ボックス
	プルボックス

照明器具姿図

(A1) FHF32W×1逆富士形蛍光灯	(B1) FHF32W×2逆富士形蛍光灯 (B2) FHF32W×2逆富士形蛍光灯 電池内蔵形非常用 (B3) FL20W×2逆富士形蛍光灯	(C1) FHF32W×1パイプ吊安全増防爆形蛍光灯	(D1) FL20W×2下面開放埋込形蛍光灯
			
(E1) FL20W×4下面開放埋込形蛍光灯	(F1) FHC32W+20W和風ペンダント形蛍光灯	(G1) FL20W×1ブラケット形蛍光灯	(H1) FL20W×1ブラケット形蛍光灯 防雨型
			
(I1) FHF32W×1階段誘導蛍光灯 電池内蔵形非常用	(J1) HID400W×1高天井水銀灯 昇降装置付	(K1) FL20W×1ブラケット形蛍光灯	(L1) FCL20W×1シーリング形浴室蛍光灯 防湿型
			
(M1) FCL20W×1シーリング形軒下蛍光灯 防雨型	(N1) JE30W×1埋込形ハロゲン灯 電池内蔵形非常用	(O1) 壁付形避難口誘導灯C級 電池内蔵形 (O2) 天井付形避難口誘導灯C級 電池内蔵形	(P1) 天井付形通路誘導灯C級 電池内蔵形
			
(T1) HID300W×1アルミボール可傾ベース式水銀灯	(Q1) 直付耐圧防爆片面形避難口誘導灯BL級 電池内蔵形	(R1) 直付耐圧防爆片面形通路誘導灯BL級 電池内蔵形	(S1) HID300W×1投光器広角形水銀灯 重耐塩害仕様
			

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	照明設備凡例・姿図		
縮尺	NONE	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-003





配線工事図凡例（各図に共通）

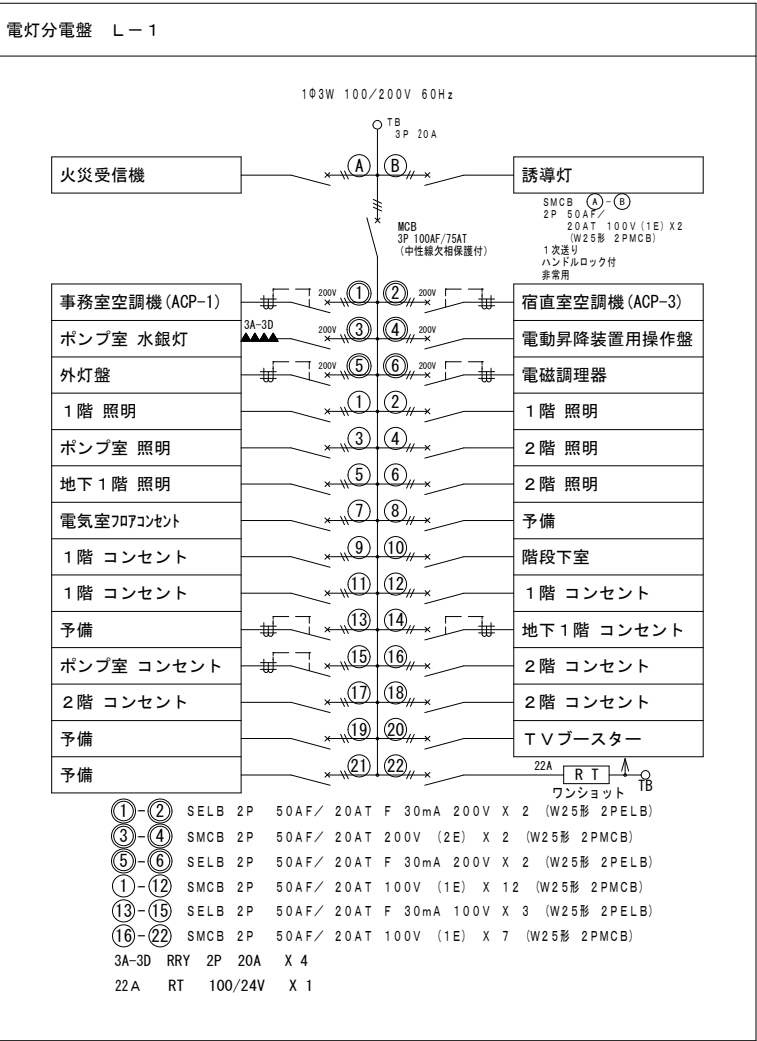
記 号	名 称
-----	露出配管配線
-----	床隠べい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠べい配管配線
-----	地中埋設配管配線
○/○	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟２階上部平面図 1/100

注 記

- 部は今回施工箇所を示す。
- その他は施工対象外を示す。

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図（ポンプ棟2階上部平面図） （更新後）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-004

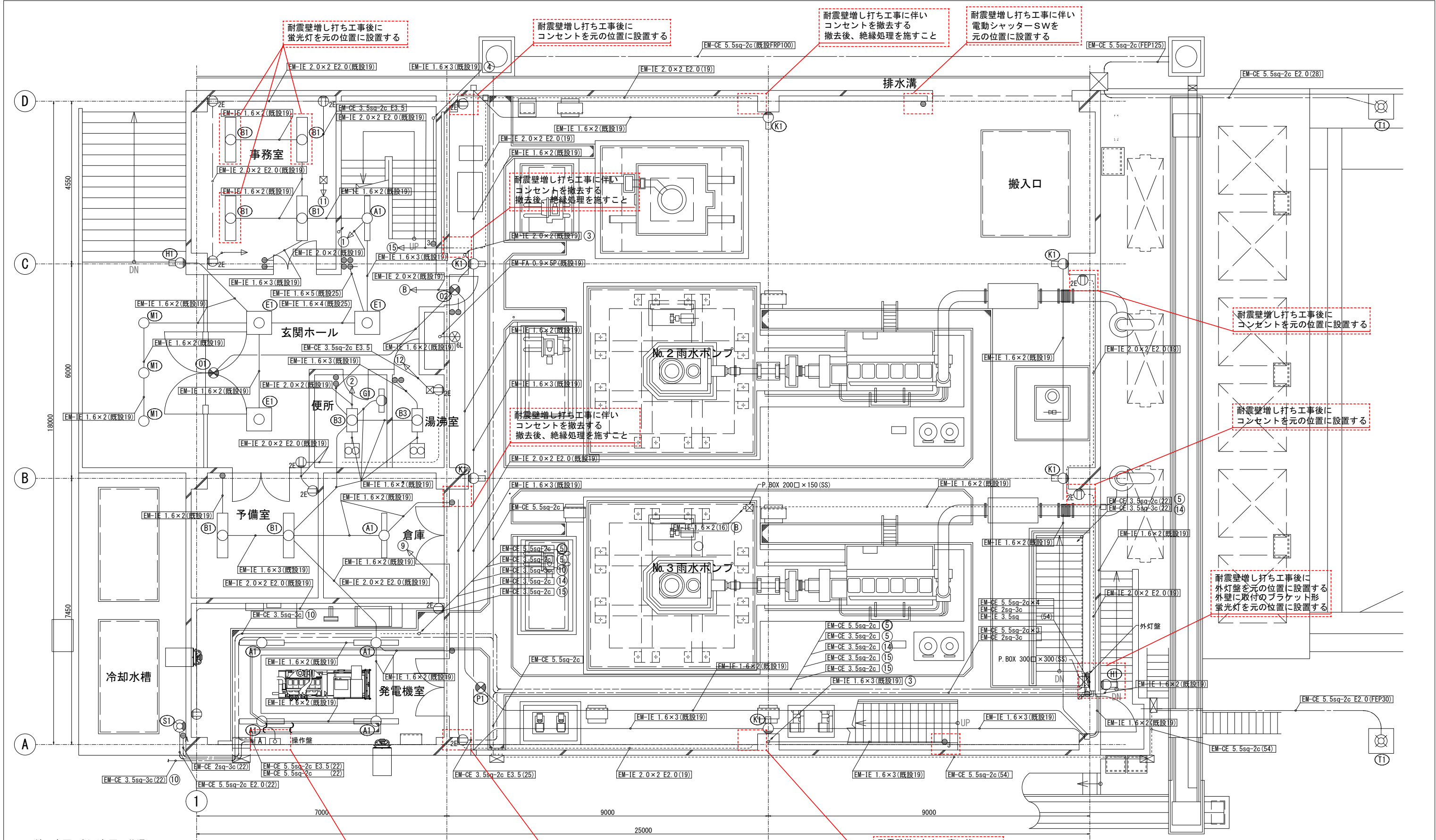


- 注 記
1. 部は今回施工箇所を示す。
2. その他は施工対象外を示す。

配線工事図凡例 (各図に共通)	
記 号	名 称
-----	露出配管配線
-----	床隠ぺい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠ぺい配線
-----	地中埋設配管配線
○/○	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟2階平面図 1/100

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図（ポンプ棟2階平面図） （更新後）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和4年3月28日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-005



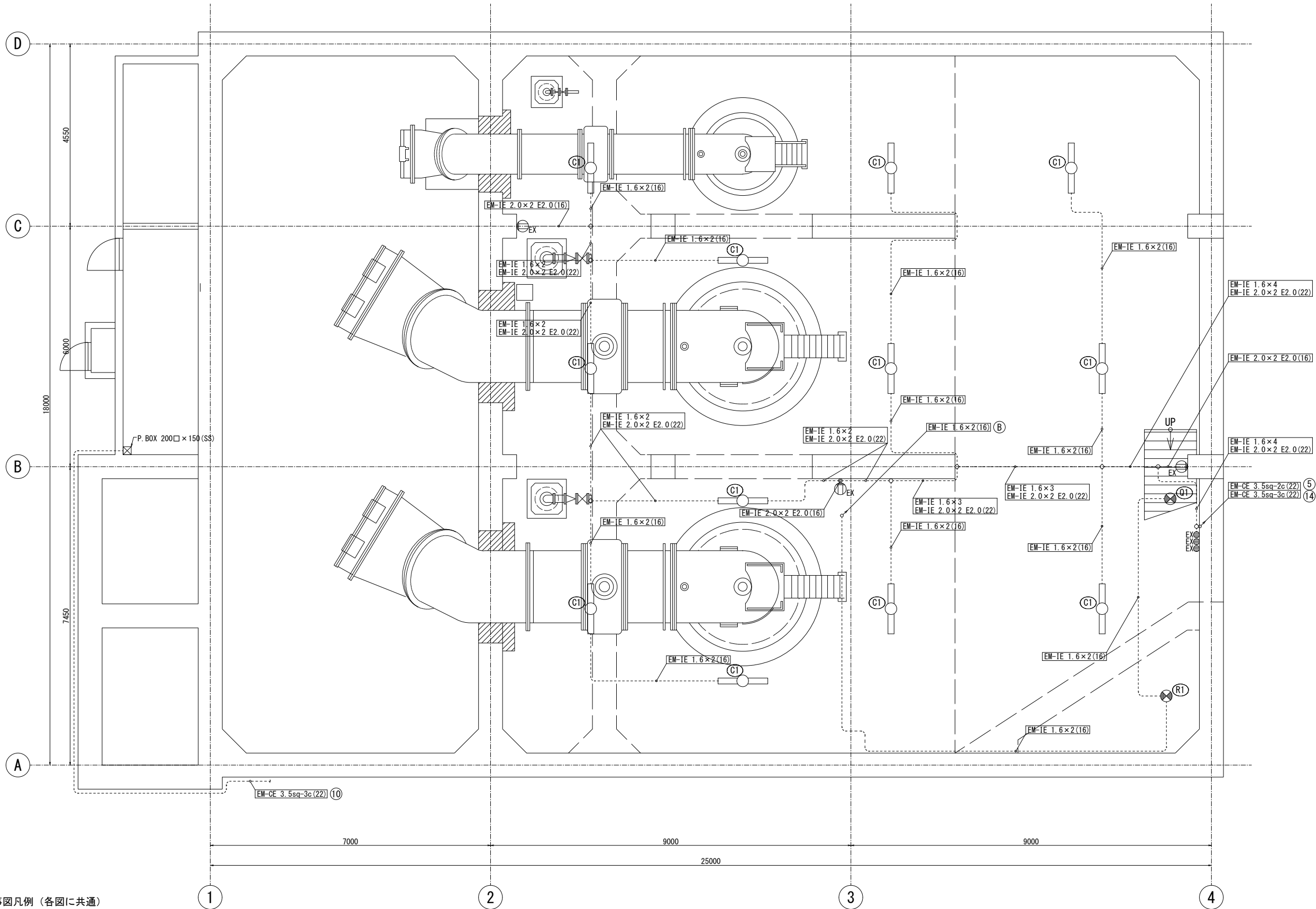
配線工事図凡例 (各図に共通)

記号	名称
-----	露出配管配線
-----	床隠ぺい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠ぺい配線
-----	地中埋設配管配線
○	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟 1 階平面図 1/100

- 注 記
1. 部は今回施工箇所を示す。
  2. その他は施工対象外を示す。

事業名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図 (ポンプ棟 1 階平面図) (更新後)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-006

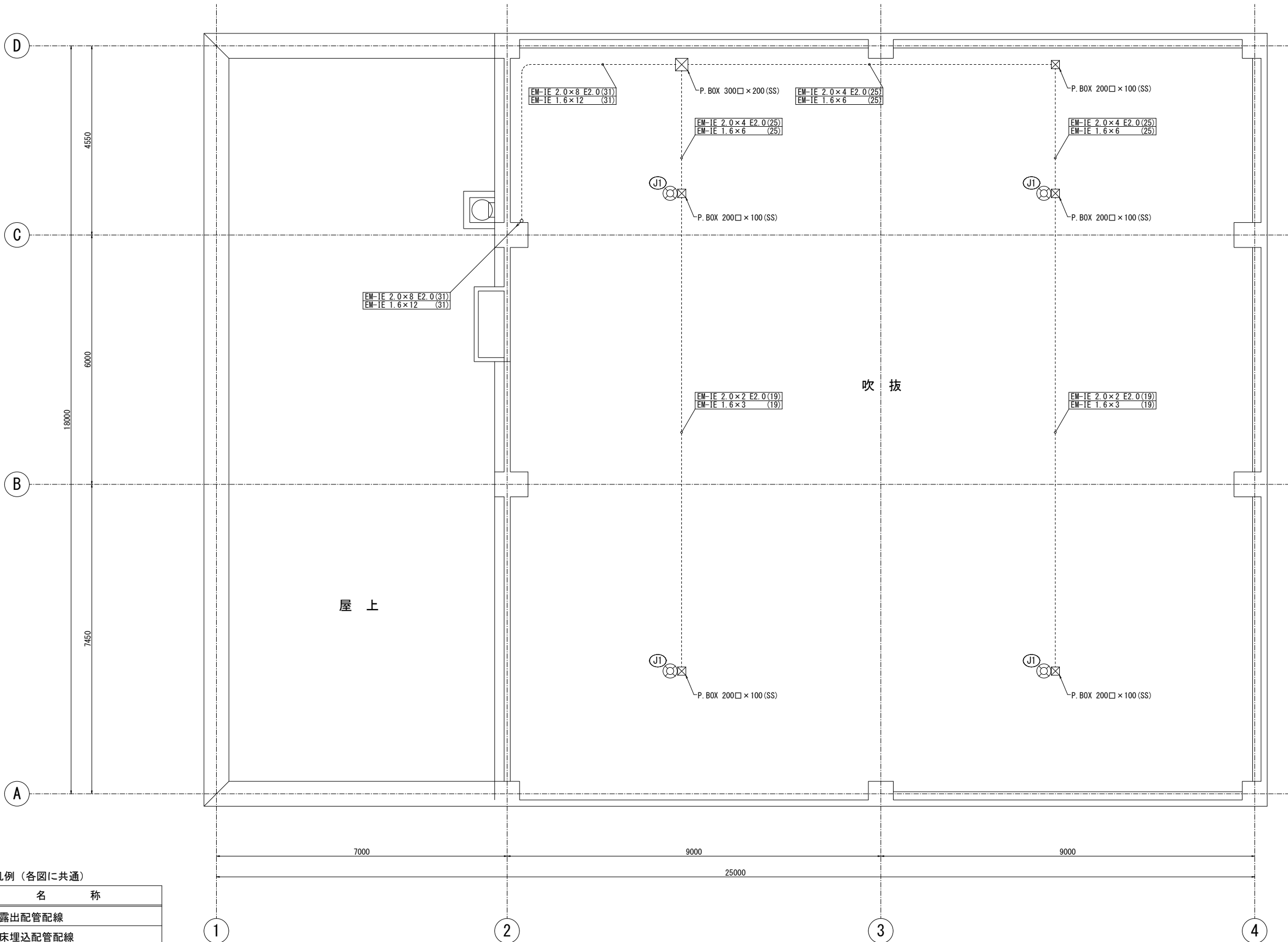


- 注 記
1. 部は今回施工箇所を示す。
  2. その他は施工対象外を示す。

配線工事図凡例（各図に共通）	
記 号	名 称
-----	露出配管配線
-----	床隠ぺい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠ぺい配管配線
-----	地中埋設配管配線
○/○	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟地下 1 階平面図 1/100

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名 称	配線図（ポンプ棟地下1階平面図） （更新後）		
縮 尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-007



配線工事図凡例（各図に共通）

記 号	名 称
-----	露出配管配線
-----	床埋込配管配線
-----	ピット内配線
-----	天井隠ぺい配線
-----	地中埋設配管配線
○/○	立上げ、素通し、引下げ

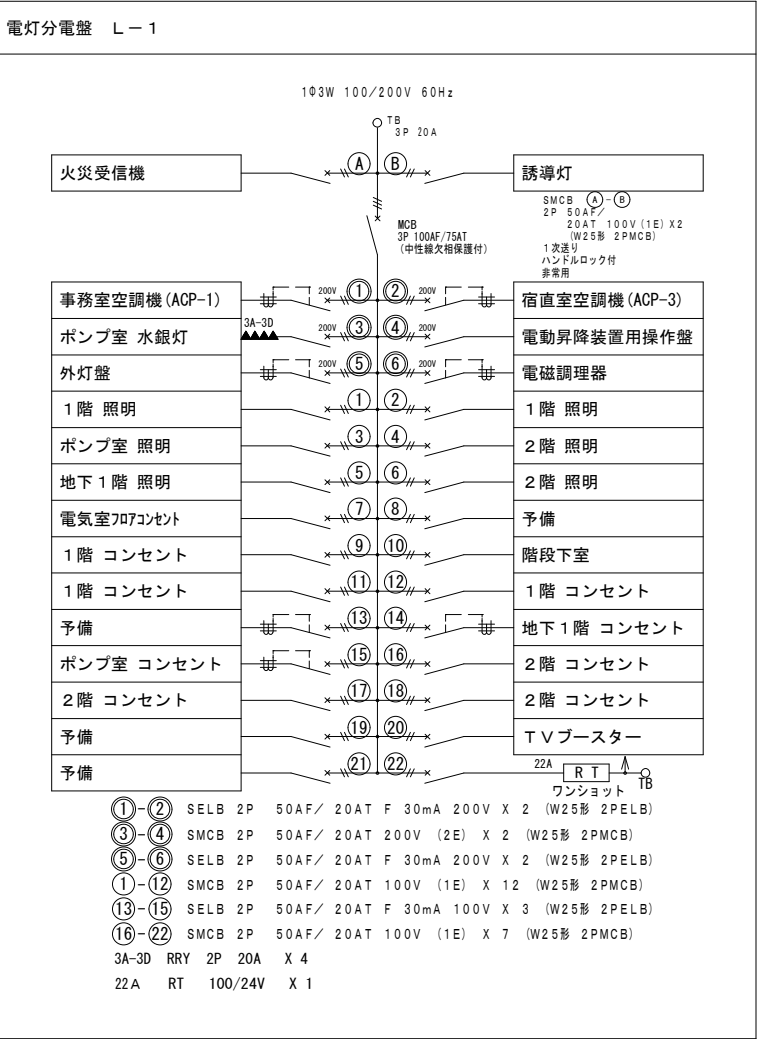
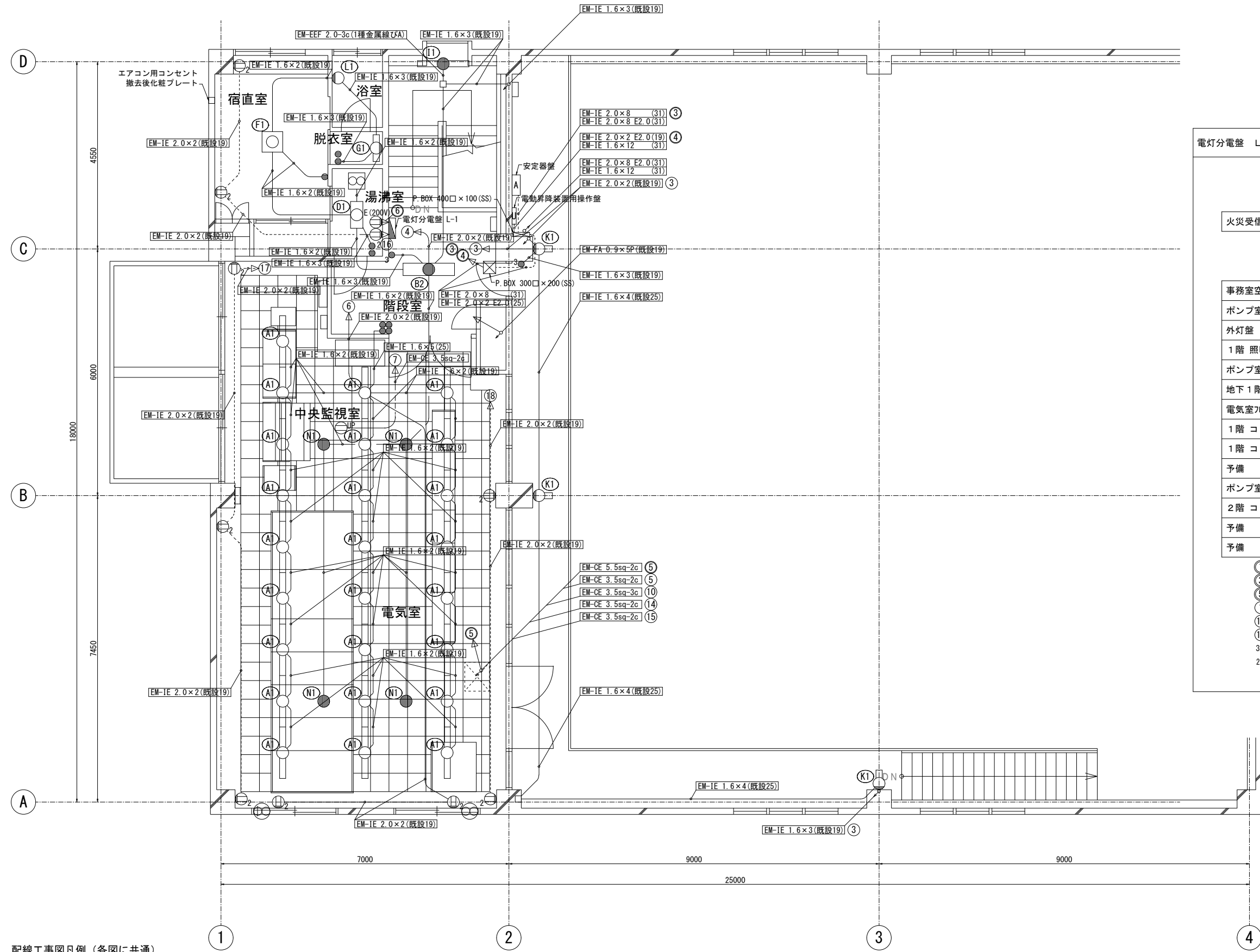
ポンプ棟２階上部平面図 1/100

注 記

- 部は今回施工箇所を示す。
- その他は施工対象外を示す。

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名 称	配線図（ポンプ棟2階平面図） （更新前）		
縮 尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-008





注 記

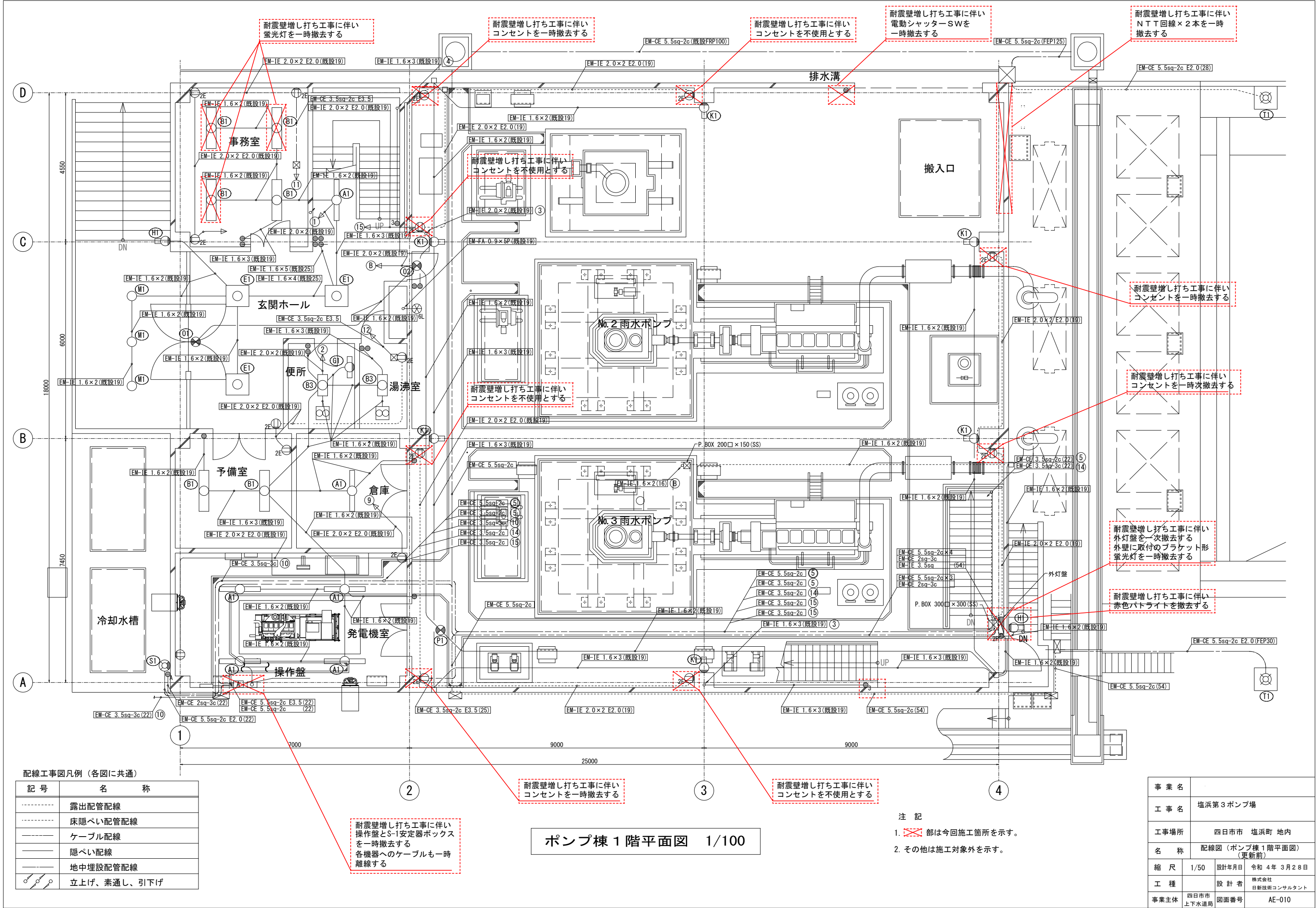
1. 部は今回施工箇所を示す。

2. その他は施工対象外を示す。

配線工事図凡例 (各図に共通)	
記 号	名 称
-----	露出配管配線
-----	床隠ぺい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠ぺい配線
-----	地中埋設配管配線
○/○	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟2階平面図 1/100

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名 称	配線図 (ポンプ棟2階平面図) (更新前)		
縮 尺	1/50	設計年月日	令和 4年 3月28日
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-009



配線工事図凡例（各図に共通）

記号	名称
-----	露出配管配線
-----	床隠ぺい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠ぺい配線
-----	地中埋設配管配線
-----	立上げ、素通し、引下げ

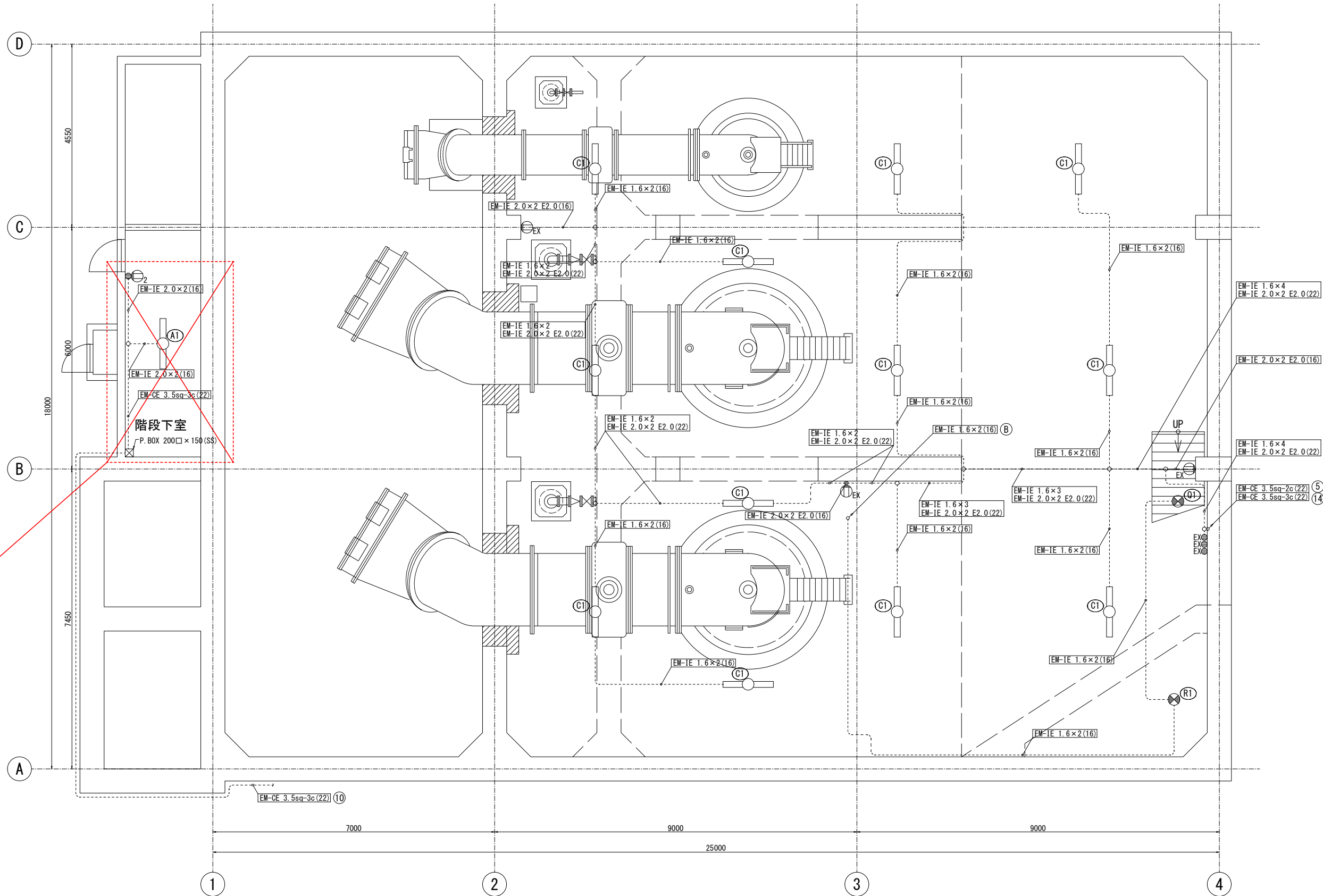
ポンプ棟 1 階平面図 1/100

注 記

1. 部は今回施工箇所を示す。
2. その他は施工対象外を示す。

事業名	塩浜第3ポンプ場
工事名	四日市市 塩浜町 地内
工事場所	名 称 配線図（ポンプ棟1階平面図） （更新前）
縮 尺	1/50
設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工 種	設計者 株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局
図面番号	AE-010

耐津波対策工事に伴う  
照明器具等の撤去工事を行う  
①逆富士形蛍光灯FHF32W×1  
②コンセント2P15A×2  
②タンブラスイッチ片切15A



配線工事図凡例（各図に共通）

記号	名称
-----	露出配管配線
-----	床隠ぺい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠ぺい配線
-----	地中埋設配管配線
○/○	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟地下1階平面図 1/100

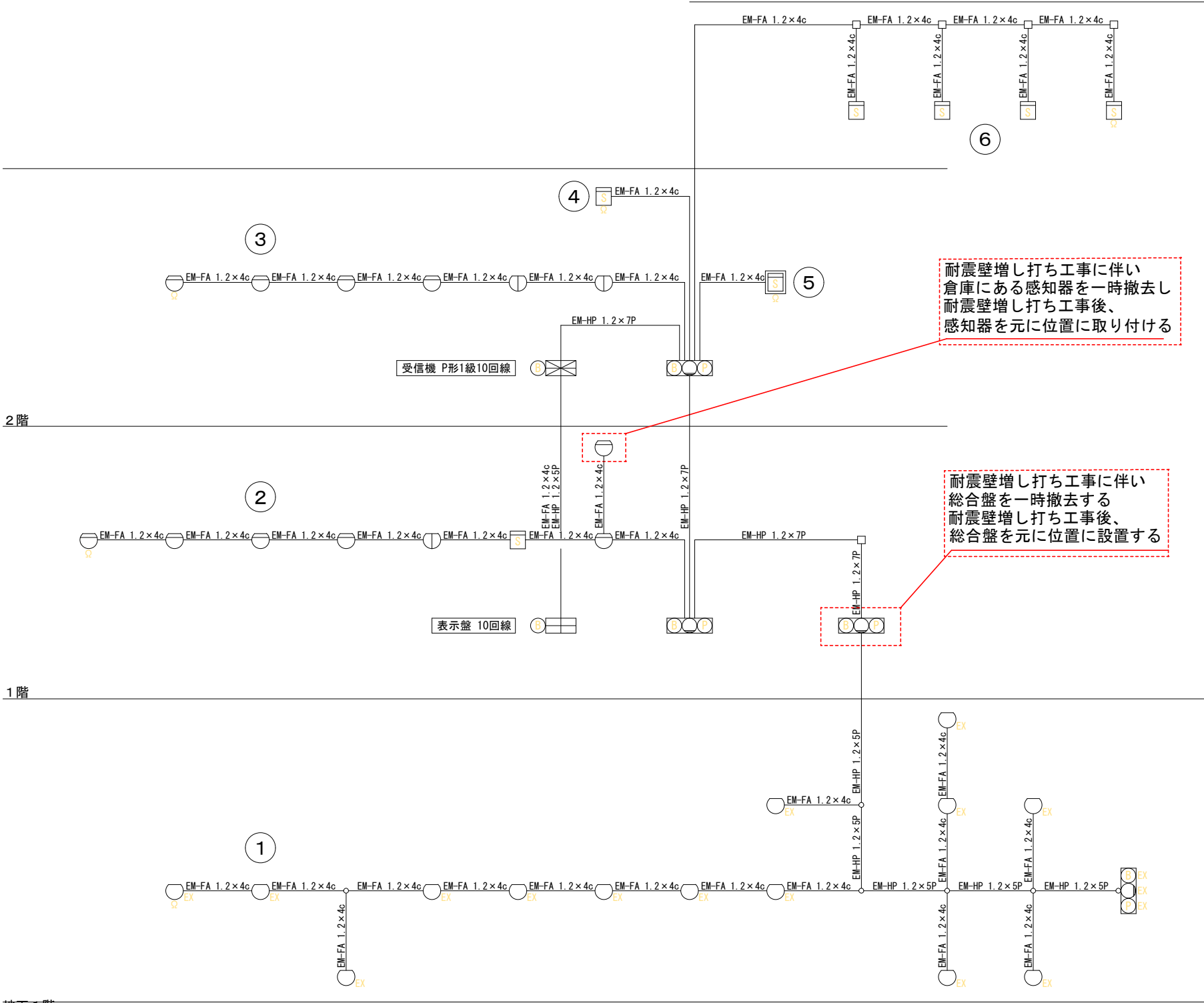
注記

1. 赤点線部は今回施工箇所を示す。
2. その他は施工対象外を示す。

事業名	
工事名	塩浜第3ポンプ場
工事場所	四日市市 塩浜町 地内
名称	配線図（ポンプ棟地下1階平面図） （更新前）
縮尺	1/50
設計年月日	令和4年3月28日
工種	設計者 株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局
図面番号	AE-011




## 凡 例

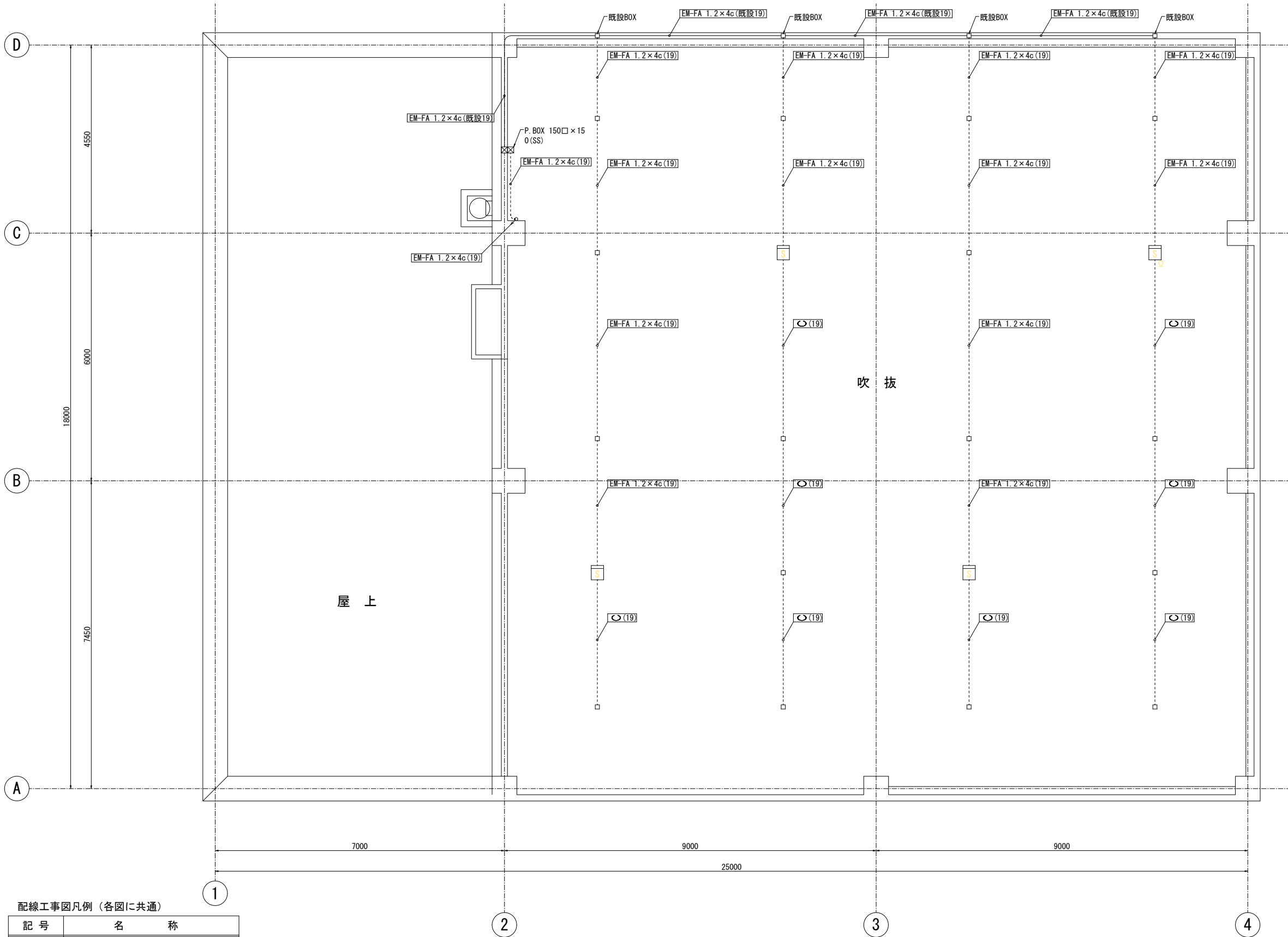
[illegible]

## 系統図

注 記

1.  部は今回施工箇所を示す。
2. その他は施工対象外を示す。

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	火災報知設備凡例・系統図		
縮尺	NONE	設計年月日	令和4年3月28日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルティング
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-012

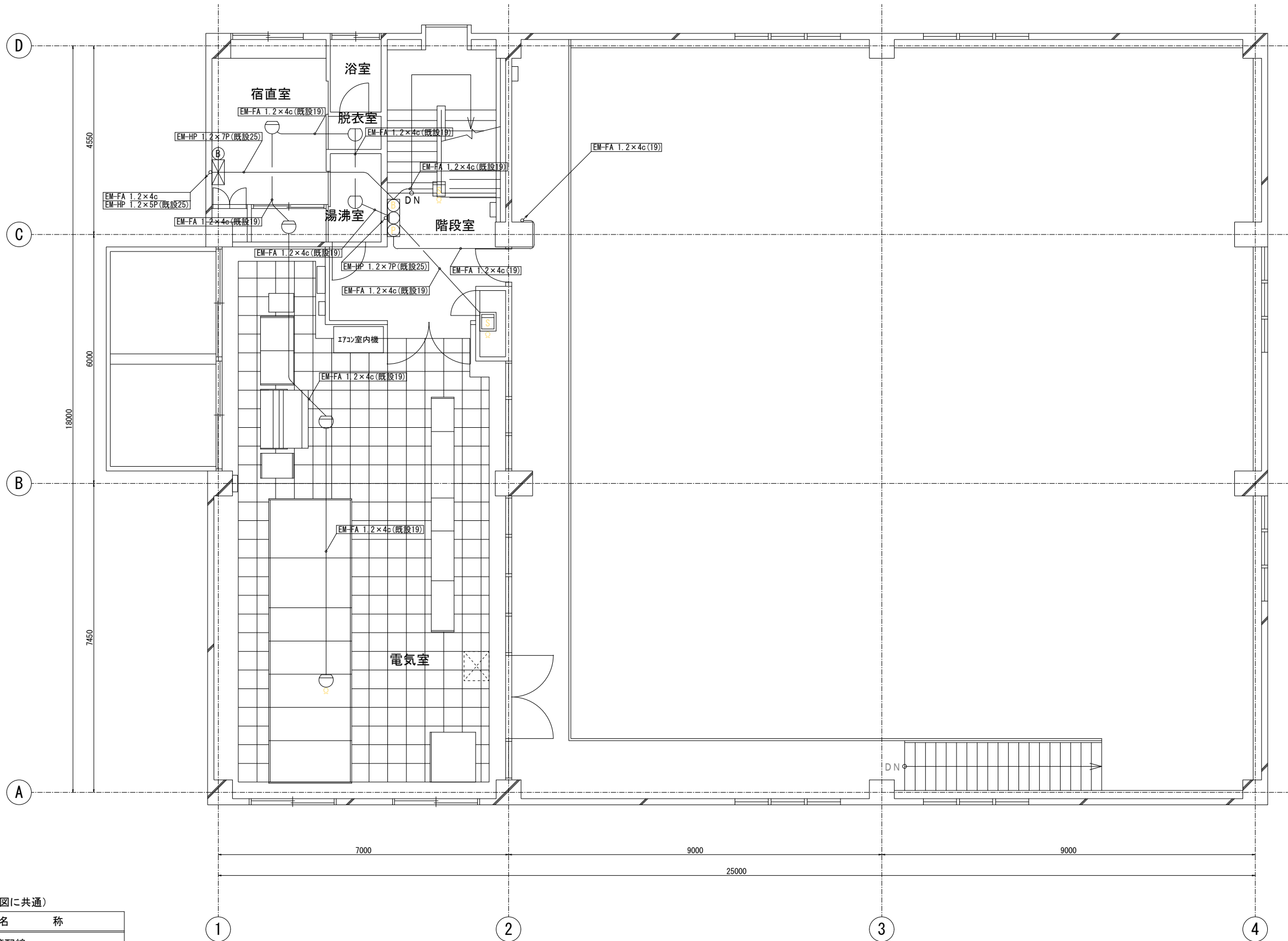


配線工事図凡例（各図に共通）	
記号	名称
-----	露出配管配線
-----	床隠ぺい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠ぺい配管配線
-----	地中埋設配管配線
○/○	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟2階上部平面図 1/100

- 注 記
- 部は今回施工箇所を示す。
  - その他は施工対象外を示す。

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図（ポンプ棟2階上部平面図） （更新後）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-013

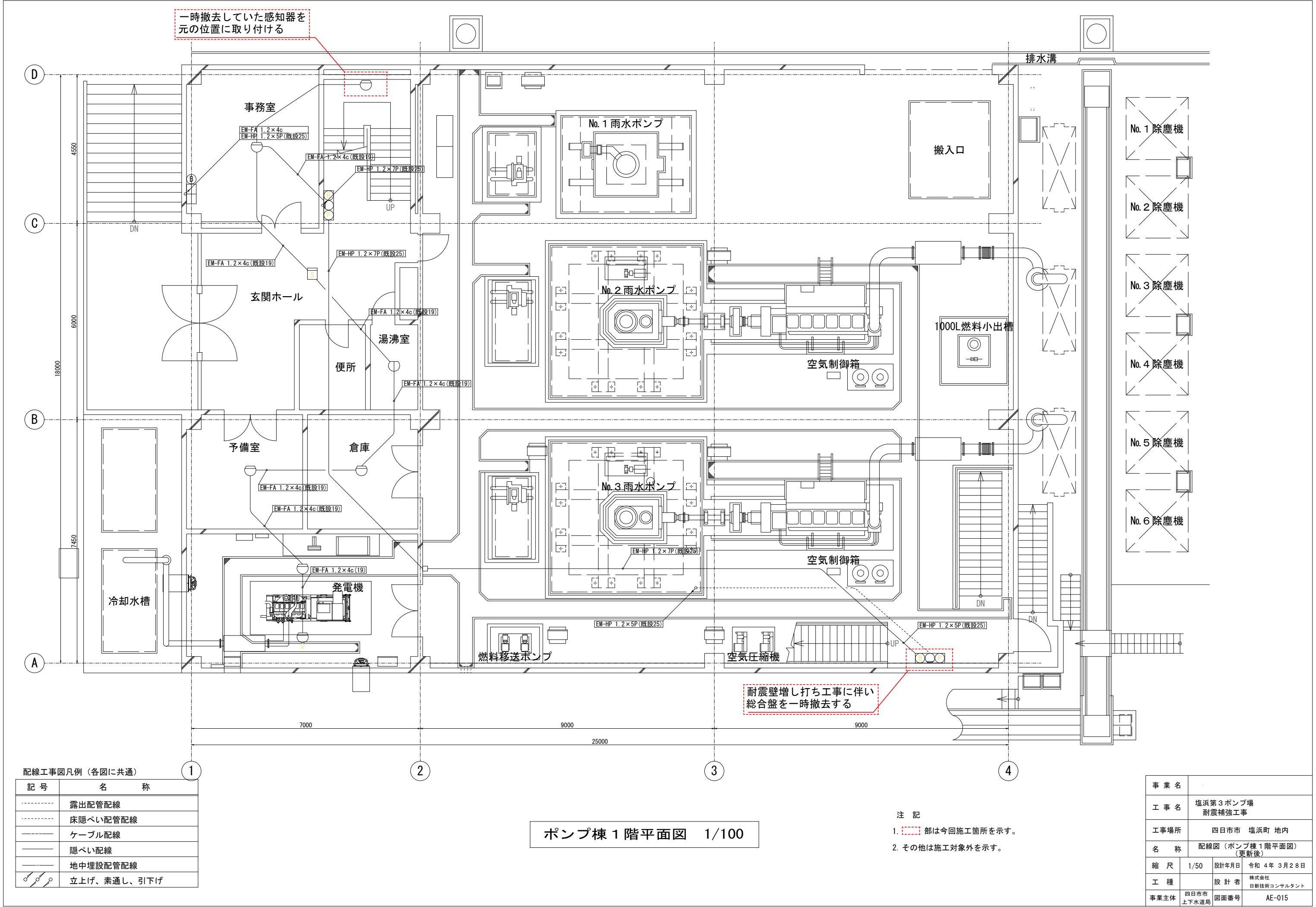


- 注 記
- 部は今回施工箇所を示す。
  - その他は施工対象外を示す。

配線工事図凡例（各図に共通）	
記 号	名 称
-----	露出配管配線
-----	床隠ぺい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠ぺい配線
-----	地中埋設配管配線
○/○/○	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟 2 階平面図 1/100

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名 称	配線図（ポンプ棟 2 階平面図） （更新後）		
縮 尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-014



配線工事図凡例（各図に共通）

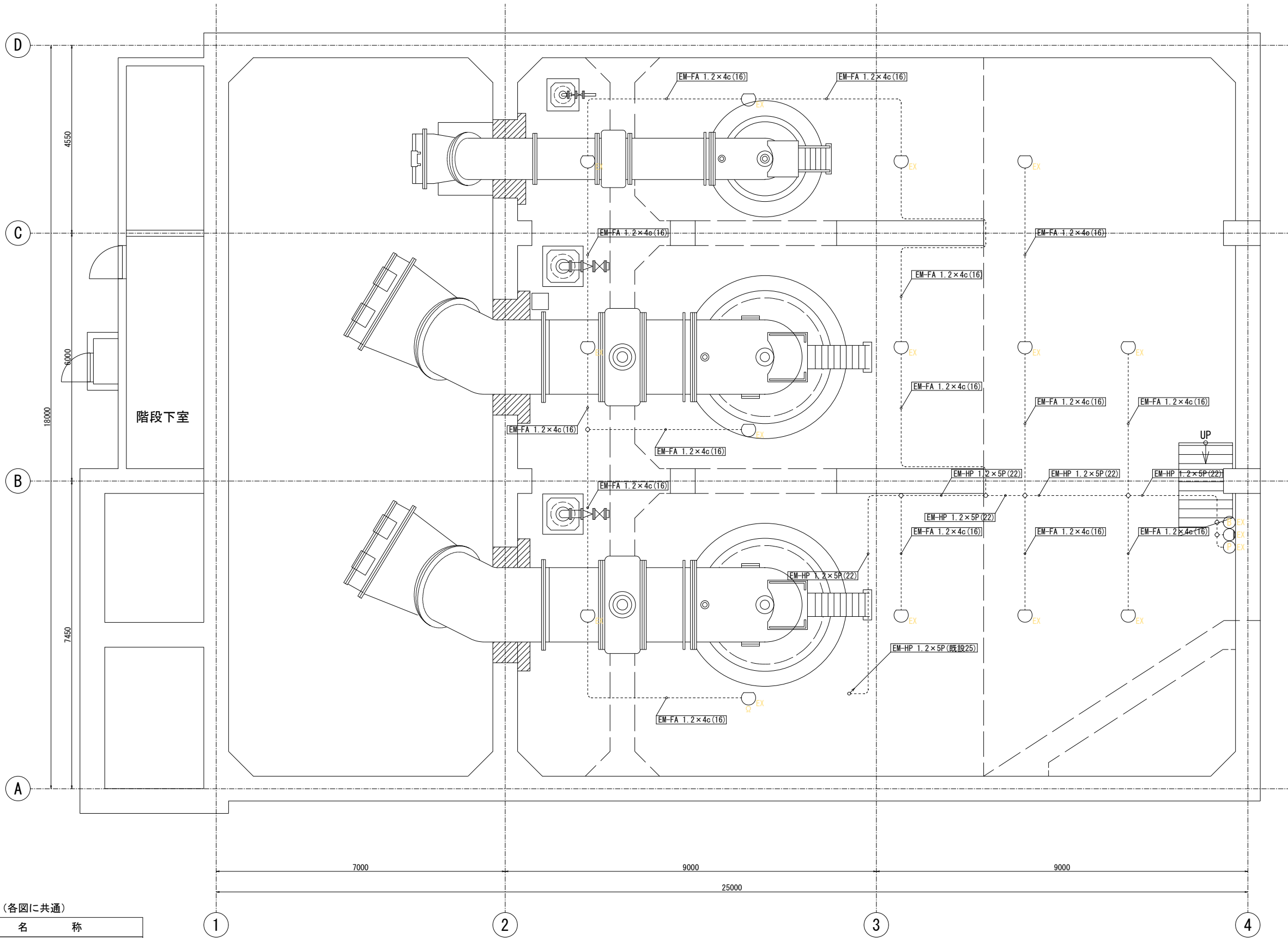
記号	名称
-----	露出配管配線
-----	床隠ぺい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠ぺい配線
-----	地中埋設配管配線
-----	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟 1 階平面図 1/100

注 記

1. 部は今回施工箇所を示す。
2. その他は施工対象外を示す。

事業名	
工事名	塩浜第3ポンプ場 耐震補強工事
工事場所	四日市市 塩浜町 地内
名称	配線図（ポンプ棟1階平面図） （更新後）
縮尺	1/50
設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種	設計者 株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局
図面番号	AE-015



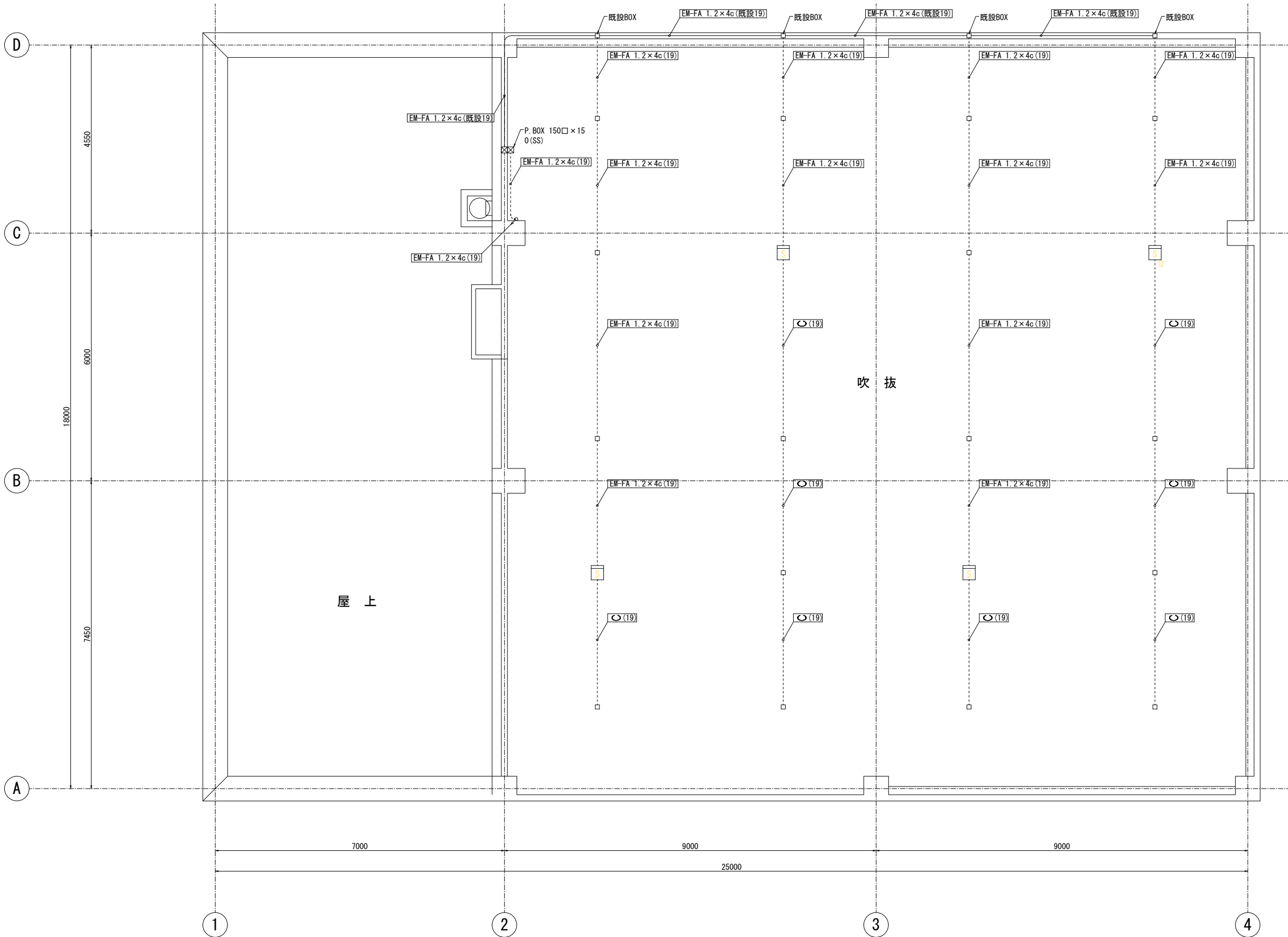
- 注 記
- 1.  部は今回施工箇所を示す。
  - 2. その他は施工対象外を示す。

配線工事図凡例（各図に共通）

記 号	名 称
-----	露出配管配線
-----	床隠ぺい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠ぺい配線
-----	地中埋設配管配線
○/○/○	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟地下1階平面図 1/100

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名 称	配線図（ポンプ棟地下1階平面図） （更新後）		
縮 尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-016



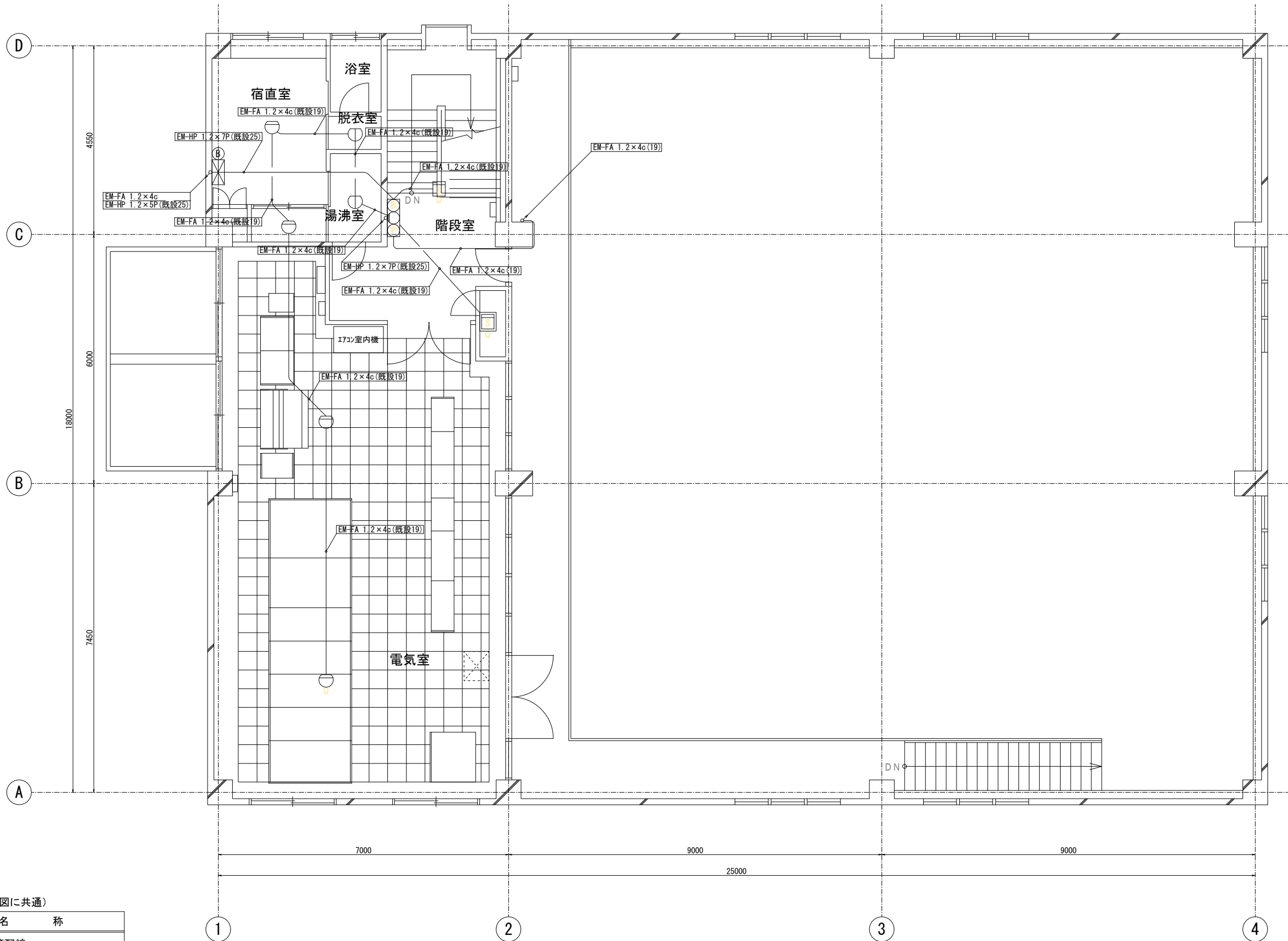
配線工事図凡例（各図に共通）	
記 号	名 称
-----	露出配管配線
-----	床隠ぺい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠ぺい配管配線
-----	地中埋設配管配線
○/○	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟2階上部平面図 1/100

注 記

- 部は今回施工箇所を示す。
- その他は施工対象外を示す。

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名 称	配線図（ポンプ棟2階上部平面図） （更新前）		
縮 尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-017

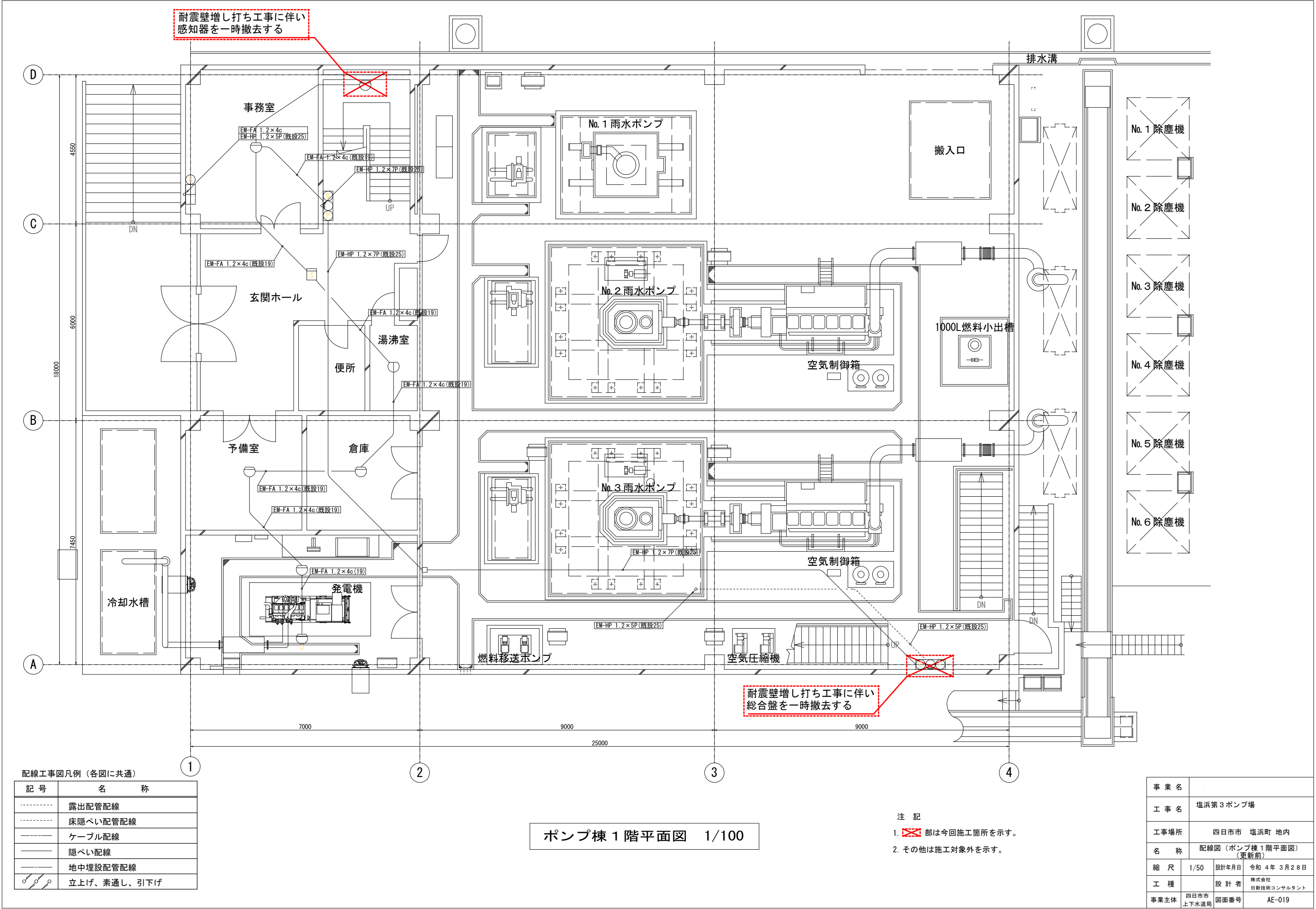


- 注 記
- 部は今回施工箇所を示す。
  - その他は施工対象外を示す。

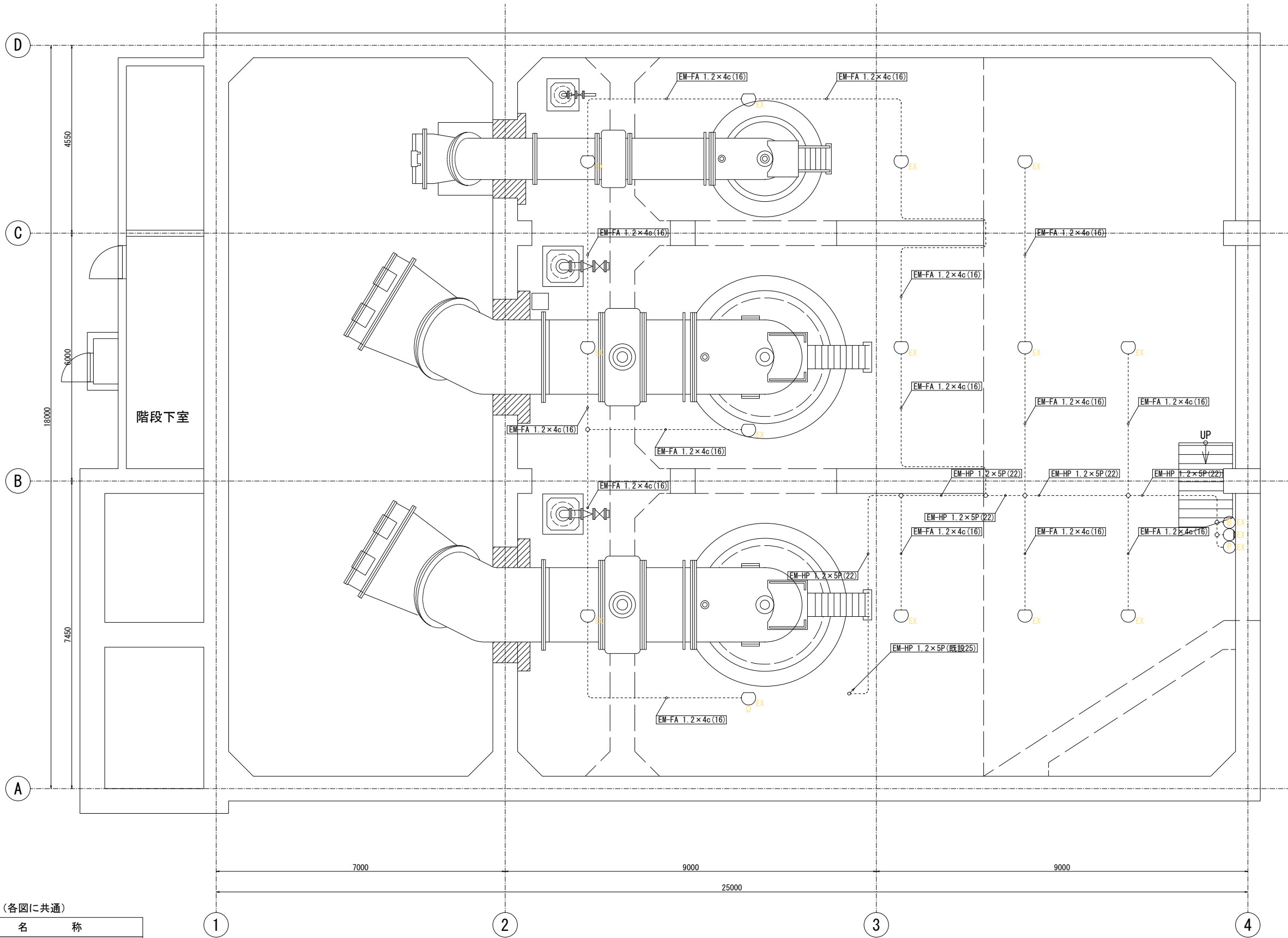
配線工事図凡例（各図に共通）	
記 号	名 称
-----	露出配管配線
-----	床埋込配管配線
-----	ケーブル配線
-----	天井隠ぺい配線
-----	地中埋設配管配線
○/○/○	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟 2 階平面図 1/100

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図（ポンプ棟2階平面図） （更新前）		
縮 尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-018







配線工事図凡例（各図に共通）

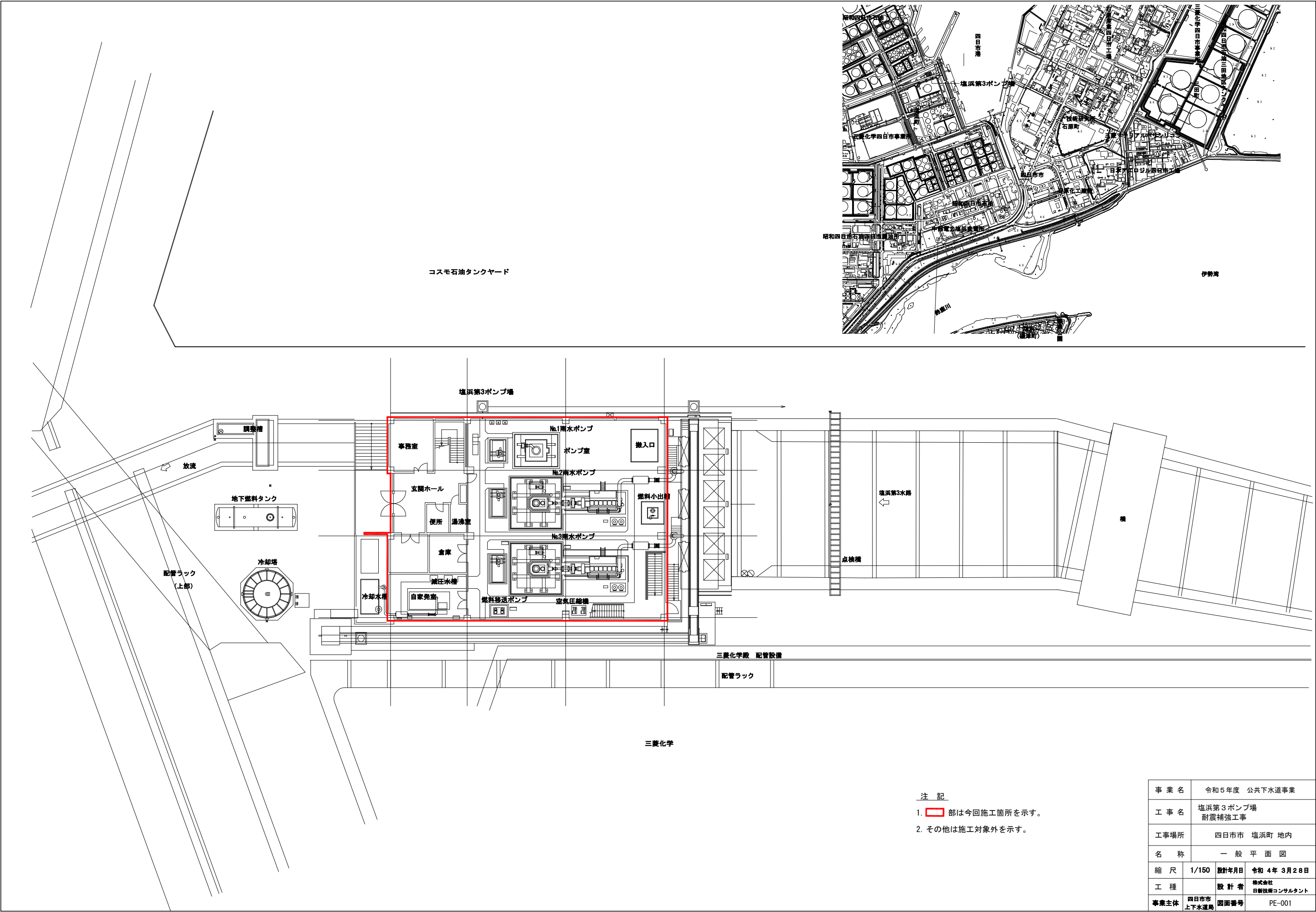
記号	名称
-----	露出配管配線
-----	床隠ぺい配管配線
-----	ケーブル配線
-----	隠ぺい配線
-----	地中埋設配管配線
○/○	立上げ、素通し、引下げ

ポンプ棟地下1階平面図 1/100

注 記

1. 部は今回施工箇所を示す。
2. その他は施工対象外を示す。

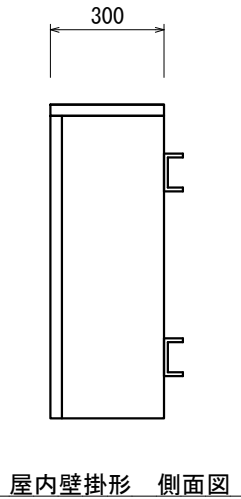
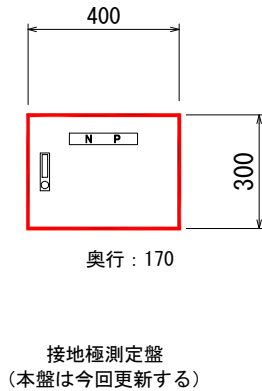
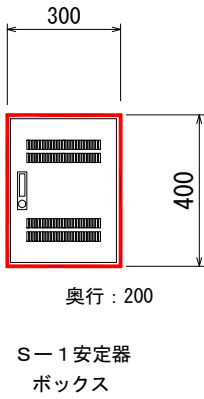
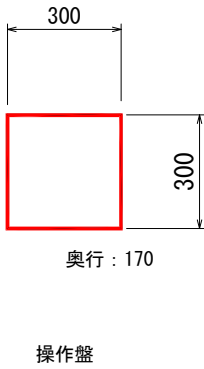
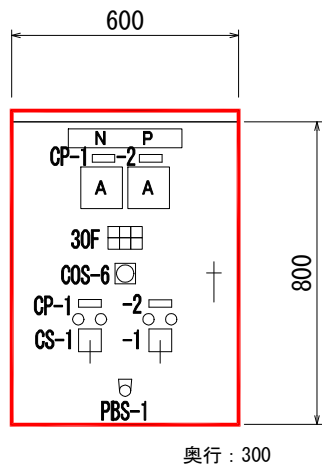
事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場 耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図（ポンプ棟地下1階平面図） （更新前）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和4年3月28日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	AE-020



注 記

- 1.   部は今回施工箇所を示す。
- 2. その他は施工対象外を示す。

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場 耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	一般平面図		
縮尺	1/150	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	PE-001



F1

給気ファン 過負荷	No. 1, 2 換気ファン 過負荷	(ヨビ)
給気ファン 地 絡	No. 1, 2 換気ファン 地 絡	(ヨビ)

記 号	名 称	備 考
N P	換気ファン現場操作盤	
盤記号	L C B-9	
面数	1 面	
形式	屋内壁掛形	
材質	銅板製	
CP- 1	給気ファン	
- 2	No. 1, 2 換気ファン	
特記事項	一時撤去してもとに位置に 復旧すること	

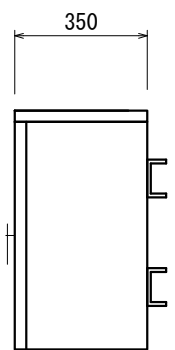
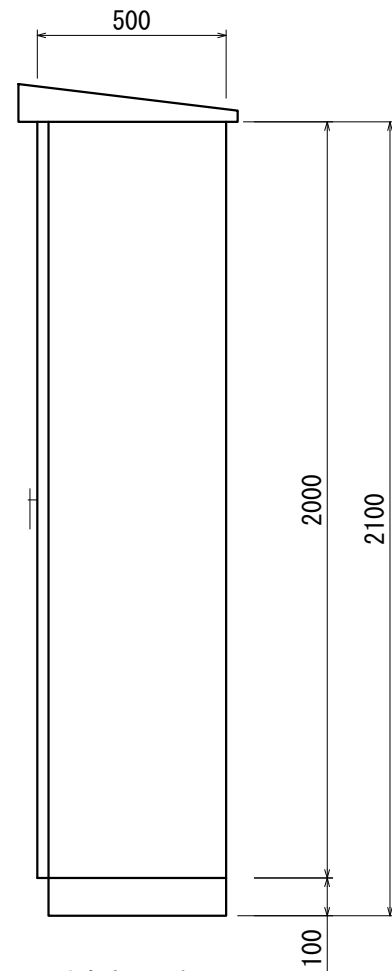
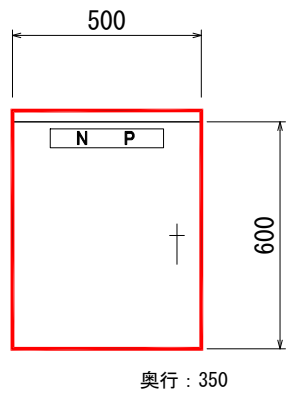
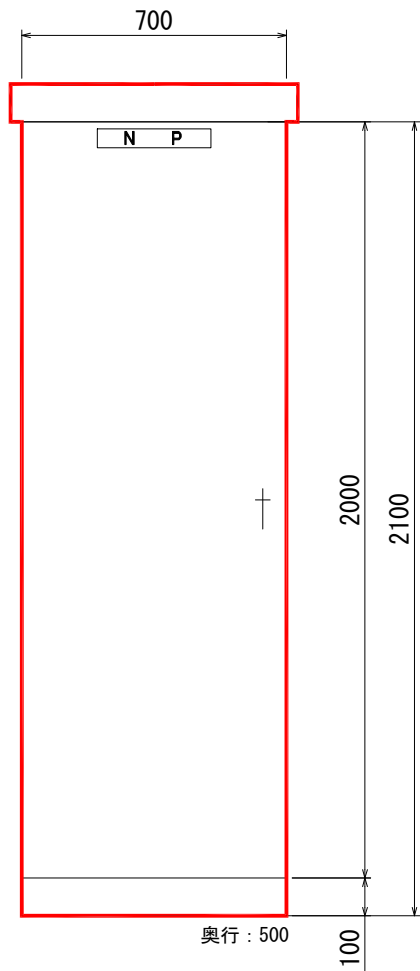
盤内取付器具凡例

記 号	名 称	備 考
COS-1	切換スイッチ (単独-連動)	
CS-1	操作スイッチ (停止-運転)	
PBS-1	押釦スイッチ (ランプテスト)	

注 記

1.   部は今回一時撤去・復旧機器を示す。
2. その他は施工対象外を示す。

事 業 名			
工 事 名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名 称	一時撤去・復旧機器外形図 (1)		
縮 尺	1/10	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	PE-002



屋内壁掛形 側面図

屋外自立形 側面図

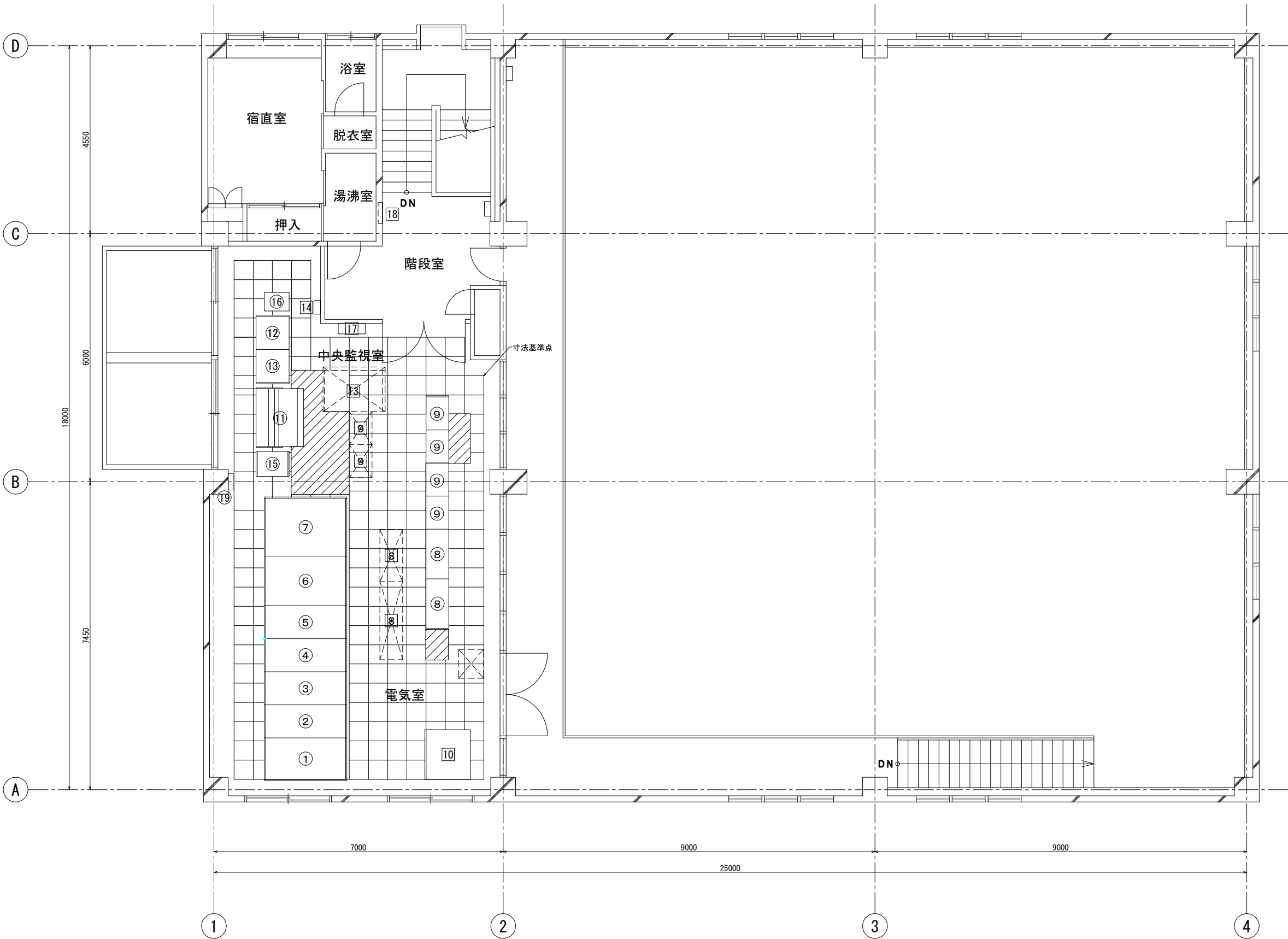
記 号	名 称	備 考
N P	中継端子盤（自動除塵機側）	
盤記号	T B - 1	
面数	1 面	
形式	屋外自立形	
材質	銅板製	
特記事項	一時撤去してもとに位置に 復旧すること	

記 号	名 称	備 考
N P	中継端子盤（ホツバ側）	
盤記号	T B - 2	
面数	1 面	
形式	屋内壁掛形	
材質	銅板製	
特記事項	一時撤去してもとに位置に 復旧すること	

注 記

1.   部は今回一時撤去・復旧機器を示す。
2. その他は施工対象外を示す。

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場 Ⅱ		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名 称	一時撤去・復旧機器外形図（2）		
縮 尺	1/10	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	PE-003



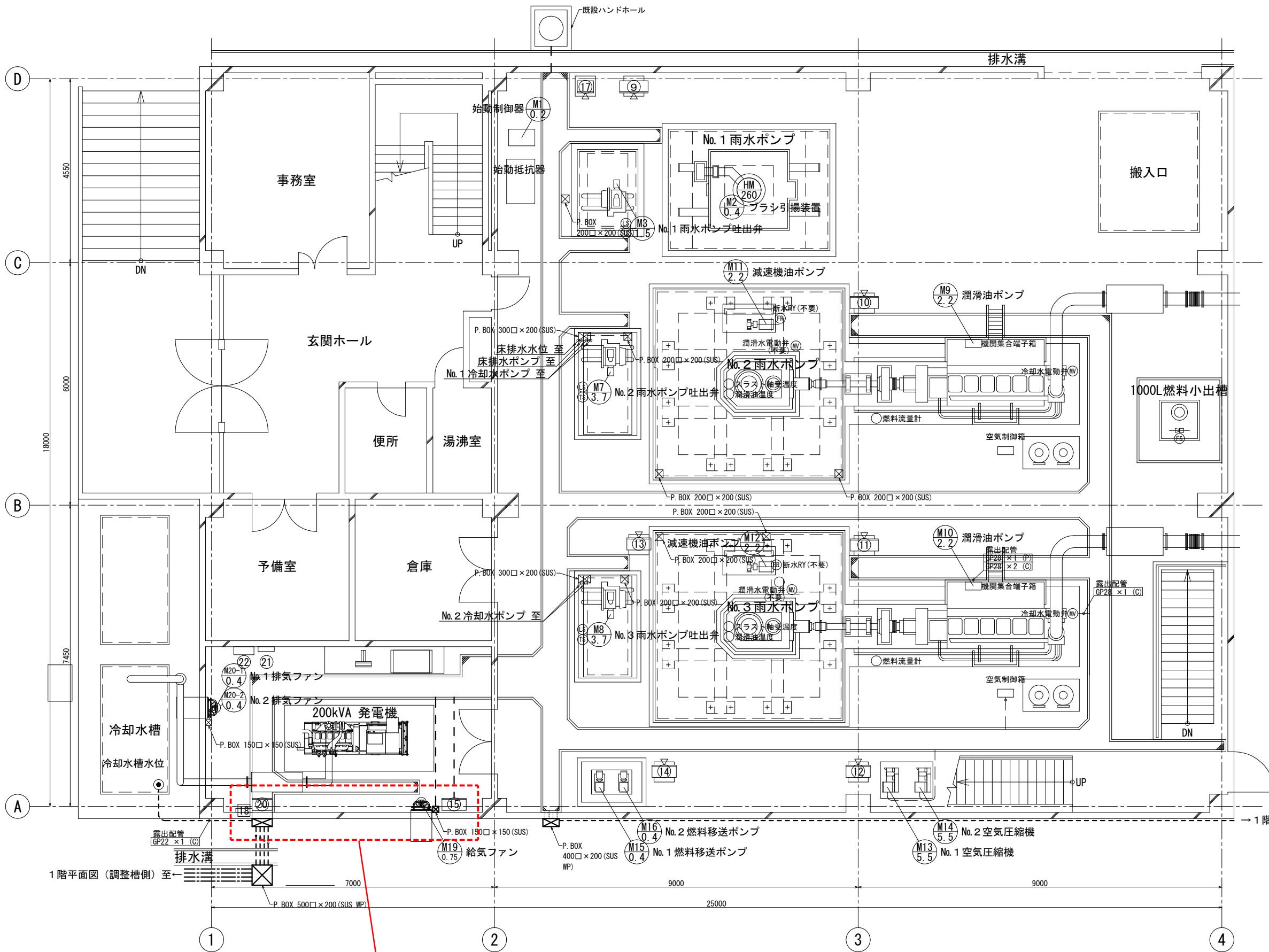
盤名称表		
番号	盤 名 称	設置概要
①	高压引込盤	既設
②	高压受電盤	〃
③	No.1 雨水ポンプ/コンデンサ主幹盤	〃
④	コンデンサ盤	〃
⑤	主変圧器 1 次盤	〃
⑥	主変圧器盤	〃
⑦	低圧主幹盤	〃
⑧	コントロールセンタ	〃
⑧	コントロールセンタ	〃
⑨	補助継電器盤(1)・(2)・(3)・(4)	〃
⑨	補助継電器盤	〃
10	直流電源装置	〃
11	監視操作盤	〃
12	計装変換器盤	〃
13	制御用コントローラ盤	〃
13	エンジンポンプ監視盤	〃
14	ガス警報器	〃
15	I T V 制御装置	〃
16	U P S 装置	〃
17	動力制御盤	〃
18	電灯分電盤	〃
19	塩浜第 1 ポンプ場間光成端箱	〃

注 記

- 部は今回施工箇所を示す。
- その他は施工対象外を示す。

ポンプ棟 2 階平面図 1/100

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図（ポンプ棟2階平面図） （更新後）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	PE-004



盤名称表		
番号	盤 名 称	設置概要
⑨	No. 1 雨水ポンプ現場操作盤	既設
⑩	No. 2 雨水ポンプ現場操作盤	〃
⑪	No. 3 雨水ポンプ現場操作盤	〃
⑫	空気圧縮機現場操作盤	〃
⑬	冷却水ポンプ現場操作盤	〃
⑭	燃料移送ポンプ現場操作盤	〃
⑮	換気ファン現場操作盤	〃
⑰	床排水ポンプ現場操作盤	〃
⑱	接地極測定箱	〃
⑳	中継端子盤（ホッパ側）	〃
㉑	発電機中継端子盤	〃
㉒	発電機変換器盤	〃

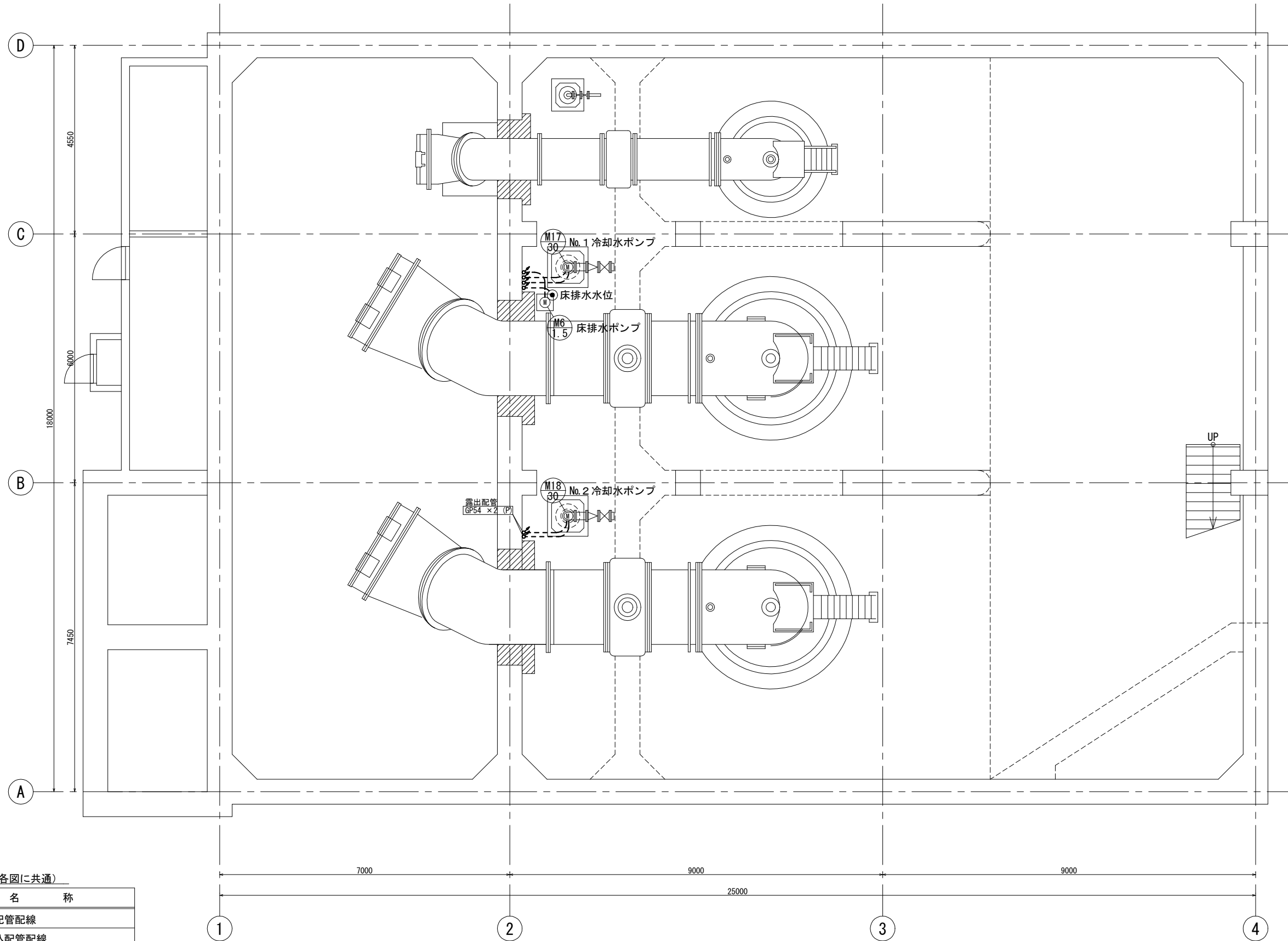
配線工事図凡例（各図に共通）	
記 号	名 称
----	露出配管配線
- - - -	床埋込配管配線
-----	ケーブルラック内配線
=====	ケーブルダクト・ピット内配線
=====	地中埋設配管配線
↗ ↘ ↙ ↚	立上げ、素通し、引下げ

- 注 記
1. 赤い点線部は今回施工箇所を示す。
  2. その他は施工対象外を示す。

耐震壁増し打ち工事に伴う機器の復旧工事を行う  
①換気ファン現場操作盤 ②接地極測定盤  
③中継端子盤（ホッパ側） ④操作盤  
⑤給気ファン×1台  
※各機器へのケーブル類は0.3mを追加するものとする  
なお、各負荷へのケーブルはPE-010配線表を参照のこと

ポンプ棟 1 階平面図 1/50

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場 耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図（ポンプ棟1階平面図）（更新後）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和4年 3月28日
工種	設計者	株式会社 日新技術コンサルタント	
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	PE-005



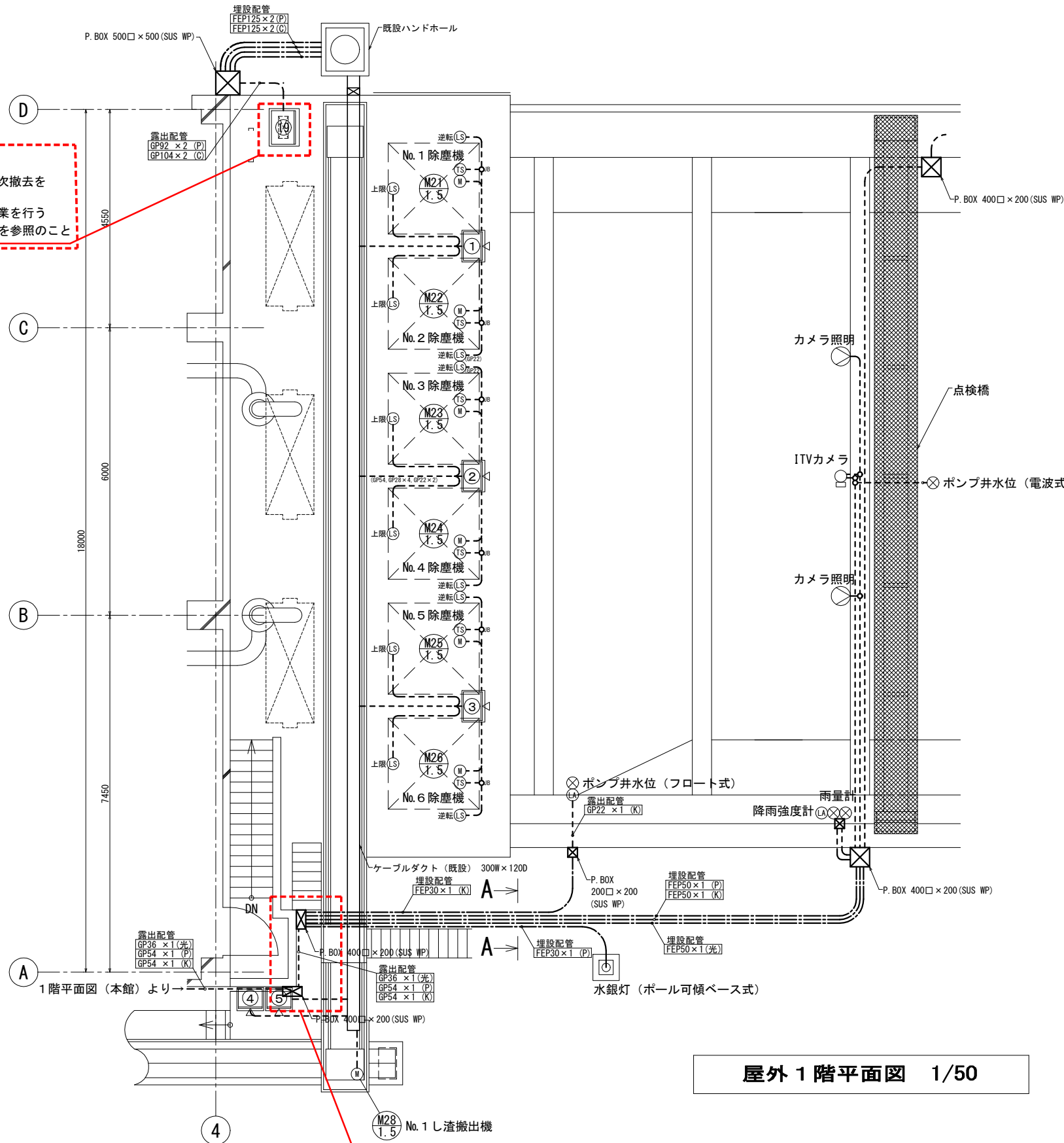
- 注 記
- 部は今回施工箇所を示す。
  - その他は施工対象外を示す。

ポンプ棟地下 1 階平面図 1/50

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図 (ポンプ棟地下1階平面図) (更新後)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	PE-006



耐震壁増し打ち工事に伴う  
中継端子盤(除塵機側の)一次撤去を  
位置を移動して設置する  
離線したケーブルの接続作業を行う  
※ケーブルはPE-010配線表を参照のこと

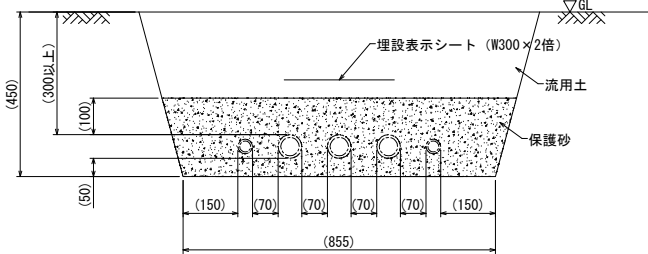


耐震壁増し打ち工事に伴うブルボックスを  
元の位置に設置し直す  
離線したケーブルの接続作業を行う  
※ケーブルはPE-010配線表を参照のこと

盤名称表		
番号	盤 名 称	設置概要
①	No. 1 ～ 2 自動除塵機現場操作盤	既設
②	No. 3 ～ 4 自動除塵機現場操作盤	〃
③	No. 5 ～ 6 自動除塵機現場操作盤	〃
④	No. 1 し 渣搬出機現場操作盤	〃
⑤	No. 2 し 渣搬出機現場操作盤	〃
(19)	中継端子盤 (除塵機側)	〃

配線工事図凡例 (各図に共通)

記 号	名 称
----	露出配管配線
- - -	床埋込配管配線
-----	ケーブルラック内配線
-----	ケーブルダクト・ビット内配線
-----	地中埋設配管配線
⚡	立上げ、素通し、引下げ



A-A部 埋設管路施工要領図 S=NTS

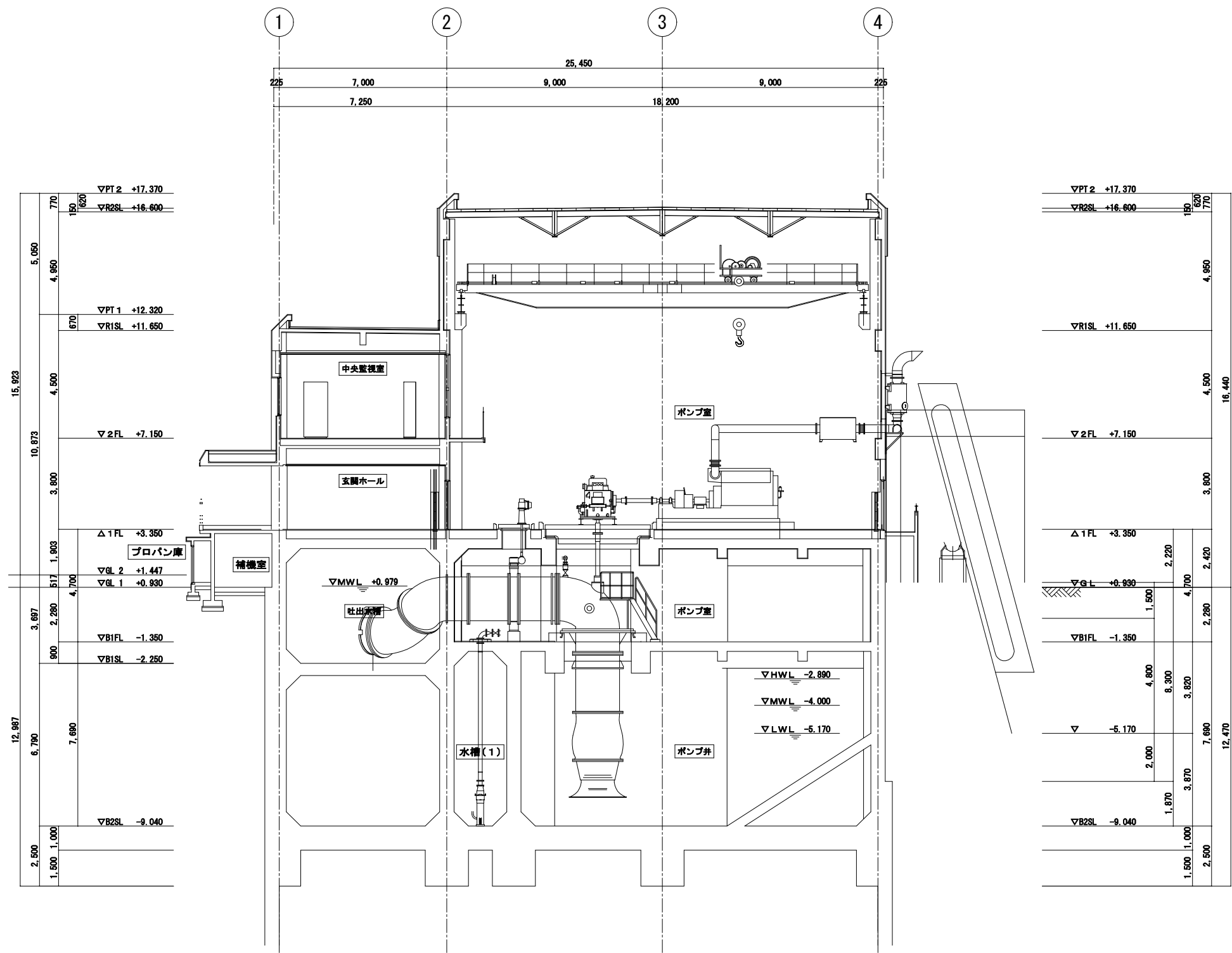
注 記

- 部は今回施工箇所を示す。
- その他は施工対象外を示す。

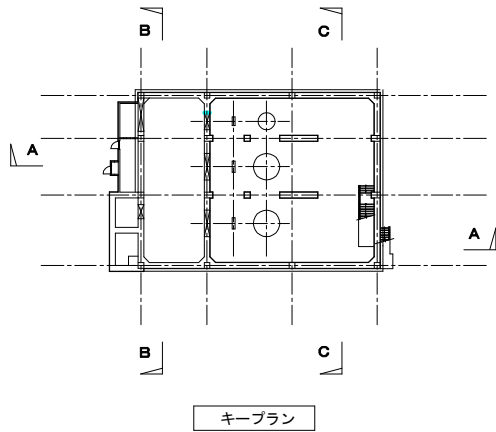
屋外 1 階平面図 1/50

事業名	令和5年度 公共下水道事業		
工事名	塩浜第3ポンプ場 耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図 (屋外 1 階平面図) (更新後)		
縮 尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工 種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	PE-007





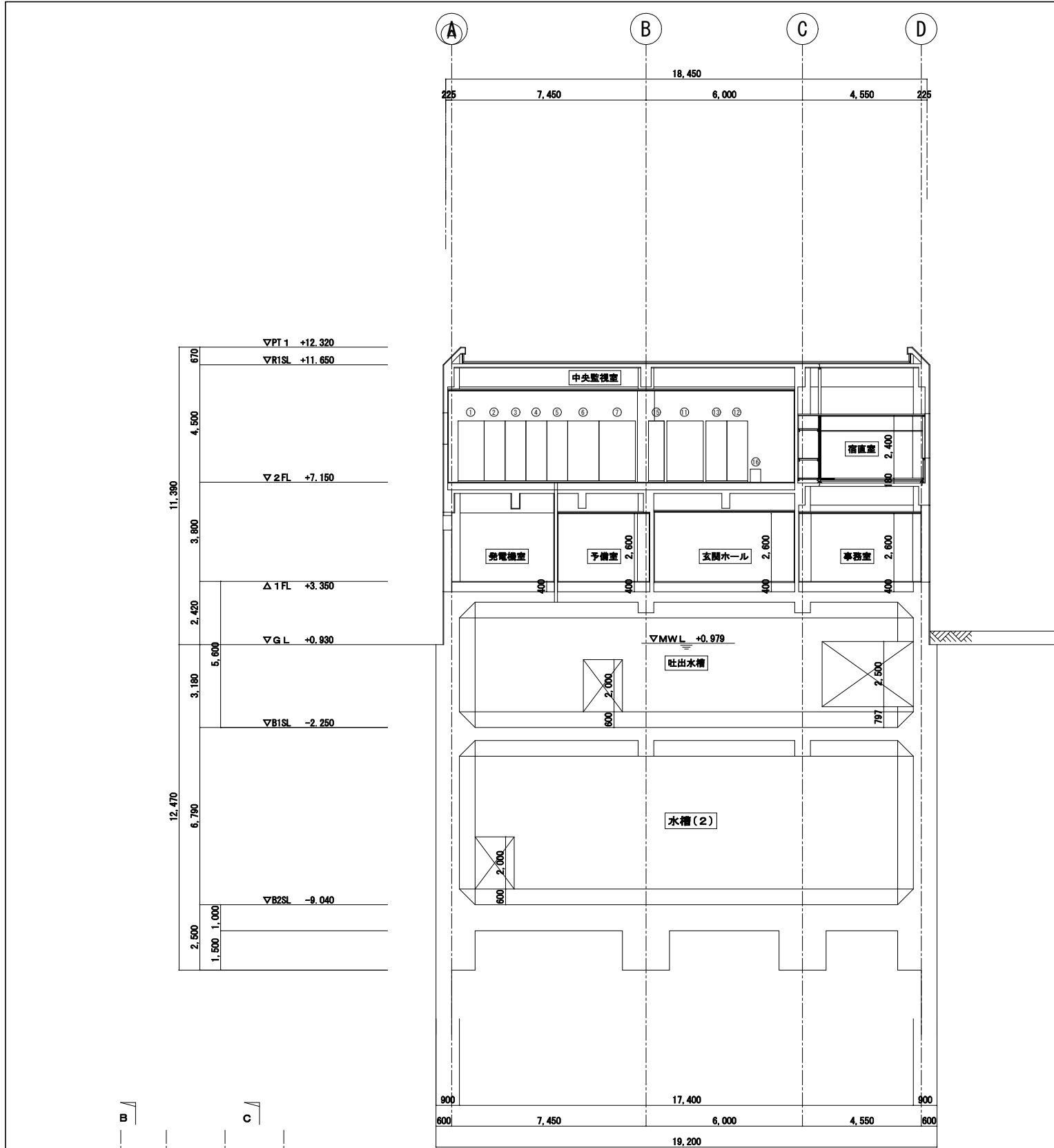
A-A 断面図 1/100



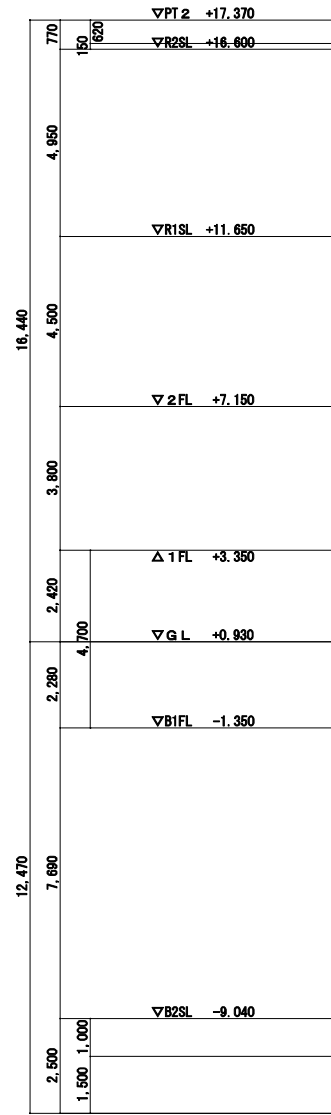
注 記

1. [ ] 部は今回施工箇所を示す。
2. その他は施工対象外を示す。

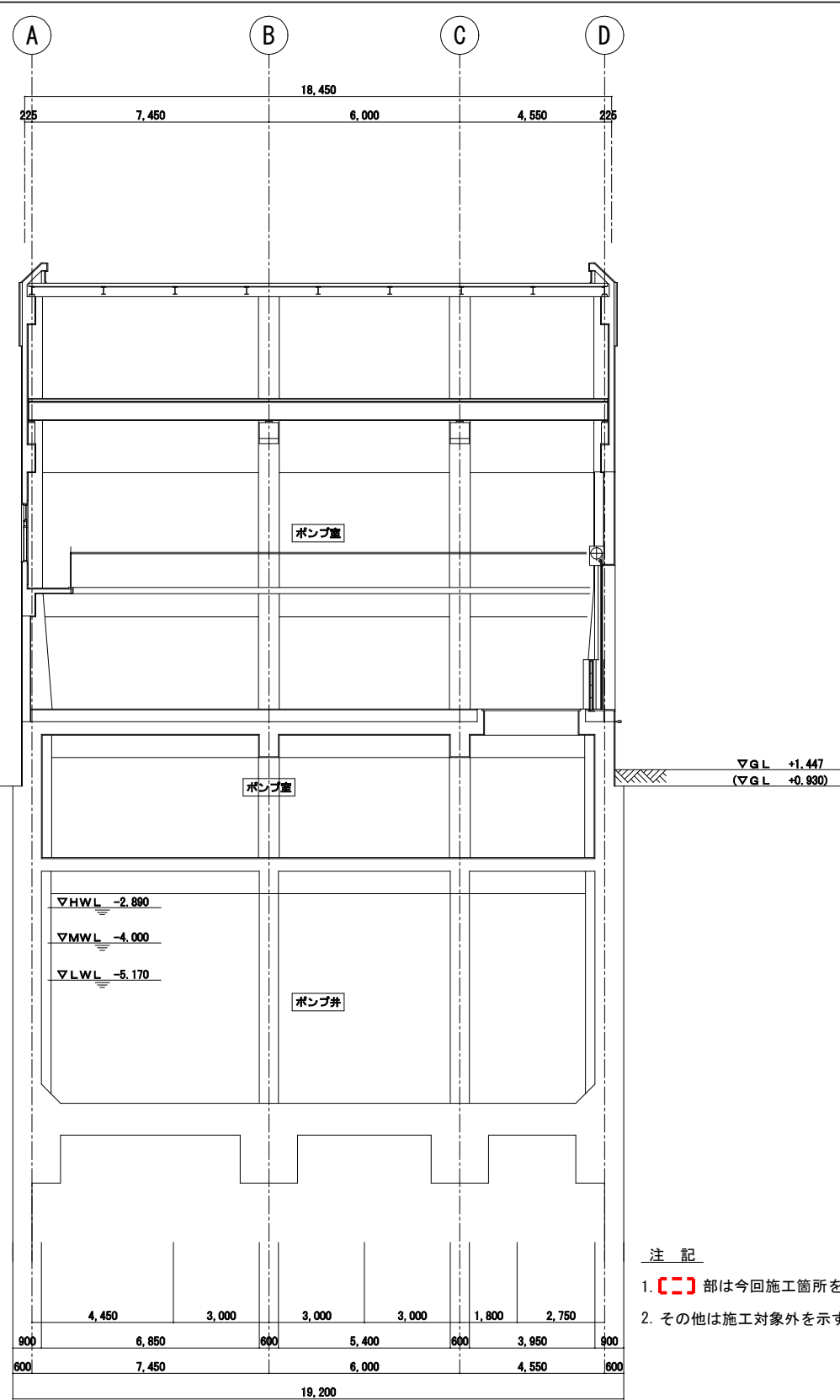
事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場 耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図 (ポンプ棟A-A断面図) (更新後)		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	PE-008



B-B 断面図 1/100



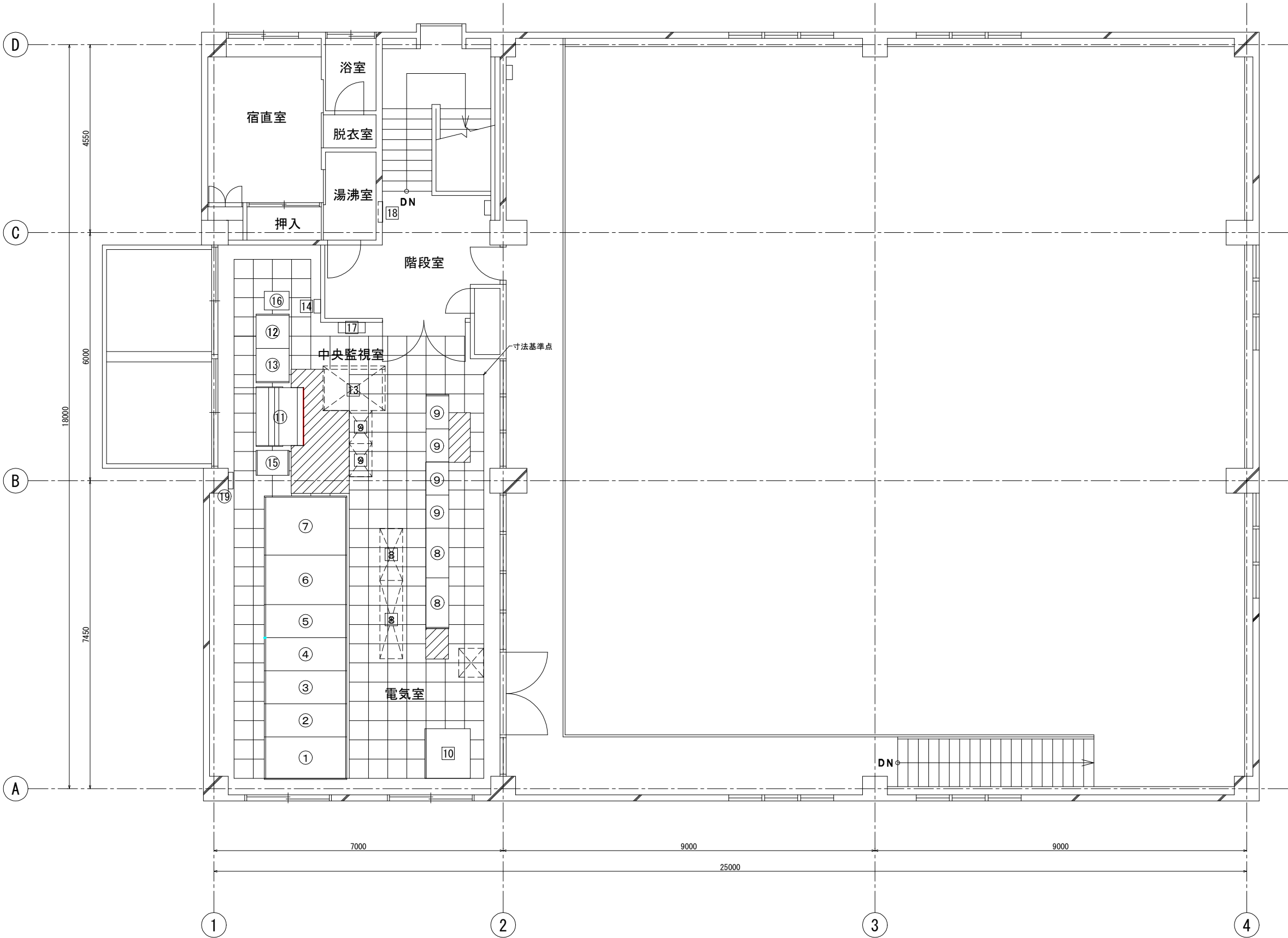
C-C 断面図 1/100



- 注 記
- 部は今回施工箇所を示す。
  - その他は施工対象外を示す。

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場 耐震補強工事		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図（ポンプ棟B-B・C-C断面図） （更新後）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	PE-009





盤名称表		
番号	盤 名 称	設置概要
①	高压引込盤	既設
②	高压受電盤	〃
③	No.1 雨水ポンプ/コンデンサ主幹盤	〃
④	コンデンサ盤	〃
⑤	主変圧器 1 次盤	〃
⑥	主変圧器盤	〃
⑦	低压主幹盤	〃
⑧	コントロールセンタ	〃
⑧	コントロールセンタ	〃
⑨	補助継電器盤(1)・(2)・(3)・(4)	〃
⑨	補助継電器盤	〃
10	直流電源装置	〃
11	監視操作盤	〃
12	計装変換器盤	〃
13	制御用コントローラ盤	〃
13	エンジンポンプ監視盤	〃
14	ガス警報器	〃
15	I T V 制御装置	〃
16	U P S 装置	〃
17	動力制御盤	〃
18	電灯分電盤	〃
19	塩浜第 1 ポンプ場間光成端箱	〃

注 記

- 部は今回施工箇所を示す。
- その他は施工対象外を示す。

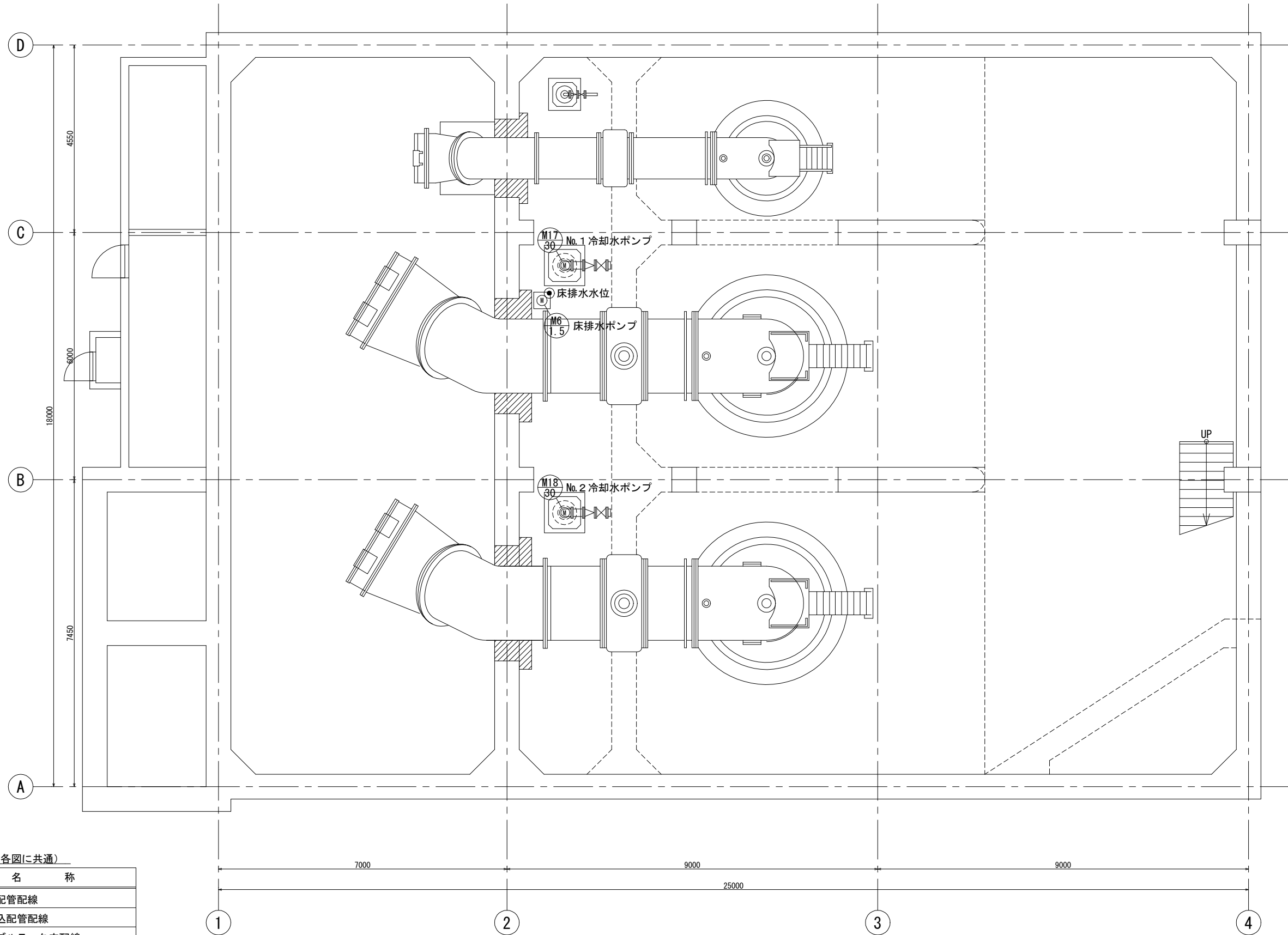
ポンプ棟 2 階平面図 1/50

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図（ポンプ棟2階平面図） （更新前）		
縮尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工種		設計者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	PE-011





配線工事図凡例（各図に共通）	
記号	名 称
-----	露出配管配線
- - - -	床埋込配管配線
-----	ケーブルラック内配線
-----	ケーブルダクト・ピット内配線
-----	地中埋設配管配線
↗ ↘	立上げ、素通し、引下げ

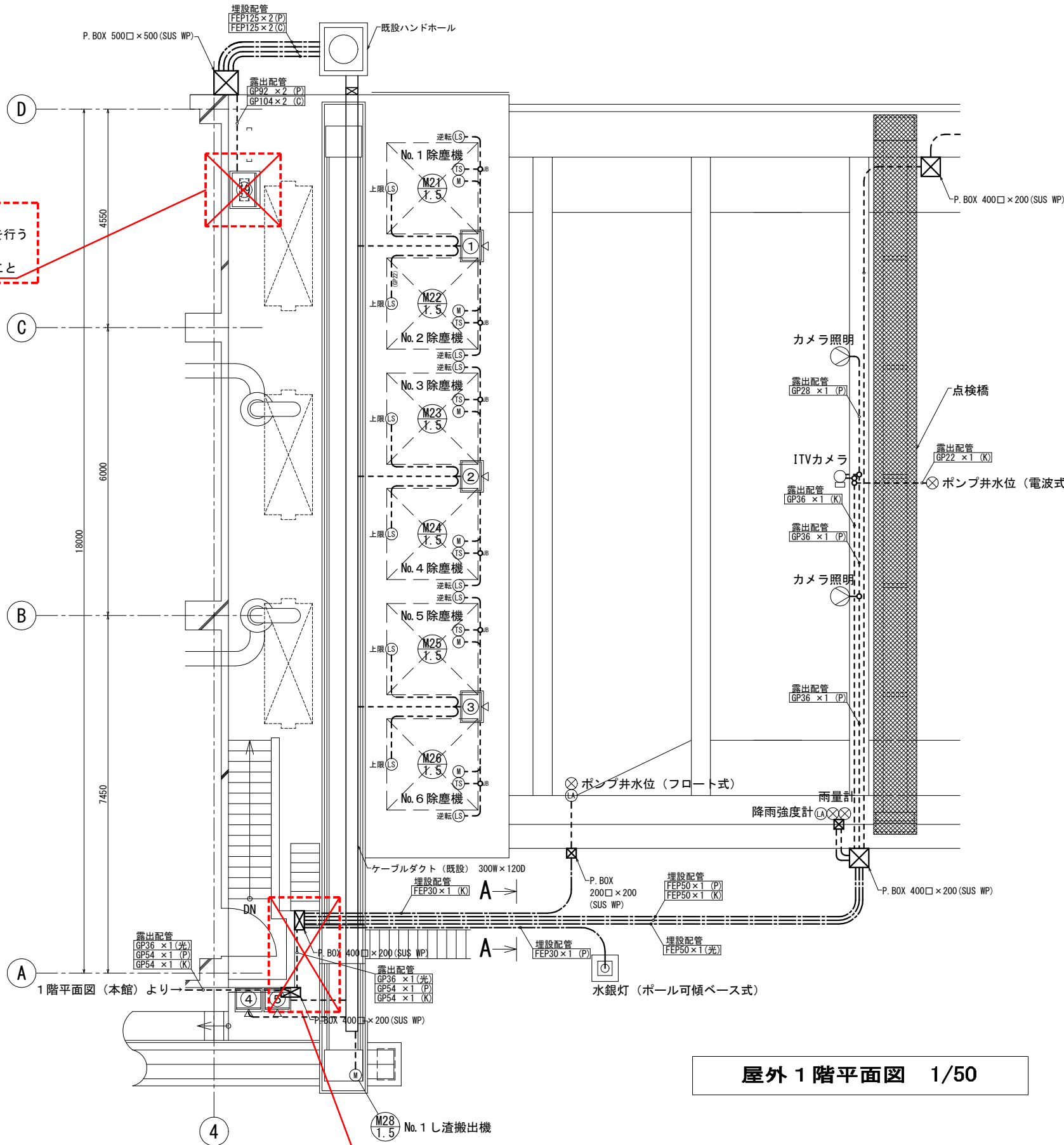


ポンプ棟地下1階平面図 1/50

- 注 記
- 部は今回施工箇所を示す。
  - その他は施工対象外を示す。

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名 称	配線図（ポンプ棟地下1階平面図） （更新前）		
縮 尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	PE-013

耐震壁増し打ち工事に伴う  
中継端子盤(除塵機側の)一次撤去工事を行う  
ケーブル類の離線作業を行う  
※ケーブル類はPE-015配線表を参照のこと



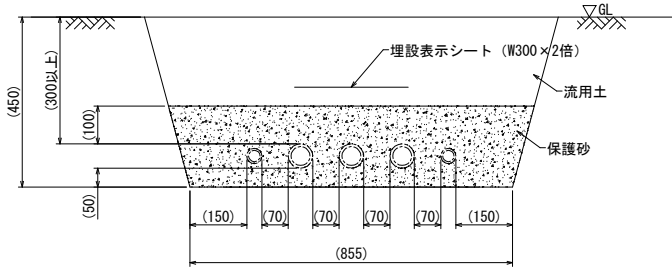
耐震壁増し打ち工事に伴う  
ブルボックスの一次撤去工事を行う  
ケーブル類の離線作業を行う  
※ケーブル類はPE-015配線表を参照のこと

盤名称表

番号	盤 名 称	設置概要
①	No. 1～2 自動除塵機現場操作盤	既設
②	No. 3～4 自動除塵機現場操作盤	〃
③	No. 5～6 自動除塵機現場操作盤	〃
④	No. 1 し 渣搬出機現場操作盤	〃
⑤	No. 2 し 渣搬出機現場操作盤	〃
⑯	中継端子盤 (除塵機側)	〃

配線工事図凡例 (各図に共通)

記 号	名 称
----	露出配管配線
- - -	床埋込配管配線
-----	ケーブルラック内配線
=====	ケーブルダクト・ピット内配線
~~~~~	地中埋設配管配線
⚡	立上げ、素通し、引下げ



A-A部 埋設管路施工要領図 S=NTS

注 記

- 部は今回施工箇所を示す。
- その他は施工対象外を示す。

屋外 1 階平面図 1/50

事業名			
工事名	塩浜第3ポンプ場		
工事場所	四日市市 塩浜町 地内		
名称	配線図 (屋外 1 階平面図) (更新前)		
縮 尺	1/50	設計年月日	令和 4 年 3 月 2 8 日
工 種		設 計 者	株式会社 日新技術コンサルタント
事業主体	四日市市 上下水道局	図面番号	PE-014

